

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵. 尾山 廣. 久保 貞也. 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 teamsを活用したオンライン授業を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 9月12日(土) 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: 授業の進め方について確認する(30分)
2	チームビルディング 9月12日(土) 2, 3限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題: チームでの取組が円滑にいくにはどのようなことが大切か考える。 事後課題: チームビルディングの成果をまとめる(30分)
3	北河内地域に関する講演 9月26日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
4	北河内地域に関する講演 9月26日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
5	グループワーク・プレゼンテーション 9月26日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
6	北河内地域に関する講演 10月10日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
7	北河内地域に関する講演 10月10日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
8	グループワーク・プレゼンテーション 10月10日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
9	北河内地域に関する講演 10月17日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
10	北河内地域に関する講演 10月17日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
11	グループワーク・プレゼンテーション 10月17日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
12	北河内地域に関する講演 11月14日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 11月14日(土) 2時間目	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
14	最終発表会 12月5日(土) 1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)
15	最終発表会 12月5日(土) 2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)

実務経験

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	j4ihms4			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科) 11号館7階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-9</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化 (多様性) を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
------	---

授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関するプレゼンテーションを行う。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	2019年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること (2時間) ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読すること (2時間)
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: 企業の事例を調べること (2時間)
	3	組織の種類 - 営利組織と非営利組織 -	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: NPOについて調べること (2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること (2時間)
	4	ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化 -	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の明暗について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること (2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること (2時間)
	5	ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会 -	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること (2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること (2時間)
	6	ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ -	<ul style="list-style-type: none"> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること (2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること (2時間)
	7	ビジネス実務能力とビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 -	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること。問題プリント①を解くこと (2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと (2時間)
	8	ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること (2時間)
	9	ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源 -	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること (2時間)
	10	ビジネス実務の基本④ - ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス (経理財務) -	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめること (2時間) ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成すること (2時間)
	11	自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己振り返りシートを作成すること (2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること (2時間)
	12	ビジネスプラン① - 起業への意識 -	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 各自がテーマを見つけること (2時間) ・事後学修: ビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと (2時間)

			行う（とくに CSR に関するもの）。	
	13	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 作成したビジネスプランに基づいて発表する。 CM 比較プレゼンテーションを準備する。 実際に企画を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：ビジネスプランを発展させること（2時間） 事後学修：ビジネスプランを再考すること（2時間）
	14	寄付の教室	<ul style="list-style-type: none"> 寄付行為の意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2時間） 事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2時間）
	15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションの意味を再考する。 VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：この授業の学びをまとめること（2時間） 事後学修：新たな発見をすること（2時間）
実務経験				
関連科目	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	dgautb5			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解 F II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解 F I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	xxuzj4r
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	k8m701sn@yahoo.co.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のF Bを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teamsコード	18zm0y3																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u34q4dh																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	2	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	3	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	4	テーマ「大学生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。(計1.5時間)
	11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計2時間)
	12	各自のテーマに関する発表1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	13	各自のテーマに関する発表2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	14	各自のテーマに関する発表3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	15	まとめ	全体ふり返り	全体レポート (1.5時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう!
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計2時間)
11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計2時間) (計2時間)
15	ふり取り、まとめ		レポートを書く(計2時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	h0ek4j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	授業では、日本語の4技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語総合F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
------	--

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、小テスト等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって 日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験				
関連科目	専門日本語 F I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	6zei4yu			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール、チーム内のチャット等			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	オンライン授業時の参加度、確認問題、活動、課題等の提出物により総合的に判断する。			
学生への メッセージ	オンライン授業では積極的に発言することが求められます。			

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	日本語で自分の意見を明確に表明できるようになることを目的とします。また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。 授業の概要は以下の通りです。 ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。 ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。 ・自分の興味関心のある事象について、専門外の人にも分かりやすいように発表する。
---------	---

到達目標	まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。 問題に対する解決策 (自分の意見) を明確かつ論理的に説明できる。
------	--

授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策を提示する。 教員は適宜フィードバックを行う。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)
2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
12	発表準備 1	スクリプトの作成	発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)	
13	発表準備 2	スクリプトの修正 発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 3	発表資料の修正	発表練習	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	自分の発表の反省	

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への取り組み 50%、口頭発表 50%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、発表形式とし、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	u0vvhe6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解FII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u34q4dh																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: B○, C科: IIIo, VIo, L科: DP1△, DP2o, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
2	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
3	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
4	テーマ「大学生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。(計1.5時間)
11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計2時間)
12	各自のテーマに関する発表1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
13	各自のテーマに関する発表2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
14	各自のテーマに関する発表3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
15	まとめ	全体ふり返り	全体レポート (1.5時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう!
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: B○, C科: IIIo, VIo, L科: DP1△, DP2o, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計2時間)
11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計2時間) (計2時間)
15	ふり返り、まとめ		レポートを書く(計2時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	h0ek4j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	授業では、日本語の4技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	個人メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
----------	------------------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。
----	---

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A○,A科:C○,M科:B2○,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,Ⅷ○,Ⅷ科:DP1○,DP7△,DP8△,D科:DP1○,S科:DP1○,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1○,W科:DP1○,DP7○,N科:DP1○,DP8△N:DP1○,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
------	--

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、小テスト等(70%)、課題等の提出物(30%)
--------------	-----------------------------------

学生への メッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
---------------	---

担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
--------------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	u0vvhe6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	キャリアデザインⅠ (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)
	2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)
	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
	5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
	12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)
	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)
	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)
実務経験				
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。																
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)																
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。																

科目名	キャリアデザインⅠ (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成することが期待される。 <p>なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修：キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修：各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：摂南大として、HPの建学の精神と教育理念を理解することHPの(2時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修：学生生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修：社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：GDPについて調べる(1時間) ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：税金について調べる(1時間) ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：大学へ入学した目的を再考えること(2時間) ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：社会人基礎力を調べる(1時間) ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)

	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること（3時間） ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（1時間）																
	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間）																
実務経験																				
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート（55%）、最終レポート（45%）で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山）																			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。																			

科目名	キャリアデザイン I (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。ことが期待される。 <p>なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(1時間) ・事後学修: キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること(2時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 大学で学ぶ意味について考えること(1時間) ・事後学修: 各受講科目のノートを整理すること(3時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話をお聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 摂南大として、HPの建学の精神と教育理念を理解することHPの(2時間) ・事後学修: 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(2時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 設定された個人ワークに取り組むこと(2時間) ・事後学修: 学生生活の目標を再度考えること(2時間)
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グループワークに必要なことを考えること(1時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと(3時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 社会で求められる人材について考えること(1時間) ・事後学修: 社会で求められる能力について考えること(3時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: GDP について調べること(1時間) ・事後学修: 経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(3時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 税金について調べること(1時間) ・事後学修: 配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(3時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(2時間) ・事後学修: 長所を伸ばすための自分の言動について考えること(2時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 大学へ入学した目的を再確認すること(2時間) ・事後学修: 学生としての自分の目標を再確認すること(2時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 社会人基礎力を調べること(1時間) ・事後学修: 社会人基礎力を実践する方法を考えること(3時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(3時間) ・事後学修: 自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと(1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グループのプレゼンテーションの準備をすること。(3時間) ・事後学修: 発表グループの良かった点、改善点をまとめること(1時間)

	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること（3時間） ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（1時間）																
	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間）																
実務経験																				
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート（55%）、最終レポート（45%）で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山）																			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。																			

科目名	キャリアデザインⅠ (BASIC)	科目名 (英文)	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)
	2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)
	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
	5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
	12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)
	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)
	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)
実務経験				
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。																
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)																
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。																

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。 SDGs-4.4, 8.6
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(3時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(3時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと(5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べる(4時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること(3時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと(3時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(3時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること(7時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直すこと ・自らの将来について考えること(3時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(4時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること(4時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(3時間)

実務経験	
------	--

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder
Teamsコード	qr5bqlq

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)
備考	毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。 SDGs-4.4, 8.6
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(3時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(3時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと(5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べる(4時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考えること(3時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと(3時間)
8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(5時間)
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(3時間)
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること(7時間)
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直すこと ・自らの将来について考えること(3時間)
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと(4時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること(4時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(3時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder
Teamsコード	mgdiomo

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		その他 SPI や玉手箱関連の問題集	
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	7zblcpo
Moodleコース名および登録キー	就職実践基礎(後期火5) sjt5
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 浩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本授業で提供する「金融知力 (リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。</p> <p>講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実には則した「金融知力 (リテラシー)」の習得を目指します。</p> <p>サブテーマとして、ESG・SDG's 等近年注目されているテーマについても、随時授業に取り入れます。</p>
到達目標	<p>経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における的確な判断や行動に結びつく「金融知力 (リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。</p> <p>また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持つようにして授業に出席すること。 ・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。 ・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。 ・株式シミュレーションゲームを行う予定ですが、評価の対象とはしません。 ・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。</p> <p>企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。</p> <p>中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件 (ファンダメンタルズ) の知識を2回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ	
3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認	
4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる	
5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する	
6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める	
7	リスクとリターンとは	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためにいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。「リスク」とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる	
8	アセットクラス※の基礎知識 / 株式 (1) (ESG投資への展開含む)	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	媒体でのESG投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する	
9	アセットクラスの基礎知識 / 株式 (2)	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割安・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める	
10	アセットクラスの基礎知識 / 債券 (1) (SDG's含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達することを目的として発行される証書で	財務省のHPで20年度予算の概要を確認	

			す。債券の種類・特徴とリスク、“格付け”について学びます。	
	11	アセットクラスの基礎知識 ／債券（２）－金利と債券	前回に引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める
	12	アセットクラスの基礎知識 ／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認
	13	アセットクラスの基礎知識 ／外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる
	15	試験	試験時間60分。記述式、複数回答からの選択式の併用。全14回授業のレジュメから出題。※なお、試験は電卓以外持ち込み不可。	30分程度試験のポイント解説予定
実務経験				
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	日興リサーチセンター宛てメール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	理解度等を総合的に評価します。 ・レポート：100%（レポート内容は今後確定）			
学生への メッセージ	実務経験をベースとたし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。半年の授業に是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）			
備考	質問等は、遠隔授業を前提とし、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります asano_hiroshi3@nrc.nikko.co.jp この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間 1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化―三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷―	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します (100%)。
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。土曜日に集中講義で開講する。
科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	9月19日 オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なかを知る ・チームビルディングとは何か を理解する	事前学習：本科目のシラバスを精読すること。(1時間) 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
2	9月19日 グループ分けを自己紹介	・グループ分け ・自己紹介ワーク	事後学修：チームにどのように貢献できるかを考える。(1時間)
3	9月19日 チームビルディングの理論を学ぶ	・チームビルディングの理論を学ぶ	事後学修：講義資料を熟読する(1時間)
4	10月3日 チームビルディング体験①	・コンセンサスゲーム ・チームの10箇条	事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1時間)
5	10月3日 チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	事後学修：自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1.5時間)
6	10月3日 チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける
7	10月24日 話し合う技術①	・GDに関する知識を学ぶ	事後学修：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5時間)
8	10月24日 話し合う技術②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5時間)
9	10月24日 組織で学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
10	11月7日 情報の読み取りと活用	・チームで改善計画を考える	事後学習：講義資料を熟読すること(1.5時間)
11	11月7日 チームで課題解決に挑む	・チームでニッポンの課題の解決策を考える	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
12	11月7日 チームで企画する	・チームで学生提案のPBLプロジェクトを企画する	事後学修：チームでの話し合いを振り返ること(1.5時間)
13	11月21日 チームでワークに取り組む①	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修：チームで発表をする準備をすること(1時間) 事後学修：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2時間)
14	11月21日 チームでワークに取り組む②	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修：チームで発表をする準備をすること(1時間) 事後学修：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2時間)
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学修提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5時間) 事後学修：講義全体を振り返ること。(1時間)

実務経験	
関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野研究室）			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間ですら犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パ	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			スワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
実務経験				
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 <p>容認することが期待される。</p> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-5</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> ・ウチとソトの感覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること (2時間) ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること (2時間) 	
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること (2時間) 	
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること (2時間) 	
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間) 	
6	性役割の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: 中間発表用レポート作成 (2時間) 	
7	中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 中間発表準備 (2時間) ・事後学修: 中間発表レポート手直し (2時間) 	
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> ・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間) 	
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーマネジメント ・働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること (2時間) ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること (2時間) 	
10	中間プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 調査考察し、発表準備をすること (2時間) ・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること (2時間) 	
11	アサーティブネス理論①	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブに話す練習をすること (2時間) 	
12	アサーティブネス理論②	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによ 	

				自身の変化についてレポートを作成すること（2時間）																
	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
実務経験																				
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																			
Teams コード	800myjf																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の回数を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上で一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <p>「・「被害者」概念について説明できる</p> <p>・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる</p> <p>・犯罪被害者の支援制度について理解できる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2時間）
	2	少年犯罪の被害者	・少年法と被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2時間）
	3	性犯罪の被害者	・性犯罪被害特有の問題点	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
	4	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者	・DV被害の特殊性	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
	5	ストーカー犯罪の被害者	・ストーカーへの対抗手段	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
	6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	・インターネット犯罪被害の特殊性	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
	7	児童虐待の被害者救済	・児童虐待の意義	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
	8	触法精神障害者からの被害	・精神障害者の加害行為と対処法	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間）
	9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> ・被害届と告訴・告発の効果 ・加害者との示談交渉 ・マスコミ対策 ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2時間）
	10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴と参加 ・被害者による記録の閲覧と謄写 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2時間）

			<ul style="list-style-type: none"> 被害者における心情陳述 被害者等特定事項の非公開 遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）
	11	犯罪被害救済総論③	<ul style="list-style-type: none"> 損害賠償命令制度 	事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	12	犯罪被害救済総論④	<ul style="list-style-type: none"> 被害回復給付金制度 	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	13	犯罪被害救済総論⑤	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪被害者等給付金支給制度 	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）
	14	犯罪被害救済総論⑥	<ul style="list-style-type: none"> 加害者情報へのアクセス 法テラス 	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）
実務経験				
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に指示する。		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	wol2lfc			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	・Microsoft社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う（100%）。			
学生へのメッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。			
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室			
備考	講義の理解を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名 (英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 大橋 貴生, 尾山 廣, 川崎 勝己, 木村 朋紀, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 船越 英資, 松尾 康光, 宮崎 裕明, 向井 歩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。 また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う（第1回）。
---------	---

到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎知識の理解
------	------------------------

授業方法と留意点	配布資料に沿って、教材・課題提供型授業を行う。
----------	-------------------------

科目学習の効果 (資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。
--------------	------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	糖質生化学 (大橋)	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
3	細胞生命生理学 (宮崎)	生物がいかにして環境に適応する仕組み (ホメオスタシス) を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学 (川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学 (青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学 (長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
7	細胞機能学 (船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
8	環境毒理学 (木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学 (中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
10	共生機能材料学 (松尾)	タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学 (西村)	多くの生命現象は「現在 (いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学 (井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学 (居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	動物生理学 (向井)	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
15	生体分子機能学 (尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。

実務経験	
------	--

関連科目	生物学概論、物理科学、生物無機化学、生物統計学
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題レポートまたは確認小テスト 100%
学生への メッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の 研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全教員)
備考	欠席・遅刻などの扱いは理工学部の規定に従って処理する(80%以上の出席が必要)。 事後学習に要する総時間の目安は15時間

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1, N科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。	
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。	
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCAについて調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる (400字以上)。	
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。	
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPOをもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。	
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。	
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修: 来客対応プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。	
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。	
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にをする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。	
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。	
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。	
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。	
13	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。	
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。	
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。	
実務経験				
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」//Web Folder			
Teams コード	w3uk3fb			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、期末試験(50%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	現代ビジネス論	科目名 (英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本的経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向 (interactive) の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないと言われます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢の観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
10	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案 (6~10回までのレポート提出)	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？自身の能力をどう評価していますか？
11	自分はどういうビジネスリーダーになるか	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。二人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例1 二宮尊徳	成長・働く・奉仕 (奉公) を実践	第11回参照
13	事例2 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第11回参照
14	事例3 藤沢武夫	No2の役割とは何か。	第11回参照
15	企業不正	誰も教えてくれない。あなた達が必ず直面する。どう対処すればよいのか	
16	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がったことを総括する。	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社

	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンズ	ダイヤモンド社
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	6y3a3rw			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールを使用			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(25%)、第10回時のレポート(25%)、定期試験(50%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史の流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・本授業は、教科書とMoodleを利用して授業を進めます。 ・授業の一環としての映画鑑賞は、各自で動画配信サービス等を利用して行なうものとします。 (詳細については、Moodle および配布レジュメにおいて説明します。)
科目学習の効果 (資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識 (1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	近現代韓国の基礎知識 (2)	韓国近現代史概説: 軍事政権の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	近現代韓国社会への理解 (1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	近現代韓国社会への理解 (2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	近現代韓国社会への理解 (3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	近現代韓国社会への理解 (4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	現代韓国に向き合う (1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	現代韓国に向き合う (2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分)

				[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・提出レポートについては、授業内で課される小レポートと最終レポートを併せて総合評価を行なうものとします。 (ともにMoodleを通じて提出することになります。)			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。			

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・原 由紀子・横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎, N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, P 科 : YT01423a2~YT01427a2, J 科 : JT01374a~JT01378a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1, N 科 : NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目です。昨年からの教養入門、実践のステップアップの講座としての位置づけです。本科目の目的は、SDGs を実現する。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を習得します。大学生として必要な、SDGs (2030 年までの世界の目標) などを中心とした教養 (社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の考えを持ち、討議ができることを目的とします。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について知り、討議することができる。 (2) 時事ニュースやコラムから教養を身につけ、討議することができる。 (3) 問い作りをすることで、探求テーマを自ら立てることができる。 (4) チームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	この授業では、世界の目標 SDGs を学び、世界の課題を学びます。チームごとにテーマを決めて学びを深め、討議をします。この授業を通し自ら主体的に、仲間と対話を通して SDGs の理解を深め、最終的には自らの行動計画につなげてゆきます。学修法としては、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 協働学習による学び、QFT (問い作り) で探求のテーマ設定をします。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係、チームワーク、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る SDGs カードゲーム 振り返りシート	事後 : SDGs を調べる (Moodle に資料を載せ、読んでもらう。アンケート使用、どの SDGs が気になりましたか?)
2	SDGs を学ぶ 前文仮訳	理解度確認テスト SDGs 前文仮訳 ABD リレープレゼン ジグソーまとめ方確認 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : SDGs を 1 分で話せるようにまとめる 事後 : 今日の学びまとめ	
3	SDGs 目標 1?10 を学ぶ	理解度確認テスト (目標 1-10) SDGs 目標 1-10 ABD サマリ作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 目標 1-10 の予習 事後 : 今日の学びまとめ	
4	SDGs 目標 11?17 を学ぶ	理解度確認テスト (目標 11-17) SDGs 目標 11-17 ABD サマリ作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 目標 11-17 の予習 事後 : 今日の学びまとめ	
5	SDGs の問い作り	理解度確認テスト (SDGs 復習) システム思考ミニ講義 SDGs 目標で問いづくり 役割分担 振り返りシート	事前 : 目標すべての復習 事後 : 今日の学びまとめ	
6	SDGs のポスターづくり	理解度確認テスト (SDGs 復習) 新聞づくり+フィードバック プレゼンテーションミニ講義 発表、フィードバック 振り返りシート	事前 : 新聞づくりの調査 事後 : 今日の学びまとめ	
7	ポスターづくりと発表、グループ振り返り	理解度確認テスト (SDGs 復習) 新聞づくり 全体発表+フィードバック これまでのグループワークの振り返り	事前 : 新聞づくりの追加調査 事後 : 振り返りレポート	
8	2030 年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第 1 章 ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 第 1 章の予習 事後 : 今日の学びまとめ	
9	2030 年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第 2 章 ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 第 2 章の予習 事後 : 今日の学びまとめ	
10	2030 年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第 3 章 ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 第 3 章の予習 事後 : 今日の学びまとめ	
11	2030 年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第 4 章 ABD リレープレゼン 対話	事前 : 第 4 章の予習 事後 : 今日の学びまとめ	

			理解度確認テスト、振り返りシート	
	12	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 問い作り テーマ設定 役割分担 振り返りシート	事前：日本のSDGsについて調べる (ジェンダー平等、貧困、テクノロジー) 事後：今日のまとめ
	13	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり	理解度確認テスト 日本地図帳づくり 中間発表、フィードバック 役割分担 振り返りシート	事前：2030年の新聞づくりの調査 事後：今日のまとめ
	14	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり、発表	最終プレゼン、その世界を実現するには、自分たちにできることは何か？ ワールドカフェ 振り返り	事前：新聞づくりの調査、最終発表準備 事後：振り返りレポート
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、 振り返り、今後の行動目標づくり	グループワークの進め方のポイントを 押さえた振り返り
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	落合陽一	SBクリエイティブ
	2	SDGs アジェンダ前文		国連
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：30%) ・ポスター、新聞づくり/発表 (チーム：25%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・資料ファイリング (個人5%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	大塚正人 (薬学部1号館5F)、伊藤諱 (1号館3F)、原由紀子 (非常勤講師室)			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからなる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。			

科目名	株式投資と起業家育成	科目名 (英文)	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>『「投資」とは何か』、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【SDGs-4】（質の高い教育をみんなに）</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当） ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）</p>
到達目標	<p>将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。</p> <p>また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。</p> <p>「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。</p> <p>またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得</p> <p>学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
11	外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることに	

			基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	12	企業組織と市場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	<事後>投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分）
実務経験				
関連科目	ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習として設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。 ②最終課題レポート（評価割合：50%） 投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。 ■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。 ■法令を遵守した投資スタンスが必要です。 ■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。 この点を理解できる学生は参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。			

科目名	AI ビジネス創造実習	科目名 (英文)	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1, N科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的
近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能 (AI) や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化すると言われています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。

到達目標
(1) AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること
(2) AI の作り方を知り、独自の AI を作れること
(3) AI を活用したビジネスプランを提案し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションできること

授業方法と留意点
本年度は、Microsoft Teams を使用した資料配信型授業とする。
授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Microsoft Teams の AI ビジネス創造実習クラスにアップロードする。
毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。
なお、授業計画 15 回分の内容を 11 回で実施するため、予習・復習に努めること。

科目学習の
効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習
2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習
3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
9	AI によるビジネスプランの 考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し
10	AI によるビジネスプランの 考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案
11	AI によるビジネスプランの 考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成
12	AI によるビジネスプランの 考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化
13	AI によるビジネスプランの 考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り

実務経験

関連科目
情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましい

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞
2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川	
3				

授業形態

Teams コード

Moodle コース名
および登録キー

連絡手段

メールアドレス
メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準)
成績は、演習課題の回答内容に基づき評価する。期限内に提出できなかった場合は、大幅な減点となる。

学生への
メッセージ
Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができてしまう世の中になっています。この授業をとおして、そのことを実感してほしいと思います。

担当者の
研究室等
備考
11 号館 8 階 塚田講師室

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個人々の生き方など、多角的な視点から考えていきます。</p> <p>本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。</p> <p>SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17</p>
---------	---

到達目標	<p>①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること</p> <p>?日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること</p> <p>③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること</p>
------	--

授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修: 配布資料を熟読すること (2時間)
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからのについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
7	認知症と地域生活	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかんする基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからのについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからのについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索する手法について、個人ワークを行います	事後学修: 提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2時間)	
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学修: 講義の内容について振り返りを行うこと (4時間)	

			識、技能、態度についてあらためて考え ます	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	eqjnral			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート50%、最終レポート50%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙、瀧 千波、寺内 睦博、水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2) ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身に付けている。 (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6) テーマにそった対話(感想を述べ合うこと、質疑応答)を行うことができる。 (7) 自主学習の習慣を身に付けている。
授業方法と留意点	この授業は対面授業(6回)と遠隔授業(9回)で行う。 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート(学習範囲を200~250字で要約)を作成する。教科書 p. 48-79 を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート。教科書 p. 80-108 を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	事後学習シート
5	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	学びの振り返り(整理、共有) 要約・プレゼン・対話の要点を説明	教科書 p. 109~146 を読み、事前学習シートに記入する。
6	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	事後学習シート
7	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p. 148~181 を読み、事前学習シートを作成する
8	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p. 181~203 を読み、事前学習シートを作成する
9	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 協働学習(要約・プレゼン・対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート ポスター作成 プレゼン準備 図書館の利用
10	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	ポスター作成 発表・質疑応答、投票と表彰 振り返りシート	振り返りレポート1回目 「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シートを作成
11	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 11~20章を読み、事前学習シートを作成
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 21~27章を読み、事前学習シートを作成
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート 事前学習シート(ポスター作成・プレゼン準備)
14	教養としての文学作品に触れる:「未来の年表」	解説、確認試験 ポスター作成	振り返りレポート2回目 図書館の利用

			発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	
	15	全体振り返り	各グループで選択した文学作品の紹介。 バインダーチェック 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	大学教養実践 DKJ			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢/ルーブリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%) ・ポスター発表 (チーム：20%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%)、・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・事前学習シート (個人：10%)、・事後学習シート (個人：10%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F)、上野山裕士(7号館 3F)、寺内睦博 (11号館 10F)、水野武 (7号館 3F)、友枝恭子 (3号館 3F)、瀧 (スポ振)			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同スタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。？			

科目名	疾病・治療論 I	科目名 (英文)	Clinical Medicine I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳本 広二
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1012a0		

授業概要・目的	看護の場において、病気が生じる原因と機構(病態)を理解することは重要です。本授業では、プロフェッショナルに必要となる様々な病態と診断、治療法を理解します。将来、現場で必要となる基礎力を養います。
到達目標	本科目では、主に呼吸器および循環器疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学診断と対処法、治療法を学び、将来の、的確で質の高い看護の実践に役立てます。
授業方法と留意点	本科目の授業は、Moodleを用いた遠隔授業で行います。下の欄にある授業計画に沿って授業を進めますが、授業内容の短縮、延長・拡大、省略されることがあります。本科目の課題は、各回の授業で示す「指定構文(色を変えた答え付)」を各自のノートに書き写すことが必要最低限の課題です。指定構文以外に、「自由構文」を加えるのは自由(任意)です。自由構文とは、授業を参考として、または、それ以外の情報から自らで作成する構文(指定構文と同様、「色を変えた答、ただし、答の数は自由」を含む)です。作ったノートは、その後の
科目学習の効果(資格)	医学領域の理解の大切さと、それらに関する知識が増えることの楽しさを学ぶことで、常に成長し続けるプロフェッショナル看護師への道を支援します。人体の構造と機能ⅠまたはⅡでの「必要構文」は、この科目では、「指定構文」と呼び、その意義は同じですが、指定構文は、参考書からではなく、各回の授業で提示します。本科目には、指定参考書はありません。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	疾病・治療論(呼吸器1)	教科書：呼吸器疾患の、 ・解剖と生理(呼吸器の解剖、呼吸生理、 酸塩基平衡) について、共に学びます。	・教科書とは、日本地図のようなもの。全体に目を通し、自分にとって興味ある、または、面白そうなどところを見て読んで、そして見たままを一つの風景としても感じてみます(1時間)。 ・最初の講義で触れる解剖と生理のところにも少し目を通します。 ・授業で理解できた所を含めて全体を復習し、イメージ(文字と図や写真という風景)も含め、記憶に定着させることに楽しく挑戦します(1時間)。
2	疾病・治療論(呼吸器2)	教科書：呼吸器疾患の、 ・身体診察(視診・聴診) ・呼吸機能検査(動脈血ガス分析、換気機能検査) ・画像検査(胸部X線検査、胸部CT・MRI・核医学検査、内視鏡検査) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。	
3	疾病・治療論(呼吸器3)	教科書：呼吸器疾患の、 ・呼吸不全 ・呼吸器感染症(かぜ症候群、インフルエンザ、肺結核) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。	
4	疾病・治療論(呼吸器4)	教科書：呼吸器疾患の、 ・呼吸器感染症(肺炎総論、細菌性肺炎、非定型肺炎、ウイルス性肺炎) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。	
5	疾病・治療論(呼吸器5)	教科書：呼吸器疾患の、 ・免疫・アレルギー性肺疾患(総論、気管支喘息、 ・間質性肺疾患(総論、特発性間質性肺炎、じん肺) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。	
6	疾病・治療論(呼吸器6)	教科書：呼吸器疾患の、 ・慢性閉塞性肺疾患(総論、COPD、びまん性汎細気管支炎(PBC)) ・肺腫瘍(総論、非小細胞癌、小細胞癌、転移性肺癌) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。	
7	疾病・治療論(呼吸器7)	教科書：呼吸器疾患の、 ・肺循環障害(総論、肺水腫、急性呼吸窮迫症候群、肺血栓塞栓症) ・換気異常(総論、睡眠時無呼吸症候群過換気症候群) ・胸膜疾患(総論、気胸) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。	
8	疾病・治療論(循環器1)	教科書：循環器疾患の、 ・循環器概論 ・解剖 ・生理 ・主要症候(胸痛、呼吸困難、動悸、浮腫、チアノーゼ、失神、ショック) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。	
9	疾病・治療論(循環器2)	教科書：循環器疾患の、 ・心不全(総論、検査、重症度分類、薬物治療、非薬物治療) について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。	
10	疾病・治療論(循環器3)	教科書：循環器疾患の、 ・虚血性心疾患(総論、労作性狭心症、	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。	

			冠縮性狭心症、急性冠症候群、不安定狭心症、急性心筋梗塞)について、共に学びます。	・次に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
	11	疾病・治療論(循環器 4)	教科書：循環器疾患の、 ・不整脈(総論、心房期外収縮、発作性上室頻拍、WPW症候群、心房細動、心房粗動)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
	12	疾病・治療論(循環器 5)	教科書：循環器疾患の、 ・不整脈(心室期外収縮、心室頻拍、心室細動、房室ブロック (1・2・3度)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
	13	疾病・治療論(循環器 6)	教科書：循環器疾患の、 ・心臓弁膜症・心内膜炎(総論、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、感染性心内膜炎)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
	14	疾病・治療論(循環器 7)	教科書：循環器疾患の、 ・心筋疾患(総論、拡張型心筋症、肥大型心筋症) ・心膜疾患(総論、心タンポナーデ) ・大動脈疾患(総論、大動脈瘤、大動脈解離)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
	15	疾病・治療論(循環器 8)	教科書：循環器疾患の、 ・血圧異常(総論、本態性高血圧症) ・診察(血圧・脈拍・聴診) ・検査(心電図、X線、エコー、CT、MRI、心カテーテル)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・これまで学んだ所を復習し、記憶できた所、まだ、そうではない所を点検し、整理し (2時間)、さらに、定期試験に備えます。
実務経験				
関連科目	病理学総論、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.4 呼吸器		メディックメディア
	2	病気がみえる vol.2 循環器		メディックメディア
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle 遠隔授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	疾病・治療論Ⅰ yan4			
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題としての自作ノートの作成内容、すべての授業で掲載する「指定構文」が、すべて正しく記載されていることを本科目合格への必要最低条件とします。その他の自由構文(任意、ただし、それぞれには、色を変えた答付)も評価します。自由構文の形式は指定構文と同様、ただし、内容は自由で、授業以外からの情報を用いてもかまいません。ノートの提出時期は、その提出法も含めて、本科目授業の後半または終盤に授業内で説明します。			
学生への メッセージ	人名や物の名、地名に関する記憶があるように、反復練習によって、様々な「病気」に関する記憶を増やしていきましょう。 本科目の課題(単位の取得となる必要最低限)は、「指定構文の各自ノートへの自筆転記」です。ノートに記載する指定構文は、各回の授業でアップします。 その他の「自由構文」の追記は、その内容も、教も、自由(任意課題)です。 将来の自分のために、すてきな自作ノートを作り、それを、末永く、最大限に活用してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室23			
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ(後期前半)では、病気がみえるの教科書シリーズを使用します。			

科目名	疾病・治療論Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Medicine II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳本 広二
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1013a0		

授業概要・目的	看護職の実践においては、身体の構造と機能のみならず、病気が発現する原因と機構(病態)を理解しておくことが大切です。本科目では、各種疾病の、「原因/主症状/病態生理/検査法/治療法、等」を学ぶことで、「病気の診かたと対処の仕方」を身に付けます。看護師というプロフェッショナルに必要となる病態と治療法(病名という名の、その中身の部分:性格と、対処法:付き合い方)を学びます。将来の「共に働く職場チーム」に、患者さんの病状と経過、今注意すべき点を的確に把握し、誰かに説明するための、基礎力(建物で言えば、末永くチームを支える「職場共通の土台部分」)を作ります。
到達目標	本科目では、主に血液・免疫・膠原病・感染症・腎および泌尿器疾患の、各「病気の性格」と、それぞれへの「対処法」、への理解を深め、将来的に確度の高い看護の実践に役立ちます。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って授業を進めます。 ・大学としての遠隔授業が始まるまでは、5月11日に本学事務室から発送する郵送物を初回(3回)の自宅での授業に使用します。基本は、大学から郵送される授業の進め方説明にあるように、自分だけの自筆ノートを作っていきます。遠隔授業の開始以降の、本授業担当者からの情報提供、授業内容の提示は、teams、もしくはMoodleを用いて行います。各自でteamsあるいは、Moodleにアクセスし、そこに挙げられた資料を閲覧し、その指示にしたがってください。 ・遠隔授業に関する
科目学習の効果(資格)	医学領域の理解の大切さと、それらに関する知識が増えることの楽しさを学ぶことで、常に成長し続ける医療従事者のプロフェッショナル、看護師への道を支援します。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	疾病・治療論 オリエンテーション	疾病と治療概論 ・血液(総論)と少し。	・本科目に取り組むことの意義を含め、本科目の授業内容と進め方と教科書の一部を印刷した自宅学習用資料を、本学事務室より、5月11日、各自へ発送します。自宅へ届いた日より、それらを活用して自宅での授業(主体的学習と自主トレーニング)を開始してください。 ・具体的な内容と進め方は、上記資料に書いています。本科目の課題の要点は、各自による自筆ノートの作成と、同ノートに書き留められた重要項目(指定構文と自由構文)を、将来の医療現場まで生き残る「強い長期記憶」として定着させていきます。 ・本授業の学習・記憶トレー
	2	疾病・治療論(血液1)	教科書:血液疾患の、 ・血液(総論) ・赤血球(総論、鉄代謝) ・赤血球の異常(貧血総論、鉄欠乏性貧血) について、共に学びます。	初回授業に関する授業・課題説明と同じです。
	3	疾病・治療論(血液2)	教科書:血液疾患の、 ・赤血球の異常(再生不良性貧血、溶血性貧血) ・白血球(総論) について、共に学びます。	初回授業に関する授業・課題説明と同じです。
	4	疾病・治療論(血液3)	教科書:血液疾患の、 ・白血球の異常(総論) ・急性白血病(総論、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病) ・骨髄系主要(総論、慢性骨髄性白血病) ・リンパ性腫瘍(総論、成人細胞白血病/リンパ腫) ・造血幹細胞移植 について、共に学びます。	・以降は、ICTツールを活用した遠隔授業となります。それぞれの手元に届いた教科書(5月28日から順次発送予定)と、ICTツールから届く授業内容に沿い、これまでと同様、本科目の課題となる「各自の自筆ノートの作成」を継続し、その内容を、将来の医療現場まで保てるよう、皆さんの記憶に留める挑戦(自主トレーニング)をしていきます。 ・本授業では、各自による「まとめ事項=黒文字またはその他の色文字と赤文字から成る、指定または自由構文」のノートへの自筆での記載、および、それをういた回数以上の記憶保持(定着)への
	5	疾病・治療論(血液4)	教科書:血液疾患の、 ・止血機構(総論) ・止血機構の異常(総論、免疫性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。
	6	疾病・治療論(免疫・膠原病1)	教科書:免疫・膠原病疾患の、 ・免疫総論(免疫の概念と免疫系) ・免疫の異常(アレルギー、アナフィラキシー、アレルギー性鼻炎) ・膠原病(総論、関節リウマチ) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。
	7	疾病・治療論(免疫・膠原病2)	教科書:免疫・膠原病疾患の、 ・膠原病(全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、ベーチェット病) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。
	8	疾病・治療論(感染症1)	教科書:感染症疾患の、 ・感染症総論(総論、検査、医療関連感染(HAI)、敗血症) ・細菌	4回目の授業・課題説明と同じです。

			・抗菌薬について、共に学びます。	
9	疾病・治療論(感染症2)		教科書：感染症疾患の、 ・グラム陽性菌感染症(ブドウ球菌、レンサ球菌) ・グラム陰性菌感染症(大腸菌=腸管出血性大腸菌; O157、サルモネラ、コレラ、カンピロバクター、緑膿菌、淋菌) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。
10	疾病・治療論(感染症3)		教科書：感染症疾患の、 ・嫌気性菌感染症(嫌気性菌、ボツリヌス、破傷風、ガス壊疽; 偽膜性大腸炎) ・スピロヘータ(梅毒) ・特殊な細菌による感染症(クラミジア、マイコプラズマ) ・ウイルス感染症(かぜ症候群、インフルエンザ、ウイルス性下痢症、風疹、ヘルペスウイルス) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。
11	疾病・治療論(感染症4)		教科書：感染症疾患の、 ・ウイルス感染症(HIV/AIDS) ・異常タンパク質感染症(プリオン病) ・真菌(カンジダ症、クリプトコックス症、ニューモシスチス) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。
12	疾病・治療論(腎泌尿器1)		教科書：腎泌尿器疾患の、 ・解剖 ・検査・処置(尿検査、血液検査、画像検査、腎生検、泌尿器科的処置) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。
13	疾病・治療論(腎泌尿器2)		教科書：腎泌尿器疾患の、 ・症候(多尿・乏尿・無尿・頻尿・尿閉) ・腎臓の機能 ・腎疾患総論 ・全身疾患に伴う腎障害(糖尿病) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。
14	疾病・治療論(腎泌尿器3)		教科書：腎泌尿器疾患の、 ・腎不全(急性腎不全、慢性腎不全) ・尿路結石(総論、上部尿路結石) ・腎代替療法(血液浄化療法、腎移植) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。
15	疾病・治療論(腎泌尿器4)		教科書：腎泌尿器疾患の、 ・尿路・性器腫瘍(前立腺癌、前立腺肥大症) 下部尿路機能障害(過活動膀胱、神経因性膀胱、尿失禁) について、共に学びます。	4回目の授業・課題説明と同じです。

実務経験																	
関連科目	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅲ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気がみえる vol.5 血液</td> <td></td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症</td> <td></td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>病気がみえる vol.8 腎・泌尿器</td> <td></td> <td>メディックメディア</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気がみえる vol.5 血液		メディックメディア	2	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症		メディックメディア	3	病気がみえる vol.8 腎・泌尿器		メディックメディア
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	病気がみえる vol.5 血液		メディックメディア														
2	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症		メディックメディア														
3	病気がみえる vol.8 腎・泌尿器		メディックメディア														
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	・本科目終了時に、各自が作った自筆ノート(=課題)を提出していただきます。 ・事前学習用に配布した資料、および、遠隔授業で示すそれぞれの項目での重要事項をまとめた「指定構文」、および、教科書から各自が抜粋した「自由構文」の数および、「自由構文内」に含まれる赤字の数を評価します。 ・もしも、本科目期末の筆記試験が実施されなかった場合、各自が作成した自作/自筆ノートのみで評価します。具体的には、「指定構文」のすべてが、各自のノート内に自筆で書かれていれば、60点とし、その他、各自が独自の判断で抜き出し、																
学生への メッセージ	科目に取り組むうちに理解が深まり、将来役に立つ記憶量が増えるに従って、楽しくなっていきます。もしも、楽しくならない時は、嘘でもよいので、「この科目が大好き」と、何度も何度も言いましょ。脳と言葉の不思議によって、やがて頭が後追いますよ。皆さんにはすでに、人名や、日常に用いる物の名や、地名に関する記憶があるように、人に説明もできるし、対処もできる、「病名」を増やしていきましょう。 一生ものとなる基礎領域の「引き出し(日常使いとして役立つ知識)」は、皆さん一人一人が自分の頭と心の中に作り上げてください																
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室23																

備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱの全講義、および、疾病治療論Ⅲの前半の講義、では、同じシリーズ（病気がみえる）の教科書を使用します。
----	---

科目名	看護管理学	科目名 (英文)	Nursing Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	撫養 真紀子, 伊藤 恵子, 安田 照美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6△		
科目ナンバリング	NDN3031a0		

授業概要・目的	<p>看護管理の視点から、組織・人材、社会・行政、情報・経済・経営、安全などに関する基本的な知識を学び、医療・看護の質の向上に向けた効果的に効率的な看護管理のあり方を検討する。具体的には、医療チームの一員として多職種との連携と看護職の専門性、看護職としてのキャリア形成、自身の健康管理などを学習する。さらに、看護管理の目的は、看護活動によって人々の健康と幸福に貢献することであり、看護管理からみた看護職の倫理、医療安全を患者・家族と協働し組織として取り組む方法などについて学ぶ。</p> <p>授業では、組織における看護管理の実務経験がある看護管理者が、自らの看護管理の経験を活かしてヘルスケア組織における効果的・効率的な運営などの講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>1回/ 安田 照美 (第1回)</p> <p>5回/ 撫養 真紀子 (第2回・第3回・第4回・第5回・第6回)</p> <p>2回/ 伊藤 恵子 (第7回・第8回)</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に関する制度・政策から組織のあり方と病棟管理までをシステムとして理解することができる。 2. 看護管理に関する諸理論と看護実践のあり方を説明できる。 3. 医療・看護の質向上において、看護管理のあり方や重要性が理解できる。 4. 看護専門職としてキャリア形成に向けて必要なことが考察できる。 			
授業方法と留意点	<p>授業形式は講義中心であるが、事前に配布した資料を手元におき、ノートをしながらか遠隔の画面共有で、パワーポイントで作成した説明資料を用いて、説明を行う。双方向の確保として、遠隔の機能で反応や発言を求めたり、少人数でのグループ討議も取り入れ学びを深める。進め方は教科書の利用とプリントを配布する。授業時間内に質疑応答の時間を設ける。※事前に必ず指定の教科書を準備すること。</p> <p>事前・事後学習課題の欄に、各回の内容に該当するテキストページを書いているので、テキストを読み予習をして授業に参加する。テキストページの記</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>看護管理はどのような場においても、対象を中心に看護サービスを提供するために必要な学修である。より良い看護の提供を創造できる看護職になるために自律的な成長への課題を見出すことができる。看護師国家試験受験のための必須科目でもある。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	病院における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護サービスと経済のしくみ ・看護サービスマネジメント ・人的資源の確保と開発 ・労務管理 	<p>事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。</p>
	2	看護管理の基本となるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理とは、ディスカッション ・看護管理の基盤となる知識 ・看護管理のプロセス 	<p>事前課題：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書p28-62)。統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく。</p> <p>事後課題：講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。</p>
	3	看護活動ととりまく法律・制度	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理に関する法律 ・保健医療福祉政策と最近の動向 ・看護と専門機関・職能団体 	<p>事前学習：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書p198-220)。特に、保健師助産師看護師法を調べておく。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する。</p>
	4	看護職とキャリア	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人になる ・看護の教育体系 ・看護職としてのキャリア 	<p>事前学習：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書p168-186)。冒頭でキャリアについて小グループでの演習を行うので、自らのキャリアについて考えてくる。</p> <p>事後学習：自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。</p>
	5	看護の質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理と倫理 ・医療安全 ・医療・看護の質と評価 	<p>事前課題：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書p110-136)。医療安全については授業の冒頭で質問をする。</p> <p>事後課題：臨地実習で実践していた医療安全を想起し学びを整理する。</p>
	6	看護管理に求められる能力	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフマネジメント ・人とかかわるためのスキル ・集団に働きかけるスキル ・グループワーク、ディスカッション 	<p>事前学習：教科書の該当箇所を熟読し授業に参加する(教科書p138-165)。人・集団に関わるために必要なスキルを考えてくる。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要なスキルについて考え整理する。</p>
	7	病院のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・病院・医療機関の組織と機能 ・医療事故と安全管理 ・災害対応 ・病院機能評価 	<p>事前学習：本日の内容に該当する教科書の内容を読んでおく。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み直し、実習での学びの根拠を整理する。</p>
	8	病院、施設における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理のスキル ・組織の理解 ・経営 	<p>事前学習：臨地実習で学修した管理について振り返っておく。</p> <p>事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する。</p>
	9			
	10			
	11			

	12			
	13			
	14			
	15			
実務経験				
関連科目	保健医療福祉行政論、看護関係法規、看護学概論、各領域の看護学概論、看護倫理、実習科目全般、キャリアデザイン			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナース・グラフィカ 看護の統合と実践①看護管理 第4版	吉田千文他	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜提示する		
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	ss3tcoj			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	makiko_muya@cnas.u-hyogo.ac.jp			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	最終の課題レポートおよび授業での小課題やグループワークの内容を総合して評価する。 最終の課題レポート 80%、小課題・グループワーク 20%			
学生への メッセージ	看護管理は管理者だけが行うものではありません。チームの一員として一人一人が自分の果たす役割を認識したうえで、メンバーシップ・リーダーシップを発揮できるように取り組むこと。主体的に参加し、自己の考えを述べ、ディスカッションにより多様な考えを受止め、視野を広げられることを期待します。			
担当者の 研究室等				
備考	質問等があれば、メールアドレス (makiko_muya@cnas.u-hyogo.ac.jp) に連絡をしてください。 オフィスアワーは授業実施後です。			

科目名	成人看護学援助論Ⅲ	科目名(英文)	Adult Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香・青野 美里・稲垣 範子・稲垣 美紀・志戸岡 恵子・竹下 裕子・長沢 美和子・松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2038a0		

授業概要・目的	<p>〔授業概要〕 成人期にある看護の対象となる人々の健康段階における代表的な健康問題を取り上げて、対象者の身体・心理・社会的特徴を学習する。これらを踏まえて、それぞれの健康問題のある対象に対する看護の方向性および具体的な看護援助方法について学習する。</p> <p>〔目的〕 成人期にある対象およびその家族のニーズを、健康レベルや生活背景を踏まえてアセスメントしたうえで、根拠に基づいた看護を計画、展開できる基礎的能力を養う。また、アセスメントをもとにした模擬患者への看護援助技術の実施計画の立案や計画の評価を通して、より適切な看護援助技術の実践に向けた自己の課題に気付くことができる。演習の振り返りを通して、看護職者としての倫理観や対象に適した看護実践を展開する基礎的能力を養う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 手術侵襲により身体的・精神的状態に急激な変化をきたしやすい急性期にある対象の観察とモニタリングの方法を計画しアセスメントすることができる。 急性期にある対象の心身の苦痛を理解し、緩和するための看護援助方法について計画および評価ができる。 急性期にある対象の合併症予防と心身の早期回復を促進するための看護援助方法について計画および評価ができる。 慢性的な健康問題のある対象の看護に必要な看護技術を理解したうえで、患者のセルフケアを促進する援助を説明できる。 慢性的な健康問題のある対象
授業方法と留意点	本科目は、遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて行う。
科目学習の効果(資格)	成人看護学実習Ⅰ、Ⅱで実際に活用する援助方法である。また、看護師国家試験受験において必須科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	手術を受ける対象への看護過程の展開	・看護過程の展開は、「成人看護学援助論Ⅰ」と連動させて行う。 ・看護問題の明確化、優先順位決定、計画立案を行う。	事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間) 事後課題：看護記録の提出(1時間)
2	手術を受ける対象への看護過程の展開	・自身が展開した看護過程を他者に説明する。 ・看護過程全体のまとめを行う。	事前課題：看護過程に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間) 事後課題：看護記録の提出(1時間)	
3	手術を受ける対象への看護技術①	・術前看護、術前アセスメント	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)	
4	手術を受ける対象への看護技術②	・手術室からの掃室準備、吸引、心電図モニター	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)	
5	手術を受ける対象への看護技術③	・術直後の全身状態の観察とモニタリング(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)	
6	手術を受ける対象への看護技術④	・術直後の全身状態の観察とモニタリング(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)	
7	手術を受ける対象への看護技術⑤	・早期離床と日常生活援助(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)	
8	手術を受ける対象への看護技術⑥	・早期離床と日常生活援助(技術演習)	事前課題：技術演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(1時間) 事後課題：課題の提出(1時間)	
9	慢性的な健康問題のある対象への看護過程1)	情報の整理・解釈・分析1)	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。課題を完成させる。(2時間)	
10	慢性的な健康問題のある対象への看護過程2)	情報の整理・解釈・分析2)	事後課題：完成させた課題を提出する。(情報の整理・解釈・分析)提出(1時間)	
11	慢性的な健康問題のある対象への看護過程3)	関連図、統合・看護計画の明確化	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。(2時間) 事後課題：完成させた課題(関連図、統合・看護計画の明確化)を提出する。(1時間)	
12	慢性的な健康問題のある対象への看護過程4)	看護計画の立案	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。(1時間) 事後課題：完成させた課題(看護計画)を提出する。(1時間)	
13	慢性的な健康問題のある対象への看護過程5)	看護過程成果の共有	事後課題：完成させた全ての課題を提出する。(1時間)	
14	慢性的な健康問題のある対象への看護技術1)	・自己血糖測定・インスリン自己注射を用いてセルフマネジメントを必要とする患者への援助	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する(1時間) 事後課題：演習に関する資料および振り返りレポートを提出する。(1時間)	
15	慢性的な健康問題のある対象への看護技術2)	・継続的な療養法の習得に向けた教育的支援	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する(1時間) 事後課題：実施を振り返りレポートを提出する。(1時間)	

実務経験	
関連科目	成人看護学援助論Ⅰ、Ⅱ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	急性 50%、慢性 50%を合わせて 100%について、授業の中で課したレポート、事前学習、その他の課題の取り組み状況から評価する。																
学生への メッセージ	本授業では、病院で5年以上の臨床経験を持つ教員を含め、その実践経験を踏まえて授業内容を教授します。 また、成人看護学援助論Ⅰ、Ⅱと連動して進めます。具体的には別途説明します。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業中、もしくは授業終了後にフィードバックします。																
担当者の 研究室等	研究室 26 稲垣美・ 研究室 29 森谷																
備考																	

科目名	地域看護学	科目名 (英文)	Community Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP6◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2063a0		

授業概要・目的	地域で生活するあらゆる年代のあらゆる健康レベルの人々を対象とする地域看護・公衆衛生看護について、その歴史的な変遷と成り立ちについて学ぶ。また社会環境の変化に影響を受け発展した、地域看護・公衆衛生看護の基本となる概念と理論、ヘルスケアシステムと地域保健サービスの仕組みについて講義を通じて学び、地域看護のあり方を考える基礎的な内容を理解する。さらに、ヘルスプロモーションの理念とそれに関わる保健・医療・福祉制度の概要とともに保健師等の地域で活躍する看護職の活動について学び、地域看護・公衆衛生看護における対象と活動分野について理解を深める。 保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護学の実例を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	1. 地域看護・公衆衛生看護の歴史的な変遷と社会環境の変化による影響を踏まえ、その基本的な概念とヘルスプロモーションの理念について理解できる。 2. 地域で暮らす人々の健康問題を理解するとともに、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションの理念に基づき展開される活動について説明できる。 3. 地域看護・公衆衛生看護活動に関わる法制度と地域保健医療福祉システムを理解し、その目的と活動の基本的なプロセスについて説明できる。 4. 地域住民の健康と生活を支援するポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを
授業方法と留意点	この授業は遠隔授業の形態で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションの形式を用いる。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。 昨今の社会の時事やニュース、例なども紹介しながら、授業を進行するため、それらに日々関心をもってふれるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	保健・医療・福祉制度の概要とともに地域における看護職の活動を理解することで、今後、さらなる活躍が期待される地域包括ケアシステムの看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	公衆衛生看護学オリエンテーション、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動	公衆衛生看護学オリエンテーション(カリキュラム上の位置づけと保健師免許、国家試験について)、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動の場と対象、日本の健康政策について	事前:保健福祉行政論及び家族看護学についてテキストを読んでくる(テキストP3~12)と同時に、関係する資料を調べて読み予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。
2	公衆衛生看護の歴史の変遷	公衆衛生看護の歴史の変遷(諸外国の公衆衛生看護、日本特有の公衆衛生看護活動体制と法、保健所と保健師の活動体制、新たな保健師活動への指針)	事前:テキストP13~63, 69~82を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
3	疾病予防、国内のヘルスプロモーションと公衆衛生看護	ヘルスプロモーションと公衆衛生看護(プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションと「健康日本21」、日本におけるヘルスプロモーションの取り組みと成果)	事前:テキストP13~92, 196~200, 218~223, 261~275を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
4	ヘルスプロモーションの理論と方法	ヘルスプロモーションの展開(ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、国の政策と保健事業)	事前:テキストP13~92, 196~200, 218~223, 261~275を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
5	保健行動と保健活動の理論と方法	保健行動と保健活動の理論とモデルと実際の取り組み(成人保健活動より)、保健指導と健康教育概論	事前:テキストP13~92, 196~200, 218~223, 261~275を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
6	公衆衛生看護活動 - 1	公衆衛生看護活動 - 1 保健指導と家庭訪問、健康相談、健康診査の概要	事前:テキストP64~67, 177~193, 208~211を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
7	公衆衛生看護活動 - 2	公衆衛生看護活動 - 2 対象別の公衆衛生看護活動(人々の発達段階に応じた看護活動、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動)	事前:テキストP227~242, 262~268, 283~286を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
8	公衆衛生看護活動方法 - 3	公衆衛生看護活動 - 3 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動(精神保健・感染症概論)	事前:テキストP338~344, 350~356, 357~362, 369~371を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
9	公衆衛生看護活動方法 - 4	公衆衛生看護活動 - 4 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動(結核・難病概論)	事前:テキストP378~383, 306~312を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
10	公衆衛生看護活動 - 5	公衆衛生看護活動 - 5 グループ支援・組織化・地区組織活動	事前:テキストP149~171を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
11	公衆衛生看護活動 - 6	公衆衛生看護活動 - 6 地域診断の概要(地域診断の定義、地域診断の意義と目的、地域診断の理論とモデル、地域診断の方法)、地区踏査	事前:テキストP97~116を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
12	公衆衛生看護活動 - 7	公衆衛生看護活動 - 7 地域診断の事例、公衆衛生看護と医療経済、保健事業の計画策定と実施、予算の仕組み、評価	事前:テキストP42~48, P128~147, P487~488を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
13	産業保健 1	産業保健 1 (産業保健・産業看護の理念と我が国の実態)	事前:テキストP447~469を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
14	産業保健 2・学校保健	産業保健 2・学校保健(学校保健と養護教諭の役割・活動の実際)	事前:テキストP447~469, 433~446を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。	

	15	これからの保健師活動	保健師を取り巻く状況とこれからの公衆衛生看護活動	事後：授業内容を整理し、理解を深める（2時間）。 事前：テキストP515～526を読んでも同時に、関係する資料を調べ予習する（2時間）。 事後：授業内容を整理し、理解を深める（2時間）。
実務経験				
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、家族看護学、その他各領域の看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「公衆衛生看護学.jp 改訂第4版」	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル
	2	「国民衛生の動向 2018/2019」 厚生労働統計協会		
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業の各回で提示される課題・ミニレポートなどの提出物で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は地域看護・公衆衛生看護の実務者である保健師として10年以上の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、テキストを使用しますので必ず毎回持参してください。 ・また保健福祉行政論及び家族看護学の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようにして下さい。 			
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階研究室7			
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。 追加の文献や資料などは授業中に紹介します。			

科目名	看護倫理	科目名 (英文)	Nursing Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎		
科目ナンバリング	NDN3064a0		

授業概要・目的	あらゆる対象や看護場面で遭遇する倫理的諸問題に対する感受性を高め、倫理原則や理論を用いて、倫理問題の解決に向けた姿勢を育む。担当責任者である鎌田は、臨床で看護師としての6年の実践経験をもとに、具体的な事例に対する倫理原則や理論を用いたアプローチ方法および、倫理的な姿勢について教授する。
到達目標	1. 倫理理論、倫理原則、諸概念について理解する。 2. 倫理問題に関わる人々の立場や背景を理解し、考慮できる。 3. あらゆる側面から倫理的に判断する素地を身に付ける
授業方法と留意点	臨地実習で各学生が体験した倫理場面を取り上げ、課題を見出す。1事例を選択し、各グループで課題の整理および倫理課題のアプローチ方法に基づき、倫理的課題の整理および検討を行う。各グループで検討した内容のプレゼンテーションを行い、学びを共有する。本授業は遠隔(非対面)で行います。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護倫理の基礎	倫理とは 倫理原則 看護における倫理 意思決定のプロセス	事前:基礎看護学概論で学習した看護倫理にかかる概念について、復習しておく。(1時間) 事後:実習での倫理課題の場面を再構成する(1時間)
2	倫理課題へのアプローチ	倫理原則に基づくアプローチ法について 倫理原則に基づく倫理カンファレンスについて	事前:個々の事例の整理(1時間) 事後:事例について、倫理的課題を明確にする(1時間)
3	倫理課題へのアプローチの実際	各事例について、倫理原則に基づくアプローチを検討する	事前:個々の事例の整理(1時間) 事後:事例について、倫理的課題を明確にする(1時間)
4	事例検討	成人および老年事例の倫理問題へのアプローチおよび全体討議	事前:事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後:グループワークのプロダクト作成(1時間)
5	事例検討	妊産婦および小児事例の倫理問題へのアプローチおよび全体討議	事前:事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後:グループワークのまとめ資料作成(1時間)
6	事例検討	地域・在宅および精神事例の倫理問題へのアプローチおよび全体討議	事前:事例の倫理課題についてグループワーク(1時間) 事後:グループワークのまとめ資料作成(1時間)
7	子ども虐待と倫理	多視点から子ども虐待の現状を理解し、看護を考える	事前:子ども虐待の現状について(1時間) 事後:グループワークのまとめ資料作成(1時間)
8	子ども虐待に対する看護師の役割 臨時試験	子ども虐待に対する看護師としての在り方、姿勢を考える	事前:子ども虐待に対する看護師の役割について(1時間) 事後:全授業の内容を振り返り(2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
------	--

関連科目	生命倫理、看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、助産学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、在宅看護学概論、全看護学実習
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜提示する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle
------	----------------------

Teamsコード	sb192k3
----------	---------

Moodleコース名および登録キー	2020年度 看護倫理 4年生 0716
-------------------	-------------------------

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	課題30%、臨時試験70%
----------	---------------

学生へのメッセージ	臨地実習では、看護倫理の授業を意識し、倫理的な感受性を高めて下さい。 また、皆さんが体験した倫理場面に応じて検討、プレゼンテーションがなされるため、シラバス内容および順番が変更する可能性があります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 鎌田研究室17
備考	・実習で経験した事例をもとに倫理的な視点から振り返り、グループで検討を行う。

科目名	看護教育学	科目名 (英文)	Nursing Education
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	中山 由美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3065a0		

授業概要・目的	看護教育制度の歴史の変遷や現状を理解できる。また継続教育について理解し、教育方法や教育評価について理解することができる。具体的には、看護教育制度、看護教育課程、看護継続教育、看護学教育における倫理的基盤、看護教育方法、および教育目標・計画等の立案、また看護教育評価等に関する基礎的知識を学び、看護師への継続的な教育の必要性や看護職の役割について理解を深める。 授業担当者は独立型救命救急センターで初期治療室、ドクターズカー担当、病棟勤務を経験後、総合病院の看護部管理室教育担当者となり、施設の教育内容や評価について担当した経験がある。
到達目標	1. 看護教育について自己の考えを述べることができる。 2. 看護教育制度の歴史の変遷を理解することができる。 3. 看護学教育における倫理について自己の考えを述べるができる。 4. 看護教育目標・計画立案・教育評価の立案の仕方を理解することができる。 5. 成人教育における教育者としての役割について述べるができる。 6. 今後の自己の学習姿勢について考えることができる。
授業方法と留意点	配布資料にて授業を行っていく。 教育者と学習者への倫理的配慮について、また成人教育の視点から講義および演習時の関わり方をグループワークまたは個人課題を通して基礎的な教育についての自己の考えを明確にシラスで共有する。
科目学習の効果 (資格)	自己のキャリア形成にも関連し、また職場で教育的立場に立った時に役立つ基礎的知識を学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護教育制度	看護教育の歴史の変遷について	事後学習：授業資料を確認し看護教育・看護学教育・看護教育学の定義を整理する。 教科書の看護教育の歴史の変遷を熟読する。(1時間程度)
	2	看護教育課程	指定規則と看護教育課程、カリキュラム構成について	事前学習：保健師助産師看護師法における保健師助産師看護師学校養成所指定規則について著書を読んでくる。(1時間程度) 事後学習：授業資料を熟読し、本学のカリキュラム構成と指定規則との関係を考えてみる。また大学のアドミッションポリシーやカリキュラムポリシーとカリキュラムとの関連を考る。(1時間程度)
	3	生涯学習と看護継続教育	生涯学習と看護継続教育の意味を理解し、看護職者のキャリアデザインを検討する	事前学習：生涯学習と看護継続教育の意味を調べてくる。(30分程度) 事後学習：自己のキャリア目標・ビジョンを検討する。(30分程度)
	4	成人教育における学習理論	ペダゴジー (Pedagogy) とアンドラゴジー (Andragogy) の違いについて	事前学習：ペダゴジー (Pedagogy) とアンドラゴジー (Andragogy) について調べてくる。(1時間程度) 事後学習：8回目の授業の発表資料を準備する。今まで受けてきた授業を一つ取り出し、どのような授業方法を実施すると学生が自主的に授業参加するか検討する。(1時間程度)
	5	看護教育学における倫理的基盤	看護学の学習過程で関連してくる倫理的視点を検討する。また教育現場で生じる倫理的視点を検討する	事後学習：自己の実習を指導者や教員の立場に立ち振り返り、倫理的な課題を検討する。また教育者として配慮しないといけない倫理的視点とはどのようなものか検討する。(1時間程度)
	6	看護教育学における倫理的基盤	第5回目の内容をグループディスカッションシラスでの共有を行う。	事前学習：発表資料を作成する。(1時間程度) 事後学習：クラスで共有した看護教育における倫理的配慮について復習する。(30分程度)
	7	看護教育目標・計画立案・教育評価	看護教育課程や養成所のアドミッションポリシーなどを踏まえた授業目標や授業計画を検討する視点を学ぶ	事前学習：評価に関する自己の考えを説明できるように準備する。(1時間程度) 事後学習：大学のアドミッションポリシーやカリキュラムポリシーと科目の目標などとの関連を検討する。(1時間程度)
	8	成人教育における学習理論	基礎看護技術Ⅳの授業において成人教育における学習理論を活用した授業方法を検討しグループ発表する	事前学習：発表資料を作成する。(2時間程度)
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

実務経験				
関連科目	看護学概論、看護関係法規その他これまでに学んだ全ての科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う	クレグ美鈴/池西悦子	南江堂

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業時の課題やグループワーク発表資料など 50% 最終課題レポート 50%			
学生への メッセージ	将来、どのような職場で働くとしても、指導的立場に立つ時期があると思います。そのような時に学習者に効果的な関わりや教育が実施できるひとになって欲しいと思っています。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	国際看護学	科目名 (英文)	International Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	富永 真己, 西頭 知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP6○		
科目ナンバリング	NDN2066a0		

授業概要・目的	世界の人々の健康問題について理解を深め、国際看護活動の現状と課題及び意義について学び、看護を行う上で見につけておきたい国際的な視野を養う。海外での看護活動をめざす学生だけでなく、日本の看護現場でも必要な異文化の理解とグローバル化、国際化の中で求められる国際看護や国際協力のあり方に関する自分の意見を持てるようにする。
到達目標	(1) グローバル・ヘルスの変遷とグローバル看護の概念および現状と課題について説明できる。 (2) 日本社会が多文化共生を目指すうえで、異文化・多文化における看護の実際と課題について説明できる。 (3) グローバル看護における社会制度と看護実践の課題、情報の利用について説明できる。 (4) 世界の人々の健康問題と国際協力における看護の役割について説明できる。
授業方法と留意点	この授業は遠隔授業の形態で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションの形式を用いる。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。 昨今の社会の時事やニュース、例なども紹介しながら、授業を進行するため、それらに日々関心をもってふれるようにすること。
科目学習の効果(資格)	日本社会が多文化共生を目指すうえで、医療・保健・看護の分野においても異文化・多文化の理解は必要不可欠で、看護専門職としての支援について幅広く考えることができる。また、将来の活躍の場の可能性を広く捉えることができる。将来的に国家試験での出題も予測されるため、試験対策としての知識習得ともなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	国際看護学のオリエンテーション、グローバル・ヘルスとグローバル看護	公衆衛生看護学オリエンテーション(カリキュラム上の位置づけについて)、グローバル・ヘルスの変遷とグローバル看護の概念および現状と課題について学ぶ。	事前: テキストを読んでくる(テキストP2~23)と同時に、関係する資料を調べて読み予習する(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める(1時間)。
	2	異文化・多文化と看護1	日本社会が多文化共生を目指す上での異文化・多文化の日本の現状と、日本の看護の実際について学ぶ。	事前: テキストP26~52を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める(1時間)。
	3	異文化・多文化と看護2	日本社会が多文化共生を目指す上での異文化・多文化の日本の現状と、日本の看護の実際と課題について事例を通じて学ぶ。	事前: テキストP33-65を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める(1時間)。
	4	グローバル看護における社会制度と看護実践、情報の利用	グローバル看護における社会制度と看護実践の課題、情報の利用について、事例を通じて学ぶ。	事前: テキストP65~93を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、理解を深める(1時間)。
	5	国際協力と看護 ー青年海外協力隊の活動ー	国際協力の仕組みと国際看護活動の現状と課題、看護の役割について学ぶ。	事前: 教科書P128~141を読み、分からない言葉を調べる(1時間)。 事後: 授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	6	異文化理解とコミュニケーション	異文化の疑似体験を通して、言葉や価値観が異なる人同士が分かり合うために必要な態度やスキルについて学ぶ。	事前: 事前配布資料を読む(1時間)。 事後: 授業内容を整理し、ミニレポートをまとめる(1時間)。
	7	開発途上国における子どもの健康	開発途上国の子どもの健康問題について学ぶ。	事前: 教科書P115-117を読む。開発途上国における子どもの健康問題について調べ、ミニレポートにまとめる(1時間)。 事後: 授業内容を振り返り、整理する(1時間)。
	8	開発途上国における女性の健康	開発途上国の女性の健康問題について学ぶ。	事前: 教科書P62-64を読む。開発途上国における女性の健康問題について調べ、ミニレポートにまとめる(1時間)。 事後: 授業内容を振り返り、整理する(1時間)。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

実務経験	
関連科目	公衆衛生学、保健医療福祉行政論、その他各領域の看護学概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際看護学: グローバル・ナーシングに向けての展開	南裕子監修, 新川加奈子, 大野夏代, 神原咲子	中山書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業の各回で提示される課題・ミニレポートなどの提出物で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、海外で看護実践者として実務経験を有する教員に加え、海外の在留邦人や国内の外国人の研究経験を有する教員が担当します。授業ではそれらの経験を踏まえ事例などの紹介を積極的に取り入れ行います。授業では、テキストを使用しますので必ず毎回持参してください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようして下さい。
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階研究室7 西頭知子 7号館3階研究室14
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席を指定とすることがあります。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	災害看護論	科目名 (英文)	Nursing in Disaster
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢, 稲垣 美紀
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP7○		
科目ナンバリング	NDN2068a0		

授業概要・目的	災害を体験した対象者の心身の健康問題について理解するとともに、災害時の看護職（看護師、保健師等）の役割、トリアージ方法、救命救急時の看護について学ぶ。具体的には、災害に対応できる看護の知識を養うために、災害の概念、災害看護の定義および被災者のメンタルヘルス、各期における様々な活動の場での支援などについて学習する。また救命救急時の実際として、一次救命処置、二次救命処置、災害時のトリアージ方法について学ぶ。
到達目標	1. 災害および災害看護に関する基礎知識を理解することができる。 2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について述べるすることができる。 3. 災害サイクルに応じた看護支援活動と看護職の果たす役割を述べるすることができる。 4. 心のケア、トリアージおよび救命救急等を理解することができる。 5. 個人の備えと地域防災を理解し、具体的な備えを検討できる。 6. 国際的視野での看護活動を理解することができる。
授業方法と留意点	本講義は、具体的に災害看護を実践できる基礎知識を養うために資料、教科書、ビデオなど用いて行います。提示する教材をしっかりと学習するようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して災害看護の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	災害看護論の授業概要、災害看護に関する基礎知識 災害および災害看護に関する基礎知識	災害看護学を学ぶ意味、災害看護のあゆみ、災害看護について学ぶ。 健康危機管理、災害の種類と各期などについて学ぶ。	事前・事後学習：配布資料および教科書1章を読んで復習しておくこと。(1時間)
2	災害時に看護が果たす役割と災害各期の看護活動 様々な活動の場の看護活動	病院、避難所、仮設住宅における看護師、保健師、訪問看護師などの活動について学ぶ。	事前・事後学習：配布資料および教科書2章を読んで復習しておくこと。(1時間)
3	災害時に必要な技術(トリアージの概念・方法・課題)	トリアージについて学びを深める。	事前・事後学習：教科書第2章Dのトリアージを読んでおくこと。また一次救命処置を復習しておくこと。(1時間)
4	被災者の心理のプロセスとこころのケア等	被災者の精神的援助について学ぶ。	事前・事後学習：配布資料および教科書第2章Fを読んで復習しておくこと。
5	国際災害看護活動	海外での災害看護活動の実際と課題について概説する。	事後学習：授業内容について復習すること。(30分)
6	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。	事前・事後学習：興味のある対象者の災害看護について学習し、まとめる。(1時間)
7	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。	事前・事後学習：興味のある対象者の災害看護について学習し、まとめる。(1時間)
8	災害の取り組みについて	災害時の取り組みについて検討する。	事前・事後学習：学習した内容を提出する。(1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
関連科目	救急看護、臨床心理学、公衆衛生学および公衆衛生看護学、国際看護

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	災害看護学・国際看護学	日本赤十字社 事業局看護部 浦川喜久子他	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	災害看護一心得ておきたい基本的な知識	小原真理子監修/酒井明子監修	南山堂
2	災害救護	勝見 敦・小原真理子編集	廣川書店
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	提出されたレポートで評価する。
学生へのメッセージ	災害が頻繁に起こっており、看護職に期待される役割があると考えますので、災害への関心を持ってもらい、積極的に課題に取り組んで欲しいと思います。
担当者の研究室等 備考	7号館研究室6(松田千登勢)、研究室26(稲垣美紀)

科目名	総合看護学演習	科目名 (英文)	Seminar in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 足立 安正, 池田 友美, 小堀 栄子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 竹下 裕子, 田中 結華, 西頭 知子, 村瀬 由貴, 柳本 広二, 山口 太郎, 山本 智津子, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP7○		
科目ナンバリング	NDN4071a0		

授業概要・目的	4年間の学習内容を総合的に振り返り、専門基礎科目、専門科目を統合して、横断的に学習する。また、学生自ら本学で学習した必要な知識を系統的に整理し、理解することで、看護を行う上での基盤を形成し、加えて、将来にわたり主体的に学習が継続できる力を養う。																																																																		
到達目標	1. これまでに学習した学習内容の知識を系統的に整理し、理解する。 2. 自ら主体的に学習を継続することができる。																																																																		
授業方法と留意点	各専門科目をオムニバス形式で、対面または遠隔での講義および演習形式で実施する。各教員の指示に従うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	看護師国家資格																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>薬理学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>2</td><td>人体の構造・病理学・疾病①</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>3</td><td>人体の構造・病理学・疾病②</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>4</td><td>人体の構造・病理学・疾病③</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>5</td><td>人体の構造・病理学・疾病④</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>6</td><td>公衆衛生</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>7</td><td>医療福祉行政論</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>8</td><td>基礎看護学①</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>9</td><td>基礎看護学②</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>10</td><td>成人看護学①</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>11</td><td>成人看護学②</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>12</td><td>在宅・老年看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>13</td><td>母性看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>14</td><td>小児看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> <tr><td>15</td><td>精神看護学</td><td>担当教員の指示どおり</td><td>授業テーマに沿って事前事後学習を行う</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	薬理学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	2	人体の構造・病理学・疾病①	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	3	人体の構造・病理学・疾病②	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	4	人体の構造・病理学・疾病③	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	5	人体の構造・病理学・疾病④	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	6	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	7	医療福祉行政論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	8	基礎看護学①	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	9	基礎看護学②	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	10	成人看護学①	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	11	成人看護学②	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	12	在宅・老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う	15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	薬理学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
2	人体の構造・病理学・疾病①	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
3	人体の構造・病理学・疾病②	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
4	人体の構造・病理学・疾病③	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
5	人体の構造・病理学・疾病④	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
6	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
7	医療福祉行政論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
8	基礎看護学①	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
9	基礎看護学②	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
10	成人看護学①	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
11	成人看護学②	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
12	在宅・老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	全専門基礎科目、全専門科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>授業中に資料を配布する</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に資料を配布する			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業中に資料を配布する																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問</td><td>東京アカデミー</td><td>東京アカデミー</td></tr> <tr><td>2</td><td>看護学生スタディガイド</td><td>池西静江、石東佳子</td><td>照林社</td></tr> <tr><td>3</td><td>レビューブック</td><td>岡庭 豊</td><td>MADIC MADIKA</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー	2	看護学生スタディガイド	池西静江、石東佳子	照林社	3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー																																																																
2	看護学生スタディガイド	池西静江、石東佳子	照林社																																																																
3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA																																																																
授業形態	対面授業																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー	2020年度 総合看護学演習 4年生 17161716																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	定期試験および臨時試験等で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	看護学の総合的な科目です。自己の学習を進めながらしっかり復習をしていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	各担当教員の研究室																																																																		
備考	講師の都合により、上記授業順序はこの限りではありません。																																																																		

科目名	助産診断・技術学 I	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	西頭 知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3075a0		

授業概要・目的	妊娠期の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理について学習する。妊娠時期の診断、妊娠経過の診断、妊婦の心理・社会的側面の診断、状況に応じたケアについて学習する。そして、教育、相談の基礎技術に基づき、妊娠期における健康教育について考える。また、流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊婦と家族のケアやハイリスク妊婦と家族のケアと助産師の役割について学習する。
到達目標	1. 妊娠期の助産診断の特徴について理解できる。 2. 妊娠期の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化について理解できる。 3. 正常および異常妊婦の妊娠経過と適応過程についてアセスメントし、助産診断できる。 4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる。 5. 妊婦の家族も含めた支援について考えることができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って、講義とグループワークにて進める。グループワークでは、指定教科書や配布資料以外にも活用できる資料を見つけて利用すること。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目である。

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	助産診断の特徴	妊娠期における助産診断の特徴を学ぶ	事前：教科書?の該当部分(P2-40)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	2	妊娠の生理と正常妊娠期の経過 (1)	妊娠による母体の生理的变化、胎児の発生・成長・発達について学ぶ。	事前：教科書?の該当部分(P42-54)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	3	妊娠の生理と正常妊娠期の経過 (2)	妊娠による母体の生理的变化、胎児の発生・成長・発達について学ぶ。	事前：教科書?の該当部分(P55-77)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	4	妊娠期の助産過程の展開 (1)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。 内容 ・診断項目、診断指標	事前：教科書?の該当部分(P5-7, P98-158, P160-173,)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	5	妊娠期の助産過程の展開 (2)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。 内容 ・妊娠経過の正常・異常の判断	事前：教科書?の該当部分(P5-7, P98-158, P160-173,)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	6	妊娠期の助産過程の展開 (3)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。 内容 ・妊娠期におこる可能性のある病態 ・合併症を有する女性の妊娠経過におけるリスク	事前：教科書?の該当部分(P5-7, P98-158, P160-173,)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	7	妊娠期の助産過程の展開 (4)	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について学ぶ。 内容 ・正常からの逸脱 ・胎児の診断 など	事前：診断に必要な情報を項目に沿って確認する(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	8	妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメント	妊娠期の心理状態と妊婦・夫婦・家族にとっての社会的変化およびそれらに対する妊婦の適応状態を把握するためのアセスメントについて学ぶ。	事前：教科書?の該当部分(1. P80-96, 2. 28-56)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	9	妊娠期のフィジカルアセスメント	妊婦のフィジカルアセスメントを実施するために必要な情報収集と診断技術について学ぶ。	事前：教科書?の該当部分(P174-209)を読む(1時間)。 事後：授業内容を振り返り整理する(1時間)。
	10	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (1)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。	事前：教科書?の該当部分(P210-288)を読む(1時間)。 事前・事後：グループで妊娠期の助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする(1時間)。
	11	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (2)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。	事前・事後：グループで妊娠期の助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする(各2時間)。
	12	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：正常 (3)	展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前：グループで妊娠期の助産過程を展開し、発表資料として提出する(1時間)。 事後：グループ討議の内容から助産診断、アセスメント、目標、計画等を見直し、修正後最終提出する(1時間)。
	13	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (1)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。 リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源・制度について考える。	事前：教科書?の該当部分(P290-341)を読む(1時間)。 事前・事後：グループで妊娠期の助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする(1時間)。
	14	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (2)	事例を用いた助産過程の展開を通して、助産過程のプロセスについて学ぶ。 リスクに応じた適切な管理、妊婦と家族がセルフケア能力を持つための支援、必要な生活習慣の変容についての指導や利用できる社会資源・制度について考え	事前・事後：グループで妊娠期の助産過程を展開する。グループでの作業がスムーズに進むよう、各自準備をする(各2時間)。

	15	妊娠期の事例を用いた助産過程の展開：異常・ハイリスク (3)	る。 展開した助産過程の発表およびグループ討議を行う。	事前：グループで妊娠期の助産過程を展開し、発表資料として提出する(1時間)。 事後：グループ討議の内容から助産診断、アセスメント、目標、計画等を見直し、修正後最終提出する(1時間)。
実務経験				
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産技術学演習Ⅰ、助産技術学演習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院	我部山キヨ子 他	医学書院
	2	助産学講座 4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 医学書院	村瀬 聡美／我部山 キヨ子 編集	医学書院
	3	産婦人科診療ガイドライン 産科編 2020 日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 2 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学	我部山キヨ子 他	医学書院
	2	助産学講座 3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山キヨ子 他	医学書院
	3	今日の助産	北川真理子 他編集	南江堂
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 70% 提出課題 30%			
学生への メッセージ	本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。助産学実習での実践的な学びにつながるような授業を行います。助産学実習で活用できるよう、資料や自己学習ノートを整理しまとめておくとよいと思います。グループワークが円滑に進むよう、各自が役割を果たし、積極的に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 西頭知子(研究室14)			
備考				

科目名	助産診断・技術学Ⅱ	科目名 (英文)	Midwifery Diagnostics and Technique II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3076a0		

授業概要・目的	<p>(概要)</p> <p>産婦の安全・安楽な分娩のために必要な助産診断とケアを実践するための基本を学び、分娩開始・分娩経過の診断、リスクの査定、産婦の心理・社会的側面の診断ができ、状況に応じたケアが実践できる知識と技術の基本について学ぶ。また、分娩進行に伴う異常の発生予測と予防的行動、異常発生時の観察と対処について学習し、産婦のケアと助産師の役割について考える。また講義時にはCG動画を用いて、分娩のメカニズムを学習する。助産診断は分娩経過に合わせて事例を用い、思考過程に沿って助産診断を学習する。</p> <p>(目的)</p> <p>分娩期の助産診断の特徴と、正常分娩の経過に伴う助産診断、および異常分娩の経過と助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる 2. 産婦・胎児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる 3. 分娩期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる 4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる 5. 助産診断に基づいて援助計画が立案できる 6. ハイリスク産婦の分娩経過に伴うリスク査定、助産診断と援助について理解できる
授業方法と留意点	Web 講義 (Zoom を用いての双方向授業) を行います。資料は事前に郵送していますが、足りない資料は授業中に提示します。また提示した資料は Moodle 上でも見られるようにあげています。Web 授業のため、皆さんの反応を細かく確認しながら授業を進めることが難しいため、皆さんの積極的な参加を期待します。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	助産診断の特徴	正常分娩の経過についての理解 ・分娩経過の全体像 ・分娩の3要素 娩出力 産道 娩出物 (胎児及び附属物) ・分娩期における助産診断の特徴	事前課題: 1週間前に分娩期の知識の復習のため課題を出します。テキスト「病気が見える」P186～215を参考に仕上げてくる(講義当日朝に提出)(1時間) 事後課題は: 本日の知識の復習(課題レポート)(1時間)
2	正常分娩の経過と助産診断 (1)	胎児の分娩機転 ・児頭の回旋 分娩経過の全体像 ・前駆期 ・分娩の開始 ・分娩第1期 ・分娩第2期 ・分娩第3期 ・分娩第4期	事前課題: 前回の講義時に配布した課題のレポート (1時間) 事後課題: 本日の知識の復習 (課題レポート) (1時間)
3	正常分娩の経過と助産診断 (2)	分娩期の助産診断の特徴と診断類型について ・分娩期助産診断のポイント ・分娩予測 ・母体の診断 分娩開始の診断 分娩時期の診断 分娩進行状態の診断	事前課題: なし 事後課題: 診断項目に対する診断指標を完成させる。(2時間)
4	正常分娩の経過と助産診断 (3)	分娩経過に伴う胎児の健康状態の診断と対処 ・胎児の診断 ・胎児の健康状態のアセスメント ・胎児附属物の診断 ・CTG モニターの判読	事前課題: 「図説 CTG テキスト」P2～10までを読み、理解してくる。(1時間) 事後課題は: 提示されたモニター所見を判読・診断を記載し、提出する。(1時間)
5	正常分娩の経過と助産診断 (4)	分娩経過に伴う産婦や家族の心理・社会的背景に関連する助産診断と援助についてプレゼン ・痛みや恐怖が分娩に与える影響 ・夫立ち会い分娩について ・産婦の健康生活	事前課題: 助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P34～44を読み、出された課題に対してプレゼンの準備 (2時間) 事後課題: なし
6	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (1)	事例を用いて助産過程の展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。 ・電話連絡時 ・分娩第1期	事前課題: 陣痛発来で入院時の判断について、電話での問診項目を調べてくる。(1時間) 事後課題: 本日用いた知識確認資料の完成 (1時間)
7	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (2)	事例を用いて助産過程の展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。 ・分娩第1期 (極期～分娩第2期まで)	事前課題: 助産過程の展開を行う (1時間) 事後課題: 本日用いた知識確認資料の完成 (1時間)
8	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (3)	事例を用いて助産過程の展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。 ・分娩準備及び分娩入室の診断	事前課題: 助産過程の展開を行う (1時間) 事後課題: 本日用いた知識確認資料の完成 (1時間)

		・児娩出までの診断	
	9	分娩期の事例を用いた助産過程の展開 (4)	事例を用いて助産過程の展開し、事例の助産診断に基づいた助産計画・ケア計画を立案する。 ・分娩第3期 ・分娩第4期
	10	助産診断の実践	各自与えられた事例の助産診断・助産計画を立案する
	11	助産診断の実践	助産診断・助産計画・援助の発表およびグループ討議を行う。この事例を用いて分娩介助試験を実施する。
	12	分娩経過の異常と助産診断	分娩の3要素の異常と診断
	13	分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症のアセスメントと支援	軟産道裂傷と弛緩出血、産科ショックの原因と対応
	14	ハイリスク・異常産婦のアセスメントと支援	身体的・心理的・社会的ハイリスク因子のアセスメントと診断、支援
	15	産科手術を受ける産婦のアセスメントと支援	帝王切開術を受ける産婦の術前術後のアセスメントと支援
			事前課題：助産過程の展開を行う (1時間) 事後課題：本日用いた知識確認資料の完成 (1時間)
			事前課題：なし 事後課題：助産診断・計画を立案 (1時間)
			事前課題：事例の助産診断を完成させる (1時間) 事後課題は、発表時の質疑やコメントを振り返り助産過程の修正・追加を行う (2時間)
			事前課題：助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P170～190 までを参考に課題を完成させる。(1時間) 事後課題：提示した課題の完成 (1時間)
			事前課題：助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P244～253 までを参考に課題レポートを完成させる。(1時間) 事後課題：提示した課題の完成 (1時間)
			事前課題：助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P192～209 まで目を通して (1時間) 事後課題：提示した課題の完成 (1時間)
			事前課題：助産診断技術学Ⅱ (医学書院) P212～243 までを参考に課題レポートを完成させる (1時間) 事後課題：提示した課題の完成 (1時間)
実務経験			
関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅲ, 助産診断技術学演習, 助産学実習, 助産管理論		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他
	2	図説 CTG テキスト	中井章人
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	産科診療ガイドライン—産科編 2017—	日本産婦人科学会
	2	母体急変時の初期対応第2版	日本母体救命システム普及協議会
	3	病気がみえる	井上裕美他
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	定期試験 50% 助産診断指標・助産過程の展開・助産診断と助産計画の発表 40% Moodle 上の各回のリフレクションの記入(本日の学び) 10%		
学生へのメッセージ	授業担当者は、助産師としての臨床経験と周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースである Advanced Life Support in Obstetrics (ALS0) プロバイダーコースの認証を受け、現在もアシスタントとしてコースへの参加をしている経験をもとに実例を取り上げながら分娩の現象をわかりやすく解説し、学生のアセスメント力を強化します。学生は講義時に提示された課題を通して知識の確認を行い、助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や要点をまとめておきましょう。助産過程		
担当者の研究室等	7号館3階 但馬 (研究室20)		
備考	講義時の資料や助産過程の展開資料は助産学実習で活用します。		

科目名	助産診断・技術学Ⅲ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	井田 歩美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3077a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 褥婦・新生児経過の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理を学習する。分娩想起や褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦の復古促進や母子の愛着形成促進のためのケアが実践できるよう学習する。そして、母子とその家族を包括したケアの展開をめざし、新しい役割や家族システムの変化への支援を行うための知識・技術の基礎を学習する。また、新生児は正常な適応過程が診断でき、状況に応じたケアを学習する。</p> <p>(目的) 産褥・新生児期の助産診断の特徴と、経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 産褥・新生児期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる 褥婦・新生児の助産診断に必要な身体・心理・社会的変化の特徴について理解できる 産褥・新生児期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる 助産診断に基づいて個別指導案を立案できる 			
授業方法と留意点	講義、およびレポート作成と発表・討論を行う。			
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格に関わる必修科目です。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	助産診断の特徴	産褥・新生児期における助産診断の特徴	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [2] (第5版)第11章 産褥期の助産診断を読んでくる。 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 (各1時間)
	2	産褥・新生児期の助産過程の展開	産褥・新生児期に必要な助産過程の展開の理論・内容・方法	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [2] (第5版) 第9章 産褥期の生理を読んでくる。 事後課題：助産過程の展開を開始する (各1時間)
	3	正常産褥期の助産診断	正常な産褥経過の身体的・心理的・社会的側面に関する助産診断について学ぶ方法：講義	事前課題：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ (p278～299)を一読してくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 (各1時間)
	4	正常新生児の助産診断	新生児の子宮外適応過程と、生後1か月までの生理的变化	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [3] (第5版) 第1章 新生児のケアを読んでくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 (各1時間)
	5	母乳栄養確立への助産診断と援助	産褥期の進行性変化の助産診断、および母乳育児を促進する援助	事前課題：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ (第15章ABC)を一読してくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 (各1時間)
	6	母子関係・家族形成過程と援助	母子関係形成・育児行動取得・家族形成	事前課題：産褥期の心理について参考書3(該当章：10,12-C・F)、教科書3(第2章)を一読してくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 (各1時間)
	7	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と援助	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と必要な援助として、NICU・GCUと母子関係形成への援助、およびディベロップメンタルケア	事前課題：助産診断・技術学Ⅱ [3] (第5版) 第2章 NICUとハイリスク新生児のケアを読んでくる 事後課題：講義内容と学習課題に関する学習ノートの作成 (各1時間)
	8	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開 (1)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・助産過程と個別指導内容の発表の準備を行う (2時間)
	9	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開 (2)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	課題 ・各自で産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・助産過程と個別指導内容の発表の準備を行う (2時間)
	10	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開 (3)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	事前・事後課題： 産褥・新生児期の助産課程を展開する個別指導内容の発表準備を行う (各1時間)
	11	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開 (4)	事例を用いて助産過程の展開を実施する。事例の助産診断に基づいた助産計画・個別保健指導内容を立案することにより、助産過程のプロセスについて理解を深める	事前・事後課題： 産褥・新生児期の助産課程を展開する個別指導内容の発表準備を行う (各1時間)
	12	発表とまとめ (1)	助産診断・助産計画・個別指導の発表	事後課題：発表時の質疑やコメントを振り返る

			よびグループ討議を行う	(1.5時間)																
	13	発表とまとめ(2)	助産診断・助産計画・個別指導の発表およびグループ討議を行う	事後課題：発表時の質疑やコメントを振り返る(1.5時間)																
	14	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ(1)	各自の課題のに基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題：助産過程で作成した資料を全て提出する(1.5時間)																
	15	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開まとめ(2)	各自の課題のに基づき、助産過程の修正・追加を行い完成する	課題：助産過程で作成した資料を全て提出する(1.5時間)																
実務経験																				
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習，小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ，周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期</td> <td>横尾 京子 編集</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座 3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学</td> <td>我部山 キヨ子 編集</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期</td> <td>我部山 キヨ子 編集</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期	横尾 京子 編集	医学書院	2	助産学講座 3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山 キヨ子 編集	医学書院	3	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山 キヨ子 編集	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期	横尾 京子 編集	医学書院																	
2	助産学講座 3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学	我部山 キヨ子 編集	医学書院																	
3	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山 キヨ子 編集	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新生児学入門 第4版</td> <td>仁志田博司著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>助産学講座 9 地域母子保健・国際看護学</td> <td>我部山 キヨ子／毛利 多恵子 編集</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>助産学講座 4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学</td> <td>我部山 キヨ子 編集</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新生児学入門 第4版	仁志田博司著	医学書院	2	助産学講座 9 地域母子保健・国際看護学	我部山 キヨ子／毛利 多恵子 編集	医学書院	3	助産学講座 4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学	我部山 キヨ子 編集	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新生児学入門 第4版	仁志田博司著	医学書院																	
2	助産学講座 9 地域母子保健・国際看護学	我部山 キヨ子／毛利 多恵子 編集	医学書院																	
3	助産学講座 4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学	我部山 キヨ子 編集	医学書院																	
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	定期試験 70% 助産過程の展開・発表・課題提出 20% 助産学習ノートの提出 10%																			
学生への メッセージ	助産学実習や助産師国家試験対策のための資料や自己学習ノートを作成し、要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は授業開始から自主的に開始してください授業担当の各教員は、総合病院で助産師として6～10年間勤務した経験から、助産診断、助産過程の展開に実践的な教育を行う。																			
担当者の 研究室等	井田歩美（研究室12）																			
備考	助産学習ノート、助産過程の展開、および保健指導内容は助産学実習で活用します																			

科目名	助産技術学演習 I	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	西頭 知子・井田 歩美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3078a0		

授業概要・目的	(概要) 助産診断・技術学の履修内容をもとに、助産ケアを提供するために必要な知識、技術、態度を演習を通して統合できる能力を養う。妊婦の健康診査、各期の健康教育、新生児の出生直後から新生児期の観察と必要なケア、褥婦への助産診断に基づくケア（乳房ケア、復古の促進）、家族を含む育児、退院後の生活（家庭訪問、1ヵ月健診等）への指導技術について学ぶ。 (目的) 周期期に必要な母児の診察と助産ケア、健康教育、指導技術を習得する。
到達目標	1) 妊婦健康診査および胎児の健康状態の診断に必要な技術を習得できる。 2) 妊娠期の健康教育の目的・目標を理解し、企画できる。 3) 新生児の出生直後の観察、呼吸確立への援助（環境調整含む）を習得する。 4) 新生児期の観察と必要なケアを習得する。 5) 褥婦への助産診断に基づく必要なケア（乳房ケア、復古の促進）を習得する。 6) 褥婦と家族を含む育児、退院後の生活（家庭訪問、1ヵ月健診等）への指導技術を習得する。
授業方法と留意点	演習を主に行う。妊婦、褥婦と新生児、家族への助産ケア、健康教育の企画や指導技術について学ぶ。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	妊婦の健康診査	妊婦の健康診査に必要な技術について学ぶ。	事前：「助産診断・技術学 I」教科書の本テーマに関連する部分(P174-187)、その他テーマに関する資料を熟読し、触診・計測・聴診の技術練習を行う(1時間)。 事後：授業内容の確認と技術練習(1時間)。
2	胎児発育・健康状態の診断	胎児発育・健康状態の診断に必要な技術について学ぶ。	事前：「助産診断・技術学 I」教科書の本テーマに関連する部分(P203-209, 346-366)、その他テーマに関する資料を熟読する。 分娩監視装置を用いた胎児心拍数モニタリングの技術練習を行う(1時間)。 事後：授業内容の確認と技術練習(1時間)。	
3	妊娠期の健康教育：個別指導(1)	妊娠期の個人を対象とした健康教育の展開について学ぶ。 (「助産診断・技術学 I」の事例を対象とした個別指導案を作成する)	事前：教科書の該当部分(P83-97, 100-111)を読む。 「助産診断・技術学 I」の事例を確認する(30分)。 事後：個別指導案を作成する(1時間)。	
4	妊娠期の健康教育：個別指導(2)	妊娠期の個人を対象とした健康教育の展開について学ぶ。 (指導案の発表と討議)	事前：個別指導案を完成し、提出する(1時間)。 事後：討議内容を受け指導案の見直し・修正を行い、最終提出する(1時間)。	
5	妊娠期の健康教育：集団指導(1)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 (集団指導のテーマ決定、企画書の作成、実施準備)	事前：教科書の該当部分(P60-80, 112-156, 158-184)、「助産診断・技術学 I」教科書(P210-288)および参考書の本テーマに関連する部分を読む(1時間)。 事後：グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(2時間)。	
6	妊娠期の健康教育：集団指導(2)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 (企画書の作成、実施準備)	事前・事後：グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(各1時間)。	
7	妊娠期の健康教育：集団指導(3)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 (企画書の作成、実施準備)	事前・事後：グループに分かれ、妊婦を対象とした集団指導のテーマを設定し企画書を作成、実施準備をする。(各1時間)。	
8	妊娠期の健康教育：集団指導(4)	妊娠期の集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価について学ぶ。 (集団指導の実施)	事前：各グループで集団指導の企画書を完成させ、提出する(1時間)。 事後：企画および実施の評価をまとめて提出する(1時間)。	
9	産褥期・新生児期のケア(1)	・褥婦の観察技術 ・褥婦の子宮復古、身体面の回復を促進するケア内容 ・沐浴指導への導入	事前課題：産後の経過について学習 事後課題：母親、家族対象の沐浴指導案に関する資料収集。 (各1時間)	
10	産褥期・新生児期のケア(2)	・出席直後の新生児の呼吸確立への援助 ・新生児のフィジカルアセスメント ・インファントウオーマー・保育器機能と使用 ・母子のアタッチメントの技術	事前課題：出生直後の新生児の経過について学習 事後課題：出生時における新生児の異常について再学習 (各1時間)	
11	産褥期・新生児期のケア(3)	・沐浴指導案の発表と討議、ロールプレイ	事前課題：新生児の沐浴指導案の作成 事後課題：新生児の沐浴指導案の修正と追記 (各1時間)	
12	産褥期・新生児期のケア(4)	褥婦の進行性変化を促進するケアの内容 ・母乳育児支援の指導案作成	事前課題：母乳育児支援案に関する資料収集 事後課題：母乳育児支援の指導案の作成準備 (各1時間)	
13	産褥期・新生児期のケア(5)	母乳育児支援の指導案発表と討議、ロールプレイ	事前課題：母乳育児支援の指導案作成 事後課題：母乳育児支援指導案の修正、追記等 (各1時間)	
14	産褥期・新生児期のケア(6)	育児、退院指導案(家庭訪問含む)の作	事前課題：育児、退院指導案(家庭訪問含む)の資	

			成	料収集 事後課題：育児、退院指導案（家庭訪問含む）の作成案の準備 （各1時間）
	15	産褥期・新生児期のケア（7）	育児、退院指導案（家庭訪問含む）の発表と討議、ロールプレイ	事前課題：育児、退院指導案（家庭訪問含む）の作成 事後課題：育児、退院指導案（家庭訪問含む）の修正と追記 （各1時間）
実務経験				
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習， 小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ， 周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学ⅡⅠ，助産診断・技術学Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座8 助産診断・技術学Ⅰ		医学書院
	2	UNICEF/WHO 赤ちゃんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10か条の実践」	BFHI 2009 翻訳編集委員会	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日の助産 改訂[第3版]	北川真理子、内山和美編集	南江堂
	2	最新産科学 異常編 改訂第22版	荒木勤	東京文光堂本郷
	3	ナーシンググラフィカ母性看護学③	荒木奈緒他	メディカ出版
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 50% 指定された課題の提出、発表等 50%			
学生への メッセージ	本科目は、助産師として臨床での実務経験を持つ教員が担当します。 助産学実習準備になる科目です。個人の自主的な学習およびグループワークによるチームワークやメンバーシップを発揮して主体的に課題に取り組んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 西頭（研究室14）			
備考	課題である各指導案は、助産学実習で一部活用します。			

科目名	助産技術学演習Ⅱ	科目名(英文)	Practice in Midwifery Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	但馬 まり子, 飯田 恵子, 泉川 孝子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3079a0		

授業概要・目的	(概要) 助産師としてケアを提供するために必要な知識、技術、態度について助産診断・技術学の履修内容をもとに、演習を通して統合できる能力を養う。 分娩介助技術、出生時の新生児処置技術演習を通して学ぶ。助産師の行う業務として分娩介助とともに保健指導は重要な内容である。受胎調節実地指導員の申請にも関わる家族計画指導の方法を演習を通して学ぶ (目的) 分娩介助技術及び家族計画指導技術について、助産の技法を学修する。
到達目標	1. 周産期の知識と助産診断をもとに対象者への援助を実施できる 2. 分娩介助技術を習得できる 3. 対象者へのケアの提供に対する責任と敬意をもった態度で援助ができる 4. 家族計画指導技術に必要な知識と技術を習得する。
授業方法と留意点	演習を主に行う。分娩介助に必要な技術演習と家族計画指導に必要な知識と技術を習得するための演習を行う。分娩介助技術は練習することで上達する。授業時間内での練習には限りがあるため、自主的練習を促す。授業内での技術演習は一人一人の到達度を確認しながら行う。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験、受胎調節実地指導員の申請科目および助産学実習に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	家族計画指導案作成(1)	家族計画指導における基礎知識 各種受胎調節法について 家族計画指導案作成の留意点	事前課題：受胎調節法について事前学習 参考書「基礎助産学 [3] 母子の健康科学」の第7章家族計画の章を参考にする。(1時間) 事後課題：指導案の作成(2時間)
2	家族計画指導案作成(2)	・指導案の作成	事前課題：指導案の作成(2時間) 事後課題：指導案発表の準備(1時間)
3	家族計画指導案作成(3)	指導案の発表と討議	事前課題：指導案発表の準備(1時間) 事後課題：指導案発表後の評価(1時間)
4	分娩介助技術演習(1)	・分娩介助の意義と原理 ・分娩体位と介助法	事前課題：講義までに分娩経過のビデオ視聴とテキストP92～107まで目を通す。(1時間) 事後課題：課題レポートを出す(1時間)
5	分娩介助技術演習(2)	・分娩介助手順と根拠	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す(1時間) 事後課題：課題レポートを出す(1時間)
6	分娩介助技術演習(3)	分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成方法デモンストレーション	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す(1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する(1時間)
7	分娩介助技術演習(4)	分娩介助時の物品の準備と清潔野の作成方法の実践	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す(1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する(1時間)
8	分娩介助技術演習(5)	デモンストレーション ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰保護の手技 ・児娩出までの介助方法 前在肩甲・後在肩甲娩出法 軀幹娩出法 ・臍帯切断の方法 ・胎盤の娩出法	事前課題：事前課題レポートを完成させる(1時間) 事後課題：なし
9	分娩介助技術演習(6)	実践 ・人工破膜の実施判断と方法 ・会陰保護の手技 ・児娩出までの介助方法 前在肩甲・後在肩甲娩出法 軀幹娩出法 ・臍帯切断の方法 ・胎盤の娩出法	事前課題：なし 事後課題：本で行った技術を練習する(1時間)
10	分娩介助技術演習(7)	その他の技術 臍帯巻絡の解除法 会陰切開時の対処法 出生直後の児のケアの実践 胎盤計測	事前課題：事前課題レポートを完成させる(1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する(1時間)
11	分娩介助技術演習(8)	一連の分娩介助技術のデモンストレーション	事前課題：介助手順の資料に事前に目を通す(1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する(1時間)
12	分娩介助技術演習(9)	一連の流れの助産技術の実践	事前課題：なし 事後課題：本で行った技術を練習する(2時間)
13	異常分娩時の対処(1)	以下の項目に必要な知識 ・肩甲難産時の体位と介助 ・児心音低下時の対応 ・吸引分娩時の介助	事前課題：資料の課題を完成させる(1時間) 事後課題：本で行った技術を練習する(1時間)

	14	異常分娩時の対処（2）	肩甲難産時の実践 児心音低下時の実践 吸引分娩時の準備の実践	事前課題：資料の課題を完成させる（1時間） 事後課題：本で行った技術を練習する（1時間）	
	15	異常分娩時の対処（3）	異常出血時の対処 シナリオを用いてシミュレーションと 討議	事前課題：シナリオを読み、事前に課題を仕上げてくる。（1時間） 事後課題：トレーニング後の評価（1時間）	
実務経験					
関連科目	母性看護学概論，母性看護学援助論Ⅰ，母性看護学援助論Ⅱ，母性看護学実習， 小児看護学概論，小児看護学援助論Ⅰ，小児看護学援助論Ⅱ，地域看護学，家族看護学，精神看護学援助論Ⅰ， 周産期医学，助産学概論，助産診断・技術学Ⅰ，助産診断・技術学Ⅱ，助産診断・技術学Ⅲ				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期		我部山キヨ子 他	医学書院
	2	助産学講座3 基礎助産学〔3〕 母子の健康科学〔第5版〕		我部山キヨ子 他	医学書院
	3	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ		我部山キヨ子 他	医学書院
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	今日の助産 改訂第3版		北川真理子・内山和美 編集	南江堂
	2	マタニティサイクルの実践保健指導		鈴木由美	丸善ブラネット
	3				
授業形態					
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	定期試験 30% (定期試験で6割に達しない場合、再試験となります) 保健指導案・保健指導 10% 分娩介助技術試験 60% (評価表を用いて採点します)				
学生への メッセージ	授業担当者は臨床経験と周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースである Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO) プロバイダーコースの認証を受け、現在もアシスタントとしてコースへの参加をしている経験を活かし、学生がわかりやすいように、習得しやすいように技術を実践し、一人一人の技術習得状況を確認しながら関わります。保健指導技術や分娩介助技術は助産学実習の実施項目です。指導案の作成は講義時間以外の時間も活用し自主的、積極的に学習してください。				
担当者の 研究室等	7号館3階 但馬（研究室20）				
備考	分娩介助技術，および保健指導案は助産学実習で活用します。				

科目名	助産管理論	科目名 (英文)	Midwifery Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川 孝子・井田 歩美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3080a0		

授業概要・目的	助産管理の概要及び運用に必要な基本概念(法的根拠やその内容、管理の原則)を理解し、管理者が果たす役割、助産における危機管理について学ぶ。また周産期管理システム(母体搬送システム、新生児搬送等)を理解する。
到達目標	助産管理の概要を理解し、助産における危機管理について理解する。 また、助産業務の行われる場の管理、業務の管理に必要な基礎的知識、さらに、産科医療の特徴と医療事故防止について理解を深める。
授業方法と留意点	実際の事例を通して、産科医療の特徴を学び、助産の場面での管理の在り方を考えていきます。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関連する必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	助産管理の基本概念とプロセスについて	マネジメントの定義とマネジメントサイクル、管理理論について学ぶ。	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる(第1章A) 事後学習: 講義内容を整理する(前後、各1時間)
2	助産管理の概念	助産師の業務範囲、助産管理の特性と組織化について学ぶ。	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる(第1章B) 事後学習: 講義内容を整理する(前後、各1時間)
3	関係法規と助産師の義務・責任について(助産と医療経済含む)	医療保障制度と助産業務について、助産業務の診療報酬を学ぶ。 講師: 助産院院長	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる(第1章C, 第2章A) 事後学習: 講義内容を整理する(前後、各1時間)
4	関係法規と助産師の義務・責任について	助産業務に関する法律について学ぶ。 助産業務ガイドラインについて理解する。	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる(第2章B) 事後学習: 講義内容を整理する(前後、各1時間)
5	周産期の管理システムとリスクマネジメント	周産期管理システム(NICU)、周産期搬送システム、オープンシステム、周産期の医療事故とリスクマネジメントについて学ぶ。	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる(第3章AB) 事後学習: 講義内容を整理する(前後、各1時間)
6	周産期の医療事故とリスクマネジメントー1	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク *講師: アドバンス助産師と協同	事前学習: 実習中の事例や課題事例について想起する(第3章AB、配布資料) 事後学習: 討議内容を整理する(前後、各1時間)
7	周産期の医療事故とリスクマネジメントー2	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメントについて事例を用いてグループワーク *講師: アドバンス助産師と協同	事前学習: 実習中の事例や課題事例について想起する(配布資料) 事後学習: 討議内容を整理する(前後、各1時間)
8	助産所における助産業務管理	助産所の管理・運営について 講師: 助産院院長	事前学習: テキストの該当部分を読んでくる(第5章ABCD) 事後学習: 講義内容を整理する(前後、各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、助産学概論、周産期医学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学演習、助産学実習、統合実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座10 助産管理	我部山キヨ子 他	医学書院
2	助産業務ガイドライン	日本助産師会	日本助産師会	
3	母子保健の主なる統計 令和元年度	公益財団法人母子衛生研究会編集	公益財団法人母子衛生研究会	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	wr0kopw
Moodle コース名および登録キー	助産管理論 jyosan
連絡手段	チーム内のチャットとメール等
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	試験 : 70%、グループワーク・課題発表 : 30%
学生への メッセージ	周産期の母子や家族に対して、産婦の主体性を担保しつつ、助産師業務ガイドラインの理解を深め、遵守しつつ安全な助産ケアや管理の在り方について考えていきましょう。授業担当の各教員は、総合病院で助産師として7年間勤務、その後、非常勤で夜間当直勤務をした経験から、助産学、助産過程の展開に実践的な教育を行う。木村先生は、開業助産師の経験から助産管理の実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	泉川 (研究室 15)、井田歩美 (研究室 12)、木村泰恵 (学外講師 : 木村助産院)
備考	

科目名	英語IV	科目名 (英文)	English IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN3304c1		

授業概要・目的	本授業では、医療、看護、科学に関する英文学術論文を読解できる能力を養う。また、より多くの情報を得るために、インターネット等を用いた学術論文の収集方法を学習し、学術論文の要点を把握する能力を修得することを目的とする。さらに、医療現場等で必要とされる実用的な英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。
到達目標	1) 医療、看護、科学等に関する英語の代表的な用語を列挙し、その内容を説明できる。 2) 医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 3) 医療、看護、科学等に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。 4) インターネット等を用いて学術論文の読解に必要な情報を収集できる。 5) 医療、看護、科学等に関する英文学術論文を読解し、その内容を説明できる。
授業方法と留意点	医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読解します。また、英文学術論文を読み、その内容に関する説明資料の作成・発表を行います。辞書を必ず持参して下さい。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(1)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
2	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(2)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
3	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(3)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
4	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(4)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
5	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(5)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
6	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(6)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
7	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(7)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
8	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(8)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
9	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(9)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
10	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(10)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
11	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(11)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。	
12	英文の学術論文の読み方(1)	学術論文の読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。	

				Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	13	英文の学術論文の読み方 (2)	学術論文のデータの読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	14	英文の学術論文の要約作成	学術論文の要約を作成する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
	15	英文の学術論文の内容発表 と全体のまとめ	学術論文の内容を発表する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。 Moodle を用いたミニッツペーパーで復習する。
実務経験				
関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「プリント」を講義で配付します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	耳から学ぶ楽しいナース英語	野口ジュディー，川越栄子，仁平雅子	講談社
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020 年度英語Ⅳ Land			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	学術論文の発表に用いるプレゼン資料 (20%)、各授業中の発表と学術論文発表 (20%) および定期試験 (60%) で総合的に評価します。なお、出席、受講態度不良の者については20点を限度に減点することがあります。			
学生への メッセージ	本講義は、アドバンス型の英語の講義です。英語の論文を毎週読んでもらいますので、講義外での、予習・準備が相当必要になります。意欲的態度で臨み、積極的に授業に参加し、発表して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館5階 生化学研究室 (薬学部)			
備考	事前学習：次回の授業範囲の単語、慣用語句等に関する学習および要約作成・発表に必要な情報調査等 (1時間×15回) 事後学習：授業で用いた英語文章の単語等の復習 (0.5時間×15回)			

科目名	医療英会話	科目名 (英文)	Medical English Conversation
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悠介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	NEN3305c1		

授業概要・目的	政治、経済、文化等、国家や地域を超えてグローバル化した現代社会において、健康への影響も国境を越えて広がっており、看護職の役割も今後ますます拡大していく。このような現状を踏まえ、個人の健康問題を取り巻くグローバルな視点を養い、国際的に活動するための知識とコミュニケーション力を培う。
到達目標	The aim of this course is to develop the vocabulary, language, and skills that students will need when working in a medical environment. These include talking about the body, describing signs of illness, and conveying instructions to patients and colleague
授業方法と留意点	The emphasis will be on pair and group work activities, enabling students plenty of opportunities to speak in class. Lessons will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	The hospital team.	Nursing in the UK, an admission, a job interview.	Preview next week's lesson.
	2	In and around the hospital.	Directions, the porter's office, on the ward.	Preview next week's lesson.
	3	Hospital admissions.	A patient record, bad handwriting, admitting a patient.	Preview next week's lesson.
	4	Accidents and emergencies.	Shock, instructions, emergency helpline.	Preview next week's lesson.
	5	Pain.	Areas of referred pain, questions to assess pain, pain chart, pain relief.	Preview next week's lesson.
	6	Symptoms.	Night coughing, researching symptoms, a helpline call, mystery syndromes.	Preview next week's lesson.
	7	Caring for the elderly.	The effects of ageing, a care home, assessing a patient.	Preview next week's lesson.
	8	Nutrition and obesity.	Nutrition, vitamins and minerals, food intake, eating disorders.	Preview next week's lesson.
	9	Blood.	The heart, forensic analysis, blood types, blood tests, blood pattern analysis.	Preview next week's lesson.
	10	Death and dying.	The body after death, breaking bad news, report of a death.	Preview next week's lesson.
	11	Hygiene.	MRSA, a hygiene report, test results, a hygiene inspection.	Preview next week's lesson.
	12	Mental health nursing.	Tourette syndrome, famous people suffering from mental illness, a case conference, schizophrenia	Preview next week's lesson.
	13	Monitoring the patient.	Taking readings, hypothermia, a coma patient, a scan.	Preview next week's lesson.
	14	Medication.	Dosages, drugs which have changed history, patient medication.	Preview next week's lesson.
	15	Alternative treatments.	Medicinal plants, wild treatments, healers	End of course.

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Oxford English for Careers: Nursing 1 Student's Book	Tony Grice	OUP
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes (50%), homework assignments (50%).
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	情報リテラシー	科目名 (英文)	Information Literacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NIL1311a1		

授業概要・目的	大学生で要求される情報リテラシー能力(文書作成、表計算、プレゼンテーション)の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。また、「情報のモラルとセキュリティ」についてテキストを用いた学習と確認テストにより知識を獲得する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果(資格)	MOS(Microsoft Office Specialist)資格(民間資格)の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
3	【Word】 文書の作成と管理 文字、段落、セクションの書式設定	デジタル時代の著作権(1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
4	【Word】 表やリストの作成	デジタル時代の著作権(2) 表の作成と修正・装飾 リストを作成・変更する 表内でのタブ設定	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
5	【Word】 グラフィック要素の挿入と書式設定 ドロー描画	ネット社会に潜む危険と対策(1) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する SmartArt の挿入・書式設定 ドローツールによる描画	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
6	【Word】 文書作成の振り返り	文書作成テスト演習	事前: 文書作成機能の復習(1時間) 事後: 今までの機能のまとめ(1時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	ネット社会に潜む危険と対策(2) スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前: 発表練習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
9	【Excel】 ワークシートやブックの作成の管理	メールによるコミュニケーション ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
10	【Excel】 セルやセル範囲のデータ管理	Web によるコミュニケーション(1) セルの参照方式 セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
11	【Excel】 見せる表の作成	Web によるコミュニケーション(2) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
12	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	Web によるコミュニケーション(3) グラフを作成する グラフのパーツ グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)
13	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	モバイル機器の活用と管理 関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列	事前: 授業テーマの予習(1時間) 事後: 事後課題の完成・提出(30分)

			を変更する	
	14	【Word & Excel】 連携課題演習	情報モラルとセキュリティの振り返り 表やグラフなどのオブジェクトを取り 込んだ文書作成	事前：授業テーマの予習(1時間) 事後：事後課題の完成・提出(30分)
	15	【Word & Excel】 まとめと振り返り	情報モラルとセキュリティのまとめ 総合テスト演習	事前：今までの諸機能の復習(2時間)
実務経験				
関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	〈改訂3版〉情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	演習課題(80%)、テスト課題(20%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等				
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの「Q and A」チャンネルで質問してください。			

科目名	臨床医療実践演習	科目名 (英文)	Clinical Medical Practice
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	山本 十三代, 田中 真佐恵, 安田 香
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA3507a3		

授業概要・目的	チーム医療を推進するために必要とされる基本的な知識を獲得する。本科目では、看護師および薬剤師との連携、役割と機能への理解を深めるため、チーム医療の行われる実践の場での活動例や体験などを基に、実践的に修得する。
到達目標	ここでは、さまざまな年齢層や生活の背景をもった人が集まるコミュニティ活動に場を広げ、健康づくりにおける支援策を検討する。また、コミュニケーション合意形成のプロセス等、協働しチーム医療活動することについて、より発展的な学習を目指す。 1. 地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 ①モデル地区が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康に関する課題に対し介入方法を考案する。 ②地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解する。 ③地域社会を健康の視点から捉える方法を理解する。 ④地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムを理解する。 ⑤ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を理解する。 2. パートナリシップを形成する基本的態度を獲得する。
授業方法と留意点	事前・事後学習をもとにグループ内でのディスカッションを経て提言をまとめていく。6年前から関わりのある松塚地区をモデル地区として、保健医療福祉について考える。学生主体の能動的学習が主な授業方法となる。
科目学習の効果 (資格)	地域の活性化、地域医療、健康寿命の延伸に関わる活動に参加することは、看護職者の役割の広がりや体感することとなり、看護の機能・役割を再認識することに寄与する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	科目オリエンテーションと概要説明 アクティブエイジングとヘルスプロモーション、健康学習の理論と方法	講義形式 左記の概念についてレディネスを想起する	事前:左記の概念についてまとめる(1時間) 事後:講義の内容を理解し、事前学習のものに追加する(1時間)
2	松塚地区の地域医療とチーム医療の取り組み(公助、共助(互助)、自助) 地域診断について	演習形式 統計資料を基に、松塚地区の健康概況を学ぶ 地域診断の重要性、地域診断を行うための地区踏査の方法について学ぶ	事前:松塚地区の人口動態、衛生統計資料を収集する(2時間) 事後:地域診断方法について復習し、地区踏査の視点をまとめておく(1時間)
3	地区踏査の実施	実践 松塚地区の地区踏査を行う 交野市社会福祉協議会、松塚地区地区長、松の実カフェ運営者といった方々とディスカッションを行う。	事後:地区踏査の視点に沿って、まとめる。写真、資料などの選択をする
4	地区踏査の実施	同上	同上
5	地区踏査の整理	演習形式 地区踏査の内容をマップにする。既存資料やインタビューで得た内容を合体し松塚地区の地域診断を明らかにする	事後:時間内にマップ作りができなかった場合は、グループで作成する(2時間)
6	地区踏査の発表	実践 地域診断の結果について、松塚地区の方々にプレゼンテーションを行う	事前:発表の資料、役割を決めプレゼンできるようにしておく(1時間)
7	地域住民への健康情報提示-健康だよりの企画・作成-	演習形式 健康教育・学習において効果的な媒体の学習を行う 松塚地区の地域診断を基に、また、現在の健康トピックスを検討しテーマを決め、健康だよりの1ページ分を企画・作成する既存の媒体の検討	事前:①健康教育・学習の効果的な媒体作成について学習しておく(1時間) ②既存の健康だよりの資料を集めておく(1時間) ?健康に関するトピックスについて案をもちよる(1時間) 事後:グループ課題を自己で行う(1時間)
8	地域イベント(子どもの学習支援)の企画	演習形式 P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事前:①昨年の状況について情報を収集しておく(1時間) ②企画案に必要な項目を学習する(2時間) 事後:グループ課題を行う(1時間)
9	地域イベント(子どもの学習支援)の実践	実演 関係者と協力をして、夏季休暇中の子どもの学習支援を行う	事後:対象者の様子から、企画・実演の評価を行う(2時間)
10	地域イベント(松塚区民祭り)への参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(1)	演習形式 松塚区民祭りでのアクティブエイジング健康チェックの企画を立案する P.Pモデルを用いてニーズを分析し、企画書、指導案を作成していく	事前:①昨年の状況について情報を収集しておく(1時間) ②企画案に必要な項目を学習する(2時間) 事後:グループ課題を行う(1時間)
11	地域イベント(松塚区民祭り)への参加 -アクティブエイジング健康チェック- 企画(2)	同上 関係機関、関係者、ボランティア学生との打ち合わせに参加する アンケートの作成	事後:企画書、スケジュール、役割、アンケートを指定期日までに作成する(2時間)
12	アクティブエイジング健康チェックの実践	実演 関係者、ボランティア学生との当日の打ち合わせに参加 役割を遂行する	事後:①自己で健康チェックの評価を行う(2時間) ②グループでアンケートの入力を行い図表にしておく(3時間)
13	アクティブエイジング健康チェックの実践	同上	同上
14	アクティブエイジング健康	同上	同上

		チェックの実践																		
	15	アクティブエイジング健康チェックの評価	演習形式 当日の全体の状況、アンケート集計結果から健康チェックの評価を行う アンケートについては、事前に入力し図表に表しておく 健康認識、健康状況、昨年からの改善などから健康チェックの意義・改善点について提言する	事後: レポートを期日までに作成し提出する(2時間)																
実務経験																				
関連科目	各領域別看護学、地域看護学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Karen Glanz 編 曾根智史訳</td> <td>健康行動と健康教育-理論、研究、実践-</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著</td> <td>健康教育論</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>厚生統計協会(最新号)</td> <td>国民衛生の動向</td> <td>厚生統計協会</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Karen Glanz 編 曾根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	医学書院	2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社	3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Karen Glanz 編 曾根智史訳	健康行動と健康教育-理論、研究、実践-	医学書院																	
2	宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨編著	健康教育論	メヂカルフレンド社																	
3	厚生統計協会(最新号)	国民衛生の動向	厚生統計協会																	
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー	臨床医療実践演習																			
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																			
評価方法 (基準)	企画書、指導案、作品、実践レポートなどの成果物を総合して評価を行う。																			
学生への メッセージ	この科目は、学生の能動的学習が中心です。松塚地区の概況やそこに暮らす人々の健康・生活・思考に興味関心を抱き、健康増進へ向けての課題を多職種や住民の方々と検討していきたいと考えています。領域別実習で身につけてきた知識・技術・態度を十分に発揮して、チーム医療の本来の在り方や地域包括ケアの在り方について実践を踏まえて考えていきましょう。この科目の主担当である山本十三代は、医療機関で保健師として継続看護や訪問看護を行ってきました。また、保健師養成専門学校では、健康教育、地区組織活動、地区活動といった講義・演習・実																			
担当者の 研究室等	山本十三代 研究室 5 田中眞佐恵 共同研究室 2 安田香 共同研究室 1																			
備考																				

科目名	人体の構造と機能IV	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1004a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「神経系器官・感覚器系器官」の構造と機能、「生体防御機構」を学習して生体情報の伝達・受容と調節や生体防御反応について理解する。また、「生殖系器官」の構造と機能を学習して生殖・発生・老化のしくみを理解する。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、人体臓器模型や問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	神経系の構造と機能	神経細胞と支持細胞、神経細胞の興奮と伝播、シナプス伝達について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
2	脊髄と脳	脊髄の構造と機能、脳の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
3	脊髄神経と脳神経	脊髄神経の構造と機能、脳神経の構造と機能、運動性上行路、感覚性下行路について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
4	脳の高次機能	脳波と睡眠、記憶、本能と情動行動、内臓調節機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
5	眼の構造と機能	眼球の構造、眼球付属器、視覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
6	耳の構造と機能	耳の構造、聴覚、平衡感覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
7	味覚、嗅覚、疼痛	味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚、痛みの分類、疼痛発生機序について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
8	皮膚の構造と機能	皮膚の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
9	生体防御	皮膚・粘膜における防御、食食作用・細胞傷害物質による防御、免疫による防御について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
10	体温	熱の出納、体温の分布と測定、体温調節について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
11	男性生殖器	男性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
12	女性生殖器	女性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
13	受精と胎児発生	生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
14	成長と老化	小児期の成長、老化について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。
15	体表から見た人体の構造	体表から触知できる骨格部分・骨格筋・血管を各自が確認して部位の名称を確認する。	授業のまとめノートを作成すること。予習 (30分) 復習 (1時間) を目安に学習してください。

実務経験	
関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、薬理学総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	ijdzm00

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Teams、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験(80%)および、小テストおよび課題(20%)で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。
学生への メッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。
担当者の 研究室等	1号館6階 薬理学研究室
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。

科目名	薬物治療学	科目名 (英文)	Pharmacotherapeutics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 雅幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1009a0		

授業概要・目的	薬理学総論で修得した薬物の作用機序をもとに、さらに幅を広げ、全身の各種疾患に対して科学的根拠に基づいた薬物治療を行うための実践的な医薬品の使用方法を学ぶ。教員の大学院薬学部における実務経験を基に、医療チームの一員として患者の治療に貢献できる看護師となるべく、医薬品を投与した際の患者の管理や観察に必要な知識・技能・態度を身につけることを目的に講義を行う。
到達目標	(1) 中枢神経に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (2) 免疫系、アレルギー疾患、炎症性疾患に用いる薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (3) 消化器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (4) 抗がん薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (5) 生殖器系・物質代謝に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (6) 抗感染症薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (7) 救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行います。講義は、遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて実施します。また、臨床的観点からの薬物治療や新薬の話題を合わせて提供します。事前事後学修の確認テストを毎回の授業で実施する予定です。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	中枢神経系に作用する薬物(2)	気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
3	中枢神経系に作用する薬物(3)	抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
4	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬(1)	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬(2)	ステロイド、関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症、片頭痛治療薬について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
7	消化器系に作用する薬物(1)	消化性潰瘍治療薬、健胃・消化薬と消化管運動促進薬、制吐薬、下剤と止痢薬について学修する。	前回講義の教科書・プリントの復習(10分) 該当範囲の教科書・プリントの予習(20分)
8	消化器系に作用する薬物(2) 抗がん薬(1)	潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬、駆虫薬について学修する。がん治療に関する基礎事項について、学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
9	抗がん薬(2)	抗がん薬各論について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
10	生殖器系・物質代謝に作用する薬物	生殖器に作用する薬物、甲状腺疾患治療薬、視床下部・下垂体ホルモン、骨粗鬆症の治療薬、治療薬としてのビタミンについて学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
11	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
12	抗感染症薬(1)	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
13	抗感染症薬(2)	抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
14	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、漢方医学の基礎知識、消毒薬について学修する。	指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(30分)
15	総合演習	第1~14回の学修内容を振り返る。	前回までに行った確認テストを復習しておくこと(30分)

実務経験	
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ~Ⅳ、疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ、薬理学総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、確認テスト(30%)、100点満点の60点以上で合格とする。
学生への メッセージ	私達が日常生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で医師・薬剤師と意見交換が出来るよう、薬物に関する基礎的な知識を身につけましょう。
担当者の 研究室等	1号館 田中
備考	授業内で行った確認テストは採点の上、次回授業内で返却し、解説をします。

科目名	病院薬学演習	科目名 (英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真穂・角谷 秀樹・久家 貴寿・小西 元美・小西 麗子・小森 浩二・竹内 健治・三田村 しのぶ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5○, DP7○		
科目ナンバリング	NDN1010a0		

授業概要・目的	薬に強い看護師になるために、(模擬)処方せんを用いた注射剤等の医薬品調整や(模擬)患者に対する薬の説明を実践する中で、そのために必要な医薬品や衛生管理の専門知識を理解・修得することを目指す。
到達目標	医師や薬剤師を含むチーム医療を担える看護師になるために、薬剤に関わる基本的な実務(技能)を体験し、その技能の根拠となる薬の基本的な専門知識(「薬が効くとはどういうことか」など)を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義(7号館にて実施)と演習(6号館にて実施)を行うので実施場所や準備に留意すること。 講義は遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて実施する。
科目学習の効果(資格)	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・処方せんの読み方を理解する	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (講義:小森)	講義(授業)内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。 講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
2	生化学的知見から見た薬その1(糖・脂質代謝と関連する検査や治療薬)	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (演習:竹内)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
3	エネルギー代謝について(栄養素を含む医薬品)	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (演習:角谷)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
4	医療廃棄物の種類とその処理方法について	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (演習:角谷)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
5	注射剤調剤(混注)の基本を理解する	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (演習:菊田)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
6	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/医薬品調製の実践(消毒薬・軟膏) 前半	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
7	調剤の基本を実践する 注射剤混合調製/医薬品調製の実践(消毒薬・軟膏) 後半	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
8	生化学的知見から見た薬その2(核酸代謝と関連する検査や抗がん剤)	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (演習:竹内)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
9	処方解析(その1)と医薬品管理	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (演習:小森)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
10	処方解析(その2)	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (演習:小森)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
11	医薬品情報の有用性(フォーミュラリーについて)	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (演習:久家)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
12	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/調剤薬監査の実践 前半	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (課題)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
13	調剤の基本を実践する 抗がん剤調製/調剤薬監査の実践 後半	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
14	医薬品の規格や免疫学的検査(インフルエンザ検査や妊娠検査など)	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。 (演習:小西元美)	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度
15	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する(発表会)	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。	講義前の予習(教科書を読む):1時間程度 復習および課題に関連する情報の収集:1時間程度

実務経験				
関連科目	薬理学総論、薬物治療学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ④ 疾病の成り立ち-臨床薬理学	古川裕之、赤瀬智子、林正健二	メディカ出版
	2	ナーシンググラフィカ② 臨床生化学	宮澤恵二	メディカ出版
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	受講態度 70% (発表内容を含む) および成果物 30%で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中 60点以上で合格。			
学生への メッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称をはじめとする多くの専門知識を学ぶことになると思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。 授業担当者は臨床経験を有した教員 4 名に加え、生化学や衛生、分析化学などの専門領域から医薬品を教育できる教員 4 名の計 8 名が指導します。			
担当者の 研究室等	1 号館 2 階 薬学教育センター 統合薬学分野 (小西元美) 1 号館 4 階 実践薬学分野 (小森浩二・小西麗子)、生体分子分析学研究室 (久家貴寿)、 1 号館 5 階 生物系薬学分野 (竹内健治)、疾病予防学研究室 (角谷秀樹) 6 号館 3 階 医療薬学研究室 (菊田真穂・三田村しのぶ)			
備考	講義前の予習 (教科書を読む) : 1 時間×15 回 復習および課題に関連する情報の収集 : 1 時間×15 回			

科目名	カウンセリング論	科目名 (英文)	Counseling
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	吉田 幸平
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2011a0		

授業概要・目的	対人援助職が臨床現場で求められる能力は多岐にわたるが、その中に「コミュニケーションの技術」が含まれる。臨床現場で生じるコミュニケーションは日常で用いられるコミュニケーションとは異なるものであり、専門的な知識と訓練及び経験を要する。カウンセリング論では、臨床心理学の理論を学習し、ロールプレイングで実践することでコミュニケーションの技術を獲得することを目標とする。担当講師は、医療現場（主として緩和ケア領域）で活動している現役の臨床心理士・公認心理師である。講師の実際のケースを紹介することで治療的コミュニケーションを学ぶ機会を提供する。
到達目標	本授業を通して、受容・共感といった対人援助職に必要な職業的姿勢に加え、臨床場面におけるコミュニケーションの技術を学ぶことができる。
授業方法と留意点	本授業は集中講義の形式を採り、講義に加え、グループワークなどの演習を中心に授業を進める。その性質上、遅刻や欠席はグループワークの進行を困難にするため、やむを得ない場合を除き原則として遅刻・欠席は認めない。 授業日の最後の時間に、毎回レポートを課す。本授業はレポート及びグループワークへの積極的参加を評価対象とするため、必ず提出を求める。もし提出が困難な場合は、速やかに講師に相談すること。 授業日の最初の講義で質疑応答の時間を作る。学生は前回の講義やグループワークで疑問に感じたことなどをレポートに記載し、

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	カウンセリング総論②	コミュニケーションとは 治療場面における信頼関係の意義 信頼関係の構築のプロセス	講義内容の理解を深めましょう。
3	カウンセリングの技法①	質問の性質と効用 信頼関係構築の技法	講義内容の理解を深めましょう。
4	カウンセリングの技法②	ロールプレイ②	積極的にグループワークに参加しましょう。
5	症例提示①	講師によるカウンセリングの症例発表① レポート①	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。
6	振り返り	質疑応答 ロールプレイ③ (復習)	積極的にグループワークに参加しましょう。予習として、前回の講義資料を再読しておきましょう (1時間)。
7	カウンセリングにおけるアセスメント	アセスメントの重要性 治療方針としてのアセスメント	講義内容の理解を深めましょう。
8	カウンセリングの技法③	“問題志向”と“解決志向” 患者のリソースを探る質問法	講義内容の理解を深めましょう。
9	カウンセリングの技法④	ロールプレイ④	積極的にグループワークに参加しましょう。
10	症例提示②	講師によるカウンセリングの症例発表② レポート②	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。
11	振り返り	質疑応答 ロールプレイ⑤	積極的にグループワークに参加しましょう。予習として、前回の講義資料を再読しておきましょう (1時間)。
12	カウンセリングにおける治療者の留意点	転移と逆転移、治療者の“枠組み” 「巻き込まれ」と「燃え尽き」	講義内容の理解を深めましょう。
13	カウンセリングの技法⑤	能動的介入技法 変化を促す介入	講義内容の理解を深めましょう。
14	カウンセリングの技法⑥	ロールプレイ⑥	積極的にグループワークに参加しましょう。
15	症例提示③	講義内容の総括 レポート③	講義内容や演習内容を整理し理解を深めましょう。

実務経験	
------	--

関連科目	臨床心理学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	レポート70%、授業への積極的な関与30% ※集中講義形式のため、3日とも当日レポートを課します。
-----------	--

	※グループワークを重視するため、積極性も評価の対象とします。
学生へのメッセージ	この授業では、講義はもちろんのこと、ロールプレイなどの実践形式の演習を中心に進めています。それは、実際に臨床場面に出て、その場で患者さんに接する際に役立つコミュニケーション能力を学習してもらうことが重要と考えているためです。楽しみながら、実際のカウンセリングの内容を学習していきましょう。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	授業時間外の質問に対しては、授業当日に連絡先を提示します。

科目名	疾病・治療論Ⅲ	科目名(英文)	Clinical Medicine III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	柳本 広二
ディプロマポリシー(DP)	DP2⑥, DP7Δ		
科目ナンバリング	NDN1014a0		

授業概要・目的	看護の場において、身体の構造と機能のみならず、病気が発現する原因と機構(病態)を理解することは重要です。本科目では、各種疾病の、原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等「病気の診かたと対処の仕方」について学びます。将来の「共に働く職場チーム」に、的確に、患者さんの病状と時々の経過と、今注意すべき点を説明するための基礎力、建物で言えば、末永く支える土台を作ります。
到達目標	本科目では、主に脳神経および糖尿病を含む代謝・内分泌に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学的診断と対処法、治療法を学び、将来の的確で質の高い看護の実践に役立ちます。
授業方法と留意点	この科目は、Moodle を用いた遠隔授業で行います。授業ファイル視聴後には、原則数日以内に感想または質問を投稿してください。ただし、質問にはお答えできない場合があります。下の欄にある授業計画に沿って授業を進めますが、授業内容の短縮、延長・拡大、または、省略が生じます。各回の授業で提示する「指定構文」を、その中にある答え(赤文字など)と共に、各自のノートに書き写し、その後は、それを用いた(透明フィルムで隠した)反復・自主トレーニングを行ってください。
科目学習の効果(資格)	医学領域の理解の大切さと、それらに関する知識が増えることの楽しさを学ぶことで、常に成長し続けるプロフェッショナルへの道を支援します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			・教科書とは、日本地図のようなもの。全体に目を通し、自分にとって興味ある、または、面白そうなところを見て読んで、そして見たままを一つの風景としても感じてみます(1時間)。 ・最初の講義で触れる脳神経の構造と機能のところに少し目を通します。 ・授業で理解できた所を含めて全体を復習し、イメージ(文字と図や写真という風景)も含め、記憶に定着させることに楽しく挑戦します(1時間)。
1	疾病・治療論(脳神経1)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経(神経系の構造と機能、脳神経総論) について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
2	疾病・治療論(脳神経2)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経(脳動脈と脳血管障害①)について共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
3	疾病・治療論(脳神経3)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経(脳動脈と脳血管障害②)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
4	疾病・治療論(脳神経4)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経(脳動脈と脳血管障害③、リハビリテーション)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
5	疾病・治療論(脳神経5)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経(高次脳機能障害、脳静脈・髄液循環とその障害、頭蓋内充進、脳ヘルニア)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
6	疾病・治療論(脳神経6)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経(運動・感覚・自律神経、脳神経とその障害、脊髄とその障害、末梢神経とその障害、脱髄性疾患、神経変性疾患、筋疾患)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
7	疾病・治療論(脳神経7)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経(感染性疾患、認知症)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
8	疾病・治療論(脳神経8)	教科書：脳・神経の、 ・脳・神経(頭痛、てんかん、腫瘍、外傷、症候と検査)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
関連科目	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.7 脳・神経		メディックメディア
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Moodle 遠隔授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	疾病・治療論Ⅲ yan7			
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	自作ノートの提出（ウェブ上での提出法を含む）によって評価し、すべての授業で示した「色違いの答、と共の指定構文」が記載されていれば合格とします。指定構文は、各授業でアップします。その他、自由構文（内容も数も自由）の追加は任意（課題）です。課題となる「各自のノート作り」の目的は、それを用いた、その後の自主トレーニングにあります。			
学生への メッセージ	人名や、物の名や、地名に関する記憶があるように、自然と引き出せる多くの「病名」を自分のものとしましょう。 講義には指定教科書を用い、本科目の課題は、各自の手作りノートで、それを各自の反復・自主トレーニングに用います。 様々な記憶が各自の頭の中で、病気の世界観を創ります。記憶がいくら増えても、決して日常生活の重荷にはなりません。 各自ノートに多くの構文を載せることで、より多くのトレーニングができます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室23			
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ（前半部の講義）では、同じ（病気がみえる）シリーズを用います。			

科目名	疾病・治療論Ⅳ	科目名(英文)	Clinical Medicine IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	大橋 敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1015a0		

授業概要・目的	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	小児に特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。スライドを中心に講義を行い、スライドと同等の内容が記載されている資料を配付する。講義後の事後学習に配付資料を十分活用して欲しい。疾患を解説する際に、解剖生理についての基礎的な知識が必要となるので、事前学習を十分に行う。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	新生児の疾患について	新生児、早産児の生理機能と代表的な疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.374~401 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	小児の呼吸器疾患について	小児の呼吸生理の特徴と、小児に多い呼吸器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.439~448 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	
3	小児の循環器疾患について	小児の循環生理の特殊性と先天性心疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.450~467 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	
4	小児の血液疾患・悪性腫瘍について	小児に多い血液疾患、悪性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.531~545 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	
5	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.487~504 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	
6	小児の神経疾患について	小児に多い神経疾患を理解する。染色体異常症、発達障害について理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.366~372, 515~530, 605~610 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	
7	小児の内分泌・代謝疾患について	小児に多い内分泌疾患、成長障害、代謝性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.558~569 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	
8	小児の感染症、免疫・アレルギーについて	小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。予防接種について理解する。	事前課題：課題プリント、教科書「健康障害をもつ小児の看護」P.546~557, 570~578, 579~587 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

実務経験	
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、小児看護学概論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論/小児保健	小林京子/高橋孝雄 編集	メジカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子/高橋孝雄 編集	メジカルフレンド社	
3	看護学テキスト 病態・治療論 14 小児疾患	真部淳/松藤凡/小林京子 編集	南江堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論	奈良間美穂 他	医学書院
2	系統看護学講座 小児臨床看護学各論	奈良間美穂 他	医学書院	
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	合否判定は定期試験で判定する。筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。
学生への メッセージ	疾病・治療論IVでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶にとどまらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	疾病・治療論V	科目名(英文)	Clinical Medicine V
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	西村 史朋
ディプロマポリシー(DP)	DP2⑥, DP7Δ		
科目ナンバリング	NDN1016a0		

授業概要・目的	<p>《概要》 次世代を担う母性準備期(思春期)、母性が最も発揮する時期(成熟期)、母性継承期(更年期・老年期)にある女性特有とされる、月経異常、性感染症、不妊症、ホルモン療法、婦人科疾患(子宮筋腫、子宮がんなど)、および乳腺疾患、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について学ぶ。(全8回) 担当講師は産婦人科医として周産期医療、婦人科医療、女性のヘルスケアの臨床に長年携わった経験を持ち、女性特有の疾患や健康の維持について有機的な講義を展開する。</p>
到達目標	<p>1. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 2. 婦人科疾患(月経異常、性感染症、不妊症、子宮筋腫、子宮がんなど)、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について理解する。</p>
授業方法と留意点	<p>女性特有の疾患についての配当講義は当講義に限定されることが多い一方で、その内容は多岐にわたり、膨大な量になる。 8回の講義のみでその全てを網羅しようとする、学生の理解可能な速度を完全に超えてしまうことになる。 十分な予習復習と、講義中に眠らないで済む程度の十分な睡眠を確保して講義に臨んでいただきたい。</p>
科目学習の効果(資格)	母性看護学援助論Ⅰ、Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	月経とその異常(思春期から性成熟期の健康管理)	月経のメカニズムとその異常(月経周期異常、月経随伴症候群)について概説し、その対処の必要性について学ぶ。 また月経異常をきたす可能性のある良性疾患(子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症)とその治療について学ぶ。	事前学習課題:テキスト「母性看護学概論」第3章および第5章を読んでくる(1時間) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
2	婦人科疾患一般(がんの診療における一般的な方針)	がんの一般的な診断方法(細胞診、組織診、画像診断と病期の決定)と主要な治療法(手術、放射線、化学療法)の特性と選択、限界について学ぶ。	事前学習課題:事前配布資料を読んでくる(30分) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
3	婦人科疾患各論(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌について)	子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌についてそれぞれの具体的な診断と治療について学ぶ。	事前学習課題:事前に配布する資料を読んでくる(30分) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
4	乳腺疾患各論(乳癌について) 女性のヘルスケア領域(月経前症候群、更年期症候群、骨粗鬆症、性感染症について)	乳癌の診断と治療について学ぶ。 女性のヘルスケア領域の疾患と治療について学ぶ。 (月経前症候群、更年期症候群、骨粗鬆症、性感染症)	事前学習課題:事前配布資料を読んでくる(30分) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
5	不妊治療と妊娠 妊娠の経過とその異常	不妊治療の概略を理解する。 妊娠の成立とその経過について理解し、異常について学ぶ。 妊娠期:妊娠高血圧症候群、流産・早産、胎児発育評価とIUGR、IUGRと将来の生活習慣病、胎盤機能の異常とIUGR、羊水の機能と生理 ハイリスク妊婦とは 妊娠期の異常:妊娠初期の異常(妊娠悪阻、流産、異所性妊娠)、 妊娠中期(多胎妊娠、早期産、切迫早産)、 妊娠後期(前置胎盤、常位胎盤早期剥離) 妊娠期の感染症(母子感染について、風疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、C型肝炎、成人T細胞性白血病、パルボウイルスB)	事前学習課題:テキスト「母性看護学各論」(第2章、第7章I節B)を読んでくる(30分) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
6	分娩の経過とその異常	分娩の経過とその異常について学ぶ。 分娩期:分娩の三要素(産道/娩出力/娩出物)について整理し、それらの関係と分娩の異常について理解する。 産道:骨産道と軟産道の異常 娩出力:陣痛微弱と分娩の遷延、過強陣痛 娩出物:胎位異常、胎盤の異常、臍帯の異常、羊水の異常 胎児機能不全 *無痛分娩や急速遂娩(吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術)について。	事前学習課題:テキスト「母性看護学各論」(第7章II節)を読んでくる(30分) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
7	産褥・新生児の異常	産褥期: 産褥出血、産褥熱、精神障害、マタニティブルー、エジンバラ産後鬱診断表について、産褥血栓症	事前学習課題:テキスト「母性看護学各論」(第7章III節)を読んでくる(30分) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
8	産褥・新生児の異常	新生児の異常:新生児仮死、新生児蘇生アルゴリズム分娩時外傷、高ビリルビン血症、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症等	事前学習課題:テキスト「母性看護学各論」(第7章IV節)を読んでくる(30分) 事後学習課題:講義内容の復習(30分)
9			
10			
11			

	12			
	13			
	14			
	15			
実務経験				
関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院
	2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気が見える vol10 産科		メディックメディア
	2	病気が見える vol9 婦人科、乳腺外来		メディックメディア
	3	成人看護学⑨女性生殖器	末岡 浩他	医学書院
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 80%、レポート課題等 20%、授業参加度等を見て総合的に評価する。			
学生への メッセージ	婦人科疾患（性・生殖機能障害など）、妊娠・分娩に関する健康障害について理解を深め、身体面だけでなく心理面、社会的側面に及ぼす影響について考える機会とするなどのたくさんの問いを持って、真摯に学んで下さい。			
担当者の 研究室等	連絡担当：泉川孝子（研究室 15）			
備考	授業担当は非常勤講師のため、授業時間外での質問等に対する対応方法は授業開始時に知らせる。			

科目名	疾病・治療論VI	科目名(英文)	Clinical Medicine VI
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小笠原 一能
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP7△		
科目ナンバリング	NDN1017a0		

授業概要・目的	精神科医療における診断と治療の概念、主な精神疾患の病因、症状、診断、回復過程、治療について学ぶ。一部、現代の精神保健に関する事項についても触れる。
到達目標	各精神疾患の病因・症状・診断・回復過程・治療、現代の精神保健上の問題について理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、適宜質問を受け付け授業への積極的参加を促す。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	総論・外因性精神疾患	精神疾患の分類・診断基準・原因・症状の捉え方に続き、外因性精神疾患(症状性精神疾患、器質性精神疾患、中毒性精神疾患、認知症など)、急性・心的外傷後ストレス障害、適応障害などの病因、症状、治療について理解する	事前:教科書「第1章Ⅲ(P.17~24)」「第2章Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅹ(P.113~170)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)
2	うつ病・躁うつ病・統合失調症	医学が「こころ」をどう捉えているかに続き、うつ病・躁うつ病(双極性障害)・統合失調症の病因、症状、予後、治療法、精神疾患と遺伝の関連について理解する	事前:教科書「第2章Ⅲ、Ⅳ(P.64~112)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)	
3	神経発達障害・脳神経と精神疾患	神経発達障害(精神遅滞、学習障害、注意欠如・多動性障害、自閉症スペクトラム障害など)の病因、症状、治療法について理解する	事前:教科書「第1章Ⅱ(P.11~16)」「第2章?(P.171~182)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)	
4	神経症性障害・心身症・パーソナリティ障害	神経症性障害(不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体症状)、心身症、パーソナリティ障害の分類、病因、症状、治療法について理解する	事前:教科書「第2章Ⅰ、Ⅱ(P.35~63)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)	
5	精神科的治療Ⅰ ～基礎的介入・身体療法～	精神科で行われている治療法(支持的療法、疾患教育、生活指導、薬物療法、電気けいれん療法、高照度光療法、認知リハビリテーションなど)について理解する。漢方薬も概説する	事前:教科書「第3章Ⅰ、Ⅱ(P.203~243)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)	
6	精神科的治療Ⅱ てんかん、睡眠障害、摂食障害	精神科で行われている治療法(催眠療法、精神分析療法、行動療法、認知療法、アート・セラピー、森田療法、来談者中心療法、ユマニチュードなど)について理解する。また、てんかん、睡眠障害、摂食障害の分類、症状、治療法について理解する	事前:教科書「第2章Ⅸ(P.162~167)、14(P.197~201)」「第3章Ⅲ(P.244~251)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)	
7	依存・乱用・嗜癖・脳波	アルコール使用障害、薬物使用障害の概念、症状、治療、依存からの回復過程、アディクション、脳波の基礎について理解する	事前:教科書「第2章Ⅷ(P.151~161)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)	
8	性関連障害、ストレス	性同一性障害(性別違和)、性嗜好障害の症状と治療、ストレス過程、ストレスによって起こる身体・精神的反応、労働ストレスについて理解する	事前:教科書「第2章Ⅰ(P34~51)、ⅩⅣ(P176)」を読んでください。(1時間) 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

実務経験	
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	t3nehx
Moodleコース名	疾病・治療論Ⅰ

および登録キー	seisinigaku
連絡手段	teams の質問チャンネル
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート/試験 100%
学生への メッセージ	質問は歓迎します。 社会に流布している「偏見・差別意識」「過剰なロマン的・文学的見方」の両方にとらわれない、科学的・合理的かつ（本当の意味で）人道的な精神科患者さんへの見方を考えてもらいたいと思います。
担当者の 研究室等	質問等があれば、teams の質問チャンネルに連絡をください。
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 日程（日程変更を含む）は追って連絡するので、注意深く Teams およびポータルサイトを確認をすること。

科目名	疫学	科目名 (英文)	Epidemiology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1018a0		

授業概要・目的	授業では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的な考え方を学ぶ。まず、疾病とそのリスク要因の関わりに注目した説明変数と結果変数という考え方、因果関係と関連の違い、各研究デザインの利点と限界、そして誤差・バイアスについて学び、最後にスクリーニングについて基本事項を解説する。
到達目標	疫学の概要や役割を知り、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	健康に関する事象について、論理的捉え方・考え方ができるようになる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疫学の概要	疫学の考え方、歴史	・第1回学習内容について教科書 p1-7 を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書 p13-17, p23-24 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
2	疫学指標	割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p93-94, 67-78 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
3	疫学研究デザイン (1)	因果推論、介入研究 (1)	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p62-66 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
4	疫学研究デザイン (2)	観察研究 (1) コホート研究	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p54-61 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
5	疫学研究デザイン (3)	観察研究 (2) 症例対照研究	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p50-53 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
6	疫学研究デザイン (4)	観察研究 (3) 横断研究ほか	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p83-91 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
7	誤差とバイアス (1)	偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性、情報バイアス、選択バイアス、交絡、交絡の調整	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p95-100 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
8	スクリーニング	検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC 曲線	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・わからない点を解決すること (適宜)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験				
関連科目	公衆衛生学、統計の基礎、保健統計学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめて学ぶやさしい疫学 (改訂第3版)	日本疫学会	南江堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020 年看護 2 年生疫学(小堀) nekigaku			
連絡手段	Moodle の質問ツール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題と小テストで評価する。60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。 			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 24			
備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。			

科目名	保健医療福祉行政論	科目名 (英文)	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 松田 千登勢
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6△		
科目ナンバリング	NDN1019a0		

授業概要・目的	人口の少子高齢化、格差の拡大など、日本国内の社会のあり方が大きく変わりつつあり、人々の生活の安心・安定を支える社会の仕組みも変わる必要に迫られている。将来、保健医療専門職として社会で活躍する上で必要不可欠な社会保障を中心に、根拠法を含む保健医療福祉行政とその制度の歴史の変遷と概要、仕組みについて、講義を通じて学び、理解を深める。また、日本の公衆衛生の向上と発展の視点から、今後あるべき保健医療福祉行政や、保健・医療・福祉の連携、専門職の役割について、講義を通じて考察する。
到達目標	1. 保健医療福祉行政の概要について理解できる。 2. 保健医療福祉行政の歴史の変遷について理解できる。 3. 社会福祉制度について理解できる。 4. 社会保障制度について理解できる。 5. 保健医療福祉行政とその制度・仕組み、制度ごとの関係や違いについて理解できる。 6. 今後の保健医療福祉行政の方向性や、専門職の連携と役割について考察できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に moodle、Teams を用いて行う。教科書は必ず持参すること。授業の内容によっては資料も配布する。また視聴覚教材の活用、時事ニュースなどの引用、事例を交えた形で授業を進める。講義終了後は、講義資料やノートの整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、調べるなどした上で、次の授業時間を活用して質問するなど、主体的に学習にとりくむ。
科目学習の効果 (資格)	社会保障制度と福祉の動向を知ることにより、看護の対象者への支援について幅広く考えることができる。 看護師・助産師国家試験においても社会保障制度の出題は増加しているため、試験対策としても知識習得をしていく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	保健医療福祉行政の概要と変遷 (1)	社会福祉・社会保障とは何か 社会保障の仕組み・機能・歴史 保健医療福祉の財源	事前: テキスト p42 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。
2	保健医療福祉行政の概要と変遷 (2)	社会福祉の担い手と役割 社会福祉の実践方法 社会資源の活用方法	事前: テキスト p43~p76 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
3	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <子ども・家庭と福祉>	子ども・家庭福祉の理念と目的 子育て支援・少子化対策に関する施策 児童虐待・母子保健に関する施策	事前: テキスト p80~p96 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
4	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <障害児・者と福祉>	障害者を守る法律の概要 障害者を支援するサービス体系 自立支援医療 障害者雇用および支援	事前: テキスト p98~p110 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
5	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <難病対策>	難病対策の取り組み、改革の内容 難病患者に対する医療等に関する法律	事前: テキスト p111~p119 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
6	社会福祉の制度 <生活保護>	公的扶助制度 生活保護における生活保障 給付の要件と保護基準、見直し	事前: テキスト p136~p149 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
7	社会福祉の制度 <地域福祉>	地域福祉の定義と理念 地域福祉計画 保健・医療と福祉の連携	事前: テキスト p152~p161 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
8	社会福祉の制度 ライフサイクルと社会福祉 <高齢者と福祉>	高齢者保健福祉施策の社会的背景、目的、理念、経緯 老人福祉法による高齢者支援 今後の課題 高齢者の権利擁護と虐待防止	事前: テキスト p120~p133 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
9	社会保障制度 <医療保険制度>	医療保険制度の沿革、しくみ 高齢者医療制度 医療保険制度の課題	事前: テキスト p171~p186 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得ておくこと (30分以上)。 事後: 授業内容を整理しておくこと (1時間)。	
10	社会保障制度 <年金制度>	公的年金制度の意義としくみ 沿革、概要、給付 企業年金などの概要 課題	事前: テキスト p164~p170 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
11	社会保障制度 <雇用保険と労災保険>	雇用保険制度の役割、しくみ、課題 労災保険制度の概要、給付 業務災害、通勤災害の認定	事前: テキスト p200~p210 まで熟読する。さらに授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく (1時間)。	
12	社会保障制度	制度創設の背景	事前: テキスト p187~p199 まで熟読する。さらに	

		<介護保険 (1) >	介護保険制度の概要(意義、しくみ、実施体制と財源)	授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む(30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく(1時間)。
	13	社会保障制度 <介護保険 (2) >	介護サービスの利用 介護サービスの内容	事前：授業テーマに関係する事柄について最新情報を臨む(30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく(1時間)。
	14	社会保障制度 <介護保険 (3) >	介護保険制度の見直しと課題	事前：授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む(30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく(1時間)。
	15	保健医療福祉行政の計画と評価	地方自治体の保健医療福祉計画 地方自治体の計画策定 計画の推進と管理・評価	授業テーマに関係する事柄について最新情報を新聞や本、専門雑誌などから得て臨む(30分以上)。事後：ミニレポートを提出する。また、授業内容を整理し復習しておく(1時間)。
実務経験				
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、各領域の看護学概論、地域看護学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会福祉と社会保障 (ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障)	増田雅暢 平野かよ子 島田 美喜	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの保健医療福祉行政論	星旦二 麻原きよみ	日本看護協会出版会
	2	衛生行政大要	上田茂	日本公衆衛生協会
	3	国民衛生の動向 2019/2020		厚生労働統計協会
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業ごとのミニレポートの提出、授業後の確認テストを総合して評価を行う。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は看護師・保健師として15年の豊富な実務経験を有する教員が、看護職として必要な保健医療福祉行政の法や制度について具体的な事例を紹介しながら、授業を進めていきます。 ・授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義します。看護師、保健師、助産師の国家試験の出題率も高い内容であるため、予習復習をしっかり行うと同時に、社会保障制度や社会福祉制度に関する日々のニュースに関心を持って、国の動きに着目していきましょう。 			
担当者の 研究室等	山本十三代 7号館3階 研究室5 松田千登勢 7号館3階 研究室6			
備考	事後学習課題であるミニレポートについては、毎回、教員が確認した後、次の授業開始時に返却します。 本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業の座席は指定とします。 追加の文献や資料などは授業中に紹介します。			

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Introduction to Public Health
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6△		
科目ナンバリング	NDN1020a0		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。
到達目標	公衆衛生学が扱う各分野の概要について基本的知識を身につけ、公衆衛生の実際の取り組みとその意義を理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、各回の最新の話題に関する視聴覚教材や時事ニュースなどを随時活用し、身近な話題から専門的な話へとつなげていく。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人類史と人口・疫学転換	人類史における人の健康	・第1回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
2	日本の公衆衛生の歴史	公衆衛生の歴史と概要	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)	
3	人口統計 (1)	人口静態統計	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)	
4	人口統計 (2)	人口動態統計	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)	
5	疾病予防と予防戦略	予防医学の考え方	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)	
6	感染症と予防	感染症の疫学と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)	
7	慢性疾患と予防	慢性疾患の疫学と予防	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)	
8	環境保健	環境が健康に及ぼす影響	・前回学習内容について授業資料および教科書の該当箇所を読むこと (30分)	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

実務経験	
------	--

関連科目	疫学、統計の基礎、保健統計学
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプル衛生公衆衛生学 2020	鈴木庄亮	南江堂
	2	国民衛生の動向 2020/2021	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020 年看護 2 年生公衆衛生学(小堀) neisei			
連絡手段	Moodle の質問ツール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題と小テストで評価する。60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。 			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 24			
備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。			

科目名	家族看護学	科目名 (英文)	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 千登勢, 足立 安正, 泉川 孝子, 稲垣 美紀, 鎌田 佳奈美, 眞野 祥子, 森谷 利香, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3○, DP6○		
科目ナンバリング	NDN2022a0		

授業概要・目的	<p>家族は、家族員の疾病予防や疾病回復、健康管理において、互いに重要な役割を担う。このことから、疾病をもつ家族の関係性や役割、家族としての力関係などの変化、問題を克服する家族の力量について学び、理解する。さらに、家族看護学において用いられる理論と、実践の場で活用するアセスメント方法を学び、そのうえで、家族のセルフケア力の向上を目指して、看護職としての家族への支援のあり方を理解する。加えて、看護学の専門領域別に具体的事例を用いて家族看護の実際について学び、看護職としての在り方について考察する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護学の目的、家族の定義について理解する。 2. 家族看護に用いる理論を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族発達理論、2) 家族システム理論 3) 家族ストレス対処理論 3. 家族看護過程の理解と、家族アセスメントモデルについて理解する。 4. 家族看護における看護者の役割と援助姿勢について理解する。 5. 看護の以下の専門領域における家族看護について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護学における家族看護 2) 母性看護学における家族看護 3) 成人看護学 (急性期) における家族看護 4) 成人看護学 (慢性期) における家 			
授業方法と留意点	<p>授業計画に沿って講義中心に行う。教科書、資料を用いて授業を行いますので、該当箇所をしっかりと学習すること。講義後は、既学習における学びを復習しつつ、看護の対象としての家族への理解を深めるようにする。</p>			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	家族看護学とは何か 看護学における家族の理解	<p>家族看護学の定義、目的 家族看護学に求められていること</p> <p>我が国の家族の現状と課題 (看護の視点から)、家族と健康</p>	<p>事前: テキスト1章を予習する 厚生の指標の人口構成の章を確認する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し世帯構成と家族の変化、家族の役割について考察すること (1時間)。</p>
	2	家族を理解するための理論 1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族発達理論 2. 家族システム理論 	<p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族を理解するための理論についての理解を深める (1時間)。</p>
	3	家族を理解するための理論 2	<ol style="list-style-type: none"> 3. 家族ストレス対処理論 1) ジェットコースター 2) ABCX 等 3) 実践におけるモデルの適応 	<p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族を理解するための理論についての理解を深める (1時間)。</p>
	4	家族看護の過程、 家族アセスメントとは何か	<p>家族看護過程の概要 家族のセルフケア機能</p>	<p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族看護の課程とアセスメントについての理解を深める (1時間)。</p>
	5	家族アセスメントモデル	<p>カルガリーアセスメントモデル ジェノグラム、エコマップの学習</p>	<p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深める (1時間)。</p>
	6	家族アセスメントモデル	<p>フリードマン家族アセスメントモデル、 家族エンパワーメントモデル等</p>	<p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族アセスメントモデルについての理解を深めること (1時間)。</p>
	7	家族看護における基本的な 考え方と看護者の役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族成員に対する援助 2. 家族の関係性に働きかける 3. 家族単位の社会性に働きかける 	<p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族看護における基本的な考え方と看護者の役割についての理解を深める (1時間)。</p>
	8	家族看護における看護者の 基本姿勢 今までのまとめ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族との関係のあり方 2. 看護者の基本的な姿勢 3. 学習のまとめ 	<p>事前: テキストの該当部分を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、家族看護における看護者の基本的な姿勢とこれまでの学びから課題を考察する (1時間)。</p>
	9	小児看護学における家族看護	<p>小児看護学における家族看護学について、 専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。</p>	<p>事前: 資料や指定された参考書等を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、小児看護学における家族看護として看護者の役割についての理解を深める (1時間)。</p>
	10	母性看護学における家族看護	<p>母性看護学における家族看護学について、 専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。</p>	<p>事前: 資料や指定された参考書等を読んで予習する (30分以上)。 事後: ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、母性看護学における家族看護として看護者の役割についての理解を深める (1時間)。</p>
	11	成人看護学 (急性期) における 家族看護	<p>成人 (急性期) 看護学における家族看護学 について、専門の特性を踏まえた看護の</p>	<p>事前: 資料や指定された参考書等を読んで予習する (30分以上)。</p>

			役割やあり方を学ぶ。	事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、成人看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。																
	12	成人看護学（慢性期）における家族看護	成人（慢性期）看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、成人看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。																
	13	老年看護学における家族看護	老年看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、老年看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。																
	14	精神看護学における家族看護	精神看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、精神看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。																
	15	在宅看護学における家族看護	在宅看護における家族看護学について、専門の特性を踏まえた看護の役割やあり方を学ぶ。事例を用いて学習する。	事前：資料や指定された参考書等を読んで予習する（30分以上）。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、在宅看護における家族看護として看護者の役割についての理解を深める（1時間）。																
実務経験																				
関連科目	家族関係論ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>家族看護学、理論と実践 第4版</td> <td>鈴木和子、渡辺裕子</td> <td>日本看護協会出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	家族看護学、理論と実践 第4版	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	家族看護学、理論と実践 第4版	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆衛生看護学. JP</td> <td>後閑容子, 荒賀直子</td> <td>インターメディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民衛生の動向 2018/2019</td> <td></td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>家族看護学</td> <td>上別府圭子他</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公衆衛生看護学. JP	後閑容子, 荒賀直子	インターメディカル	2	国民衛生の動向 2018/2019		厚生労働統計協会	3	家族看護学	上別府圭子他	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	公衆衛生看護学. JP	後閑容子, 荒賀直子	インターメディカル																	
2	国民衛生の動向 2018/2019		厚生労働統計協会																	
3	家族看護学	上別府圭子他	医学書院																	
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	提出されたレポートにより評価する。																			
学生への メッセージ	本科目はオムニバス形式で、医療機関や保健機関、事業所などで看護職として豊富な実務経験を有する教員陣が担当します。家族の形が多様化する昨今、患者や対象者だけでなく家族への支援も看護職に求められる中、支援の基礎となる学問です。日々の学習（予習・復習）を大事にし、学びを深めてください。																			
担当者の 研究室等	教員研究室は枚方キャンパス7号館3階。																			
備考																				

科目名	医療経済論	科目名 (英文)	Healthcare Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN2023a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 医療における課題を経済学的に考察し、医療サービスの供給体制、制度及び医療機関の経営問題に関わる考察を行い、看護職に求められる経済学的視点を修得する。 看護職となるに当たって保健・医療・福祉における経済面・経営面に関する社会常識としての知識を修得する。 動画によって米国の医療制度について考察し、日本における皆保険制度についての理解を深める。 <p>・40 診療科 24 時間対応の救急業務、感染症等の政策医療を実施している市立病院にて人事、経理及び病院情報システム構築業務に従事した実務経験を活かして病院勤務する看護職に求められる人的能力（コンピテンシー）向上に必要な経済的視点を今後看護師が考慮すべきワークライフバランス検討に必要な給与と労働時間の関係や勤務病院の選択指針についての授業を行う。また今後大卒看護師として修得すべき看護職の管理職（副院長、看護部長）として求められる資質についても説明する。</p> <p>・SDGs-3（全ての人に健康と福祉を）</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬制度として収入が規定されており、一般の企業における売上とは異なる収入体系とその制度の必要性について認識・理解した上で適正なコスト意識と業務改善意識を持って看護業務に従事できることを目標とする。
授業方法と留意点	<p>ICT ツールを活用して以下の内容を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護職に求められる経済学視点について講義する。診療報酬制度に基づく報酬の支払いを中心に経済学による需要と供給の価格決定プロセスを比較しながら考察する。 医療における財・サービスの交換システムの特殊性に焦点を置きながら、多くの看護職が勤務する病院での現状と課題について講義する。 後半は、看護職の管理的立場の職種である看護部長において求められる考え方について講義する。
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> 看護専門職の科目だけでなく、就職・勤務にむけた経済社会の財・サービス交換活動への経済学的思考の修得を目的とする。 経済理論だけでなく実際の組織において必要とされる看護職の今後の課題に対する政策構築に関する考察についても考慮したい。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	経済学からみた看護サービス	経済活動と医療経済との違いについて講義する。	第I章 教科書第I章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度
2	社会経済環境の変化と看護職の現状	変化に伴う看護職の環境と雇用関係について講義する。	第II章 教科書第II章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
3	診療報酬制度がもたらす影響1	看護師が他職種の業務を担うメカニズムについて講義する。	第III章 教科書第III章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
4	診療報酬制度がもたらす影響2	看護師の技能評価を妨げるメカニズムについて講義する。	第IV章 教科書第IV章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
5	看護師の労働供給	看護師の労働力提供の体系について説明する。その主な原因である結婚と出産・育児について講義する。	第V章 教科書第V章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
6	看護師の労働需要と市場構造	労働市場における搾取と労働力不足について講義する。	第VI章 教科書第VI章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
7	人的資本論から検証する労働条件格差	看護師間で生じている賃金格差の状況を確認した上で、その格差を、教育やトレーニングにより養成される技能の差異をもって説明する「人的資産」の視点から講義する。	第VII章 教科書第VII章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
8	市場の階層性が生み出す賃金格差	日本における看護師の労働市場構造において、人的投資の機会費用をはじめとして看護師の賃金を決める要因は何か、看護師の賃金決定メカニズムについて講義する。	第VIII章 教科書第VIII章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
9	職務価値からみた賃金格差	賃金格差を説明するもう1つの分析視角、「職務価値」と看護師の賃金との関係について講義する。	第IX章 教科書第IX章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
10	看護師の雇用政策とインパクト	看護師の労働市場にどのような影響を及ぼしそして雇用にどう影響を与えたのかについて講義する。	第X章 教科書第X章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
11	よりよい看護を実現するために	看護師の働きが、そして技能が正当に評価され、消費者である患者に対してよりよい看護サービスを産生し、それをどのように提供していくかについて講義する。	第XI章 教科書第XI章の予習1時間程度 教科書と配布資料による復習2時間程度	
12	診療報酬および経済政策のポイント理解と習熟度確認試験。(予定)	診療報酬制度および看護職が直面する経済政策のポイントを説明し、その後論述形式での中間試験を行う。	これまでの配布資料、教科書および直筆ノートのみ持込可。	
13	看護管理職の備えるべき視点1	「看護部長の基本事務、変化への対応力、看護部長の組織管理、マネジメント技法への関心度、専門看護職と組織改革、看護部門の組織文化」について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習1時間程度と配布資料による復習2時間程度	
14	看護管理職の備えるべき視点2	「変革期の人材マネジメント、看護政策対応力、院内看護政策力、情報マネジメント、コミュニケーション、看護業務の変化、苦情対応のマネジメント、組織フレームワークの再検討」について講	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習1時間程度と配布資料による復習2時間程度	

			義する。	
	15	看護管理職の備えるべき視点3	「コスト意識と金銭感覚、看護情報提供と看護連携、看護業務の電子化、病院統治力」について講義する。	配布資料 授業テーマ、内容・方法を読んで関連冊子、資料による予習1時間程度と配布資料による復習2時間程度
実務経験				
関連科目	労働経済学、ミクロ経済学、経営学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護師の働き方を経済学から読み解く 看護のポリテイカルエコノミー	角田由佳	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポート内容(70%)、レポート提出回数を受講態度(30%)として総合評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職になるための科目の修得は、国家資格取得も含め必須である。しかし、卒業後、多くの看護職が勤務する病院や福祉施設の運営は、公的な補助があるものの経済学の考え方に基づいて運営されている。 ・少子高齢化社会の到来に向けて、これからの看護職は、社会的な知識(経済学等の社会科学科目)も必要とされる。本講義は、そのための基礎的な考え方の習得を目指す。 ・急性期だけでなく慢性期治療にも対応した市立病院で15年間事務職として総務、人事、医事、システム関連部署に勤務し診療関係全般に従事した経験から高度医療機関 			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス1号館7階 田井准教授室(経済学部)			
備考	社会科学分野である経済学、経営学による分析内容について、看護職の視点から必要な項目を説明する。			

科目名	看護関係法規	科目名 (英文)	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	松本 葉子, 泉川 孝子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP6△,		
科目ナンバリング	NDN2024a0		

授業概要・目的	看護職は保健医療福祉サービスに携わる多くの職種と連携し、対象となる人々の健康を回復・維持・増進する職業である。看護職が人々の健康を守り、その職務を全うするためには、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ諸法令の理解が必要である。本科目では、諸制度や法令を知識として学ぶだけでなく、医療や看護事故の事例から、看護職としての法的責任や義務について理解し、看護職としての在り方を考えることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 保健師助産師看護師法に定められている内容を説明することができる。 母子保健に関する法令について、人々の健康の維持・増進にかかわる制度と法令の関係を説明することができる。 医療従事者に問われる3種類の法律上の責任について理解することができる。 医療事故の事例をもとに看護職の責任と義務、および、看護職としての在り方について自分の考えを示すことができる。
授業方法と留意点	遠隔授業で授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	看護職に必要な法的な知識を学び、過去の事故事例から看護の責任や義務を考察することによって、専門的知識が身につくとともに、根拠に基づいた判断と行動ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業オリエンテーション法の概念	<ul style="list-style-type: none"> 授業概要と進め方の説明 厚生行政のしくみ 	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
	2	看護法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 保健師助産師看護師法の目的 保健師、助産師、看護師の法律上の定義・免許の要件、業務について 	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
	3	看護法(2)および医事法	<ul style="list-style-type: none"> 看護師等の人材確保の促進に関する法律 医療法 	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
	4	母子の健康に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健法、母体保護法 育児・介護休業法 労働基準法 など 	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
	5	看護師の法的責任 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 法的責任の種類 医療事故と医療過誤 	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
	6	看護師の法的責任 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 医療事故における看護師の義務と責任について 	事前：教科書の該当項目を精読しておく。 事後：教科書や講義資料をよく読む。次回の事前学習と合わせて1時間の復習と予習を行う。
	7	看護師の法的責任 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 事例をもとに看護師の責任、義務などについて考察する。 	事前：事例をよく読んでおく。 事後：事例の考察を振り返る。
	8	看護師の法的責任 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 事例をもとに看護師の責任、義務などについて考察し、看護師のあるべき姿について自己の考えをまとめる。 	事前：事例をよく読んでおく。 事後：責任ある看護のあるべき姿について、自己の考えを記述し、オンラインで提出する。
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

実務経験	
関連科目	法学入門、日本国憲法、保健医療福祉行政論、看護学全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度	平林勝政, 小西知世, 和泉澤千恵	メディカ出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	事故事例に学ぶ看護師の法的責任	土屋八千代	日総研出版
	2	看護師の注意義務と責任	加藤済仁, 蒔田覚	新日本法規
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業の取り組み状況から評価する。
学生へのメッセージ	法令を理解・解釈し、その根拠に基づいて活動することが、人々をまもり、自分をまもることにもつながります。法的な知識を自分の力に変えて活動できるように学んでいきましょう。
担当者の	研究室 28

研究室等	
備考	

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子・今井 秀人・神谷 美紀子・北村 敦子・舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2029a0		

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。科目責任者は、総合病院及び個人病院で看護師として約10年間勤務した経験から、フィジカルアセスメントに関する実践的な教育を行う。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した遠隔授業を中心に、講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を追加する。技術演習ではICTツールを用いた技術演習を行う。アセスメントの基本技術に関する知識と根拠、看護展開の基礎を修得し、患者の心情や状態から必要な看護について考える。また、事例課題を用いたアセスメントの思考過程をレポートにまとめ、今後の実践へつなぐ学びとする。
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方と基本的技術、ヘルスヒストリー	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方、基本的技術に関する理論を学ぶ。	【事前課題】教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
2	基礎看護技術の展開	基礎看護技術およびアセスメント知識を基に、看護展開に関する基礎的な理論を学ぶ。	【事前課題】教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること(2時間)。修得した技術について自己練習すること(1時間)。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。 【事後課題】

				授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
	10	消化器系のフィジカルアセスメント（2）	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
	11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（1）	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
	12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（2）	筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
	13	脳・神経系のフィジカルアセスメント（1）	脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
	14	脳・神経系のフィジカルアセスメント（2）	脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。
	15	基礎看護技術の展開	基礎看護技術およびアセスメント知識を基に、看護展開に関する基礎的な理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること（1時間）。 【事後課題】 授業・演習終了時に示す事例課題について、レポートを作成すること（2時間）。修得した技術について自己練習すること（1時間）。

実務経験																	
関連科目	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 ヘルスアセスメント</td> <td>横山美樹、石川ふみよ</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント</td> <td>松尾ミヨ子</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>フィジカルアセスメントガイドブック</td> <td>山内豊明</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版	2	フィジカルアセスメントガイドブック	山内豊明	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版														
2	フィジカルアセスメントガイドブック	山内豊明	医学書院														
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	小テスト、リフレクションシート、事例課題、レポートにより評価する。 小テスト40%、リフレクションシート10%、事例課題の提出状況及びアセスメントの思考過程25%、レポート25% 原則全ての授業及び演習に出席していること。																
学生へのメッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また、予習・復習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル等の視聴覚教材を活用し、積極的に自己学習をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室1（佐久間）、研究室2（神谷）、共同研究室1（北村、舟木）、共同研究室3（今井）																
備考	技術演習時の身だしなみ、準備物品等については、事前に別途指示します。																

科目名	基礎看護技術Ⅳ	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子・今井 秀人・神谷 美紀子・北村 敦子・舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP6○, DP7◎		
科目ナンバリング	NDN2030a0		

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。 科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU 病棟、外来等、看護師として約 10 年間勤務した経験を活かし、実践的な看護過程の展開と看護技術についての教育を行う。
到達目標	授業および演習を通じ、看護過程の展開方法を理解できる。 1) 看護過程の基本的な知識について理解する。 2) 事例の対象者について情報の整理、情報の分析と統合、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価を行うことができる。 3) 看護実践時の記録の記載方法を理解できる。 4) 看護過程における看護者と倫理性、患者の安全安楽の視点の重要性について理解できる。
授業方法と留意点	ICT ツールを活用した遠隔授業も取り入れ、講義形式で看護過程の理論を学び、基礎看護演習室において技術演習を行いながら、より具体的な看護過程の展開方法をイメージできるように授業を行う。教科書を基本とするが、学生の学修状況を考慮し、適宜配布資料を用いる。また、視聴覚教材やパワーポイントを使用する。 看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。課題については、講義内で別途指示する。アセスメント内容、関連図、看護計画について、グループ発表を行ない、クラス全体で学
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護過程とは	<ul style="list-style-type: none"> 看護過程の概要・構造 問題解決過程としての看護過程 看護過程に必要な能力 	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 事後課題を作成する。(2 時間)
2	看護過程のステップ①	<ul style="list-style-type: none"> 事例課題の情報整理 看護アセスメントとその枠組み 	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 事後課題を作成する。(2 時間)
3	看護過程のステップ②	<ul style="list-style-type: none"> 事例課題の情報の分析と統合 看護上の問題と優先順位 	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 事後課題を作成する。(2 時間)
4	看護過程のステップ③	<ul style="list-style-type: none"> 事例課題の看護目標と看護計画の立案 看護計画の実施と評価① 	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 事後課題を作成する。(2 時間)
5	看護過程と看護記録	<ul style="list-style-type: none"> 看護計画の実施と評価② 看護記録とは 看護記録の種類 	事前課題：教科書の該当部分を読み、事前学習を行う。(1 時間) 事後課題：配布資料および学習内容を整理する。(1 時間) 事後課題を作成する。(2 時間)
6	看護過程の演習①	グループワークにて、事例の情報分類・アセスメントを行う。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションし、課題を作成する。(2 時間)
7	看護過程の演習②	グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2 時間)
8	看護過程の演習③	グループで作成した情報整理・アセスメント内容について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2 時間)
9	看護過程の演習④	グループにて、関連図の検討を行う。	事前課題：関連図の各自記載してくること。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2 時間)
10	看護過程の演習⑤	グループにて、関連図の検討を行う。	事前課題：関連図の各自記載してくること。(2 時間) 事後課題：グループでディスカッションしグループ課題を作成する。(2 時間)
11	看護過程の演習⑥	グループで作成した関連図について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2 時間)
12	看護過程の演習⑦	グループで作成した関連図について発表しクラス全体で学びを共有する。	事前課題：情報・アセスメントシートを各自記載する。(2 時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、追記して課題を仕上げる。(2 時間)
13	看護過程の演習⑧	グループワークにて、事例の看護問題、看護目標、看護計画を検討する。	事前課題：看護問題の命名、看護目標、看護計画を各自記載する。事例に即した援助の看護計画を立案する。(2 時間) 事後課題：グループで看護計画の実践を検討しながら発表資料を作成する。(2 時間)
14	看護過程の演習⑨	グループで作成した看護問題、看護目	事前課題：グループで看護目標、看護計画の発表資

			標、看護計画の内容と実践を発表する。	料を作成する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、評価・修正を行い課題を仕上げる。(2時間)
	15	看護過程の演習⑩ まとめ	グループで作成した看護問題、看護目標、看護計画の内容と実践を発表し、グループ案を振り返り、評価・修正を行う。	事前課題：グループで看護目標、看護計画の発表資料を作成する。(2時間) 事後課題：発表内容についてグループでディスカッションし、評価・修正を行い課題を仕上げる。(2時間)
実務経験				
関連科目	基礎看護技術Ⅲおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ
	2	看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	秋葉公子	ヌーヴェルヒロカワ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle/対面授業			
Teams コード	99jd91r			
Moodle コース名 および登録キー	2020kiso4			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	筆記試験 30%、個人課題 30%、グループ課題 10%、授業参加態度 10%、ピア評価 10% 原則、全ての授業および演習に出席していること。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。			
学生への メッセージ	看護の提供には、その看護師の考え方や思い、倫理観が反映されます。看護職者としてどのようにあるべきか、また、どのようにありたいか、自己の考えを深めてください。 本科目は基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。本科目が取得できない場合、基礎看護学実習Ⅱの課題も達成できません。本科目の課題を達成していけるように自己学習をしっかりと行っていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)、共同研究室1(北村、舟木)、共同研究室3(今井)			
備考	講義時の準備物、個人課題およびグループワーク課題については講義内で別途指示する。指定された期日までに、必ず準備を整え、課題を提出すること。			

科目名	成人病態看護論	科目名 (英文)	Adult Nursing in Clinical State
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	稲垣 美紀, 松本 葉子, 森谷 利香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○		
科目ナンバリング	NDN2035a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 看護実践においては、様々な機能障害を有し、また症状を呈する成人期の人々に対して、看護を提供する場面に遭遇する。患者の各々の病態について、発生機序・程度・経過・増悪あるいは軽減させる要因を理解する必要がある。本科目では、成人期にある対象の主要な機能障害や症状を取り上げて、病態とその病態が対象者に及ぼす身体的・心理的・社会的な影響及び的確なアセスメントと看護援助の方法について学習する。</p> <p>【目的】 疾病やそれに伴う治療・処置、または、事故や災害などにより発現あるいは増悪する身体症状について、その体験が成人期の対象やその家族に与える身体的・心理社会的影響をふまえ、アセスメントから看護実践につなげる方法を理解する。なお、疾病については発症から終末までのすべての病期を含む。</p>
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各機能障害および症状を発現する病態を理解する。 2. 各機能障害および症状がもたらす対象者やその家族への影響を理解する。 3. 機能障害の予防、緩和、また症状に伴う苦痛の軽減のための看護実践方法を理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業方法は講義を中心として、一部は模擬患者（視聴覚教材等）を用いて演習を行う。 ・出席は出欠管理システムおよび提出物で確認します。 ・レポートは、提出期限までに提出のない場合には、減点対象とします。
科目学習の効果（資格）	病態や症状に関する看護方法は、看護を実践するうえで不可欠な基礎的能力です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護 1	「運動麻痺」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
	2	脳神経・感覚機能障害のある患者の看護 2	「意識障害」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
	3	循環機能障害のある患者の看護 1	「ショック」「浮腫」「脱水」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
	4	循環機能障害のある患者の看護 2	循環機能障害患者のある患者のアセスメントと看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
	5	呼吸機能障害のある患者の看護 1	「呼吸困難」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
	6	呼吸機能障害のある患者の看護 2	「咳嗽・喀痰」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol.2 循環器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
	7	消化機能障害のある患者の看護 1	「便秘」「下痢」「悪心・嘔吐」「腹痛」の症状を呈する患者の理解と看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
	8	消化機能障害のある患者の看護 2	消化機能障害のある患者のアセスメントと看護 事後には個人レポートを提出する。	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の解剖生理の復習（1時間） 事後：教科書および資料の復習、レポートの記載（1時間）
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

実務経験	
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、疾病・治療Ⅰ、Ⅱ、病理学総論、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版	高木永子監修	学研
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる Vol. 1 消化器	福本陽平 監修	メディックメディカ
	2	病気がみえる Vol. 2 循環器	荻原誠久 監修	メディックメディカ

	3	病気がみえる Vol. 4 呼吸器	滝澤 始 監修	メディックメディカ
授業形態	Moodle/Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	wyfvfta			
Moodle コース名 および登録キー	2020年度2年生 成人病態看護論 byotaikango			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポート課題(100%)により評価する。			
学生への メッセージ	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。 関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。 提出したレポートは、必要に応じて授業内でフィードバックします。			
担当者の 研究室等	研究室 26 (稲垣)			
備考				

科目名	成人看護学援助論 I	科目名 (英文)	Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹下 裕子, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 長沢 美和子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2036a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。また、急性期にある対象の事例を取り上げ、看護過程を展開する能力を身につけることができる。</p> <p><稲垣範子> 集中治療室で急性・重症看護専門看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。</p> <p><長沢美和子> 外科系病棟で看護師として勤務した経験を活かした実践的教育を行う。</p>			
到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や、手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。 麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。 手術によって、形態変化や機能障害をもたらされた対象とその家族の適応および新たなセルフケア能力獲得を促すための看護援助について理解できる。 手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後も、QOLのより高い生活 			
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って、教材・課題提供型授業による講義および看護過程の展開を中心に授業を行う。また、重要なテーマについて学生間での意見交換を行う。事前学習として、教科書の該当範囲を読んでおくこと。事後課題として、授業内容の整理、復習を行うこと。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習 (成人看護学実習 I) において、看護援助を実践するための基盤となる。 看護師国家試験の出題範囲である。 			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	周手術期にある対象の特徴と理解①麻酔	麻酔法, 手術室環境, 麻酔の基礎知識と麻酔時の看護	【事前】教科書1の第3章, 第8章を読んでおくこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
	2	周手術期にある対象の特徴と理解②—手術侵襲と生体反応	麻酔・手術侵襲に伴う生体反応, 炎症, 創傷治癒	【事前】教科書1の序章, 第1章, 第4章を読んでおくこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
	3	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助①	呼吸器合併症, 循環器合併症, イレウス予防のための看護	【事前】教科書1の第9章を読んでおくこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく。また、術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておく (1時間)。
	4	術後合併症の発生機序と予防のための看護援助②	術後感染, 縫合不全 (創傷管理・ドレーン管理含む), 術後せん妄予防のための看護	【事前】教科書1の第1章C~E, 第9章を読んでおくこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
	5	周手術期にある対象の特徴と理解③—術前患者	情報収集とアセスメント, 術前オリエンテーション, 術前日~術当日の看護	【事前】教科書1の第7章を読んでおくこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
	6	周手術期にある対象の特徴と理解④—術後患者	麻酔・手術侵襲からの回復を促進するための看護 患者アセスメント, 早期離床, 疼痛管理, 自己管理に向けた援助	【事前】教科書1の第9章を読んでおくこと (1時間) 【事後】教科書・資料の内容を復習しておく (1時間)。
	7	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助①+看護過程の展開①	手術を受ける対象に対する看護と看護過程の展開 (胃切除術)	【事前】教科書2のVII (胃切除術) を参考にしながら、胃がんの原因と誘因, 症状と発生機序, 分類と進行度, 術式と各術式の特徴 (切除部位, 再建方法) などをまとめておくこと (1時間) 【事後】看護記録の提出 (1時間)
	8	手術を受ける対象に対する看護過程の展開②	事例をもとに看護過程を展開する一カ ルテからの情報収集	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (1時間)。 【事後】看護記録の提出 (1時間)
	9	手術を受ける対象に対する看護過程の展開③	事例をもとに看護過程を展開する一カ ルテからの情報収集+アセスメント	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (1時間)。 【事後】看護記録の提出 (1時間)
	10	手術を受ける対象に対する看護過程の展開④	事例をもとに看護過程を展開する一関 連図	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (1時間)。 【事後】看護記録の提出 (1時間)
	11	手術を受ける対象に対する看護過程の展開⑤	事例をもとに看護過程を展開する一関 連図・看護問題リスト	【事前】看護過程に関する資料及び課題を事前に配布する。課題を完成させる (1時間)。 【事後】看護記録の提出 (1時間)
	12	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助②	開胸術・開心術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のVII (肺切除術・冠動脈バイパス術) を参考にしながら、開胸術・開心術を受ける疾患, 症状と発生機序, 術式の特徴などをまとめておくこと (1時間) 【事後】資料の内容を復習しておく (1時間)。
	13	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助③	開頭術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のVII (脳動脈クリッピング術) を参考にしながら、開頭術を受けるクモ膜下出血の原因と誘因, 症状と発生機序, 術式の特徴などをまとめておくこと (1時間) 【事後】資料の内容を復習しておく (1時間)。

	14	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助④	人工関節置換術を受ける対象に対する看護	【事前】教科書2のVII（両側人工膝関節置換術）を参考にして関節リウマチの原因と誘因、症状と発生機序、分類、術式特徴などをまとめておくこと（1時間） 【事後】資料の内容を復習しておく（1時間）。																
	15	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助⑤	総合演習	【事前】授業時間内に指定した内容を学習しておく（1時間） 【事後】資料の内容を復習しておく（1時間）。																
実務経験																				
関連科目	成人看護学概論 成人病態看護論 人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 病理学総論 疾病治療論Ⅰ・Ⅱ 感染と防御																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 臨床外科看護総論</td> <td>矢永勝彦 他編</td> <td>医学書院（目安価格：税抜き2,800円）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期</td> <td>井上智子 編</td> <td>照林社（目安価格：税抜き3,200円）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 臨床外科看護総論	矢永勝彦 他編	医学書院（目安価格：税抜き2,800円）	2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期	井上智子 編	照林社（目安価格：税抜き3,200円）	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 臨床外科看護総論	矢永勝彦 他編	医学書院（目安価格：税抜き2,800円）																	
2	パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護Ⅰ 急性期・周手術期	井上智子 編	照林社（目安価格：税抜き3,200円）																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 周手術期看護論（第3版）</td> <td>雄西智恵美 他編</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経過別成人看護学2 周手術期看護</td> <td>明石恵子 編</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美 他編	ヌーヴェルヒロカワ	2	経過別成人看護学2 周手術期看護	明石恵子 編	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学 周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美 他編	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	経過別成人看護学2 周手術期看護	明石恵子 編	メヂカルフレンド社																	
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 （基準）	小テスト、課題の達成状況により100%総合的に評価する。したがって、授業日だけでなく、授業前後も必ず Teams や Moodle など指示されたシステムにアクセスすること。																			
学生への メッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対処を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できるためには、十分な事前・事後学習が不可欠です																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室30（竹下）																			
備考	授業は、「成人看護学援助論Ⅲ」と連動させながら行います。したがってスケジュールを別途説明しますので、間違いないように授業の事前準備を行ってください。																			

科目名	成人看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森谷 利香、青野 美里、志戸岡 恵子、松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2037a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 慢性的な健康問題のある成人期の人々を理解し、対象者が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また、代表的な慢性病をモデルにして、疾病や症状をコントロールするために必要とされる対象者のセルフケア、ストレスコーピング、生活の再構築や適応を促進するための看護の援助方法について学習する。</p> <p>【目的】 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<p>1. セルフケア、生活の再構築・適応、ストレスコーピングの促進が必要な対象とその家族の特徴と課題を、倫理的側面を含めて説明できる。</p> <p>2. 対象と家族の生活をセルフケアの視点でアセスメントし、増悪因子を踏まえた、主体的な生活習慣の修正に向けた援助が理解できる。また、これに関連する援助技術を習得できる。</p> <p>3. 対象とその家族にとっての病や障がいへの受け止めや治療への意思決定、および、生活への影響を説明できる。また、これらを踏まえた上で、対象と家族、その人らしい生活に向けた看護援助を理解できる。さらに、これに関連</p>
授業方法と留意点	遠隔授業で講義を行う。病態、検査、治療に関しては、人体の構造と機能とともに理解が必要であるため、既習の内容を復習しながら進める。看護については、まず、病態の理解に関連させて理解を深められるようにする。そして、疾病による心理・社会的影響を理解できるよう、慢性病者の療養生活のイメージ化を促す。これらの上で、看護援助を具体的に説明する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験に必須の科目である

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	セルフケアを促進するための看護援助(1)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護1)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること(1時間)。</p>
2	セルフケアを促進するための看護援助(2)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護2)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること(1時間)。</p>	
3	セルフケアを促進するための看護援助(3)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護1)	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること(1時間)。</p>	
4	セルフケアを促進するための看護援助(4)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護2)	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること(1時間)。</p>	
5	セルフケアを促進するための看護援助(5)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護1)糖尿病の発症に伴う身体的・心理社会的反応とセルフケアの特徴	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す(1時間)。</p>	
6	生活の再構築や適応を促進するための看護援助(1)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護1)難病患者の身体的・心理社会的反応への看護	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す(1時間)。</p>	
7	生活の再構築や適応を促進するための看護援助(2)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護2)生活の再構築の過程を支える看護	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-7-3を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。レポートを課す(1時間)。</p>	
8	生活の再構築や適応を促進するための看護援助(3)	膠原病(全身性エリテマトーデス、関節リウマチ)によりライフイベントに影響を受ける患者の理解と看護	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-4を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること(1時間)。</p>	
9	生活の再構築や適応を促進するための看護援助(4)	慢性閉塞性肺疾患により新たな療養法を必要とする患者の理解と看護	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-2を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること(1時間)。</p>	
10	ストレスコーピングを促進するための看護援助(1)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護1)	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること(1時間)。</p>	
11	ストレスコーピングを促進するための看護援助(2)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護2)	<p>【事前学習】病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること(1時間)。</p>	
12	ストレスコーピングを促進するための看護援助(3)	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護1)	<p>【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと(1時間)。</p> <p>【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること(1時間)。</p>	

	13	ストレスコーピングを促進するための看護援助（4）	肺がんによる症状マネジメントを必要とする患者の理解と看護2）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-1-3を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。																
	14	ストレスコーピングを促進するための看護援助（5）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護1）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。																
	15	ストレスコーピングを促進するための看護援助（6）	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護2）	【事前学習】 病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと（1時間）。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること（1時間）。																
実務経験																				
関連科目	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅲ、成人病態看護論 人体の構造と機能、疾病・治療論や薬物治療学など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版</td> <td>鈴木久美 他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護学テキスト Nice 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版	鈴木久美 他	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 慢性期看護論</td> <td>鈴木志津枝 他</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経過別成人看護学3 慢性期看護</td> <td>黒江ゆり子 他</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ	2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝 他	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	経過別成人看護学3 慢性期看護	黒江ゆり子 他	メヂカルフレンド社																	
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	授業の取り組み状況から評価する。																			
学生への メッセージ	本授業では、病院での5年以上の実践経験を持つ教員が中心となり授業内容を教授します。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。 成人看護学実習Ⅱにつながる基本的な内容ですので、しっかり学習しましょう。成人看護学援助論Ⅲと連動していますので、具体的な進め方は別途説明します。																			
担当者の 研究室等	研究室 29 森谷																			
備考																				

科目名	老年看護学援助論 I	科目名 (英文)	Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	村瀬 由貴, 小川 宣子, 田中 真佐恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2042a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 高齢者の生きてきた背景や価値観を踏まえたうえで、「高齢者が望む生活は何か」を重視する生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の QOL を高める具体的なケアについて学びます。そのために、講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援についてのグループ学習・実技等を行い、高齢者理解を深めます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(村瀬由貴/4回) 高齢者の生活機能からとらえた看護 (食事・清潔/身じたく・排泄・コミュニケーション)</p> <p>(小川宣子/3回) 高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動・安全)</p> <p>(田中真佐恵/2回) 認知症高齢者の理解と支援(2)</p> <p>(村瀬由貴、小川宣子、田中真佐恵/6回) 高齢者疑似体験、高齢者の生活支援の演習、時代背景を踏まえた余暇支援の演習</p>
到達目標	<p>1) 高齢者に生じやすい認知症への理解を深め、生活への影響や具体的援助を考えることができる。</p> <p>2) 加齢や疾患に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助を考えることができる。</p> <p>3) 高齢者の生きてきた時代背景を知り、長年の生活で培われた価値観や生活習慣を尊重する態度を養う。</p>
授業方法と留意点	<p>講義だけでなく、高齢者疑似体験や高齢者の生活支援の演習、時代背景を踏まえた余暇支援の企画を行います。これらはグループで実施するので、欠席しないようにしましょう。また、各講義や演習時に課すレポートや評価の対象になるので、必ず提出するようにしてください。事前・事後課題は学習の成果物としてファイル化します。なくさないように管理してください。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当教員に連絡の上、後日、課題を提出してください。</p>
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	高齢者疑似体験演習①	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習 I での体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする (一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する。(一時間)
2	高齢者疑似体験演習②	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似体験を行います。	【事前】 老年看護学実習 I での体験を思い出し、高齢者の身体的特徴について要点をレポートする (一時間) 【事後】 高齢者疑似体験から考察した高齢者への生活援助の視点をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
3	高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息①)	【講義】 高齢者における活動と休息のバランスや、活動状況に影響を与える心身の特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 テキスト P142~146 を読み、廃用性症候群の原因と種類について要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の活動の援助の必要性について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
4	認知症高齢者の理解と支援 ①	【講義】 認知症の疫学、定義、診断、病態、薬物療法等について学習します。	【事前】 認知症を理解するための資料 (第2 講目に配布) を読み、要点をまとめておく (一時間) 【事後】 認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
5	高齢者の生活機能から捉えた看護 (清潔/身じたく)	【講義】 高齢者の皮膚の状態等を踏まえながら、清潔/身じたくに関するアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 加齢による皮膚や粘膜の変化についてテキストを読み要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の清潔の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
6	高齢者の生活機能から捉えた看護 (活動と休息②)	【講義】 高齢者の活動・休息は、心身の機能の変化によって安全・安楽が脅かされやすくなります。高齢者の安全、安楽を支えるアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の活動を阻害する要因についてテキストを読んで要点をまとめておく。(一時間) 【事後】 高齢者の休息の援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)	
7	高齢者の生活機能から捉えた看護 (食事)	【講義】 高齢者の食・栄養における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】 高齢者の食事や栄養の特徴について要点をまとめておく (一時間) 【事後】 高齢者の食事について指示されたワークシートに記入し提出する。(一時間)	
8	高齢者の生活機能から捉えた看護 (排泄)	【講義】 高齢者の排泄機能における特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助	【事前】 加齢による排泄への影響についてテキストを読み要点をまとめておく (一時間)	

			方法について学習します。	【事後】 高齢者の排泄援助方法について指示された内容をワークシートに記入し提出する。(一時間)																
	9	認知症高齢者の理解と支援②	【講義】 認知症の症状からくる生活障がいへの対応、家族への支援などの具体的なケアについて学習します。	【事前】認知症を理解するための資料(第2講目に配布)を読み、要点をまとめておく(一時間) 【事後】認知症高齢者の援助について指示された内容をワークシートに記入し提出する(一時間)																
	10	高齢者を尊重した生活支援の実際	【講義】 高齢者施設での生活支援の実際と高齢者を尊重したダイバーショナルセラピーターとしての活動をゲストスピーカーの講演を通して学びます	【事前】 テキスト P218～224 を読み、高齢者の社会参加についての要点をまとめておく(一時間) 【事後】 講演を聴講後に学びをレポートに記入し提出する。(一時間)																
	11	高齢者の時代背景を踏まえた余暇支援①	【演習】 高齢者の生きてきた背景を踏まえた余暇支援を個別に行うための演習を行います。	【事前】 高齢者の生きてきた時代背景を理解するための参考図書を探し持参する(一時間) 【事後】 授業時に作成した援助計画を見直し修正を行う(一時間)																
	12	高齢者の時代背景を踏まえた余暇支援②	【演習】 高齢者の生きてきた背景を踏まえた余暇支援を個別に行うための演習を行います。	【事前】 高齢者の生きてきた時代背景を理解するための参考図書を探し持参する(一時間) 【事後】 授業時に作成した援助計画を見直し修正を行う(一時間)																
	13	高齢者の生活支援演習①	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握しておくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)																
	14	高齢者の生活支援演習②	【演習】 高齢者の特徴を踏まえた生活支援の方法を事例からグループで検討し実施します。	【事前】 事前に配布された事例を読み、援助のポイントとなる情報を把握しておくこと(一時間) 【事後】 配布するワークシートに学びを記入し、援助計画の修正を行って提出する(一時間)																
	15	高齢者の生活機能から捉えた看護 (コミュニケーション)	【講義】 高齢者のコミュニケーションにおける特徴を踏まえたアセスメントの視点、具体的な援助方法について学習します。	【事前】老年看護学実習 I での体験を思い出し、気がかりに感じた場面をレポートに記入しておく。(一時間) 【事後】 授業時に作成したワークシートを完成させ、テキスト P198～213 の要点をまとめておくこと。(一時間)																
実務経験																				
関連科目	人体の構造と機能 I～IV、薬理学総論、老年看護学概論、老年看護学援助論 II、看護基礎技術 I、II、III、老年看護学実習 I～III																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 老年看護学</td> <td>北川公子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図</td> <td>山田律子、井出訓</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 老年看護学	北川公子	医学書院	2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 老年看護学	北川公子	医学書院																	
2	医学書院の生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	対面授業																			
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー	老年看護学援助論 I 2020rounen1																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	テストおよびレポート、演習中の学習態度や事前課題およびレポート提出状況も加味して総合的に評価します。																			
学生への メッセージ	既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護学概論で学んだ「加齢現象」をもとにしての学習になります。 しっかりと復習、理解した上で、老年看護学援助論に取り組みましょう。 授業担当者の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での16年間の実務経験を生かして演習での助言を行っていく。 授業担当者の小川宣子は、病院での内科系病棟での15年間の実務経験を生かして高齢者への援助方法について実践的な教育を行う。 授業担当者の田中真佐恵は、病院での外科系病棟での10年間の実務経験をベースとした介護・福祉領																			
担当者の 研究室等	7号館3階研究室4																			
備考																				

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 宣子・田中 真佐恵・村瀬 由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2043a0		

授業概要・目的	<p>加齢に伴う身体的変化や心理的变化についての知識をもとに、高齢者の健康逸脱からの回復を促す看護と終末期を支える看護について学習します。</p> <p>高齢者によくみられる脳神経・循環器・呼吸器・内分泌・筋骨格系等の疾患をもつ方への援助方法を学習し、健康上の課題を解決するための看護過程が展開できる能力を養います。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(小川宣子/5回) 看護過程の展開(考え方・アセスメント)、健康段階に応じた高齢者の看護、疾患を持つ高齢者の看護(運動器系)、退院支援の看護、高齢者のエンドオブライフケア</p> <p>(村瀬由貴/1回) 疾患を持つ高齢者の看護(脳・神経系)</p> <p>(田中真佐恵/1回) 疾患を持つ高齢者の看護(呼吸器・循環器・内分泌系)</p> <p>(小川宣子、村瀬由貴、田中真佐恵/8回) 看護過程の展開(アセスメント①②③・看護の方向性①②・看護計画立案①②・援助計画立案①)</p>
到達目標	<p>1) 疾患を持つ高齢者の健康障害の特徴と看護について理解できる。</p> <p>2) エンドオブライフケアが必要な高齢者と家族の看護について理解できる。</p> <p>3) 健康障害を持つ高齢者の看護過程の展開ができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業はオムニバス形式で行います。基本的にはテキストを使用して授業を進めますが、適宜プリント等の補助教材を使用します。毎回、テキストと配布したプリントを必ず持参してください。</p> <p>講義で学習した内容については毎回復習を行い、疑問があれば、解決を図るようにしてください。</p> <p>演習では、高齢者への看護実践にむけた主体的な学習を行っていきます。自己学習や事前・事後学習の成果物はポートフォリオとしてまとめますので、なくさないように管理してください。演習では看護実践方法を検討していきます。</p> <p>また、各講義や演習時に課題を</p>
科目学習の効果(資格)	<p>臨地実習での看護実践のために必要な基本的な知識を得ることができます。</p> <p>看護師国家試験にも必須の学習内容です。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/ 看護過程の展開 (1: 考え方・立案の仕方)	【講義】 老年看護における看護過程の展開の考え方、ポイントについて学びます。	【事前】 高齢者の看護の特徴についてテキストや資料を読み直して要点をレポートにまとめておく(一時間) 【事後】 看護過程の事例に関する疾患の特徴・治療について学習する(一時間)
2	看護過程の展開 (2: 健康段階に応じた高齢者看護)	【講義】 老年看護では、急性期・慢性期・回復期・維持期等、様々な健康段階を対象とし、各々で看護の視点も異なります。段階の見極め方や、各段階でのアセスメントの視点や看護のあり方について学習します。	【事前】 テキスト第7章(P314~344)を読み、治療を必要とする高齢者の看護の要点をまとめておく(一時間) 【事後】 手術を受ける高齢者に必要な看護の要点をまとめる(当日配布します)(一時間)
3	疾患をもつ高齢者の看護(1: 筋骨格系疾患)	【講義】 大腿骨頸部骨折や変形性膝関節症等、高齢者に多い筋骨格系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく(一時間) 【事後】 大腿骨頸部骨折の看護についての要点をまとめる(一時間)
4	疾患をもつ高齢者の看護 (2: 脳神経系疾患)	【講義】 脳出血や脳梗塞等、パーキンソン病等、高齢者に多い脳・神経系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく(一時間) 【事後】 リハビリ期の高齢者に必要な看護について要点をまとめる(一時間)
5	疾患をもつ高齢者の看護 (3: 呼吸器・循環器・内分泌疾患)	【講義】 COPD、虚血性心疾患、糖尿病等、高齢者に多い呼吸器・循環器・内分泌系疾患におけるアセスメントの視点と具体的な援助について学びます。	【事前】 高齢者の加齢に伴う身体機能の変化を見直しておく(一時間) 【事後】 在宅療養を行う高齢者の看護について要点をまとめる。(一時間)
6	看護過程の展開 (3: 退院支援)	【講義】 疾患や障害を抱えながら退院していく高齢者への退院支援におけるアセスメントや看護について学習します。	【事前】 高齢者を支える家族の世帯構成の特徴や日本の課題を見直してまとめておく(一時間) 【事後】 看護過程の事例に必要な退院支援を考える(一時間)
7	看護過程の展開 (4: 病態のアセスメント)	【講義・演習】 看護過程の事例の疾患関連情報のアセスメントの視点について解説します。加齢変化を踏まえながら、二次的障害の予測を思考していきます。	【事前】 記録用紙に沿って、事例の健康上の課題を抽出して記入する(一時間) 【事後】 授業後に不足する内容を記載する(一時間)

	8	看護過程の展開 (4:病態のアセスメント)	【講義・演習】 看護過程の事例の疾患関連情報のアセスメントの視点について解説します。 加齢変化を踏まえながら、二次的障害の予測を思考していきます。	【事前】 記録用紙に沿って、事例の健康上の課題を抽出して記入する(一時間) 【事後】 授業後に不足する内容を記載し次回提出する(一時間)
	9	看護過程の展開 (5:生活機能のアセスメント)	【講義・演習】 看護過程の事例について、生活機能の側面からアセスメントの視点について解説します。	【事前】 記録用紙に沿って、事例の生活機能の分析をおこなって記入する(一時間) 【事後】 授業後に不足する内容を記載する(一時間)
	10	看護過程の展開 (6:看護の方向性)	【講義・演習】 看護過程の事例について、看護の必要性を総括し、優先度の高い看護の方針について検討します。	【事前】 記録用紙に沿って全体像をまとめる 【事後】 授業後に不足する内容を記載する(一時間)
	11	看護過程の展開 (6:看護の方向性)	【講義・演習】 看護過程の事例について、看護の必要性を総括し、優先度の高い看護の方針について検討します。	【事前】 記録用紙に沿って全体像をまとめる 【事後】 授業後に不足する内容を記載する(一時間)
	12	看護過程の展開 (7:看護計画立案)	【演習】 看護計画を詳細に検討します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備 【事後】 記録用紙に沿って課題に取り組む(一時間)
	13	看護過程の展開 (7:看護計画立案)	【演習】 看護計画を詳細に検討します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備 【事後】 記録用紙に沿って課題に取り組む(一時間)
	14	看護過程の展開 (8:援助計画立案)	【演習】 看護計画から援助計画を詳細に検討します。	【事前】 看護計画立案に必要な参考書等の準備 【事後】 記録用紙に沿って課題に取り組む(一時間)
	15	エンド・オブ・ライフケア	【講義】 高齢者のエンドオブライフケアに必要な看護の視点の理解と看取りをする家族への援助を学びます。	【事前】 テキスト第8章(P348~357)を読んでおく(一時間) 【事後】 高齢者の意思決定についての自己の考えをまとめレポートする(一時間)
実務経験				
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学	北川公子	医学書院
	2	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
	2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	提出物・レポート(授業内で指示するもの)			
学生への メッセージ	疾患をもつ対象者の看護については老年期における特徴をふまえて考えていくことが必要となります。高齢者によくみられる疾患の特徴と、どのような看護を必要とするのかについての基本を学習しますので、これまでに学習した疾病治療論や看護の実践方法について復習をしておいてください。 授業担当の小川宣子は、病院での内科系病棟での15年間の実務経験を生かして高齢者への援助方法について実践的な教育を行う。 授業担当の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での15年間の実務経験を生かして演習での助言を行っていく。 授業担当			
担当者の 研究室等	7号館3階研究室10			
備考	看護過程の展開の演習は進度によって、内容が変更になる場合があります。 授業中に案内します。			

科目名	小児看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2047a0		

授業概要・目的	<p>小児看護学の対象である子どもと家族の理解を踏まえ、発達の促進および健康保持増進に向けた看護者の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。</p> <p>鎌田は看護師として6年、池田は看護師及び助産師として5年の実務経験を活かし、具体的な子どもと家族の事例を用いながら、理論や倫理的側面を踏まえながら実践的な教育を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象である子どもと家族の理解する 2. 子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護者の役割と機能を理解する 3. 小児看護によく適用される発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 ICT ツールを活用した遠隔授業を行う。</p> <p>【留意点】 授業毎に確認テストを行うので受験すること。</p> <p>授業内容の理解を促すため、事前課題実施した上で授業に参加すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>看護師国家試験受験のための必須科目である。</p> <p>本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	小児看護学の概観	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護の対象、役割 ・子どもの発達区分、特徴について ・小児医療・看護の歴史と変遷について ・保健統計からみた子どもと家族、および子どもを取り巻く環境について 	<p>事前課題：教科書「序章 小児看護学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。(1時間)</p> <p>事後課題：身近にいる子どもを観察し、その内容や気づきをまとめる(1時間)</p>
2	子どもの権利	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利条約、児童福祉法、母子保健法等 ・医療における子どもの権利について ・小児医療で起こりやすい倫理的問題について ・子どもの遊びと教育 	<p>事前課題：授業で課題を提示する(1時間)</p> <p>事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)</p>
3	小児看護で用いる概念と理論	<ul style="list-style-type: none"> ・発達理論 (ピアジェ、エリクソン) について ・母子関係理論 (ボウルビー) 等について 	<p>事前課題：授業で課題を提示する(1時間)</p> <p>事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)</p>
4	子どもの病気・事故予防、健康増進 (ヘルスプロモーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種 ・事故予防 	<p>事前課題：授業で課題を提示する(1時間)</p> <p>事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)</p>
5	子どもの成長・発達の特徴Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・成長・発達の一般原則について ・成長・発達への影響因子について ・成長・発達過程について ・成長・発達の評価について 	<p>事前課題：授業で課題を提示する(1時間)</p> <p>事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)</p>
6	各発達段階にある子どもの特徴 (乳児・幼児)	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 ・乳児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 ・幼児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 	<p>事前課題：授業で課題を提示する(1時間)</p> <p>事後課題：授業でわからなかった内容のまとめとさらに深く学習する(1時間)</p>
7	各発達段階にある子どもの特徴 (学童・思春期)	<ul style="list-style-type: none"> ・学童期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 ・思春期の形態的・機能的・心理社会的発達の特徴 	<p>事前課題：社会資源について調べ、グループで検討し、まとめる。(2時間)</p>
8	子どもと家族を守るための社会制度・社会資源	社会資源	<p>事前課題：社会資源について調べ、グループでまとめた内容についてのプレゼン資料を作成する。(2時間)</p>
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
関連科目	看護学概論、生命倫理

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学概論/小児保健	小林京子	メジカルフレンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学概論・小児臨床看護学総論	奈良間 美保	医学書院
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業毎に実施する小テスト90%、課題10%
学生への メッセージ	小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解することを目指しましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもに目を向け、洞察を深めてください。
担当者の 研究室等	7号館・3階、研究室17（鎌田）、研究室16（池田）
備考	

科目名	小児看護学援助論 I	科目名 (英文)	Pediatric Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 亀田 直子, 中山 祐一
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2048a0		

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、子どもの健康上の問題を理解するために、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どもの疾病の原因や検査や治療法の理解を深め、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。 授業担当者である鎌田、池田、亀田は看護師としての5年以上の臨床経験から子どもと家族との援助の実践を踏まえながら、ディスカッションやグループワークも含めながら授業や演習を展開する。
到達目標	1. 各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 2. 子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 3. 子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 4. 子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 5. 子ども特有の急性疾患・慢性疾患、障がいの子どもの関する病態生理、検査・処置、治療の看護について理解する。
授業方法と留意点	対面授業と遠隔授業で行う。 小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識の活用を促す。小児看護学における援助技術については、事前にグループ学習し、学生が主体となってデモンストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論Ⅱの理解を深め、小児看護学実習を行うために基盤となる科目である。

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
授業計画	1	病気や入院に対する子どもの理解	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの病気の特徴について概観する 子どもは病気や入院をどのように理解するか(認知発達段階の特徴を踏まえ、子どもが病気や入院をどう理解するかについて) 	事前課題教科書:「健康障害をもつ小児の看護」のP7~13を自己学習しておくこと、ピアジェの認知発達理論について復習しておくこと(1時間) 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。(1時間)
	2	健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	<ul style="list-style-type: none"> 健康問題や入院が子どもに及ぼす影響について 健康問題が入院が家族に及ぼす影響について 子どもと家族にとって適切な外来および入院環境について 	事前課題:教科書「健康障害をもつ小児の看護」の第1章のP13~22を自己学習しておくこと(1時間) 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	3	新生児期・乳児の成長発達と看護	<ul style="list-style-type: none"> 新生児、乳児の日常生活援助 病気や障害をもつ新生児・乳児の看護 	事前課題:教科書教科書「健康障害をもつ小児の看護」P26-46を自己学習しておくこと(1時間) 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	4	幼児の成長発達と看護	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の日常生活援助 病気や障害をもつ幼児の看護 	事前課題:教科書「健康障害をもつ小児の看護」P47-55を自己学習しておくこと(1時間) 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	5	学童・思春期の成長発達と看護	<ul style="list-style-type: none"> 学童・思春期の子どもの日常生活援助 病気や障害をもつ学童・思春期の子どもの看護 	事前課題:事前課題:教科書「健康障害をもつ小児の看護」P59-68を自己学習しておくこと(1時間) 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	6	子どもによく見られる症状と看護	<ul style="list-style-type: none"> 啼泣、不機嫌、発熱、発疹、悪心、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について 	事前課題:教科書「健康障害をもつ小児の看護」P77-95を自己学習しておくこと(1時間)、技術自己練習(1時間) 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	7	子どもによくみられる症状と看護	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸困難、痛み、意識障害、浮腫、掻痒感など、子どもによくみられる症状の機序と看護について 	事前課題:教科書「健康障害をもつ小児の看護」P95-P122を自己学習しておくこと(1時間)、技術自己練習(1時間) 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	8	臨床において直面しやすい状況と看護	<ul style="list-style-type: none"> プライマリーヘルスケアで会う子どもと家族の看護、外来における子どもと家族への看護 活動制限が必要な子どもと家族への看護 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護 	事前課題:教科書「健康障害をもつ小児の看護」P152-153、P183-186および178-183、P200-205を自己学習しておくこと(1時間) 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	9	小児看護技術(日常生活援助)演習	<ul style="list-style-type: none"> 定頭していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 定頭している幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い 	事前課題:教科書メディカ出版「小児看護技術」P30-50を自己学習しておくこと(1時間)、技術自己練習 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	10	小児看護技術(日常生活援助)演習	<ul style="list-style-type: none"> 定頭していない乳児の抱っこ、移動に関する援助技術 歩行可能な幼児の抱っこ、移動に関する援助技術 ベッド柵の取扱い 	事前課題:教科書メディカ出版「小児看護技術」P30-50の自己学習および自己練習(1時間) 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
	11	子どものヘルスアセスメント I	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとのコミュニケーションについて ヘルスアセスメントの目的・意義について 	事前課題:教科書「健康障害をもつ小児の看護」P287-298(1時間)自己学習しておくこと 事後課題:授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)

			・子どもの観察と情報収集の方法について	
	12	子どものヘルスアセスメントⅡ	アセスメントの実際（演習）	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P300-317を自己学習しておくこと（1時間） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1時間）
	13	検査や処置を受ける子どもと家族の看護	・子どもが検査や処置を受ける場合の特徴について検査や処置を受ける子どもの体験 ・子どもに特徴的な情緒反応や認知について ・プレパレーションについて	事前課題：教科書「健康障害をもつ小児の看護」P165-169、P275-285を自己学習しておくこと（1時間） 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる（1時間）
	14	ヘルスアセスメント技術演習	・事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書「小児看護技術」P110-126、P204-242を自己学習しておくこと。グループで技術練習（1時間） 事後課題：技術演習内容の振り返り（1時間）
	15	ヘルスアセスメント技術演習	・事例に応じたバイタルサイン測定および身体計測技術確認	事前課題：教科書「小児看護技術」P110-126、P204-242を自己学習しておくこと。グループで技術練習（1時間） 事後課題：技術演習内容の振り返り（1時間）
実務経験				
関連科目	小児看護学概論、基礎看護技術			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健	小林京子 編	メジカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子 編	メジカルフレンド社
	3	小児看護技術	中野綾美 編集	ナーシンググラフィカ
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児科学 第2版	金子一成 編集	金芳堂
	2	小児の疾患と看護 小児看護③	中野綾美 編集	メディカ出版
	3	小児臨床看護学各論 小児看護学②	奈良間美穂 他	医学書院
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	後期の定期試験 80%、課題、演習、グループワーク 20%とし総合的に評価する シラバスの順番が多少前後する可能性があるが、事前に連絡する。			
学生へのメッセージ	小児看護学援助論Ⅰでは非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。演習日時および内容の詳細は第1回目の授業で説明します。			
担当者の研究室等	7号館 3階 研究室17（鎌田）、研究室18（池田）、共同研究室5（亀田）、共同研究室3（中山）			
備考	課題（試験やレポート等のフィードバックについて） ・技術のレポート課題はフィードバックをしますので、それらをもとにリフレクションを行い実習に生かしてください。			

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Pediatric Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田 友美, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子, 中山 祐一
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2049a0		

授業概要・目的	疾病・障がいがある子どもと家族の健やかな育ちを支えるために、小児期によくみられる疾患や障がいのある子どもの看護を理解する。また、さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を看護過程を通して考える。授業担当の教員全員が、小児看護の臨床経験があり、病気や障がいのある子どもたちとの関わりを通して学んだこと・考えたことをエピソードを交えて教授する。
到達目標	1. 疾患や障がいがある子どもと家族の援助について説明できる。 2. 急性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 3. 慢性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 4. さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を考案できる。 5. 小児看護特有の基本的技術を習得する。
授業方法と留意点	Moodleを使用した教材・課題提供型授業を活用し、疾患や障がいのある子どもを理解しやすいように解説する。また、事例演習は看護過程を通して、さまざまな健康レベルにある子どもの援助についての理解をうながす。技術演習では、事例を用いて、子どもの発達、健康状態、生活、心理面を力動的にアセスメントし、子どもと家族のニーズから抽出された看護援助を検討し、実際に行なう。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後課題
1	さまざまな健康障害がある子どもと家族への援助	小児看護学実習の概要 子どもとの関わり方についてグループワークを行う	事前課題：教科書第5編第1章を読む(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)	
2	小児看護の看護過程	小児の看護課程について	事前課題：課題プリント(2時間) 事後課題：課題プリント(2時間)	
3	【事例演習】 急性期にある子どもと家族の看護(1)	急性期にある子どもと家族の特徴 急性期における子どもと家族の看護過程の展開(グループワーク)	事前課題：課題プリント(3時間) 事後課題：課題プリント(3時間)	
4	【事例演習】 急性期にある子どもと家族の看護(2)	急性期における子どもと家族の看護過程の展開(グループワーク)	事前課題：課題プリント(3時間) 事後課題：課題プリント(3時間)	
5	【事例演習】 慢性期にある子どもと家族の看護(1)	慢性疾患を抱えながら生活する子どもとその家族の特徴 慢性期における子どもと家族の看護過程の展開(グループワーク)	事前課題：課題プリント(3時間) 事後課題：課題プリント(3時間)	
6	【事例演習】 慢性期にある子どもと家族の看護(2)	慢性期における子どもと家族の看護過程の展開(グループワーク)	事前課題：課題プリント(3時間) 事後課題：課題プリント(3時間)	
7	周手術期における子どもと家族の看護 救急処置が必要な子どもと家族の看護	子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助 子どもの救急法について	事前課題：教科書第3編第4章Ⅱ、第4編第1章Ⅵを読む(1時間) 事後課題：課題プリント(1時間)	
8	障がいのある子どもと家族の看護 在宅に移行する子どもと家族の看護	障がいのある子どもとその家族の意思決定、在宅に移行するための準備、地域で生活するための看護師の役割	事前課題：教科書第4編第1章Ⅷ～Ⅹ、第2章Ⅳを読む(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)	
9	災害に遭遇した子どもと家族の看護 心の問題がみられる子どもと家族の看護	子どもの被災の特徴 心の問題をもつ子どもと家族への援助	事前課題：教科書第4編第2章Ⅱ、第3章ⅠとⅢを読む(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)	
10	終末期にある子どもと家族の看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族への援助(グループワーク)	事前課題：教科書第3編第4章Ⅴを読む(1時間) 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)	
11	【事例演習】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護	事例による看護計画の立案	事前課題：看護技術の教科書を読む(1時間) 事後課題：課題プリント(2時間)	
12	【技術演習】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護まとめ(1)	立案した計画による援助の実施	事前課題：自己練習(5時間) 事後課題：課題プリント(1時間)	
13	【技術演習】 急性期・慢性期にある子どもと家族の看護まとめ(2)	立案した計画による援助の実施	事前課題：自己練習(5時間) 事後課題：課題プリント(1時間)	
14	障がいのある子どもの実際の理解	ビデオやテレビの視聴	ビデオの視聴等(5時間)	
15	子どもの実際の理解	小児の看護過程に必要な発達の理解	事前課題：授業内に提示する(1時間) 事後課題：課題のプリント(1時間)	

実務経験	
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	小林京子、高橋孝雄	メダルフレンド社
2	ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術	中野綾美	メディア出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学概論／小児保健	小林京子、高橋孝雄	メヂカルフレンド社
	2	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各授業ごとに小テストや課題を行い総合的に評価する。			
学生への メッセージ	小児看護学実習に向けての実践的な授業になります。 課題が多いですが、既習の知識を振り返りながら計画的にすすめましょう。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室16 (池田)、17 (鎌田)、共同研究室3 (中山)、共同研究室5 (亀田)			
備考				

科目名	母性看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	泉川 孝子・井田 歩美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2051a0		

授業概要・目的	母性看護の基盤となる概念を理解し、母性とはなにかを幅広く捉え、人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。母性の特性については、母性保健の動向や現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題を理解し、現代女性・家族へのサポートについて考える。
到達目標	1. 母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について理解する。 2. 人間の性と生殖の意義からセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深める。 3. 母性看護の変遷や母性保健統計の動向、母子保健施策から現状を理解する。 4. 現代女性・家族のライフサイクルにおける特徴や発達課題の諸問題について理解する。 5. 女性のライフステージ各期における諸問題、看護について理解する。 6. 現代の女性・家族の健康に関与する諸問題へのリプロダクティブヘルスケアについて理解する。
授業方法と留意点	事前の学習課題は展開される講義内容が書かれているテキスト部分をよく読んでくる。グループ課題もあり、主体的に参加してください。母子保健、生殖医療等に関する情報を、新聞、雑誌などから見聞を広め問題意識をもつてのぞみましょう。
科目学習の効果 (資格)	授業内容は、看護師国家試験の母性看護学の科目に出題されることがあり、国家試験に直結する科目です。また、助産選択に関わる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性の概念について	母性看護の概念から、母性とは、母子関係と家族発達、父性の役割について学ぶ。 セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて学ぶ (講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (P2-12、20-27) 事後学習課題: 講義内容のキーワードについて整理する (前後、各1時間)
2	母性看護の対象を取り巻く社会について1	母性看護の歴史の変遷と現状、諸外国の歴史について、および母性看護の対象を取り巻く環境について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p54-57, p86-93) 事後学習課題: 講義内容から理解したことを整理する (前後、各1時間)
3	母性看護の対象を取り巻く社会について2	母子保健統計からみた動向、母子保健施策からみた現状、母性看護に必要な法制度について理解する (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p59-85) 事後学習課題: 統計データから読み取れたことを整理する (前後、各1時間)
4	母性看護の対象理解	母性と親性について理解し、子どもへの愛や親となる過程の支援に必要なことを学ぶ 女性のライフサイクル、母性各期 (小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期) について理解する (講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p97-123) 事後学習課題: 母性の対象理解について整理する (前後、各1時間)
5	思春期の健康と看護	思春期の身体的・心理的・社会的特徴と健康課題について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分 (P185-204) を読んでくる (2時間) 事後学習課題: 講義内容を振り返り整理する (2時間)
6	成熟期の健康と看護	成熟期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、成熟期のセクシュアリティの課題について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p205-217) 事後学習課題: 講義内容から理解したことを整理する (前後、各1時間)
7	更・老年期の健康と看護	更年期・老年期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、セクシュアリティの課題について学ぶ (講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (p217-245) 事後学習課題: 講義内容から理解したことを整理する (前後、各1時間)
8	リプロダクティブヘルスケア	女性の健康に関与する、性感染症・妊娠中絶・喫煙・DV、国際化社会等におけるリプロダクティブヘルスケアについて理解する (講義、討議)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる (250-315) 事後学習課題: 講義内容、討議から理解したことを整理する (前後、各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
関連科目	人体の構造と機能、食生活論、家族関係論、疾病治療論、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、地域看護学、家族看護学、看護倫理、女性学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	親と子のきずな	クラウス・ケネル	医学書院
	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験、授業参加度（提出課題・授業態度等）を総合して判定する。 割合：定期試験 70%（泉川 35 点、井田 35 点）、提出課題等 30%			
学生への メッセージ	セクシュアリティ、母性、家族に関する社会状況や問題、法改正などの情報や報道等に関心を向け自分自身の考え方を広げて行きましょう。授業は学生と教員とのパートナーシップで、力を合わせて実りある内容にしましょう。授業担当の各教員は、総合病院で助産師（看護師）として7～10年間勤務した経験から、母子保健や周産期の看護に関心を高める教育を行う。			
担当者の 研究室等	泉川孝子（研究室 15）、井田歩美（研究室 12）			
備考				

科目名	母性看護学援助論 I	科目名 (英文)	Maternal Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	泉川 孝子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2052a0		

授業概要・目的	<概要> 妊娠期・分娩期・産褥期の生理的变化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントと看護の方法について学ぶ。 (オムニバス 方式/全15回)
到達目標	1. 子どもを産み育てるために必要となる妊娠前からの女性・家族への支援を理解する。 2. 正常経過にある妊産婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。 3. 異常経過にある妊産婦と新生児について、身体的特性と心理・社会的特徴からのアセスメント、看護を理解する。
授業方法と留意点	講義・DVD鑑賞・課題などの方法で学ぶ
科目学習の効果 (資格)	母性看護学援助論IIの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	母性の発揮を促す看護	子どもを生み育てるにあたり生じる遺伝、不妊の問題、および不妊治療を受ける女性の心理的特徴からその支援、看護について理解する	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第2章ABC) 事後学習課題：不妊治療を受けるの対象者への支援のあり方、看護について整理する (前後、各1時間)
2	妊婦の心理・社会的特性、妊婦と胎児のアセスメント (1)	妊婦の心理的特徴と妊婦・家族の新しい役割獲得に関する課題について学ぶ。妊婦の身体的・生理的特徴について学ぶ。	事前学習課題：教科書の該当ページ (P78-103) を読んでもくる (1時間) 事後学習課題：授業内容を振り返り、整理して理解を深める (1時間)	
3	妊婦と胎児のアセスメント (2)、妊婦と家族の看護	妊婦と胎児の健康状態のアセスメントについて、必要な情報とアセスメントの視点について学ぶ。妊婦のセルフケア能力を高める援助、親になるための準備について学ぶ。	事前学習課題：教科書の該当ページ (P103-176) を読んでもくる (1時間) 事後学習課題：授業内容を振り返り、整理して理解を深める (1時間)	
4	ハイリスク妊娠と看護	妊娠の異常とその要因、およびハイリスク妊婦の看護について学ぶ。	事前学習課題：教科書の該当ページ (P358-400) を読んでもくる (1時間) 事後学習課題：授業内容を振り返り、整理して理解を深める (1時間)	
5	正常分娩の経過	1. 分娩の要素と機序 2. 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 3. 分娩経過の胎児への影響 4. 分娩期の産婦・家族の心理的变化 5. 出生2時間までの新生児の生理	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第4章AB) 事後学習課題：分娩経過について整理する (前後、各1時間)	
6	分娩期のアセスメントと看護	1. 分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 胎児の健康状態のアセスメントと看護 5. 出生後2時間までの新生児のアセスメントと看護 6. 母子関係形成に向けての援助	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第4章C) 事後学習課題：産婦と胎児の健康状況、産婦家族へのアセスメントについて整理する (前後、各1時間)	
7	ハイリスク分娩の看護	1. 分娩期の異常と看護 2. 産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第7章II) 事後学習課題：分娩時異常時の看護について整理する (前後、各1時間)	
8	帝王切開術と看護	帝王切開術を受けた産婦のアセスメントと看護について学ぶ 母子分離、喪失感覚、悲嘆へのケアについて学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第7章II, K) 事後学習課題：帝王切開術前後の看護について整理する (前後、各1時間)	
9	産婦の身体的変化	退行性変化と進行性変化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第6章ABCD) 事後学習課題：授業内容を整理する (前後、各1時間)	
10	産婦の心理・社会的変化	Rubinの母親への適応過程、家族の心理的变化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第6章ABCD) 事後学習課題：授業内容を整理する (前後、各1時間)	
11	産褥期の異常と看護 1	子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、会陰裂傷・会陰切開を行った産婦、乳房にトラブルのある産婦	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第7章IV) 事後学習課題：授業内容を整理する (前後、各1時間)	
12	産褥期の異常と看護 2	精神にトラブルのある産婦、および新生児に問題がある産婦の看護等について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第7章V) 事後学習課題：授業内容を整理する (前後、各1時間)	
13	新生児の生理と看護	新生児の生理と看護について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでもくる (各論：第5	

				章 ABC) 事後学習課題：授業内容を整理する (前後、各1時間)																
	14	育児技術に関わる援助	技術演習 新生児の抱き方と寝かせ方、オムツ、衣服の交換等	事前学習課題：技術演習資料を読んできた 事後学習課題：技術演習内容について振り返り整理する (前後、各1時間)																
	15	低出生体重児、高ビリルビン血症児の看護	低出生体重児のおこりやす問題と看護、 ディベロップメンタルヘルスケア、高 ビリルビン血症児：黄疸のリスク因子、 検査、治療と看護	事前学習課題：テキストを読んできた(各論：第7 章Ⅲ) 事後学習課題：新生児の異常の看護について整理する (前後、各1時間)																
実務経験																				
関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森 恵美 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td>森 恵美 他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院																	
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>新道幸恵他訳</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病気がみえる vol.10:産科</td> <td>井上裕美他</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ナーシンググラフィカ母性看護学②</td> <td>横尾京子他</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院	2	病気がみえる vol.10:産科	井上裕美他	メディックメディア	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院																	
2	病気がみえる vol.10:産科	井上裕美他	メディックメディア																	
3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																			
Teams コード	9bi2w64																			
Moodle コース名 および登録キー	母性看護学援助論1 bosei																			
連絡手段	チーム内のチャットとメール等																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	評価割合：試験 80%、提出物 20%																			
学生への メッセージ	母性看護学は妊婦だけではなく、女性の健康を支援する看護学です。そのために、夫をはじめとした家族も看護の対象となるなど、幅広い対象に看護を行います。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」などのたくさんの問いを持って、楽しく真摯に学んで下さい。授業担当の各教員は、総合病院で助産師(看護師)として7～10年間勤務した経験から、周産期の看護に関する実践的な教育を行う。																			
担当者の 研究室等	泉川孝子(研究室15)、西頭知子(研究室14)、名草みどり(研究室13)、永田阿子(共同研究室5)																			
備考																				

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Maternal Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名草 みどり, 飯田 恵子, 泉川 孝子, 井田 歩美, 但馬 まり子, 永田 阿子, 西頭 知子
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2053a0		

授業概要・目的	<p>《概要》 母性看護学実習で一組の母と新生児を受け持つ時に必要な科学的思考と母性看護技術について、講義、自己学習を通して学びます。(看護師・助産師として6年以上の実務経験がある教員が講義を担当します。)</p> <p>《目的》 マタニティサイクルにある女性が、心身共に健康な状態を維持・促進するために、科学的思考を用いて、一人一人に応じた看護を見出し、実践する方法を学ぶ。</p>
到達目標	<p>1) マタニティサイクルにある女性とその新生児が、健康な状態を維持・促進するための看護過程の方法について理解する。</p> <p>2) マタニティサイクルにある女性が、異常に移行した際に必要な看護について考えることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業方法は、講義、自己学習です。</p> <p>課題の内容、評価方法については授業で全て説明します。</p>
科目学習の効果(資格)	母性看護学実習に向けて重要な科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	母性看護学の看護過程に必要な看護診断を学ぶ	<p>目標: ウェルネス看護診断について理解できる。</p> <p>内容: ウェルネス看護診断について学ぶ</p> <p>方法: 講義</p>	<p>事前学習: 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p18~29を読む。(1時間)</p> <p>事後学習: 配付資料を読む。(1時間)</p> <p>参考文献 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p18~29</p>
2	事例による看護過程の展開-情報化の方法を学ぶ	<p>目標: ①オリエンテーションを受けて看護過程の展開と母性看護技術の演習方法について理解できる。②紙媒体から事例の情報を整理できる。</p> <p>内容: 事例の情報化の方法を学び、事例の情報をS情報とO情報に分けてアセスメントシートの情報欄に記入する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習: 母性看護学各論p308-354を読む。(1時間)</p> <p>事後学習: 授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(1時間)</p> <p>参考文献 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p70~74</p>	
3	事例による看護過程の展開-アセスメントの方法を学ぶ	<p>目標: データベースとアセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析および統合ができる。</p> <p>内容: 記載例を参考にアセスメントの方法を学び、アセスメントシートに振り分けた情報の解釈と分析をアセスメント欄に記入する。全体像を記入する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習として、「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p75~88を読む。(1時間) 事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(1時間)</p> <p>参考文献 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p75~86</p>	
4	事例による看護過程の展開-看護問題の明確化の方法を学ぶ	<p>目標: 退行性変化・進行性変化・心理社会的適応・子宮外生活適応過程における看護問題を、ウェルネス・リスク・プロブレムの判断を行いながら明確化でき、優先順位を考えられる。</p> <p>内容: 退行性変化・進行性変化・心理社会的適応・子宮外生活適応過程における看護問題の、ウェルネス・リスク・プロブレムの判断方法について学び、事例の看護問題をウェルネス・リスク・プロブレムに分けてプロブレムリストに記載する。</p> <p>方法: 講義と演習(個人)</p>	<p>事前学習: 母性看護学各論 p541-546を読む。(30分)</p> <p>事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(1時間)</p> <p>参考文献 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」p75~88</p>	
5	母性看護技術演習(1)-妊産褥婦の看護を学ぶ	<p>目標: 妊婦健診の根拠と方法がわかり安全・安楽を考慮した計測方法がわかる。根拠を理解して褥婦の子宮復古の観察方法がわかる。乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気の方法がわかる。産婦の看護の方法がわかる。</p> <p>内容: 妊婦の計測(レオポルドの測定法、子宮底と腹圍の測定、児心音の聴取)、褥婦の観察(子宮底の測定) 乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気産婦の看護の方法について学ぶ。</p> <p>方法: 講義と動画の視聴</p>	<p>事前学習として、配付資料を読み、「乳房のはり」について調べた内容を配付資料に記入する。母性看護学各論 p328~329 (1時間)</p> <p>事後学習として、演習内容の課題シートを仕上げ指定日時に提出する。(1時間)</p> <p>母性看護学各論 p342~346, p98~103</p>	
6	母性看護技術演習(2)-妊産褥婦の看護を学ぶ	5回目と同内容	5回目と同内容	
7	母性看護技術演習(3)-新生児の看護を学ぶ	5回目と同内容	5回目と同内容	
8	母性看護技術演習(4)-新生児の看護を学ぶ	<p>目標: 根拠と方法を理解して新生児の観察、アセスメント、沐浴および寝床環境の整備の方法がわかる。</p> <p>内容: 新生児の観察と沐浴、寝床環境の整備を学ぶ。</p>	<p>事前学習として、新生児の観察の留意点、沐浴の留意点について配付資料に記入する。指定した新生児観察と沐浴の動画を視聴し、手技を覚える。(1時間)</p> <p>事後学習は、新生児の観察と沐浴の手技の根拠を配付資料に記入し、指定日時に提出する。(1時</p>	

			方法：講義と動画の視聴	間)
	9	母性看護技術演習(5)－新生児の看護を学ぶ	第8回と同内容	第8回と同内容
	10	母性看護技術演習(6)－新生児の看護を学ぶ	第8回と同内容	第8回と同内容
	11	事例による看護過程の展開－看護計画の立案方法を学ぶ	目標：優先度の高い看護問題を解決するための看護目標を考えられ、看護計画を立案できる。 内容：看護目標の表現方法等について学び、看護目標と看護計画を立案する。 方法：講義と演習(個人)	事前学習として、母性看護学各論 p541～546 を読む。(30分) 事後学習として、授業時間内にできなかった課題に取り組み、指定日時に提出する。(1時間) 参考文献 「ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 p86～88
	12	事例による看護過程の展開－看護計画の立案方法を学ぶ	第11回と同内容	第11回と同内容
	13	退院支援と継続看護、1か月までの実際を学ぶ	目標：退院指導と産褥1か月までの支援の実際について理解できる。 内容：臨地実習施設で行われている退院指導や産褥1か月までの支援と、社会資源として枚方市の取り組みについて紹介する。 方法：講義	事前学習として、母性看護学各論 p351～354 を読む。(30分) 事後学習として、地域の母子に対する継続看護と、産褥1か月までの支援についてまとめ、指定日時に提出する。(1時間)
	14	正常を逸脱した事例の看護－帝王切開術後の看護の方法を知る	目標：術後の母体に生じる変化についてその機序と看護の方法を知ることができる。 内容：帝王切開の適応や術式を振り返り、手術によって生じる身体機能の変化や母体に与える影響を学ぶ。 方法：講義と演習(個人・グループ)	事前：帝王切開術について母性看護学援助論Ⅰの資料および教科書1(第7章I-⑤、K-①)を一読してくる。周手術期に関する教科書を受講時に持参できるよう準備する。 事後：配布する課題を完成させる。(各1時間)
	15	正常を逸脱した事例の看護－帝王切開術後の看護の方法を考える	目標：術後の心身の変化に伴い生じやすい看護問題を見出し、看護計画の立案・修正ができる。 内容：一般的な帝王切開術後の観察点やアセスメントの視点(方法や基準値、分析に必要な根拠)を整理し、計画として完成させる。 方法：演習(グループ)	事前：課題を完成させ提出する。看護計画立案・修正に使用する周手術期の資料・文献を収集し、演習時に持参できるよう準備する。 事後：課題を完成させ、提出する。(各1時間)
実務経験				
関連科目	既習の専門基礎科目、専門科目は全て関連していますが、特に、人体の構造と機能、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰは非常に関連しています。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森恵美他	医学書院
	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森恵美他	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディカ
	2	病気がみえる10巻 産科	医療情報科学研究所	メディックメディア
	3	ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法(基準)	課題の進行・提出状況、課題の完成度を見て総合的に評価します。評価比重は授業時間内に説明します。			
学生へのメッセージ	母性看護学援助論Ⅱは母性看護学実習を想定した実践に近い科目です。課題は多いですが、既習の知識を整理しながら楽しい実習になるように、この科目の学修を頑張りましょう。			
担当者の研究室等備考	母性看護学教員の研究室は7号館3階です。実習で不在の場合は研究室入り口に氏名とメッセージを残してください。 名草みどり(研究室13)、西頭知子(研究室14)、但馬まり子(研究室20)、飯田恵子、永田阿子(共同研究室5)、泉川孝子(研究室15)			

科目名	精神看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	眞野 祥子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2055a0		

授業概要・目的	精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。
到達目標	心の構造と機能について説明できる。 心の健康・不健康について説明できる。 現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響があるか説明できる。 自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。 災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。 精神保健の概念について説明できる。 精神科看護師の役割について説明できる。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した遠隔授業である。 下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、体験談や事例を活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。 毎回の授業の最後に、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め(ワークシート/小テスト)。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「序章-I～IV(P.2～28)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
2	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前：教科書①「第1章I、II(P.30～74)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
3	心の健康とは何か(ストレスと健康、看護師のメンタルヘルス)	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSD、バーンアウトとその対処、看護職者の感情体験について理解する	事前：教科書①「第4章I～III(P.128～147)」「第5章I～IV(P.150～173)」「第6章I、II(P.176～232)」教科書②「第8章III(P.487～508)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
4	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神性的発達論について理解する。	事前：教科書①「第2章I～V(P.76～101)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
5	精神保健医療福祉の歴史の変遷	欧米、日本の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前：教科書①「第7章I、II(P.234～252)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
6	精神看護における法と人権擁護	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)について理解する。	事前：教科書①「第7章III(P.258～280)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
7	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持する上での困難について理解する。	事前：教科書②「第1章I～IV(P.2～20)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
8	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向	自立と社会復帰、地域生活支援、認定・専門看護師制度、触法精神医療など、精神障害者の保護・医療・福祉の現状について理解する	事前：教科書②「第7章I～III(P.384～450)」「第8章I、II(452～487)」を読んで来てください(1時間)。 事後：授業内容を教科書と照らし合わせ、整理しておいてください(1時間)。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
関連科目	精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健	佐藤 壹三	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	渡邊博幸	メヂカルフレンド社
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ワークシート(小テスト)を総合して判定する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。分からないところ、不明瞭なところがあればいつでも質問をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19(真野)			
備考	学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。			

科目名	精神看護学援助論 I	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子, 吉永 愛香
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2056a0		

授業概要・目的	精神看護を実践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者—看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者—看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者—看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるプロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者—看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。
到達目標	援助的人間関係に関する理論を理解する。 援助的人間関係に関する技術を身につける。 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。 精神科で行われている治療とその治療を受ける患者の看護について理解する。 精神科病棟で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、事例や精神科看護師の体験談等を活用し、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前:「第3章-II-B (P.73~78)」「第6章-II-A, E (P.290~306, 325~330)」を読んで来てください(1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。
2	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前:「第3章-II-D (P.83~91)」「第6章-II-B (P.306~330)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
3	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前:「第3章-II-B, D (P.73~78, 83~91)」「第6章-II-A, B (P.290~312)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
4	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前:「第3章-II-E, F (P.91~102)」「第6章-II-B, G (P.306~312, 338~344)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
5	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前「第3章-II-D (P.66~73)」「第6章-II-B, C (P.306~319)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
6	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前第3章-II-N (P.140~143)「第6章-II-H (P.345~351)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
7	援助的人間関係 (理論編 1)	患者-看護師関係の意義と特徴	事前:「第4章 (P.194~226)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
8	援助的人間関係 (理論編 2)	対人関係論、プロセスレコード	事前:「第4章 (P.194~226)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
9	援助的人間関係 (実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習	事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
10	援助的人間関係 (実践編)	プロセスレコードを記載する	事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
11	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返り、エゴグラム	事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
12	援助的人間関係 (実践編)	コミュニケーションスキルトレーニング演習 (症状への対応)	事前:「第6章-II-A (P.290~306)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
13	精神科治療と看護 (1)	薬物療法と看護	事前:「第3章-III-A (P.150~166)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
14	精神科治療と看護 (2)	精神療法、SST、心理教育、作業療法と看護	事前:「第3章-III-B, C, D (P.166~192)」を読んで来てください (1時間)。 事後:授業内容を整理しておいてください。(1時間)	
15	退院調整と地域生活支援・精神科救急に関する看護	精神障害者の退院促進と地域で生活していくための支援活動、精神科救急の現場で実践されている看護援助、精神科における看護師の役割・機能など	事後:授業内容を復習をしておいてください (1時間)。	

実務経験	
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論II、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社
2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店	
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle			
Teams コード	uox2xb4			
Moodle コース名 および登録キー	精神看護学援助論 I seisin1			
連絡手段	teams の質問チャンネル			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業内容の区切りで課題を提示します。 その提出物の内容及び提出状況について100点満点で採点し、60点以上で合格とします。			
学生への メッセージ	課題提出は、必ず締め切り日までに提出してください。 分からないところ、不明瞭なところがあれば、Teams の質問チャンネルにいつでも連絡をください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19 (眞野)、研究室18 (山本智)、共同研究室2 (吉永)			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 授業内容によっては、2コマ続きで授業を行う。			

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 智津子, 眞野 祥子, 吉永 愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2057a0		

授業概要・目的	本科目は、精神疾患と治療等の基本的な知識・技術をふまえたうえで、精神疾患を有する対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。これらの基礎知識を活用しながらペーパーペーシェントによる看護過程の展開を行い、対象をアセスメントする技術と必要な看護援助方法を理解する。 また地域で生活する精神障害者への支援体制について学ぶ。
到達目標	各精神疾患の症状、治療、看護援助方法について理解できる。 ペーパーペーシェントを通して、対象にとって必要な看護援助方法が理解できる。 地域における精神保健福祉活動が理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画にそって、ICTツールを活用した遠隔授業とする。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	疾患による看護の特徴(1)	統合失調症(者)の理解と看護	事前:「第6章Ⅱ-A(P290~306)」を読んでください(1時間)。 事後:「第6章Ⅱ-A(P290~306)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。
2	疾患による看護の特徴(2)	気分障害(者)の理解と看護	事前:「第6章Ⅱ-B・C(P306~319)」を読んでください(1時間)。 事後:「第6章Ⅱ-B・C(P306~319)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
3	疾患による看護の特徴(3)	神経症性障害(者)の理解と看護	事前:「第3章Ⅱ-E・F(P91~102)」を読んでください(1時間)。 事後:「第3章Ⅱ-E・F(P91~102)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
4	疾患による看護の特徴(4)	パーソナリティ障害・摂食障害(者)の理解と看護	事前:「第3章Ⅱ-N(P140~143)」「第6章Ⅱ-H(P345~351)」を読んでください(1時間)。 事後:「第3章Ⅱ-N(P140~143)」「第6章Ⅱ-H(P345~351)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
5	疾患による看護の特徴(5)	アルコール依存および薬物依存(者)の理解と看護	事前:「第3章Ⅱ-L(P126~132)」「第6章Ⅱ-F(P331~338)」を読んでください(1時間)。 事後:「第3章Ⅱ-L(P126~132)」「第6章Ⅱ-F(P331~338)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
6	疾患による看護の特徴(6)	身体合併症をもつ対象の看護	事前:「第6章Ⅲ(P363~379)」を読んでください(1時間)。 事後:「第6章Ⅲ(P363~379)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
7	ゲストスピーカー(当事者)の理解	ゲストスピーカー(当事者)の語り	事前:「第6章Ⅱ-A・B・C(P290~319)」を読んでください(1時間)。 事後:「第6章Ⅱ-A・B・C(P290~319)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
8	地域精神保健福祉活動の現状、他職種との連携	精神障害者の地域生活支援	事前:「第7章(P384~448)」を読んでください(1時間)。 事後:「第7章(P384~448)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
9	精神障害がセルフケアへ及ぼす影響のアセスメント	オレム・アンダーウッド理論と活用法	事前:「第5章(P228~259)」を読んでください(1時間)。 事後:「第5章(P228~259)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
10	事例演習(1)	情報収集と整理①	事前:「第5章(P228~259)」「第6章Ⅱ-A(P290~306)」を読んでください(1時間)。 事後:「第5章(P228~259)」「第6章Ⅱ-A(P290~306)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
11	事例演習(2)	情報収集と整理②	事前:「第5章(P228~259)」「第6章Ⅱ-A(P290~306)」を読んでください(1時間)。 事後:「第5章(P228~259)」「第6章Ⅱ-A(P290~306)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
12	事例演習(3)	アセスメント①	事前:「第5章(P228~259)」「第6章Ⅱ-A(P290~306)」を読んでください(1時間)。 事後:「第5章(P228~259)」「第6章Ⅱ-A(P290~306)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
13	事例演習(4)	アセスメント②	事前:「第5章(P228~259)」「第6章Ⅱ-A(P290~306)」を読んでください(1時間)。 事後:「第5章(P228~259)」「第6章Ⅱ-A(P290~306)」および授業内容を整理しておいてください(1時間)。	
14	事例演習(5)	問題点の整理	事前:「第6章Ⅱ-A(P290~306)」を読んでください(1時間)。	

				事後：「第6章Ⅱ-A (P290～306)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
	15	事例演習 (6)	看護計画立案 評価・修正	事前：「第6章Ⅱ-A (P290～306)」を読んでください (1時間)。 事後：「第6章Ⅱ-A (P290～306)」および授業内容を整理しておいてください (1時間)。
実務経験				
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神看護学②精神障害をもつ人の看護	岩崎弥生 (編集)	メヂカルフレンド社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	可否はレポートで評価する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室18 (山本智)、研究室19 (眞野)、共同研究室2 (吉永)			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。			

科目名	在宅看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	田中 結華
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2059a0		

授業概要・目的	在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、QOLの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。
到達目標	1. 在宅看護の目的と特徴を説明できる。 2. 在宅看護の歴史の変遷を説明できる。 3. 在宅看護の対象者について説明できる。 4. 在宅療養の支援と看護者の役割について説明できる。 5. 在宅看護を支える法、制度とその活用について説明できる。 6. 在宅看護におけるリスクマネジメントについて説明できる。 7. 在宅看護における倫理について説明できる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に行う。教科書を必ず参照すること。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネジメント方法などイメージが困難な学習には、動画や事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけること。復習時に理解の困難な用語や事柄については、ネット等を用いてもよいので、自分なりに調べ、また不明な点は質問するなど、主体的に学習に取り組むこと。事前・事後学習については、授業内で別途指示することがある。
科目学習の効果 (資格)	看護師の資格取得に必須の単位である。患者の入院から退院・退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけでなく、地域社会における役割と認識を深め、社会のニーズに即した専門職のあり方を持つことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	在宅看護の概念と歴史的経緯	地域における在宅看護 (訪問看護) のとは何か、その目的と特徴を学ぶ。また訪問看護の歴史を学ぶ。	事前: テキストの第1章を読んでおくこと。(1.5時間) 事後: 授業内容を整理しておくこと。
2	在宅看護の対象者	在宅看護の対象者の特徴、住まいや家族、地域の視点から理解する。家族関係を視覚化するエコマップについてワークを行う。	事前: テキストの第4章を読んでおくこと。(1.5時間) 事後: 授業内容を整理しておくこと。
3	在宅療養の支援と看護者の役割	在宅看護の提供方法である外来看護、訪問看護等の支援方法について学ぶ。	事前: テキストの第2章を読んでおくこと。(1.5時間) 事後: 授業内容を整理しておくこと。
4	在宅看護に関連する法と制度	在宅看護を支える法的基盤、介護保険等を含めた法と制度について学ぶ。講義、小グループ討議を中心に行う。	事前: テキストの第2章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間) 事後: 授業内容を整理しておくこと。
5	訪問看護サービスの提供	訪問看護サービスを提供するための訪問看護ステーションを主とした施設、訪問看護の機能について重点的に学ぶ。	事前: テキストの第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間) 事後: 授業内容を整理しておくこと。
6	在宅看護における社会資源の活用と多職種連携	在宅看護におけるさまざまな社会資源の活用と多職種との連携、地域のネットワーク作りについて学ぶ。	事前: テキスト第2章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間) 後: 授業内容を整理しておくこと。
7	在宅看護における看護の展開方法とリスクマネジメント	在宅看護における看護を展開する上で必要な視点と、リスクマネジメントを学ぶ。	事前: テキスト第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間) 事後: 授業内容を整理しておくこと。
8	在宅看護における倫理と権利保障	在宅看護学における倫理を、訪問看護の倫理と、個人情報保護、虐待なども含めて多様な視点で学ぶ。	事前: テキスト第3章の該当部分を読んでおくこと。(1.5時間) 事後: 授業内容を整理しておくこと。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
------	--

関連科目	家族関係論 公衆衛生看護学 専門科目の概論のすべて
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書在宅看護論	河野あゆみ編	メヂカルフレンド社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	《シリーズ ケアをひらく》在宅無限大 訪問看護師がみた生と死	村上靖彦	医学書院
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	オンライン上のテスト・レポート類、課題達成度、授業での参加度（掲示板やチャット上の質問・意見発信）で行う。オンライン上に提出したものを評価する。
学生への メッセージ	現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。病院看護との違いは、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習(事前・事後学習)を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。現在の感染症拡大 なお、指示した事前・事後学習を含め、自己学習には30時間以上をあてること。
担当者の 研究室等	7号館 3階 第9研究室 田中結華。
備考	毎回の授業ごとに、レポートを課す。また、随時小テストや課題を提示する。テキストの指示された部分はあらかじめ読み、不明な部分に下線を引くなどして準備をすること。授業を受けて、不明な部分やわかりにくい部分は、積極的に質問すること。また、学生同士で意見交換も行うこと。文献、資料等は授業でも紹介する。

科目名	在宅看護学援助論 I	科目名 (英文)	Home Care Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 足立 安正, 富永 真己, 安田 香, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2060a0		

授業概要・目的	在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。在宅療養者・家族の、健康、生活機能、および QOL の維持・向上のための支援方法について学ぶ。具体的には、在宅看護に必要な面接技術、さまざまな発達段階や健康障害（神経難病、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケアなど）を持つ人への在宅療養支援について、事例を通じて理解する。また、在宅療養者に必要な日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術を理解する。
到達目標	1. 在宅看護に必要な面接技術について理解できる。 2. 在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる。 3. 在宅療養者に必要な医療処置技術を理解できる。 4. さまざまな発達段階や健康障害における在宅療養支援について理解できる
授業方法と留意点	遠隔授業と対面授業を組み合わせる。講義と演習、グループワーク等により授業を行う。テキストおよび配付資料、視聴覚教材を用いて理解を深める。基礎看護技術、および各看護で学ぶ看護技術を基盤として、在宅療養の場でのどのように実践するかを深く考えて頂きたい。事例検討では、高度実践を専門的に行っている看護師を招いて学ぶ。授業へは主体的に取り組み、積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	在宅看護学学習に必要な技術、事例を学び、在宅看護学援助論 II での学習に関連づける。また、入院患者の退院後の生活に向けて支援する際に必要な知識・技能を習得することにつながる。看護師国家試験受験のために、単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション 在宅看護の場で必要な面接技術 (1)	在宅看護におけるコミュニケーションの特徴、面接技術、および訪問時のマナー・態度について学ぶ。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
2	在宅看護の場で必要な面接技術 (2)	在宅看護に必要な面接技術について演習課題に取り組む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
3	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (1)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
4	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (2)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
5	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (3)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
6	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (4)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
7	在宅看護に必要な日常生活援助技術 (5)	在宅看護に必要な療養環境の整え、食事、排泄、清潔、衣生活、活動と休息などの日常生活援助技術について学ぶ。事例に取り組み、在宅での具体的な援助方法について検討する。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
8	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (1)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
9	在宅療養におけるストーマケア、創傷管理 (褥瘡ケアを含む)、在宅中心静脈栄養法の技術 (2)	講義、および事例によって在宅におけるストーマケア、褥瘡を含む創傷管理技術について学ぶ。在宅中心静脈栄養法に伴う援助技術について学ぶ。皮下埋め込み式カテーテルの取扱いも含む。	<事前学習>事前に指定したテキストの該当部分を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>講義後のノート整理を行うこと(30分)
10	神経難病をもつ在宅療養者の看護	神経難病をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅人工呼吸器による呼吸療法についても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーとして、専門看護師大杉花先生 (拓海会訪問看護ステーション) による講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
11	COPD もつ在宅療養者の看護	COPD もつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、在宅酸素療法、呼吸器リハビリテーションについても合わせて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)
12	認知症をもつ在宅療養者の看護	認知症をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題>事例における援助のポイントを整理しておくこと。

				(30分)																
	13	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	精神疾患をもつ在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)																
	14	終末期にある在宅療養者の看護	終末期にある在宅療養者の看護について、事例に基づいて学ぶ。また、疼痛管理、看取りについても合わせて学ぶ。ゲストスピーカーとして、専門看護師船越政江先生(わたぼうし訪問看護ステーション)による講義と討議を行う。	<事前学習>テキストで事例、および各技術を予習しておくこと。(1時間) <事後課題> 事例における援助のポイントを整理しておくこと。(30分)																
	15	まとめ	まとめ 本授業科目での学びについてまとめる。	<事前学習>ノート、資料を整理しておくこと。(30分) <事後課題> 授業全体を復習し、筆記試験に備えること。(1時間以上)																
実務経験																				
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅱ、在宅看護学実習、地域看護学、家族看護学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系看護学全書在宅看護論</td> <td>河野あゆみ編</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術</td> <td>臺有桂他</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系看護学全書在宅看護論	河野あゆみ編	メヂカルフレンド社	2	ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術	臺有桂他	メディカ出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系看護学全書在宅看護論	河野あゆみ編	メヂカルフレンド社																	
2	ナーシンググラフィカ在宅看護論②在宅療養を支える技術	臺有桂他	メディカ出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>見てできる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナーシング</td> <td>東京訪問看護ステーション協議会</td> <td>学研メディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	見てできる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナーシング	東京訪問看護ステーション協議会	学研メディカル	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	見てできる臨床ケア図鑑在宅看護ビジュアルナーシング	東京訪問看護ステーション協議会	学研メディカル																	
2																				
3																				
授業形態	対面授業																			
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー	2020年度2年生 在宅看護学援助論Ⅰ 1234																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																			
評価方法 (基準)	講義・演習への参加態度30% (小テスト、ミレポート、グループワーク、レポート、発表等も含める) 筆記試験70% (但し、筆記試験の得点は60%以上取得を単位取得の必須条件とする)。なお、授業態度不良の場合は20%を上限に減点する 場合がある。 やむなく遠隔授業になった場合は、参加態度(内容は上記参照)で評価する。																			
学生への メッセージ	本授業では、在宅看護学概論を踏まえて、在宅援助方法のさまざまな技術を学びます。原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。 ・授業担当の田中結華は、総合病院で4年間の看護師経験を有する。富永真己は、看護師1年と保健師15年の経験を有する。山本十三代は、総合病院で保健師として15年、うち訪問看護ステーションでの5年、外来看護3年の経験を有する																			
担当者の 研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本 十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第22研究室 安田 香 7号館 3階 共同研究室1																			
備考																				

科目名	在宅看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Home Care Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 十三代, 田中 結華, 安田 香
ディプロマポリシー(DP)	DP2○, DP3◎, DP4○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2061a0		

授業概要・目的	<p>在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰの既習知識を活用し、様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者・家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ。</p> <p>講義でCOPDを発症している事例で看護展開をデモンストレーションする。グループ学習では、3事例(脳梗塞後遺症のある事例、ALSを発症し人工呼吸を装着している事例、肝臓がんの終末期の事例)のうち1事例を看護展開していく。また、チームアプローチの一手段としてサービス担当者会議をロールプレイングして多職種連携の重要性を学ぶ。</p> <p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者・家族を1単位とした看護過程の展開について学ぶ 在宅看護実践の特徴と在宅で実施する援助技術が安全、安楽にできるための方法論、在宅看護の役割について学ぶ。 系統的チームアプローチの実践について学び、多職種連携の重要性を学ぶ。 			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 在宅における看護過程の展開を理解できる <ol style="list-style-type: none"> 事例に基づいて、情報収集の視点の必要性を理解できる 対象を生活者として捉え、アセスメントする必要性を理解できる 療養者、家族介護者に無理のない計画内容で立案できる 計画内容の実践シミュレーションを計画できる(援助計画) シミュレーションに沿った援助の実践と評価ができる 看護計画の実践、評価から、適宜、修正することの必要性を理解できる 既習の学習で修得した日常生活援助技術を、在宅という生活環境の中で 			
授業方法と留意点	<p>この授業は、演習科目です。以下のことを留意して受講してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前学習、課題を通して講義内容の理解ができるようにしてください。 家族看護学で学んだジェノグラム、エコマップ、家族看護理論については理解しておくこと。 全て、moodleでの演習となります。個人ワークが基本ですが、教員のコメントをよく見て耳を傾けることが大切になる授業展開になります。 			
科目学習の効果(資格)	在宅看護学実習及び他の看護学領域実習に必要な「知識・技術・態度」を身につけることができる。看護師国家試験受験のために単位取得が必要である。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義:2コマ続き 家族を集合体とした看護過程の展開	事例紹介(COPDの療養者) 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れを示す	事前:看護過程の構成要素について復讐しておくこと(30分) 事後:本日の事例展開について見直しをしておく(30分) グループ学習での事例については、提示した課題をすること(3時間)
	2	同上	同上 次回から検討する事例と担当教員について発表する。	同上
	3	演習: 情報の整理、全体像の把握、問題点の明確化	脳梗塞事例: ALS事例: 肝臓がん事例: 教員別に分かれてグループ学習を進めていく。 個人学習を基に、情報の整理、全体像の把握、問題点を明確にする。 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進める。	事前:上記の課題を必ずして参加する。個人学習は授業終了後提出 事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
	4	演習: 同上	同上	同上
	5	演習: 看護計画の立案、具体的援助計画の立案	個人学習を基に、看護計画の立案、具体的援助計画の立案を行う。	事前:上記の課題を必ずして参加する。個人学習は授業終了後提出 事後:グループワークの内容の整理を行う(30分) 提示した課題をすること(3時間)
	6	演習: 同上	同上	同上 中間発表に向けて、グループ学生同士のディスカッションをしておくこと(30分)
	7	演習: 具体的な援助内容の決定と計画の修正	全体像、問題点、看護計画、具体的な援助内容(必要物品、手順、評価方法)について発表し、意見交換する。実演する援助内容について実演へ向けて準備する。	事後:実演へ向けて、グループ内でディスカッションおよびシミュレーションをしておく(2時間) 援助計画については、頭に入れておく グループの援助計画を担当教員に提出
	8	演習 援助技術の改善と訪問看護の実際	前半、後半グループに分かれる。援助計画に沿った援助を視聴し、創意工夫された、療養者にとって最良の援助について検討する(50分)。 訪問看護場面を想定し、バイタルサイン測定から援助、訪問終了の一連の流れを視聴する(40分)。	事前:グループで準備する物品の確認をグループ内で行う(30分) 事後:実演後の看護技術の評価をグループ学生間で行う(1時間)
	9	同上	同上	同上
	10	演習: 実演内容と評価の準備	実演の評価を行う。 資料をパワーポイントで作成する。	事後:グループ発表に向けてグループ学生間でディスカッションしておく(1時間) 指示された期日に発表資料を担当教員に1部提出 他のグループの発表資料に目を通し質問できるようにしておく(1時間)
	11	演習: 実演内容と評価	担当教員ごとのグループ内で意見を交換する	事後:1回~11回までの看護過程の展開の一連の流れについて整理する(1時間)

				ジェノグラム・エコマップについて復習しておく(1時間) 提示した課題を行う(1時間)																
	12	演習: チームアプローチの実際 サービス担当者会議	同事例に関わる社会資源をエコマップに起こし、それぞれの支援内容について検討する。	事前在宅看護学概論で作成した「在宅ケアマネジメント」を復習しておく(30分) 事後:本日の内容を整理する(1時間)																
	13	演習:2コマ続き サービス担当者会議の準備	社会資源の関係職種になり切り、教員が提示した問題について、思いや対応についてとサービス担当者会議に期待することをレポートする。	事前:サービス担当者会議について復習する(30分) 事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出																
	14	演習: サービス担当者会議の視聴	関係職種になり切り、サービス担当者会議場面を視聴する。問題解決につながるようすすめる(30分)。 サービス担当者会議終了後、演じた職種としての感想と訪問看護師の役割についてレポートする(60分)。	事後:授業中作成のレポートは授業終了後提出 提示した在宅看護実践のまとめの要点について、1回~14回で学んだ事と教科書等を参考にまとめる(2時間)																
	15	在宅看護学演習のまとめ 事例を用いた看護過程の展開と演習から学んだこと-意見交換-	在宅看護援助技術 地域で生活を支えるということ 家族、多職種との関わり方についてのまとめ	事前:在宅看護実践に対して自分なりの意見を持って参加する。 事後:指示された期日に最終レポート課題に沿って作成し、今までの課題を綴じた個人ファイルとともに提出する(4時間)																
実務経験																				
関連科目	家族関係学、家族看護学、地域看護学、在宅看護概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学実習、他領域の看護学、専門基礎科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 「在宅看護論」</td> <td>河原加代子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ナーシング・グラフィカ「在宅看護論② 在宅療養を支える技術」</td> <td>臺有桂</td> <td>MC メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>根拠のわかる在宅援助技術</td> <td>正野逸子</td> <td>メジカルフレンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 「在宅看護論」	河原加代子	医学書院	2	ナーシング・グラフィカ「在宅看護論② 在宅療養を支える技術」	臺有桂	MC メディカ出版	3	根拠のわかる在宅援助技術	正野逸子	メジカルフレンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座 「在宅看護論」	河原加代子	医学書院																	
2	ナーシング・グラフィカ「在宅看護論② 在宅療養を支える技術」	臺有桂	MC メディカ出版																	
3	根拠のわかる在宅援助技術	正野逸子	メジカルフレンド社																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>写真でわかる訪問看護</td> <td>押川眞喜子</td> <td>インターメディカ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる在宅看護</td> <td>角田直枝</td> <td>GaKKen</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>継続看護マネジメント</td> <td>長江弘子</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ	2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen	3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディカ																	
2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen																	
3	継続看護マネジメント	長江弘子	医歯薬出版																	
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																			
評価方法 (基準)	13の課題提出、演習への参加姿勢(ピア評価)、演習を終えての課題レポートで評価を行う																			
学生への メッセージ	グループ学習は、個人の事前・事後学習を通しての参加意識が学習成果に影響します。グループで取り決めた到達目標、自己役割を果たし在宅看護の展開方法や必要な医療処置やセルフケア力が発揮されるような支援方法について学習しましょう。 授業主担当の山本十三代は、保健師として慢性期病棟に5年、外来、訪問看護室に8年勤務した経験から、在宅看護実践の展開方法について、また、継続看護、多職種連携の中の訪問看護師の果たす役割について教育します。																			
担当者の 研究室等	山本十三代 7号館 3階 第5研究室 田中結華 7号館 3階 第9研究室 安田香 7号館 3階 共同研究室1																			
備考	演習内容によっては、2コマ続きがあります。時間割の確認を怠らないことと全出席ができるように体調管理・生活管理をしてください。																			

科目名	公衆衛生看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Public Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP5△, DP6◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2063a0		

授業概要・目的	地域で生活するあらゆる年代のあらゆる健康レベルの人々を対象とする公衆衛生看護について、その歴史的な変遷と成り立ちについて学ぶ。また社会環境の変化に影響を受け発展した、公衆衛生看護の基本となる概念と理論、ヘルスケアシステムと地域保健サービスの仕組みについて講義を通じて学び、地域看護のあり方を考える基礎的な内容を理解する。さらに、ヘルスプロモーションの理念とそれに関わる保健・医療・福祉制度の概要とともに保健師等の地域で活躍する看護職の活動について学び、公衆衛生看護における対象と活動分野について理解を深める。保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護学の実例を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	1. 公衆衛生看護の歴史的な変遷と社会環境の変化による影響を踏まえ、その基本的な概念とヘルスプロモーションの理念について理解できる。 2. 地域で暮らす人々の健康問題を理解するとともに、プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションの理念に基づき展開される活動について説明できる。 3. 公衆衛生看護活動に関わる法制度と地域保健医療福祉システムを理解し、その目的と活動の基本的なプロセスについて説明できる。 4. 地域住民の健康と生活を支援するポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチをはじめ、保健師の活動
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義中心に行う。また、一部グループワークを取り入れ、理解を深める。教科書は必ず毎回、持参すること。適宜資料を配布するが、配布された資料も毎回持参すること。昨今の社会の時事やニュース、視聴覚教材などを利用し、事例なども紹介しながら、学生の参加を促し授業を進行する。
科目学習の効果 (資格)	保健・医療・福祉制度の概要とともに地域における看護職の活動を理解することで、今後、さらなる活躍が期待される地域包括ケアシステムの看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	公衆衛生看護学オリエンテーション、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動	公衆衛生看護学オリエンテーション(カリキュラム上の位置づけと保健師免許、国家試験について)、公衆衛生看護学の概念と保健師の活動の場と対象、日本の健康政策について	事前:保健福祉行政及び家族看護学についてテキストを読んできると同時に、関係する資料を調べて読み予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。
2	公衆衛生看護の歴史の変遷	公衆衛生看護の歴史の変遷(諸外国の公衆衛生看護、日本特有の公衆衛生看護活動体制と法、保健所と保健師の活動体制、新たな保健師活動への指針)	事前:テキストP13~63, 69~82を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
3	疾病予防、国内のヘルスプロモーションと公衆衛生看護	ヘルスプロモーションと公衆衛生看護(プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションと「健康日本21」、日本におけるヘルスプロモーションの取り組みと成果)	事前:テキストP13~92, 196~200, 218~223, 261~275を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
4	ヘルスプロモーションの理論と方法	ヘルスプロモーションの展開(ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、国の政策と保健事業)	事前:テキストP13~92, 196~200, 218~223, 261~275を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
5	保健行動と保健活動の理論と方法	保健行動と保健活動の理論とモデルと実際の取り組み(成人保健活動より)、保健指導と健康教育概論	事前:テキストP13~92, 196~200, 218~223, 261~275を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
6	公衆衛生看護活動 - 1	公衆衛生看護活動 - 1 保健指導と家庭訪問、健康相談、健康診査の概要	事前:テキストP64~67, 177~193, 208~211を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
7	公衆衛生看護活動 - 2	公衆衛生看護活動 - 2 対象別の公衆衛生看護活動(人々の発達段階に応じた看護活動、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動)	事前:テキストP227~242, 262~268, 283~286を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
8	公衆衛生看護活動方法 - 3	公衆衛生看護活動 - 3 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動(精神保健・感染症概論)	事前:テキストP338~344, 350~356, 357~362, 369~371を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
9	公衆衛生看護活動方法 - 4	公衆衛生看護活動 - 4 健康レベルに応じた公衆衛生看護活動(結核・難病概論)	事前:テキストP378~383, 306~312を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
10	公衆衛生看護活動 - 5	公衆衛生看護活動 - 5 グループ支援・組織化・地区組織活動	事前:テキストP149~171を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
11	公衆衛生看護活動 - 6	公衆衛生看護活動 - 6 地域診断の概要(地域診断の定義、地域診断の意義と目的、地域診断の理論とモデル、地域診断の方法)、地区踏査	事前:テキストP97~116を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	
12	公衆衛生看護活動 - 7	公衆衛生看護活動 - 7 公衆衛生看護と医療経済、保健事業の計画策定と施策化、予算の仕組み、評価	事前:テキストP42~48, P128~147, P487~488を読んできると同時に、関係する資料を調べ予習する(2時間)。 事後:ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める(2時間)。	

				理し、理解を深める (2 時間)。 事前：テキスト P447～469 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。																
	13	産業保健 1	産業保健 1 (産業保健・産業看護の理念と我が国の実態)	事前：テキスト P447～469, 433～446 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。																
	14	産業保健 2・学校保健	産業保健 2・学校保健 (学校保健と養護教諭の役割・活動の実際)	事前：テキスト P515～526 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。																
	15	これからの保健師活動	保健師を取り巻く状況とこれからの公衆衛生看護活動	事前：テキスト P447～469, 433～446 を読んでくると同時に、関係する資料を調べ予習する (2 時間)。 事後：ミニレポートを提出する。また授業内容を整理し、理解を深める (2 時間)。																
実務経験																				
関連科目	公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、家族看護学、その他各領域の看護学概論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公衆衛生看護学.jp 改訂第 4 版</td> <td>荒賀直子, 後閑容子</td> <td>インターメディカル</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民衛生の動向 2018/2019</td> <td></td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	公衆衛生看護学.jp 改訂第 4 版	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル	2	国民衛生の動向 2018/2019		厚生労働統計協会	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	公衆衛生看護学.jp 改訂第 4 版	荒賀直子, 後閑容子	インターメディカル																	
2	国民衛生の動向 2018/2019		厚生労働統計協会																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																			
Teams コード	ozu4m4a																			
Moodle コース名および登録キー	0552																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	遠隔授業の際は「課題・レポート類」をもって評価する。授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は公衆衛生看護の実務者である保健師として 10 年以上の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、テキストを使用しますので必ず毎回持参してください。 ・また保健福祉行政論及び家族看護学の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようにして下さい。 																			
担当者の研究室等	富永真己 7 号館 3 階研究室 7																			
備考	追加の文献や資料などは授業中に紹介します。																			

科目名	看護研究 I	科目名 (英文)	Nursing Research I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子, 青野 美里, 足立 安正, 飯田 恵子, 池田 友美, 泉川 孝子, 井田 歩美, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 今井 秀人, 小川 宣子, 鎌田 佳奈美, 神谷 美紀子, 亀田 直子, 北村 敦子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 竹下 裕子, 但馬 まり子, 田中 真佐恵, 田中 結華, 富永 真己, 中山 祐一, 長沢 美和子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子, 舟木 友美, 松田 千登勢, 松本 葉子, 眞野 祥子, 村瀬 由貴, 森谷 利香, 安田 香, 柳本 広二, 山本 智津子, 山本 十三代, 吉永 愛香
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP7△		
科目ナンバリング	NDN3069a0		

授業概要・目的	授業では、卒業研究を行うにあたり、研究とは何か、関心のあるテーマをどのように絞り込むのか、研究目的をどのように立てるのか、データをどのように収集するのか、集めたデータをどのように分析・解釈するのか、研究倫理とは何かなど、研究計画の立案に向けて研究の基本的事項を講義形式で身につける。
到達目標	研究の意義、目的、方法、プロセスなどを理解し、研究のイメージが具体的に描けるようになる。研究計画書が書けるようになる。研究倫理の意味と重要性を理解し、研究不正の重大性を認識できるようになる。
授業方法と留意点	遠隔授業で行う。
科目学習の効果 (資格)	研究の具体的プロセスと各段階で何をすればよいかわかるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	研究とは何か	研究の概要と研究テーマ	・第1回学習内容について教科書 p1-10, p37-41 を読むこと (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所 p12-18 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	2	研究テーマを決める (1)	概念図を描く	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・本日の学習内容をよく復習し、次回の演習に備えること (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	3	研究テーマを決める (2)	概念図を描く (演習)	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p31-36 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	4	研究の倫理 (1)	研究倫理の歴史	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・本日の学習内容をよく復習し、次回に備えること (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	5	研究の倫理 (2)	研究の倫理的配慮と科学的姿勢	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p. 44-51 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	6	文献の検索方法 (1)	主な文献検索ソフトの使い方	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・本日の学習内容をよく復習し、次回の演習に備えること (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	7	文献の検索方法 (2)	文献検索演習	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p130-132 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	8	量的研究 (1)	研究論文の構成と内容	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p52-59, p133-138 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	9	量的研究 (2)	文献の読み方、論文の書き方	・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p72-78 を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)

	10	量的研究 (3)	質問票のつくり方	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p84-90, p130-132を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	11	質的研究 (1)	研究論文の構成と内容	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p90-102を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	12	質的研究 (2)	インタビューガイドとデータ分析	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p90-102を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	13	質的研究 (3)	データ分析演習	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書 p19-30を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	14	研究計画書の書き方 (1)	概略と事例	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
	15	研究計画書の書き方 (2)	研究計画書作成演習	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習内容を授業資料と教科書で復習すること (30分) ・次回学習内容について教科書の該当箇所を読むこと (30分) ・わからない点を次回までに解決しておくこと (適宜)
実務経験				
関連科目	疫学、統計の基礎			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題で評価する。60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	・授業では、最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。			
担当者の 研究室等	7号館3階24			
備考				

科目名	周産期医学	科目名 (英文)	Perinatal Medicine
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	西村 史朋, 河田 興, 齊藤 三佳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3073a0		

授業概要・目的	最新の周産期医療現場で必須の知識を修得し、異常に対する診断および治療法を理解する。 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。演習では新生児蘇生を学ぶ
到達目標	1. 周産期医療で必須の知識を修得する。 2. 異常に対する診断および治療法を理解する。 3. 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。 4. 演習では縫合術と新生児蘇生 (NCP R) を習得する。
授業方法と留意点	産科：集中講義の形で授業になるため、知識や技能の修得や定着のために時間を割くことが難しい。事前の学習が必須であるため、かならず事前課題の確認を行うこと。 新生児科：テキストおよび配布するプリント等により授業を行います。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験に合格するとともに、実際の現場で異常を察知し対応できるように、知識ならびに手技・手法を身に付ける

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	周産期医学とは	産婦人科から見た周産期についての概略と歴史、母子手帳の変遷と妊婦の健診について	事前課題：自分の出生の聞き取り (1時間) 事後：講義の復習 (1時間)
2	新生児の異常兆候	新生児の異常兆候	事前：なし 事後：講義の復習
3	妊娠による母体の変化と異常-1	妊娠による母体の変化と異常 (初期：悪阻、切迫流産、流産、異所性妊娠、胎状奇胎) 実技：縫合練習	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
4	新生児蘇生	新生児蘇生について、演習含む	事前：なし 事後：講義の復習
5	新生児の疾患-1	呼吸器疾患、分娩外傷、感染症など	事前：なし 事後：講義の復習
6	妊娠による母体の変化と異常-2	妊娠による母体の変化と異常 (中期：切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群、後期：子宮内胎児発育制限、血液型不適合、感染症) 実技：縫合練習	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
7	分娩の生理と異常-1	分娩の生理と異常 (分娩の三要素とそれらの異常、対処方法...胎位異常、微弱陣痛、遷延分娩、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、肩甲難産)	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
8	分娩の生理と異常-2	分娩の生理と異常 (産科救急：分娩時出血、妊娠合併症、アナフィラキシー、意識消失)	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
9	新生児疾患-2	循環器疾患、消化器疾患、血液疾患など	事前：なし 事後：講義の復習
10	周産期を取り巻く状況について	産科合併症や社会的な問題に助産師が対処してゆくために必要な知識と問題点について。	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
11	ハイリスク新生児とその対応	ハイリスク新生児とその対応 (低出生体重児・早産児を含む)	事前：なし 事後：講義の復習
12	産褥期の異常-1	産褥期の異常-1 (子宮内反症、子宮破裂、羊水塞栓、産科的異常出血) 実技：縫合実習)	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
13	妊娠合併症	妊娠合併症 (妊娠糖尿病、甲状腺機能異常、浮腫、マイナートラブル)	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
14	合併症妊娠	合併症妊娠 (感染症：HIV, HTLV, GBS, クラミジア、麻疹、ムンプス、リンゴ病。心疾患、腎疾患、免疫疾患)	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)
15	周産期の話題	周産期の話題とこれからの助産師のありかた	事前課題：臨床ケース検討 (1時間) 事後課題：講義の復習 (1時間)

実務経験	
関連科目	助産学概論、母性看護学援助論 I、母性看護学概論、母性看護学援助論 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	目でみる妊娠と出産 (Visual series)	馬場 一憲	文光堂
2	日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト 2015 改訂版	細野 茂春	メジカルビュー社	
3	新生児学入門第 4 版	仁志田 博司	医学書院	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	産科：事前課題の提出（10%）、授業への参加（10%）、および試験（80%） 新生児科：講義内で行う小テスト等、および演習への参加意欲などにより評価します。
学生への メッセージ	産科：集中講義と演習になりますので、密度の高いものにするために事前の準備や知識の整理が必要です。事前課題に取り組む中、あるいは、今までの実習などを通して抱いた疑問をしっかりと持って講義に参加してください。 新生児科：正しい知識に基づいた、自ら考える医療を実践するために、新生児時期の特徴的な疾患と病態を理解し学習しましょう。
担当者の 研究室等 備考	1号館2階 非常勤講師室

科目名	助産学概論	科目名 (英文)	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川 孝子・井田 歩美・但馬 まり子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3074a0		

授業概要・目的	この授業では、助産を中核として妊産婦の周辺にも目を向け女性の健康問題について、健康状態を良好に保持・増進できるように取り組む。また助産の理論を元に助産ケアの実践能力の理解を深め、専門職として社会から期待される助産師の役割について考える。
到達目標	1. 出産時の支援を中核とした、次世代の健全育成について考えることができる。 2. 出産の変遷を知り、助産師の役割を認識することができる。 3. リプロダクティブヘルスにおける諸問題と課題について理解できる。 4. 助産学における対象を理解するための理論と、関連する学問領域と探求方法が理解できる。 5. わが国と諸外国の母子保健の動向や諸制度について理解できる。 6. 助産師の倫理綱領について理解し、専門職としての責務について考えることができる。
授業方法と留意点	講義とグループワークを中心に進めていきます。毎回の講義の振り返りをしてください。
科目学習の効果 (資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	助産と概念	助産とは何かを軸に、助産の起源、概念の変遷と社会的背景の関連について述べる。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる (第1章 A) 事後学習課題：講義内容を整理する (前後、各1時間)
2	助産に関する概念と理論	助産に関係する概念 (リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーなど) と、助産診断について概説する。助産学を構成する理論について学習する。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる (第1章 B) 事後学習課題：講義内容のキーワードについて整理する (前後、各1時間)	
3	助産師の歴史と文化	助産の歴史、助産習俗について理解を深める。分娩が医師の行う産科学と助産師の助産学に分かれ、現代の分娩へと至る経緯を理解する。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる (第6章 ABCD) 事後課題：講義内容の整理する (前後、各1時間)	
4	助産と法律	助産師をとりまく法律について理解し、助産業務に関する法律について考える。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる (第2章 AB) 事後学習課題：講義内容を整理する (前後、各1時間)	
5	助産師と教育	助産師教育の変遷からの学びを深め、これからの助産師のあり方を考える。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる (第7章 AB) 事後学習課題：講義内容を整理する。 (前後、各1時間)	
6	日本と諸外国の母子保健-1	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる (第5章 AB) 事後学習課題：講義内容を整理する (前後、各1時間)	
7	日本と諸外国の母子保健-2	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前学習：テキストの該当部分を読んでくる (第5章 AB) 事後課題：講義の整理と課題を調べる。 (前後、各1時間)	
8	助産師と倫理	今日の倫理的課題と助産師の役割・職業倫理 専門職のあり方と助産業務について考える。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる (第4章) 事後学習課題：講義内容を整理する (前後、各1時間)	
9	グループワーク 1	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス (DV含む) についてグループワークをする	事前課題：グループワークに必要な課題を準備する 事後学習課題：グループ討議の内容を整理し発表資料を作成する (前後、各1時間)	
10	グループワーク 2	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス (DV含む) についてグループワークをする	事前課題：グループワークに必要な課題を準備する 事後学習課題：グループ討議の内容を整理し発表資料を作成する (前後、各1時間)	
11	代替医療と助産ケア-1	西洋医学を基盤とし、代替医療と助産ケアについて理解する。 *アロマセラピー 講師：アロマセラピスト	事前学習：配布資料を読んでくる 事後課題：講義、演習内容の整理 (前後、各1時間)	
12	代替医療と助産ケア-2	西洋医学を基盤とし、代替医療と助産ケアについて理解する。 *アロマセラピー 講師：アロマセラピスト	事前課題：配布資料を読んでくる 事後学習課題：講義、演習内容、助産ケアについて整理する (前後、各1時間)	
13	グループワークの発表	グループ発表の内容から、我が国の助産師に期待されること、専門職としての課題について考える。	事前課題：発表課題について準備する (9、10回) 事後学習課題：発表、討議内容について整理する (前後、各1時間)	
14	助産と研究-1	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	事前課題：テキストの該当部分を読んでくる (第3章 B) 事後学習課題：講義内容を整理する (前後、各1時間)	
15	助産と研究-2	エビデンスは助産ケアをよりよく行う	事前課題：テーマに沿って文献検索を行い1論文を	

			ための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	準備する 事後学習課題：講義、討議内容について整理する (前後、各1時間)
実務経験				
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、周産期医学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎助産学Ⅰ 助産学概論	我部山キヨ子 他	医学書院
	2	基礎助産学〔2〕 母子の基礎科学〔第5版〕	我部山キヨ子／武谷雄二 編集	医学書院
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	試験 70%、グループワーク・課題発表 30%			
学生への メッセージ	助産師を目指す皆さんと、多様なニーズを持つ女性への支援、周産期の母子や家族の健康や、自然な分娩、母乳育児への安全で快適なケアの在り方について考えていきましょう。授業担当の各教員は、総合病院で助産師として6～10年間勤務した経験から、助産学に関する実践的な教育を行う。			
担当者の 研究室等	7号館3階 泉川（研究室15）、井田（研究室12）、但馬（研究室20）、井康子（アロマセラピスト：学外講師）			
備考				

科目名	学校保健	科目名 (英文)	School Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	吉田 順子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3082a0		

授業概要・目的	学校保健では、子どもが自己実現を図り、生涯に割って健康・安全で活力ある生活ができるように主体的な健康づくりをめざす。そのためには、学校教育のみならず地域・家庭及び社会が連携協力しながら推進していかなければならない。学校で行われている健康の保持増進に関する基本的事項を理解するとともに学校保健の理念、健康管理、健康教育を履修する。地域社会と看護の発展に貢献する意思をもち、看護職として自己研鑽の姿勢を身につける。
到達目標	学校保健の構造とその領域及び内容を理解する。学校教育における児童・生徒の発育発達や健康課題を理解し健康管理や健康教育に関心を持ち、学校保健活動において看護の専門性に基ついた知識、技術、科学的な理論を生かした養護教諭の専門性について主体的に考えることができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いた遠隔授業を基本とする。 事前事後の学習は必要です。
科目学習の効果 (資格)	養護教諭2種免許

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションと学校保健の概念	学校保健の構造と内容	学校保健とは何か シラバスを事前に読んでおくこと。
2	学校教育と学校保健	学校保健に関する法律・制度の変遷	学校保健安全法にはどのようなことが書かれているか読んでおくこと。	
3	児童生徒の健康課題	児童生徒の今日の健康課題を取り巻く社会環境がもたらす要因も含めて考える	現代の子供に多い病気と健康障害、学校での対策を調べておくこと。	
4	保健管理	健康観察、健康相談、各健康診断、の実際と事後措置の内容について 感染症の予防について 確認テストを行う	学校での健康診断の項目について調べておくこと 子どもがかかりやすい感染症はどのようなものか調べておくこと	
5	学校における保健教育	保健学習と保健指導 グループワークとプレゼンテーション	近年の学習指導要領の動向について調べておくこと。	
6	学校環境衛生の意義と実際	法的根拠および、学校環境衛生基準と検査項目について 確認テストを行う	学校保健安全法の学校環境衛生基準を読んでおくこと。	
7	特別支援教育	健康・発達・行動上の課題を有する子供への支援	学習指導要領の特別支援教育を読んでおくこと。	
8	学校安全及び学校の危機管理 まとめ	安全教育と災害における対応	近年の安全教育と災害対応の動向について調べておくこと。	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 学校保健	徳山美智子他	東山書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題レポート (50%) 小テスト (50%) で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	

科目名	産業保健	科目名 (英文)	Occupational Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3083a0		

授業概要・目的	様々な産業分野で働く人々の健康にかかわる学問である産業保健について、歴史と関連法規と制度、活動について学ぶ。同時に、昨今の産業保健における課題について、事例などを通じて考察し、理解を深める。また、国内における労働衛生管理体制、労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) 等の体制・制度と、人々の健康の保持・増進と疾病予防、産業保健スタッフの一員である看護職の役割と支援方法について理解する。さらに具体的な活動方法論について、事例を用いたグループワークによる演習を取り入れながら学ぶ。産業保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、産業保健活動の実例を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	1. 産業保健の基本理念と制度、労働と健康との関わりについて理解できる。 2. 働く人々の労働と健康について支援する看護職の活動について理解できる。 3. 国内の産業保健活動における課題について十分に理解し、授業を通じて課題について考察できる。
授業方法と留意点	この授業は遠隔授業の形態で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションの形式を用いる。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。 昨今の社会の時事やニュース、例なども紹介しながら、授業を進行するため、それらに日々関心をもってふれるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	今後、さらなる活躍が期待される職域の看護職の役割について理解を深め、考察することができる。 保健師・看護師・助産師国家試験においても出題される分野であり、試験対策として知識を習得する必要がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規と制度1	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規について既習内容を含め学ぶ。	教科書 p448-452 を読んで、看護関係法規と関係する法律についてこれまで学んだ授業の内容と重なる部分について確認する。(事前事後各1時間)
2	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規と制度2	産業保健の概念と歴史の変遷から発展してきた産業保健の関連法規について既習内容を含め学ぶ。	教科書 p453-457 を読んで、確認し、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
3	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わり、国内の産業保健活動における課題1	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わりについて、国内の産業保健活動の実際を学び、課題について考察する。	教科書 p458-460 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
4	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わり、国内の産業保健活動における課題2	職業性疾患や作業関連疾患等の疾患と労働との関わりについて、国内の産業保健活動の実際を学び、課題について考察する。	教科書 p461-463 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
5	産業保健に関する各種体制・制度と、組織と産業保健スタッフの役割と取り組み1	産業保健に関する各種体制・制度とともに、組織の産業保健活動に関わる産業保健スタッフの役割と取り組みについて学ぶ。	教科書 p465-467 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
6	産業保健に関する各種体制・制度と、組織と産業保健スタッフの役割と取り組み2	産業保健に関する各種体制・制度とともに、組織の産業保健活動に関わる産業保健スタッフの役割と取り組みについて学ぶ。	教科書 p448-468 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
7	看護職の役割と支援方法、具体的な活動1	看護職の役割と支援方法、具体的な産業保健活動について学ぶ。さらに事例を紹介し、事例を用いたグループワークによる演習を通じて理解を深め、課題を考察する。	教科書 p448-468 を読んで、関連する内容について新聞や図書などで関心を持った部分を読んでくる。(事前事後各1時間)
8	看護職の役割と支援方法、具体的な活動2とまとめ	看護職の役割と支援方法、具体的な産業保健活動について、事例を用いたグループワークによる演習を通じて理解を深め、課題を考察する。また全体の学びを振り返り、理解を深める。	前回の授業の復習をすると同時に、教科書 p448-468 を読んで、国内の産業保健活動における課題について考察してくる。(事前事後各1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験

関連科目 公衆衛生学、医療経済論、保健医療福祉行政論、その他各領域の看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習1、公衆衛生看護学実習2

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp 第4版 データ更新版	荒賀直子、後閑容子 (編)	インターメディカル
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働衛生のしおり 令和元年度版	中央労働災害防止協会	中央労働災害防止協会
2	産業看護学	河野啓子	日本看護協会出版会	
3				

授業形態

Teams コード

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業の各回で提示される課題・ミニレポートなどの提出物で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。
学生への メッセージ	産業保健師として10年以上の豊富な実務経験をもつ教員が担当し、産業保健活動の実例を紹介しながら授業を進行します。授業では、テキストや資料を使用しますので、毎回必ず持参してください。また社会で日々起っている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれインターネット情報だけに偏らない・頼らない習慣を持つようにして下さい。
担当者の 研究室等	富永真己 7号館3階研究室7
備考	本授業では授業での発言や取り組みの姿勢も評価の対象とします。そのため、本授業では座席を指定とすることがあります。追加の文献や資料などは授業中に紹介します。

科目名	保健統計学	科目名 (英文)	Health Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期前半	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3084a0		

授業概要・目的	授業では、集団の健康状態や疾病の分布、およびその関連要因を明らかにするために用いられる健康指標や統計手法の基本的事項について体系的に学ぶとともに、行政統計の概要と実際について学ぶ。
到達目標	t検定、 χ^2 乗検定などの基本的な統計とその基礎事項について体系的に理解でき、その意味がわかる。 厚生統計についての理解が深まる。
授業方法と留意点	遠隔授業を行う。講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	基本的な統計の意味を理解し、統計を適切に利用することができる。 厚生統計についての理解が深まり、結果の適切な解釈と利用ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	統計の基本	データの種類の確率分布	(事前)教科書 p12-22, p41-47 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
	2	推定	母集団の平均値と割合の推定	(事前)教科書 p68-72 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
	3	検定 (1)	パラメトリック検定 (比例尺度・間隔尺度)	(事前)教科書 p72-90 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
	4	検定 (2)	ノンパラメトリック検定 (順序尺度)	(事前)教科書 p94-98 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
	5	検定 (3)	ノンパラメトリック検定 (名義尺度)	(事前)教科書 p102-106 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
	6	相関と回帰	相関係数、散布図、回帰式	(事前)教科書 p53-65 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
	7	厚生統計の概要	国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査など	(事前)教科書 p148-182 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
	8	厚生統計の実際	厚生統計の実際について学ぶ	(事前)前回授業の配布資料と教科書 p148-182 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料で復習すること (30分)
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

実務経験	
関連科目	統計の基礎

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ていねいな保健統計学	白戸亮吉、鈴木研太	羊土社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厚生統計テキストブック第7版	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	小テストと課題で評価する。60%以上を合格とする。
学生へのメッセージ	2年生で学んだ「統計の基礎」の授業内容の理解が前提で授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。
担当者の研究室等	7号館3階24
備考	提出された課題内容について授業で解説する。

科目名	公衆衛生看護学活動論 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Activity I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	足立 安正, 富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3085a0		

授業概要・目的	<p>対象理解や看護実践に繋がる専門的知識を身につけるために、公衆衛生看護活動の基礎となる対象別・発達別公衆衛生看護活動の概要と方法について学ぶ。また、地域における公衆衛生看護管理について、看護管理の基本である組織運営管理、人事管理、予算管理、情報管理、地域ケアの質の管理、リスク管理について学ぶ。特に、健康危機管理に関して、健康危機管理体制と保健師の機能と役割、健康危機管理の種類に応じた活動に関して、その実例と共に学ぶ。</p> <p>保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を紹介しながら授業を進行する。</p>
到達目標	<p>(1) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の基本理念と対象のニーズについて理解することができる。</p> <p>(2) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の法制度や政策・施策について理解することができる。</p> <p>(3) 母子・成人・高齢者・精神・障害児者・難病・感染症保健活動の実際について理解することができる。</p> <p>(4) 地域の人々の特性・ニーズに基づく新規事業立ち上げの過程を説明できる。</p> <p>(5) 地方自治体における予算のしくみと獲得方法が説明できる。</p> <p>(6) 個人、家族に</p>
授業方法と留意点	この授業は遠隔授業の形態で、教科書および配付資料を用いた講義やディスカッションにより進行する。 教科書および配付資料は必ず毎回準備すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母子保健活動 1	オリエンテーション 母子保健の現状と政策・施策 母子保健活動における保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
2	母子保健活動 2	母子保健活動の実際 子育てのリスクをもつ親子への保健指導	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
3	成人保健活動 1	成人保健の現状と政策・施策 成人保健活動における保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
4	成人保健活動 2	成人保健活動の実際 生活習慣病予防のための保健事業	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
5	高齢者保健活動	高齢者保健の現状と政策・施策 高齢者保健活動における保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
6	歯科保健活動	生涯を通じた口腔保健	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
7	障害者保健活動 1	障害者(児)保健の現状と政策・施策 障害者(児)保健活動の実際と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
8	障害者保健活動 2	障害者の生活と健康課題 障害者への支援の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
9	難病保健活動	難病保健の現状と政策・施策 難病保健活動と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
10	感染症保健活動 1	感染症保健の現状と政策・施策 感染症保健活動と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
11	感染症保健活動 2	感染症発生時および集団発生時の保健指導	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
12	公衆衛生看護管理 1	公衆衛生看護管理の基本 公衆衛生看護管理の実際と特徴 組織運営管理、人事管理、予算管理	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
13	公衆衛生看護管理 2	公衆衛生看護管理の実際と特徴 情報管理、地域ケアの質の管理、リスク管理	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
14	健康危機管理 1	健康危機管理体制整備と平常時の活動 災害発生時の保健活動	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
15	健康危機管理 2	健康危機としての児童虐待 地域における児童虐待対策と保健師の役割	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)

実務経験	
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公衆衛生看護学.jp 第4版 データ更新版	荒賀 直子, 後閑 容子	インターメディカル
2	新版 保健師業務要覧 第4版 2020年版	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代	日本看護協会出版
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2019/2020	厚生労働統計協会	
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業の各回で提示される課題・ミニレポートなどの提出物で評価する。 遅刻・欠席、授業態度不良の場合は減点する。			
学生への メッセージ	この科目では、公衆衛生看護に関する政策や各種制度を学びます。社会の動きとも連動しますので、新聞やニュースをみるなど社会に関心を向けると、授業内容の理解が深まります。			
担当者の 研究室等	富永：7号館3階 7研究室 足立：7号館3階 22研究室			
備考				

科目名	公衆衛生看護学活動論 II	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Activity II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	富永 真己, 足立 安正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3086a0		

授業概要・目的	対象理解や看護実践に繋がる専門的知識を身につけるとともに、広く多角的に情報を収集し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を身につけるために、公衆衛生看護活動の基本となる個人・家族・集団・組織・地域を対象とした活動方法と、各場面における保健師の活動内容および支援技術について学ぶ。 保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、支援技術の実際を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 主要な公衆衛生看護実践技術(家庭訪問、健康相談、保健指導、健康教育等)の方法を説明することができる。 (2) 発達段階別の公衆衛生看護対象(母子・成人・高齢者)における保健活動を理解し、その支援方法の実際について説明できる。
授業方法と留意点	教科書および配付資料を用いた講義と演習およびグループディスカッションによって行う。 教科書および配付資料は必ず毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	新生児訪問指導 2	講義・演習 新生児訪問の実際 事例のアセスメントと訪問計画の立案	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
3	特定健診制度 1	講義 特定健康診査と特定保健指導について	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
4	特定健診制度 2	講義・演習 特定保健指導のすすめ方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
5	乳幼児健康診査 1	講義 乳幼児の成長・発達と保健指導	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
6	乳幼児健康診査 2	講義 健診の意義、問診項目と把握すべき情報、診察と保健指導のポイント	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
7	保健師の活動の実際	行政における保健師の働き方や公衆衛生看護活動の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
8	健康相談	健康相談の意味と保健師が実施する健康相談 健康相談が実施される場と進め方	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
9	グループ支援・組織化	グループ支援の特徴と意義、技術 グループ支援に共通する理論 地域組織活動の考え方と種類、支援	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
10	健康教育 1	講義・演習 健康教育と保健師の役割 健康教育による支援の実際	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
11	健康教育 2	演習 演習オリエンテーション 健康教育の計画立案 1	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
12	健康教育 3	演習 健康教育の計画立案 2	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
13	健康教育 4	演習 健康教育の計画立案 3	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
14	健康教育 5	演習 健康教育の発表準備	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)
15	健康教育 6	演習 健康教育の実施と評価	教科書の該当項目を事前に精読するとともに、授業終了後にはその内容を整理し、理解を深める。(事前・事後で各2時間)

実務経験	
------	--

関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論 I、公衆衛生看護学演習 I、公衆衛生看護学演習 II、公衆衛生看護学実習 I、公衆衛生看護学実習 II、保健医療福祉行政論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp 第4版 データ更新版	荒賀 直子, 後閑 容子 (編)	インターメディカル
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 保健師業務要覧 第4版 2020年版	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代 (編)	日本看護協会出版

	2	国民衛生の動向 2019/2020	厚生労働統計協会 (編)	厚生労働統計協会
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020 年度公衆衛生看護学活動論Ⅱ・演習Ⅰ 2020_publichealth			
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各課題提出物 80%、小テスト 20% 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は公衆衛生看護の実務者である保健師として 10 年以上の豊富な実務経験を有する教員が担当し、授業ではそれらの経験を踏まえ実践的な教育を取り入れ行います。授業では、テキストや資料は必ず毎回持参してください。 ・公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生学、保健福祉行政論及び家族看護学、の科目で学んだ内容を復習した上で臨んでください。 ・社会で日々おこっている時事に関心をもって新聞等から情報を収集・把握して下さい。くれぐれもネット情報だけに偏らない、頼らない習慣を持つようして下さい。 			
担当者の 研究室等	富永：7号館3階 7研究室 足立：7号館3階 22研究室			
備考				

科目名	公衆衛生看護学演習 I	科目名 (英文)	Public Health Nursing: Method and Practice I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	足立 安正, 富永 真己
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN3087a0		

授業概要・目的	科学的根拠に基いた問題解決能力を身につけるとともに、それに裏打ちされた安全安楽な看護を提供するための実践能力を身につけるために、公衆衛生看護活動の対象となる個人・家族・集団に対する保健師活動について、公衆衛生看護の展開に必要な知識と技術を演習により学ぶ。保健師としての実務経験をもつ教員が担当し、公衆衛生看護活動の実例を踏まえ、支援技術の実際を紹介しながら授業を進行する。
到達目標	(1) 対象者の生活様式、行動様式、経済状況、習慣、価値観など生活や文化に配慮した支援ができる。 (2) 対象者のプライバシーに配慮し、個人情報の収集・管理を適切に行うことができる。 (3) 対象者がもつ問題解決能力に自らが気づくように支援ができる。 (4) 対象者の考えを尊重した支援計画の立案および指導を実施することができる。 (5) 個別支援の場において、アセスメントの確認、支援の実施、結果の把握と評価ができる。 (6) 体験した演習の結果を、目的に沿って記録できる。 (7) 演習の結果に
授業方法と留意点	教科書および配付資料を用いた講義と演習およびグループディスカッションによって行う。 教科書および配付資料は必ず毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	保健師の活動や役割についての理解を深めることができる。保健師国家試験受験のために本科目の単位取得が必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	新生児訪問指導技術 1	演習 演習オリエンテーション 新生児の観察と身体計測 1	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
2	新生児訪問指導技術 2	演習 新生児の観察と身体計測 2	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
3	新生児訪問指導技術 3	演習 新生児の観察と身体計測 3	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
4	新生児訪問指導技術 4	演習 新生児訪問指導のロールプレイ 訪問記録と評価	新生児の成長と発達及びその評価、医学的所見、日常生活について、褥婦の健康状態の評価を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
5	特定保健指導 1	講義 健康診査の結果の見方	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)について 事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
6	特定保健指導 2	講義・演習 特定保健指導の実施に向けたアセスメントの実際	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)について 事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
7	特定保健指導 3	演習 保健指導のロールプレイ	特定健康診査および特定保健指導の制度に関する こと、メタボリックシンドロームに関する基礎知識 (病態や診断、食生活と運動の指導内容など)について 事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。 (事前・事後で各 30 分)
8	乳幼児健康診査 1	講義 演習オリエンテーション 乳幼児健診の実際 (4 か月児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
9	乳幼児健康診査 2	演習 4 か月児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
10	乳幼児健康診査 3	講義 乳幼児健診の実際 (1 歳 6 か月児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
11	乳幼児健康診査 4	演習 1 歳 6 か月児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
12	乳幼児健康診査 5	講義 乳幼児健診の実際 (3 歳児健診)	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
13	乳幼児健康診査 6	演習 3 歳児健診における問診	当該月年齢児の成長と発達及びその評価、日常生活 について事前に学習し、授業後にはその内容を整理 する。(事前・事後で各 30 分)
14	感染症・難病訪問指導 1	講義・演習 演習オリエンテーション 家庭訪問 (難病/結核) 計画の立案	筋萎縮性側索硬化症と脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、パーキンソン病に関する基礎知識 (疫学や病態、症状、治療、予後など) 結核に関する基礎知識 (疫学や発生病理、診断、治療、管理など) を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各 30 分)
15	感染症・難病訪問指導 2	演習 家庭訪問 (難病/結核) 計画の立案	筋萎縮性側索硬化症と脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、パーキンソン病に関する基礎知識 (疫学や病態、

			事例検討	症状、治療、予後など)結核に関する基礎知識(疫学や発生病理、診断、治療、管理など)を事前に学習し、授業後にはその内容を整理する。(事前・事後で各30分)
実務経験				
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論Ⅰ、公衆衛生看護学活動論Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.jp 第4版 データ更新版	荒賀 直子, 後閑 容子	インターメディカル
	2	最新 保健学講座 2 公衆衛生看護学支援技術 第4版	村嶋 幸代	メヂカルフレンド社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国民衛生の動向 2019/2020	厚生労働統計協会	日本看護協会出版
	2	新版 保健師業務要覧 第4版 2020年版	井伊 久美子, 勝又 浜子, 森永 裕美子, 荒木田 美香子, 坂本 真理子, 村嶋 幸代	
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020年度公衆衛生看護学活動論Ⅱ・演習Ⅰ 2020_publichealth			
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	各演習の課題提出物 80%、実技試験 20% 授業態度不良の場合は、一定の減点を行う場合がある。			
学生への メッセージ	保健師の支援技術を演習形式で学んでいきます。集中講義で行いますので体調管理に気を付け、毎回出席できるようにしましょう。			
担当者の 研究室等	富永: 7号館3階 7研究室 足立: 7号館3階 22研究室			
備考				

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	NEN2303c1		

授業概要・目的	英語Ⅰ、Ⅱで学んだ4技能の基礎力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「読解力」としては、英文を速読するためにリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 ・「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 ・「会話、ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外 																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Syllabus Introduction</td> <td>講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Airport</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Train Station</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Department Store</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Restaurant</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Hotel</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Hospital</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Bank</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Workplace</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Fitness Club</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Sightseeing</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>International Conference</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Computer Society</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Employment</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Job Training</td> <td>事前自己学習・講義・演習</td> <td>提出物・演習評価 授業態度</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Syllabus Introduction	講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	2	Airport	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	3	Train Station	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	4	Department Store	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	5	Restaurant	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	6	Hotel	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	7	Hospital	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	8	Bank	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	9	Workplace	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	10	Fitness Club	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	11	Sightseeing	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	12	International Conference	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	13	Computer Society	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	14	Employment	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度	15	Job Training	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Syllabus Introduction	講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
2	Airport	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
3	Train Station	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
4	Department Store	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
5	Restaurant	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
6	Hotel	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
7	Hospital	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
8	Bank	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
9	Workplace	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
10	Fitness Club	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
11	Sightseeing	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
12	International Conference	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
13	Computer Society	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
14	Employment	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
15	Job Training	事前自己学習・講義・演習	提出物・演習評価 授業態度																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST</td> <td>Takayuki Ishii, Masahiko Iwata, Osamu Yamaguchi, Yuko Matsumura, Joe Ciunci</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	Takayuki Ishii, Masahiko Iwata, Osamu Yamaguchi, Yuko Matsumura, Joe Ciunci	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	Takayuki Ishii, Masahiko Iwata, Osamu Yamaguchi, Yuko Matsumura, Joe Ciunci	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法(基準)	期末テスト(30%) レポートを含む提出物(50%) TOEIC(20%)																																																																		
学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。																																																																		

	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に教室にて対応する。

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ユアン マクトゥカガール
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	NEN2303c1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外から
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 Hospital Departments	テキストの使用法の説明。 Teacher's workbook.	次回のテキストの予習
	2	Unit 1 Hospital Departments	小テスト テキスト (11-16 ページ) 学習 Teacher's workbook.	Workbook and Unit 1 の予習・復習
	3	Unit 2 Application Forms	テキスト (17-21 ページ) 学習 Teacher's workbook.	Workbook and Unit2 の予習・復習
	4	Unit 2 Application Forms	小テスト テキスト (17-21 ページ) 学習 Teacher's workbook.	Workbook and Unit2 の予習・復習
	5	Unit 3 Parts of the Body	テキスト (22-26 ページ) 学習 Teacher's workbook.	Workbook and Unit3 の予習・復習
	6	Unit 3 Parts of the Body	小テスト テキスト (22-26 ページ) 学習	Workbook and Unit3 の予習・復習
	7	Unit 1-3 Test / Speaking Report	Unit 1-3 Test Workbook check. Pairs conversation check	予習・復習
	8	Unit 4 Illnesses	テキスト Lesson7 (41-46 ページ) 学習	Workbook and Unit4 の予習・復習
	9	Unit 4 Illnesses	小テスト テキスト Lesson8 (47-52 ページ) 学習	Workbook and Unit4 の予習・復習
	10	Unit 5 Hospital Routine	テキスト Lesson9 (53-58 ページ) 学習	Workbook and Unit5 の予習・復習
	11	Unit 5 Hospital Routine	小テスト テキスト Lesson10 (59-64 ページ) 学習	Workbook and Unit5 の予習・復習
	12	Unit 6 Hospital Objects	テキスト Lesson11 (65-70 ページ) 学習	Workbook and Unit5 の予習・復習
	13	Unit 6 Hospital Objects	小テスト テキスト Lesson12 (71-76 ページ) 学習	Workbook and Unit5 の予習・復習
	14	Unit 4-6 Test	Unit 1-3 Test Workbook check. Pairs conversation check	予習・復習
	15	Unit 1-6 まとめテスト	まとめテスト	これまでの振り返り

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Vital Signs 2 Reading and Writing Essential English for Healthcare Professionals	Vivian Morooka	Nan' Un-Do
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	小テスト、授業参加態度 (30%) まとめテスト (50%) TOEIC スコア (20%)
-----------	--

学生へのメッセージ	看護英語を学ぶ上では、分野ごとの用語を把握することはもちろん、専門的立場にある者として、一般の人にも分かりやすくその知識を伝える術を身につけることも必要となるでしょう。本授業では文章の読解のみならず、ディクテーションや作文を通してその表現や論理を自分のものとし
-----------	--

	た上で、再度人に伝えるための力を付けることが目的となります。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	NEN2303c1		

授業概要・目的	英語 I, II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。さらに看護職に必要とされる英語力の基礎を身につける。
到達目標	(「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また、英語の医療・看護の専門用語を理解した上で、英文内容を説明できる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。また、医療・看護に用いられる基本的な単語・表現について理
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 人体各部位	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)
2	筋骨格系	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	
3	循環器系	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	
4	呼吸器系	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	
5	消化器系	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	
6	脳神経感覚系	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	
7	泌尿器系	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	
8	生殖器系	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	
9	内分泌系	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	
10	精神障害	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	
11	がん	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。(30分以上) 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。	
12	一時救命処置、二次救命処置	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)	

	13	リハビリテーション	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。(30分以上) 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。
	14	食事と栄養	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)
	15	まとめと復習	医療現場をシチュエーションとする会話のリスニング 症例の速読	ストリーミングサイトで音声を聴き、空欄補充問題を解答する。 実際にあった症例を読み、概要を把握し、重要な英語表現を確認する。(30分以上)
実務経験				
関連科目	英語 I、英語 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Because We Care Second Edition English for Healthcare Professionals	Maki Inoue / Tadashi Ihara	National Geographic Learning
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	TOEIC スコア 20% 授業中の発言、復習テスト等 80%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語IV	科目名 (英文)	English IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悠介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN3305c1		

授業概要・目的	政治、経済、文化等、国家や地域を超えてグローバル化した現代社会において、健康への影響も国境を越えて広がっており、看護職の役割も今後ますます拡大していく。このような現状を踏まえ、個人の健康問題を取り巻くグローバルな視点を養い、国際的に活動するための知識とコミュニケーション力を培う。
到達目標	The aim of this course is to develop the vocabulary, language, and skills that students will need when working in a medical environment. These include talking about the body, describing signs of illness, and conveying instructions to patients and colleagues.
授業方法と留意点	The emphasis will be on pair and group work activities, enabling students plenty of opportunities to speak in class. Lessons will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	The hospital team.	Nursing in the UK, an admission, a job interview.	Preview next week's lesson.
	2	In and around the hospital.	Directions, the porter's office, on the ward.	Preview next week's lesson.
	3	Hospital admissions.	A patient record, bad handwriting, admitting a patient.	Preview next week's lesson.
	4	Accidents and emergencies.	Shock, instructions, emergency helpline.	Preview next week's lesson.
	5	Pain.	Areas of referred pain, questions to assess pain, pain chart, pain relief.	Preview next week's lesson.
	6	Symptoms.	Night coughing, researching symptoms, a helpline call, mystery syndromes.	Preview next week's lesson.
	7	Caring for the elderly.	The effects of ageing, a care home, assessing a patient.	Preview next week's lesson.
	8	Nutrition and obesity.	Nutrition, vitamins and minerals, food intake, eating disorders.	Preview next week's lesson.
	9	Blood.	The heart, forensic analysis, blood types, blood tests, blood pattern analysis.	Preview next week's lesson.
	10	Death and dying.	The body after death, breaking bad news, report of a death.	Preview next week's lesson.
	11	Hygiene.	MRSA, a hygiene report, test results, a hygiene inspection.	Preview next week's lesson.
	12	Mental health nursing.	Tourette syndrome, famous people suffering from mental illness, a case conference, schizophrenia	Preview next week's lesson.
	13	Monitoring the patient.	Taking readings, hypothermia, a coma patient, a scan.	Preview next week's lesson.
	14	Medication.	Dosages, drugs which have changed history, patient medication.	Preview next week's lesson.
	15	Alternative treatments.	Medicinal plants, wild treatments, healers	End of course.

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Oxford English for Careers: Nursing 1 Student's Book	Tony Grice	OUP
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes (50%), homework assignments (50%).
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.

担当者の研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	小堀 栄子、足立 安正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2△, DP3◎		
科目ナンバリング	NIL1336a1		

授業概要・目的	看護専門職者として必要なデータ分析の基礎的な技術や、厚生統計の基礎について学ぶ。また ICT を用いた看護の展開について検討する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> データの収集と基本的な分析を、データの種類と分析の目的に応じ、適切に行うことができる。 厚生統計の概要を知り、統計情報を正しく理解できる。 ICT を活用した看護の展開を理解し、行うことができる。
授業方法と留意点	演習とグループワークにより授業を行う。教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配付する。資料のダウンロード先を指定することもあるので、対応することが求められる。
科目学習の効果(資格)	データの扱いや厚生統計の基本知識、および看護と IT の連携を考え、看護の可能性を広い視野で捉えることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	図表とその作成	図表で用いられるデータとそのデータ処理および目的	事前:情報リテラシーⅠで学んだエクセルの扱いについて復習しておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	2	データの収集と入力	質問票によるデータ収集とデータセットの作成	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	3	記述統計(1)	連続変数の分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	4	記述統計(2)	カテゴリー変数の分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	5	記述統計(3)	年齢調整死亡率	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	6	記述統計(4)	相関と回帰	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	7	厚生統計演習(1)	厚生統計演習の概略	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	8	厚生統計演習(2)	課題の明確化:有病状況のデータ分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	9	厚生統計演習(3)	課題の要因の検討:栄養のデータ分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	10	厚生統計演習(4)	課題の要因の検討:運動のデータ分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	11	厚生統計演習(5)	課題の要因の検討:他の要因のデータ分析	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	12	厚生統計演習(6)	健康づくり戦略の立案:対象の明確化	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	13	厚生統計演習(7)	健康づくり戦略の立案:アプローチ方法の検討	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
	14	ICT を活用した看護の展開(1)	課題を与える	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)
15	ICT を活用した看護の展開(2)	課題を与える	事前:前回の復習をしておくこと 事後:課題に取り組むこと (事前・事後学習に計1時間)	

実務経験	
関連科目	情報リテラシーⅠ、統計の基礎、保健統計学、公衆衛生学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	統計課題の提出 50%、厚生統計を用いた課題の提出 40%、レポート 10%
学生への メッセージ	看護専門職者にとって数値データの扱いと厚生統計の理解は欠かせません。わからないことは自分で勉強したり、質問したりして、積極的に取り組むことを期待します。
担当者の 研究室等	小堀：7号館3階 24 研究室 足立：7号館3階 22 研究室
備考	・提出された統計課題については授業で解説します。

科目名	統計の基礎	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子・寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2△, DP3◎		
科目ナンバリング	NIL1312a1		

授業概要・目的	疾病とそのリスク要因の関連や因果関係を明らかにするにあたっては統計学が用いられる。授業では、看護・保健分野でよく使われる統計について、その基本を理解し、統計的な考え方ができるようにする。
到達目標	統計の基本を正しく理解し、正しく使えるようになる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	(事前)教科書 p12-16 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
2	分布をあらわす	度数分布、ヒストグラム	(事前)教科書 p29-34 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
3	代表値と散布度 (1)	平均値、分散、標準偏差	(事前)教科書 p18-22 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
4	代表値と散布度 (2)	中央値、4分位、最頻値	(事前)教科書 p16-22 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
5	代表値と散布度 (3)	エクセル演習	(事前)教科書 p16-28 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
6	正規分布と標準化 (1)	正規分布と標準偏差	(事前)教科書 p41-45, 96 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
7	正規分布と標準化 (2)	演習問題	(事前)教科書 p41-45, 96 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
8	推定 (1)	母集団と標本集団、標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	(事前)教科書 p68-72 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
9	推定 (2)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	(事前)教科書 p68-72 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
10	推定 (3)	演習問題	(事前)教科書 p68-72, 76 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
11	検定 (1)	Z検定 (1集団、連続変数)	(事前)教科書 p68-75, 77 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
12	検定 (2)	t検定 (1集団)	(事前)教科書 p80-87 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
13	検定 (3)	二項分布とZ検定 (1集団、割合)	(事前)教科書 p68-75 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
14	検定 (4)	χ^2 乗検定 (1集団)	(事前)教科書 p101-106 で予習すること (30分) (事後)授業内容を配布資料と教科書で復習すること (30分)
15	検定 (5) と統計のまとめ	χ^2 乗検定 (2集団) と統計のまとめ	(事前)教科書 p101-106、および授業資料と教科書で復習しておくこと (30分)

実務経験	
関連科目	保健統計学、公衆衛生学、統計の基礎

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ていねいな保健統計学	白戸亮吉、鈴木研太	羊土社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	2020年看護2年生統計の基礎(小堀) ntoukeikiso

連絡手段	Moodle の質問ツール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題と小テストで評価する。60%以上を合格とする。
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業資料と教科書をよく勉強すること。 ・わからない点を次回授業までに必ず解決しておくこと。そのために質問をすること。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 24
備考	提出された課題や小テストについて授業で解説する。

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名 (英文)	Sports Science II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NPH1337a1		

授業概要・目的	運動およびスポーツは健康づくりにおいて欠かせない要素である。本科目では、スポーツ科学Ⅰで学修した技術や知識をさらに深め、生涯スポーツへ継続できる能力育成を目的とする。さらに運動療法を安全かつ効果的に進めることの重要性、疾病予防・介護予防における運動・スポーツの役割やメカニズムについて疫学・基礎・実践研究の観点から学修する。 授業担当者は医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有患者における運動が心身の健康にどのように貢献するか、対話を通して理解を深めてきた。このことを本授業に活用し、健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	本科目は、「対面授業」と「遠隔授業」を併用し授業を行う グループワークおよび実技形式で行う 運動のできる服装で受講すること
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる 汎用的技能：コミュニケーション・スキル、問題解決力 態度：自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観 創造的思考力：課題解決能力を修得できる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	Teams を使い、履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
	2	チームビルディング	チームビルディング 自分自身の体力を維持・向上させるために必要なスポーツ(次週から開始する「スポーツ①」)に関するディスカッション	事前：運動・スポーツの役割および重要性について理解する。 事後：スポーツ①の背景、ルールを調べる
	3	スポーツ①	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ①の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習
	4	スポーツ①	スポーツ①をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
	5	スポーツ①	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ①をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
	6	スポーツ①のまとめ	スポーツ①の成果について、グループワークで振り返る。 グループ代えを行い、スポーツ②(体脂肪量減少を目的としたスポーツ)の計画	事前：スポーツ①実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。スポーツ①実践内容をスポーツ②に活かす工夫を考える。
	7	スポーツ②	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ②の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習
	8	スポーツ②	スポーツ②をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
	9	スポーツ②	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ②をロールプレイ形式で実施	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
	10	スポーツ②のまとめ	スポーツ②の成果について、グループワークで振り返る。 グループ代えを行い、スポーツ③(1)高齢者の体力および認知機能低下遅延 or (2)リラクゼーションを目的としたスポーツ)の計画。	事前：スポーツ②実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。スポーツ①②実践内容をスポーツ③に活かす工夫を考える。
	11	スポーツ③	各グループ毎に、ディスカッションにより決定したスポーツの実践練習	事前学習：スポーツ③の背景、ルールを調べる 事後学習：安全で効果的な運動が行えるか復習
	12	スポーツ③	スポーツ③をロールプレイ形式で実践	事前学習：グループ内における自分の役割を果たせるよう練習 事後学習：安全で効果的な運動、わかりやすい説明が行えたか振り返る
	13	スポーツ③のまとめ	前週の反省点を元に内容を改善し、スポーツ③をロールプレイ形式で実施	事前：スポーツ③実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。
	14	スポーツ③のまとめ	スポーツ③の成果について、グループワークで振り返る	事前：スポーツ③実践のまとめ 事後：グループワークのまとめ。
	15	スポーツ④ 総まとめ	ニュースポーツ体験と総まとめ	事前：スポーツ④の背景、ルールを調べる 事後：スポーツ④の内容、本授業全般についてまとめ
実務経験				
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール）			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室（072-839-9187）へ問い合わせてください。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 隆弘
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1402a2		

授業概要・目的	看護においては、患者がどのように感じているのか、どのように考えているのかなどを汲み取り治療に活かす必要がある。また、看護師と患者との良好な関係は、患者の治療成果だけではなく、満足度やQOLにも直結する。 本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論や生涯発達を学ぶことを通して、私たち人間がどのように物事をとらえているのか、それに対してどのように感じているのかなどを理解し、患者を理解する上で役立つコミュニケーション法や考え方を身につけ、患者との関わりに活かすことを目的とする。
到達目標	自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、患者を含む他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事のとらえ方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めることを目指す。
授業方法と留意点	Web folder にパワーポイントの資料を提示します。各自ダウンロードして学習を進めてください。スライド部分だけでなく、画面下部のノートというところに、講義で話す予定だった内容も書かれていますので、そちらも読むようにしてください。 自己紹介、試験や成績評価については、資料にも記載していますが、動画を載せることができれば、動画でも自己紹介、試験や成績評価の説明をおこないます。コロナに関する役立ちそうな情報も載せることができれば載せるかもしれません。 試験に代わる課題については、7月に入ってからW

科目学習の効果 (資格)	患者との関わり、職場での人間関係、自己理解と他者理解に活かすことができる。
--------------	---------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活の中でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	教科書の第1章を一読しておくことが望ましい。
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書の第2章Bを一読しておくことが望ましい。
4	学習理論について	本講義では、人や動物がどのように学習し、行動を形成しているのかについて学ぶ。	教科書の第2章Aを一読しておくことが望ましい。
5	感情と欲求について	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求について学ぶ。	教科書の第3章を一読しておくことが望ましい。
6	性格とパーソナリティ (人格) 障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ (人格) 障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書の第4章A,Bを一読しておくことが望ましい。
7	知能と知能検査、性格検査について	本講義では、知能とは何か、知能と性格をはかる検査にどのようなものがあるのかを学ぶ。	教科書の第4章Cを一読しておくことが望ましい。
8	乳幼児期、児童期の発達と愛着について	本講義では、主に乳幼児期と児童期の発達の過程や愛着の機能について学ぶ。	教科書の第5章Aを一読しておくことが望ましい。
9	虐待について	本講義では、児童虐待や高齢者虐待の背景や実情について学ぶ。	ニュースをチェックして、最近の虐待の実情を把握しておくことが望ましい。
10	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第5章Bを一読しておくことが望ましい。
11	(デート) DVについて	本講義では、DVやデートDVについての背景や実情について学ぶ。	ニュースをチェックして、最近のDVの実情を把握しておくことが望ましい。
12	成人、高齢者の発達とそれらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程とそれらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書の第5章C,Dを一読しておくことが望ましい。
13	患者を理解する上で役立つ考え方について	本講義では、患者を理解する上で役立つ考え方について学ぶ。	教科書の第8,9章を一読しておくことが望ましい。
14	患者と関わる上で役立つコミュニケーション法や考え方について	本講義では、患者と関わる上で役立つ話の聞き方や共感の仕方について学ぶ。	教科書の第9,10章を一読しておくことが望ましい。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のレジュメもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい。

実務経験	
------	--

関連科目	臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学生のための心理学	長田久雄	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護のための精神医学 第2版	中井久夫	医学書院
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 7月に入ってから、Web folder に課題を提示する。 各自ダウンロードして、課題を完成させる、その課題の得点を成績評価に用いる (100%)。 課題の提出は、Web folder で提出するものとする。
学生への メッセージ	<p>心理学は看護に役立つだけでなく、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がります。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。</p> <p>また、これまで私は病院や学校でカウンセリングや検査を行い、自然災害時の緊急支援で現地にも入っています。心理学の知識的な部分だけでなく、実際のな（現場での）話もするつもりなので、その両方もしくはどちらかだけでも興味を持ってもらえると嬉しいです。</p>
担当者の 研究室等	1号館2階、非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> 講義時間外における質問時間は、講義（木曜4時限）前後の非常勤講師室とする（メールでも可能）。 事前事後学習に、毎回1時間以上かけると、最終課題の得点も取りやすくなります。

科目名	哲学	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1403a2		

授業概要・目的	<p>学問の教科書、たとえば心理学や看護学の教科書には、たいていその学問が何であるのかといった定義がはじめに書かれています。ところが哲学の教科書で「哲学とは何か」の説明から始まるものはまずありません。そのような説明から始まるとしても『哲学とは何か』という問いがすでに哲学をするいとなみである」といったようなことが書いてあるぐらいです。それでは哲学の授業では何を学ぶのでしょうか。</p> <p>たしかに、哲学をひとことで言い表すことはできないかもしれません。しかしながら、物事を根本から考えると、批判的に考えると、あるいはものごとを複数の視点から観察するとかいったようなこと、すなわち哲学のいとなみを成り立たせていると考えられているものを手がかりに「哲学とは何か」という問いについて考えていくことはできるでしょう。</p> <p>この授業では、教科書を手がかりに、新聞や雑誌の記事、映画、小説、マンガといった身近な素材などを活用して哲学的なものの見方、考え方を養います。</p>
到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) 現実の問題を哲学と結びつけて考えることができる (2) 世の中で常識とされていることを疑って批判的に考えることができる (3) ものごとを複数の視点から眺め考察することができる</p>
授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。</p>
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	現象と実在	<p>この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。</p> <p>その上で教科書の第1章「現象と実在」について学修します。</p>	<p>事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する</p>
2	物質は存在するか	教科書の第2章「物質は存在するか」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>	
3	物質の本性	教科書の第3章「物質の本性」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>	
4	観念論	教科書の第4章「観念論」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>	
5	面識による知識と記述による知識	教科書の第5章「面識による知識と記述による知識」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p>	

				事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
6	帰納について	教科書の第6章「帰納について」について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
7	一般的原理の知識について	教科書の第7章「一般的原理の知識について」について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
8	アприオリな知識はいかにして可能か	教科書の第8章「アприオリな知識はいかにして可能か」について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
9	普遍の世界	教科書の第9章「普遍の世界」について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
10	普遍に関する私たちの知識	教科書の第10章「普遍に関する私たちの知識」について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	直観的知識について	教科書の第11章「直観的知識について」について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	真と偽	教科書の第12章「真と偽」について学修します。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)

	13	知識、誤謬、蓋然的な見解	教科書の第13章「知識、誤謬、蓋然的な見解」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>																
	14	哲学的知識の限界	教科書の第14章「哲学的知識の限界」について学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>																
	15	哲学の価値	<p>教科書の第15章「哲学の価値」について学修します。</p> <p>その上で、これまでの授業をふり振り返りながら、各回の授業が全体としてどのようなつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>																
実務経験																				
関連科目	ボランティア活動論、倫理学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>哲学入門</td> <td>パートランド・ラッセル</td> <td>ちくま学芸文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	哲学入門	パートランド・ラッセル	ちくま学芸文庫	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	哲学入門	パートランド・ラッセル	ちくま学芸文庫																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?</td> <td>森達也</td> <td>ちくまプリマー新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書																	
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題（リアクションペーパー）30%、期末試験70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。																			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。																			
担当者の 研究室等	<p>この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。</p> <p>1号館2階 非常勤講師室</p> <p>メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp （[*]を半角の@に置き換え）</p>																			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。																			

科目名	文学	科目名 (英文)	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	辻 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1404a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 物語や説話、絵巻などの古典文学に描かれた、生老病死の諸相を読みます。自身の専門とする学びや、これからの生き方に反映させながら、受講してください。</p> <p>【授業目的】 ・中世のひとびとが、命や身体をどのように捉えていたかを知る。 ・経験を振り返り、自分を自分たらしめる物語を想う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の生命観・身体観について、具体的に説明できる。 ・自身の生命観・身体観を言語化し、他者に対して表現できる。 ・自分を支える物語を見つけることができる。
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 ・「教材・課題提供型授業」に変更します。 (授業計画にある、ペアワーク・グループワークは行いません)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WebFolderに毎週、講義資料を掲載しますので、各自よく読んでください。 ・毎週、受講後にはレポートを作成し、WebFolderに提出してください。 ・質問は、メールで受け付けます。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「生」を読む —ガイダンス—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 シラバスをよく読む (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)</p>
2	「子ども」を読む (1) —こどもとは誰か—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)</p>	
3	「子ども」を読む (2) —語られる成長—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 子どもに関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)</p>	
4	「出産」を読む —出産の文化史—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 出産に関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)</p>	
5	「胎児」を読む —密教と胎児—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 胎児に関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 1～5回授業に関するミニレポートを書く (30分)</p>	
6	「母乳」を読む —母乳の文化史—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 母乳に関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)</p>	
7	「性愛」を読む —日本の性愛—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 性愛に関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)</p>	
8	「身体」を読む —身体は誰のもの—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 身体に関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)</p>	
9	「老い」を読む —老いの文化史—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 老いに関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)</p>	
10	「病」を読む —描かれる病—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 病に関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 6～10回授業に関するミニレポートを書く (30分)</p>	
11	「死」を読む —死は誰のもの—	講義 ペアワーク・グループワーク	<p>【事前学習】 死に関する報道をチェックする (60分)</p> <p>【事後学習】</p>	

				講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)																
	12	「死体」を読む —描かれる死体—	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 死体に関する報道をチェックする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)																
	13	「死後」を読む —死後の世界—	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 死後の世界について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)																
	14	「魂」を読む —描かれる幽霊—	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 幽霊について知っている情報をリストアップする (60分) 【事後学習】 講義で取り上げた作品を読む (30分) 授業に対するコメントペーパーを書く (30分)																
	15	再び、「生」を読む —寺山修司の世界—	講義 ペアワーク・グループワーク	【事前学習】 思い出深い出来事を、言葉で他者に伝えられるようにする (60分) 【事後学習】 自分の基礎となっている物語を振り返る (30分) 11～15回授業に関するミニレポートを書く (30分)																
実務経験																				
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	<p>レポートにより評価します。定期試験や期末レポートはありません。</p> <p>1つのレポート10点満点×10回 (全11回授業。初回はガイダンスにつきレポートはありません) とします。</p> <p>1つレポート (10点) の評価基準は、以下の5つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業 (講義資料) の理解度 ②与えられた問いに答えているか ③分量 ④その回の課題の最低条件をクリアしているか (タイトルを付ける、ミニワークに取り組む等) ⑤自分で書いているか (残念ながららコピペはバれます) <p>これらが全て満たされていれば10点、一</p>																			
学生への メッセージ	<p>高等学校の「古文」が苦手だった人も歓迎します。 古典文法や古文単語を覚えていなくても全く問題ありません。</p> <p>一緒に、古典世界を楽しく学びましょう。</p>																			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																			
備考	質問等がある場合は、出講時に非常勤講師室にて、あるいは授業前後に教室にて、対応します。																			

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1405a2		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学的思考がどのようなものであるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。
2	人類学の誕生(1): 博物学から人類学へ	19世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
3	人類学の誕生(2): 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
4	機能主義人類学(1): マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケーム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーとA・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
5	機能主義人類学(2): 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
6	アメリカ文化人類学の誕生(1):	フランツ・ポアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
7	アメリカ文化人類学の誕生(2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
8	アメリカ文化人類学の展開(1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
9	アメリカ文化人類学の展開(2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
10	構造主義(1): モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』とC・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
11	構造主義(2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
12	構造主義(3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
13	解釈人類学(1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
14	解釈人類学(2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	
15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします(30分から1時間程度)。	

実務経験																	
関連科目	学芸員課程																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態	Web Folder																
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	Teams																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	評価方法： 評価の配分はレポートなどの課題提出を100%とする。 評価の基準： 人類学的思考がどのようなものかを理解したうえで書いているかどうかを基準とする。ネットや参考書などで調べた知識は（授業内容と無関係であった場合）必ずしも評価の対象とならない。																
学生への メッセージ	教科書・参考書は特にありません。関連図書については授業の中で適宜紹介します。 情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。事前学習より事後学習が大切です。ノートを読み返し、理解できているかを確認すること。分からないことがあれば、Teamsを使って質問してください。 この授業に限らず一般論として、分かったつもりになっていても、試験などでいざ書こうとしたら、実はわかっていなかったという事態はしばしば起こります。そこで、この授業ではノートに半分から1ページほど（10から20行程度）で、前の週の要																
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																
備考	参加人数および参加者の関心・希望に応じて、授業内容が多少変更される場合があります。																

科目名	教育学	科目名 (英文)	Pedagogy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1406a2		

授業概要・目的
あなたは「教育」とは「よい」ものだと思うだろうか。思っているとしたら、それはなぜだろう。思っていないとしたら、それはなぜだろう。あるいは、「自分は教育を受けることで本当に「よく」なったのだろうか」と問うてみたことはあるだろうか。その際、「よい」とはどのように判断されるのだろうか。本科目は、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについて丁寧に考え直してみようとするものである。その際に参考になるのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史であり、これらを整理し体系化しようとする学問としての「教育学」の知見である。そしてまた、「教育学」が果たしてきた、また果たすべき役割についても考え直してみることにする。これらを通して、各々が「教育」について考えを深め、人々の生活や人々が生きる社会の中での「教育」を捉え直すことができるようにしたい。

到達目標
教育をめぐる思想や教育の歴史について基礎的な知識を身につける。
自分の直接的な体験から跳躍して、「教育」について問い、考える方法を身につける。
現代の教育課題について、教育に関する基礎知識をもとに論理的・分析的に記述、説明できる。

授業方法と留意点
プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心とし、毎回、そのスライド資料を配布する。また適宜、文献・テキストの事前学習に基づくグループワーク等も実践する予定である。その場合は事前学習が授業出席のための必須条件となるほか、事前学習成果（予習ノート）をレポートとして評価する。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			「自分にとって教育とは何か」を考えておく。(30分) 授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
1	オリエンテーション	事前学習とグループワークの方法について	
2	教育学を学ぶ意味1	実践的教育学の関心領域と危うさ	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
3	教育学を学ぶ意味2	教育科学の意義と限界	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
4	教育学を学ぶ意味3	教育学を学ぶ理由	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
5	グループワーク1	教育開発	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(150分)
6	教育学の成立1	教育の「定義」をめぐる、「教育」の視線の次元	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
7	教育学の成立2	教育による人間と社会の改造、学校の誕生	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
8	教育学の成立3	学校の普及・拡大とその背景	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
9	グループワーク2	学歴社会と社会的エリート	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(150分)
10	教育の成功と失敗1	教育の不確実性、学習可能性と教育可能性の距離	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
11	教育の成功と失敗2	教育可能性に向けた技術の発展、教育学の潮流	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
12	グループワーク3	学力概念と指導・評価	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(150分)
13	教育の目的再考1	教育のポストモダンと教育目的の迷走	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
14	教育の目的再考2	教育目的論再構築の可能性	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。(30分)
15	グループワーク4	教育と社会の新たな関係	指定文献について、様式に従って予習ノートを作成・提出する。(150分)

実務経験

関連科目
他の教養科目等で学習した内容と関連づけて考えてみましょう。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ヒューマニティーズ 教育学	広田照幸	岩波書店
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	御苑に近き学び舎に—京都・番組小学校の誕生	荒木源	京都新聞出版センター
2	教育社会学	原清治・山内乾史編	ミネルヴァ書房
3	社会のなかの教育	志水宏吉編	岩波書店

授業形態
Moodle

Teams コード
Moodle コース名
2020年度教育学
および登録キー
m20edKa

連絡手段
学内メール

メールアドレス
メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス：

評価方法（基準）
定期試験 50%、レポート 50%（グループワークにおけるピアレビューを含む）で総合的に評価する。定期試験を受験しなかった場合は評定しない。

学生への
受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(朝日研究室)
備考	

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Constitutional Law
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01410a2		

授業概要・目的	本講義では、日本国憲法の基礎的知識を修得することを目的としています。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とします。できるだけ身近な素材を利用して講義を進めますので、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会になるでしょう。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養います。
到達目標	この授業を通して学生は、「憲法」の意義、および日本国憲法の基礎知識を修得し、社会の中の憲法にかかわる諸問題について自分の意見を述べるができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は、教科書及び必要に応じて配布するレジュメや資料を用いて行います。毎回の授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。また授業中課題として中間レポートを予定しています。詳細は初回の授業時に説明します。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果 (資格)	各資格試験や就職試験における法学科目の基礎知識としても有益です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに 現代日本の法制度の概要について	講義 日本法全体における憲法の位置づけ	事前：日本国憲法全文を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	「憲法」とは 日本における「憲法」の成立と歩み	講義 欧米の「憲法」の歴史を概観する。「立憲主義」という言葉の意味を考える。 日本において「憲法」はどのように誕生したのか？大日本帝国憲法の特徴とともに、日本国憲法の成立過程及び現在までの歩みを学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
3	「日本国憲法」の基本構造・基本原理	講義 日本国憲法の基本原理および基本構造(統治の基礎と人権の基礎)を確認する。第1条から、日本国憲法における「天皇」制と国民主権について考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
4	統治の基礎 (1) 国会	講義 日本の統治機構の基本を学ぶ。特に国会の役割、さらに三権分立の意義を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
5	統治の基礎 (2) 裁判所	講義 裁判・裁判所の基礎を学ぶ 裁判所の組織、司法権の独立、裁判員制度	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
6	人権総論 憲法で保障される人権とは	講義 日本国憲法の人権規定の基本にある考え方を学ぶ。人権規定の種類・分類を学び、人権の意義と全体像を確認する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
7	自由権① 信教の自由	講義 重要判例を通して信教の自由・政教分離の原則の意義を考える。また信教の自由をめぐる欧米の歴史も概観する。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
8	自由権② 表現の自由 (その他の自由権)	講義 「表現活動」をめぐる判例や近年の動向を通して、表現の自由の重要性を検討する	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
9	自由権③ 刑事手続条の権利	講義 適正手続の保障、公判手続における権利などについて学ぶ	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
10	社会権 生存権・労働者の権利	講義 まず社会権の歴史を学ぶ。生存権の意義と、日本の貧困問題を考える。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
11	法の下での平等①	講義 憲法上の「平等」とは？「憲法」で保障される平等の意味・歴史を学ぶ。	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	
12	法の下での平等②	講義 14条・24条をめぐる近年の重要判例を検討しつつ、家族をめぐる法や諸問題(夫婦別姓、同性婚の問題など)を憲法を通して考える	事前：授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後：教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)	

	13	新しい人権 自己決定権	講義 新しい人権、特に「自己決定権」について考える。	事前:授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後:教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	14	平和主義	講義 戦後から現在までの「9条」をめぐる様々な動向・多様な意見を確認し、今後の日本の「平和」と憲法の意義を考えてみる。	事前:授業のテーマに関連する教科書の該当箇所及びその他文献(参考図書・新聞等)を読んでおく。(2時間) 事後:教科書及び今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	15	憲法改正の諸問題 まとめと復習	講義 憲法改正をめぐる動向と諸問題を検討する。これまでの講義内容全体を復習する。憲法の重要判例も再度確認する。	事前:授業のテーマに関連する教科書の該当箇所を読んでおく。(1時間) 事後:これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。(3時間)
実務経験				
関連科目	法学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スタディ憲法	曾我部真裕 他	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法(第7版)	芦部信喜	岩波書店
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	定期試験(予定)60%と授業事の提出物(授業内容に関する小テスト、ミニレポートなど)40%によって総合的に評価します。詳しくは初回の講義で説明します。			
学生への メッセージ	「憲法」の議論が活発化する今、憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。気軽に質問してください。			
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)			
備考	各授業の最後に実施する課題の解答などは、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で、随時紹介します。			

科目名	経済学	科目名 (英文)	Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南 慎二郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01411a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 経済学は特に近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問であり、私たちの社会の豊かさや直面する課題解決(貧困、社会保障、環境問題など)を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は密接に関わっています。本講義では経済学の歴史に即して基礎的な考えを学習した上で、現実の具体的な動向や問題のトピックを通じて理解を深めていきます。</p> <p>【講義の目標】 一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えられるようになることが目標です。</p>
---------	--

到達目標	一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えることができる。
------	---

授業方法と留意点	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。
----------	---------------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	はじめに:講義の全体や進行について 経済学の一般的な考え方、経済学史の流れ	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
2	経済循環をめぐる歴史①:主に古典派経済学とマルクス	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
3	経済循環をめぐる歴史②:シュンペーター	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
4	価値や価格はどのようにして決まるか:価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
5	ケインズ革命:ケインズの研究・思想とその影響について	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
6	現代経済学の概観:戦後の経済学の流れ、現代の経済学派の関係	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
7	制度学派:現実社会の制度(慣習や経験・心理に影響される人間行動を含む)を重視する経済学の系譜	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
8	行動経済学:認知心理学をベースとした新たな経済学の展開	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
9	戦後の日本経済史:私たちが生活している社会経済の背景として	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
10	労働について:雇用と賃金の決まり方、日本の労働市場、格差や雇用形態や労働災害の問題	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
11	公害・環境問題について①:利潤追求と節約、外部性と社会的費用、環境問題に対する経済学的アプローチ	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
12	公害・環境問題について②:日本の公害・環境問題の歴史と教訓、具体的な環境問題で考えてみる	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
13	地域と経済:経済学の視点による地域の捉え方や地域発展・地域経済振興のあり方について考えてみる	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
14	経済学と政府の役割:社会保障制度と福祉国家の盛衰、市場の失敗と政府の失敗	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
15	まとめとして:これまでの講義の振り返り、社会を見る手がかりとしての経済思想	配布するレジュメや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分)	・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)
	2	日本経済論	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義期間中に実施する小レポート 40%。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	経済学というと競争社会での合理性や効率性を追求するといった冷たいイメージも伴いますが、現実の社会を取り扱うものですから、道徳倫理や公正を重視して、万人の幸福や厚生を求める思想も根幹に持ちます。看護・医療関係の進路であれば、人の生命や尊厳、幸福に関わる仕事ですので、経済学の知識やその思想を学んでおくことは有意義といえます。経済学や数学の予備知識を前提とはせずに授業進行を行います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考	授業時間内に口頭もしくは紙により質問を受け付けるようにし、次回講義時にフィードバックします。 授業時間外の質問についてはメール等で対応します(初回時にアナウンス)。			

科目名	患者安全	科目名 (英文)	Patient Safety
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	森谷 利香, 神谷 美紀子, 中山 祐一, 吉永 愛香
ディプロマポリシー (DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	NCA2503a3		

授業概要・目的	<p>〔授業概要〕 医療の進歩に伴う医療技術の高度化や複雑化、在院日数の短縮化と在宅療養へ移行する患者の増大、そして患者のニーズの多様化などを背景に看護職者の役割の期待は高まっている。同時に医療事故が社会問題化し、医療技術の最終提供者となることの多い看護職者がこれに関与することもある。質の高い看護実践は安全な医療のもとに成り立つ。 本科目では、我が国における医療安全の現状を概観し、医療事故防止に関する基本的な知識を身につける。また、看護職者としての責務と役割、およびリスクの予知と回避について学習するとともに、エラー事例の分析を通してその要因を検討し、医療事故防止について考察する。さらに一部、薬学部生との合同演習を行い、多職種による医療事故防止について学習する。</p> <p>〔目的〕 医療安全に関する基本的な知識を習得するとともに、質の高い看護実践のために医療事故防止の安全管理の在り方について説明することができる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の意味と重要性について理解できる。 2. 事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーについて理解できる。 3. 医療事故の動向と医療安全への取り組みについて理解できる。 4. 医療・看護場面での危険予知と対策について説明できる。 5. 医療・看護場面でのリスクと事故防止について説明できる。 6. エラーの要因と分析方法について説明できる。 7. 事例検討を通して、それぞれの役割の違いを理解、尊重し、多職種による医療事故防止について説明できる。 			
授業方法と留意点	<p>遠隔授業で講義を行う。講義では、医療安全に関する基本的知識の教授を基本としながら、実際に起きた事例を引用し、また視覚教材の活用を通して学習内容のイメージ化を促進する。また事例検討や教員からのフィードバックを組み合わせて、知識の定着を図り、主体的に学習に臨めるように授業を展開する。 多職種の役割を意識することで、多職種での事故防止について知見を深めると同時に、教員からのフィードバックを通して、互いの意見を理解、尊重する姿勢を身につける。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>本科目の内容は看護師国家試験の出題範囲に含まれます。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	1回 医療安全・患者安全の意味と重要性 ・医療安全を学ぶ意味 ・医療安全の対象 ・医療安全に関する基礎知識	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	2	2回 医療事故の動向と医療安全への取り組み ・医療事故の動向 ・国と職能団体の取り組み ・医療事故の報告制度	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める (30分)。
	3	3~4回 医療・看護場面での危険予知と対策1) ・KYT トレーニング	課題検討	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	4	5回 医療・看護場面での危険予知と対策2) ・KYT トレーニング	発表・まとめ	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	5	6回 事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーの発生 ・ヒューマンエラーとは ・エラーを発生しやすい環境	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)。
	6	7回 医療・看護場面でのリスクと事故防止 ・看護業務と事故発生要因 ・インシデント・アクシデント	講義	【事前学習】最近の医療事故について調べ、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)。
	7	8~9回 エラーの要因検討と対策1) ・RCA 分析	課題検討	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	8	10回 エラーの要因検討と対策2) ・RCA 分析	発表・まとめ	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	9	11~15回 多職種連携による医療事故防止	事例検討	【事前学習】講義の内容を復習し、自分の意見を考えておく (30分)。 【事後学習】講義の内容を復習し理解を深める。成果物の作成を行う。(30分)
	10			
	11			

	12			
	13			
	14			
	15			
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナース・グラフィカ 看護の統合と実践(2):医療安全 第3版	松下 由美子	メディカ出版
	2	ねころんで読める WHO 患者安全カリキュラムガイド	相馬孝博	メディカ出版
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	事前学習、および授業の中で課した課題やレポートの取り組み状況から評価する。			
学生への メッセージ	本授業では、5年以上の臨床経験を持つ教員が中心となり授業内容を教授します。提出されたレポートに関しては必要に応じて授業の中でフィードバックします。試験については、再試験対象者のうち、希望する学生に対してフィードバックします。スケジュールは変則ですので、配布する資料やポータルサイトの連絡に注意してください。			
担当者の 研究室等	森谷：7号館3階（研究室29） 神谷：7号館3階（研究室2）			
備考				

科目名	患者コミュニケーション	科目名 (英文)	Communication for Patients
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	眞野 祥子・稲垣 範子・村瀬 由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2504a3		

授業概要・目的	チーム医療の場面における、患者と医療者のコミュニケーションの基本的概念を習得する。将来、医療現場で働くものとして、患者・家族、医療者によりよい関係を築くためのコミュニケーション技法について学ぶ。また、医療者として患者が求めているケアを提供するには、患者が何を望んでいるのか、どう考えているのかを正確に理解する必要がある。よって、医療を受ける患者の理解（特に心理のプロセス）についても学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者・医療者間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 医療を受ける患者を理解し（特に心理プロセス）、コミュニケーション上の配慮を述べることができる。 患者・医療者のコミュニケーション（会話）に必要な技法について述べることができる。
授業方法と留意点	ICT ツールを活用した遠隔授業である。
科目学習の効果 (資格)	キャリア形成科目として、今後のチーム医療学習、および様々な現場でのコミュニケーション場面での実践につながる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(1) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
3	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(2) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
4	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(3) クラス別SGD	①チームビルディングを通して話し合える関係を作る。②患者・患者の家族になった体験を共有し、患者医療者間のコミュニケーションの特徴についてまとめ、発表する ポイント：立場の違う医療系学生として、それぞれのレディネスを話し合い、薬剤師、看護師の共通性、相違点を明らかにする。 教材：テキスト、配布物	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
5	ワーク1：医療の場における患者・医療者間のコミュニケーションの特徴(4) クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出
6	医療を受ける患者の心理プロセス	合同講義を行う。 医療を受ける患者がどのような心理プロセスを経験するのかについて、事例を交えた講義で学ぶ。 教材：テキスト、配布物	事前課題：課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題：個人ワークシート記録
7	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する(1) クラス別SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
8	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する(2) クラス別SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成
9	ワーク2：患者の心理プロセスを体験的に理解する(3) クラス別SGD	ワーク：①心理プロセスを理解する担当事例を検討し、②ロールプレイをグループで患者の心理プロセスを体験的に理解する。③患者の心理プロセスに配慮したコミュニケーション上の配慮について、学びをまとめる。	事前課題：前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題：個人ワークシート記録、評価物の作成

	10	ワーク2:患者の心理プロセスを体験的に理解する(4)クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出																
	11	患者コミュニケーションの基本的技法	合同講義を行う。患者コミュニケーションの基本的技法、体験的に学ぶポイントと、設定作りについて解説する。	事前課題: 課題に必要な内容を予習しておくこと 事後課題: 個人ワークシート記録																
	12	ワーク3:患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ(1)クラス別SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成																
	13	ワーク3:患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ(2)クラス別SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成																
	14	ワーク3:患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ(3)クラス別SGD	①場面と台本づくり、練習、他チームとロールプレイ。場面を動画にとり、振り返る。薬物や療養生活上のコミュニケーション場面を設定し、チーム連携の立場からも学べるよう設定する。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 個人ワークシート記録、評価物の作成																
	15	ワーク3:患者-医療者のコミュニケーション場面作りとロールプレイ(4)クラス別SGD	ワークの成果を各グループから発表する。 学びのまとめを行う。	事前課題: 前回の個人ワークシート記録を確認 事後課題: 授業内容を復習しておくこと。指定した成果物の提出																
実務経験																				
関連科目	看護対人関係論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>がん医療におけるコミュニケーション・スキル</td> <td>内富 庸介/藤森 麻衣子編著</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル	内富 庸介/藤森 麻衣子編著	医学書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	がん医療におけるコミュニケーション・スキル	内富 庸介/藤森 麻衣子編著	医学書院																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																			
評価方法(基準)	個人ワーク、各回レポート課題、最終レポートの内容及び提出状況 100点満点中60点以上で合格。なお、修学状況(受講態度等)が不良の場合、20点を限度に減点することがある。																			
学生へのメッセージ	将来、医療に携わる者として、患者-医療者間のコミュニケーションについて学ぶとともに、チーム医療について互いに考えを深める機会にしましょう。 課題提出は必ず期限を守ってください。																			
担当者の研究室等	眞野: 7号館3階(看護学部研究室19) 村瀬: 7号館3階(看護学部研究室4) 稲垣範: 7号館3階(看護学部共同研究室2) 岩崎: 1号館4階(岩崎講師室) 眞島: 1号館4階(眞島講師室)																			
備考	課題(グループ発表資料等)については、発表時にフィードバックを行い、口頭発表であれば、教員から総括のコメントを行う。																			

科目名	臨床医療演習 I	科目名 (英文)	Clinical Medical Seminar I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	松本 葉子, 小川 宣子, 名草 みどり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2505a3		

授業概要・目的	<p>【概要】医療の質を改善する手法として開発・導入されたクリニカルパス（以下パスと略す）は、多職種が関わる医療現場で医療者の共同意識を促し、チーム医療を促進するものであると認識されている。パスの作成、運営、評価において看護職者の果たす役割は大きく、パスを介した患者や多職種とのコミュニケーションはその効果を発揮する上でも重要である。しかし、そのコミュニケーション能力を発揮するためには、既存のパスの疾患や治療の理解、看護の役割について十分に理解できる能力が前提となる。</p> <p>【目的】本科目は、パスの意義や基本構造を理解し、目標とタスクの背景となるエビデンスを整理し、看護師の役割を考えることを目的とする。</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パスの歴史と意義、基本構造について理解できる。 2. パス作成および評価におけるアウトカム（目標）志向の重要性について理解できる。 3. 担当するパスの疾患や治療、生活への影響、看護について説明できる。 4. 担当するパスの適応、および、アウトカムとタスクについてエビデンスをもとに説明できる。 5. 担当したパスの患者用をもとに患者に説明するためのシナリオを作成することができる。
------	--

授業方法と留意点	遠隔授業で授業する。担当する疾患および治療のパスについて調べ、患者に説明できるように内容を整理する。授業時間内に相談のためのチャットを実施する時間を設ける。
----------	--

科目学習の効果（資格）	臨床実習においてパスが適応されている患者を担当することがある。そのため、実習の学習成果の促進に貢献する。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	パスの概要・作成・評価（バリエーション）について（1）	授業テーマに関する講義	事前：日本クリニカルパス学会、または、各医療機関がホームページ上に掲載しているパスの目的や意義について調べてみる。 事後：パスの目的や意義をふまえてグループワークが展開できるよう、講義内容を振り返る。
2	パスの概要・作成・評価（バリエーション）について（2）	授業テーマに関する講義 個人ワークのオリエンテーション	事前：日本クリニカルパス学会、または、各医療機関がホームページ上に掲載しているパスの目的や意義について調べてみる。 事後：パスの目的や意義をふまえて個人ワークが展開できるよう、講義内容を振り返る。	
3	課題①パスが適応となる疾患や治療の理解（1）	担当するパスの疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用パスと患者用パスに記載されている内容の根拠を整理する。	事前：担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
4	課題①パスが適応となる疾患や治療の理解（2）	担当するパスの疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用パスと患者用パスに記載されている内容の根拠を整理する。	事前：担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
5	課題①パスが適応となる疾患や治療の理解（3）	担当するパスの疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用パスと患者用パスに記載されている内容の根拠を整理する。	事前：担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
6	課題①パスが適応となる疾患や治療の理解（4）	担当するパスの疾患、検査、治療、生活上の注意、他職種の役割などを調べ、医療者用パスと患者用パスに記載されている内容の根拠を整理する。	事前：担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
7	課題②パスの適応およびアウトカムとタスクについてのエビデンス整理（1）	課題①で収集した情報をもとに、パスの適応、アウトカムとタスクとの関係についてエビデンスを整理する。	事前：課題①の学習内容を見直す。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
8	課題②：パスの適応およびアウトカムとタスクについてのエビデンス整理（2）	課題①で収集した情報をもとに、パスの適応、アウトカムとタスクとの関係についてエビデンスを整理する。	事前：課題①の学習内容を見直す。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
9	課題②：パスの適応およびアウトカムとタスクについてのエビデンス整理（3）	課題①で収集した情報をもとに、パスの適応、アウトカムとタスクとの関係についてエビデンスを整理する。	事前：課題①の学習内容を見直す。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
10	課題②：パスの適応およびアウトカムとタスクについてのエビデンス整理（4）	課題①で収集した情報をもとに、パスの適応、アウトカムとタスクとの関係についてエビデンスを整理する。	事前：課題①の学習内容を見直す。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
11	課題③：パスの疾患及び治療における看護（1）	タスクに記載されていない看護についてもエビデンスをもとに目的、留意点を調べ、整理する。	事前：課題①②の学習内容を見直し、不足している資料を収集する。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
12	課題③：パスの疾患及び治療における看護（2）	パスに記載されている看護タスクを含め、パスの疾患および治療における看護について、患者に説明できるように整理する。	事前：課題①②の学習内容を見直し、不足している資料を収集する。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
13	課題④：患者用パスの活用（1）	課題①～③の学習内容をもとに、患者用パスを用いたオリエンテーションのシナリオを作成する。	事前：課題①～③の学習内容を見直す。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。	
14	課題④：患者用パスの活用（2）	課題①～③の学習内容をもとに、患者用パスを用いたオリエンテーションのシナリオを作成する。	事前：課題①～③の学習内容を見直す。 事後：個人ワークの進捗状況に応じて、課題を行う。 患者用パスの説明練習を行う。	
15	課題④：患者用パスの活用（3）	家族の誰かに患者役になってもらい、パスを用いて、オリエンテーションを実施する。 実施後、フィードバックをもらう。	事前：オリエンテーションの練習 事後：実施したオリエンテーションの課題と受けたフィードバックをまとめる。	

実務経験																	
関連科目	これまで履修した専門基礎科目と専門科目のすべて																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>クリニカルパス概論</td> <td>日本クリニカルパス学会学術委員会監修</td> <td>サイエンティスト社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>基礎から学ぶクリニカルパス実践テキスト</td> <td>日本クリニカルパス学会学術委員会監修</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>実践チーム医療論 実際と教育プログラム</td> <td>水本清久ら編著</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	クリニカルパス概論	日本クリニカルパス学会学術委員会監修	サイエンティスト社	2	基礎から学ぶクリニカルパス実践テキスト	日本クリニカルパス学会学術委員会監修	医学書院	3	実践チーム医療論 実際と教育プログラム	水本清久ら編著	医歯薬出版
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	クリニカルパス概論	日本クリニカルパス学会学術委員会監修	サイエンティスト社													
	2	基礎から学ぶクリニカルパス実践テキスト	日本クリニカルパス学会学術委員会監修	医学書院													
3	実践チーム医療論 実際と教育プログラム	水本清久ら編著	医歯薬出版														
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	課題の取り組み状況から評価する。																
学生への メッセージ	本授業では、各教員の病院での実践経験を踏まえて授業内容を教授します。 パスで学習する疾患・治療は、実習でも担当する可能性のあるものです。取り組みを通して実習および卒業後の看護実践に役立てるよう看護師としての専門意識や説明力を高められることを期待しています。 事前事後の学習時間は集中授業になりますので、授業期間中平均して30分～1時間/日は確保するようにしましょう。																
担当者の 研究室等	7号館3階 松本研究室 (28)																
備考	フィードバックは必要に応じて授業時間中に行います。																

科目名	臨床医療演習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Medical Seminar II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	竹下 裕子・志戸岡 恵子・柳本 広二
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	NCA2506a3		

授業概要・目的	医療の高度化・複雑化及び医療の質や安全性の向上に伴い、多職種によるチーム医療が様々な臨床で実践されている。その中で、看護学と工学の新たな科学的知見に基づく考えや技術の導入が求められている。本科目では、人間工学、建築環境工学、情報科学の基礎知識を学修し、看護学と工学の融合について考える。
到達目標	1) 人間工学の定義、目的を説明できる 2) 建築環境工学の定義、目的を説明できる 3) 情報科学の定義、目的を説明できる 4) 看護学における工学の役割が理解できる 5) これからの看護学と工学の融合について考察できる
授業方法と留意点	遠隔授業(教材・課題提供型授業)を通して、人間工学、建築環境工学、機械工学の基礎を理解しやすいように解説します。基本は teams・Moodle を使用予定ですので、アクセスをして資料を閲覧し、課題などの指示にしてください。 学生間で知識の共有やディスカッションできる場を設けますので、質問や意見を投稿してください。 これらの学習により、看護における工学の役割について理解を促します。 授業日程は、別途スケジュールを提示します。
科目学習の効果(資格)	本科目は、看護学と工学の融合した学問の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	人間工学の基礎(1)	人間工学の定義	事前学習: 人間工学について調べる(30分) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
2	人間工学の基礎(2)	臨床における人間工学の活用について	事前学習: 臨床で活用されている人間工学について調べる(30分) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
3	建築環境工学の基礎(1)	建築環境工学の定義	事前学習: 建築環境工学について調べる(30分) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
4	建築環境工学の基礎(2)	臨床における建築環境工学の活用について	事前学習: 臨床で活用されている建築環境工学について調べる(30分) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
5	機械工学の基礎(1)	機械工学の定義	事前学習: 機械工学について調べる(30分) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
6	機械工学の基礎(2)	臨床における機械工学の活用について	事前学習: 臨床で活用されている機械工学について調べる(30分) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
7	工学の実際(1)	工学の実際を学ぶ	事前学習: これまでの授業内容の復習(1時間) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
8	工学の実際(2)	工学の実際を学ぶ	事前学習: これまでの授業内容の復習(1時間) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
9	工学の実際(3)	工学に実際を学ぶ	事前学習: これまでの授業内容の復習(1時間) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
10	工学の実際(4)	工学の実際を学ぶ	事前学習: これまでの授業内容の復習(1時間) 事後学習: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
11	看護学における工学の理解(1)	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習: 発表資料作成のための情報・資料収集(1時間) 事後学習: 発表資料作成(1時間)
12	看護学における工学の理解(2)	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習: 発表資料作成(1時間) 事後学習: 発表資料作成(1時間)
13	看護学における工学の理解(3)	これまでの学びをまとめ、看護学における工学の理解および、これからの看護学と工学の融合について考察する	事前学習: 発表資料作成(1時間) 事後学習: 発表資料作成(1時間)
14	看護学と工学のこれから(1)	看護学と工学のこれからについて発表資料を作成する	事前学習: 発表資料作成(1時間) 事後学習: さらに深く学習したいことについて調べる(1時間)
15	看護学と工学のこれから(2)	看護学と工学のこれからについて発表資料を作成する	事前学習: 発表資料作成(1時間) 事後学習: さらに深く学習したいことについて調べる(1時間)

実務経験	
関連科目	これまで履修した専門科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護理工学	真田弘美・森武俊 編	東京大学出版会
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題への取り組み（ディスカッション、質問）、課題レポートや発表資料の提出内容100%により総合的に評価する。したがって、課題は指定された期日までに忘れず提出をしてください。			
学生への メッセージ	担当される先生方は、人間工学、温熱環境工学、情報生命科学におけるエキスパートで、この科目は看護学と工学の融合という新しい学問領域になります。担当の先生方から学んだことを基に、ICT ツールを用いて学生間でのディスカッションを行い、みなさんからの斬新なアイデアが創出されることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階 竹下（研究室30）			
備考				

科目名	人体の構造と機能 I	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳本 広二
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1001a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」に関する基礎力を身に付けます。医療/医学/看護/リハビリ/介護領域では、何をやるにしても、「人体の構造と機能」に関する理解と知識が欠かせません。どこかに旅行する際の、電車やバス・飛行機の運行状況、駅・バス停・飛行場の位置、または、そこまでの道路状況を知ることに似ています。目的地 (将来の専門性) は変われども、これらの基礎知識無くしては、旅立つこと、目的地に着くことが難しくなります。本授業の目的は、今後の学習に役立ち、また、臨床の場に生かされる、人体の構造と機能を理解し把握・保持することです。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護実践の土台となる人体の構造と機能について説明できる。 人体の恒常性とその維持について、構造と機能の面から説明できる。 人体の構造と機能について、臨床で活用可能な知識として説明できる。 各器官系の時間的経過における変化を説明できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 大学としての遠隔授業が始まるまでは、5月11日に本学事務室から発送する資料 (初期の3回分) を用い、自宅での自習と自主トレーニング (資料内に具体的に説明します) に使用します。 本科目が提示する前期全般にわたる課題とは、自分だけの自筆・要点ノートの作成です。遠隔授業の開始以降も、本授業担当者からの情報提供に基づき、手作りノート作成の課題は続きます。提出は本科目の終了時です。 5月25日開始予定の遠隔授業の内容提示は、5月に行ったような資料の郵送ではなく、teams、もしくはMoodleを用いて行います。
科目学習の効果 (資格)	患者さんや職場仲間信頼される、基礎「脳力」、が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	看護の土台となる解剖生理学	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 解剖学と生理学の対象、解剖学と生理学の関連を述べることができる。 解剖学的正常位、方向用語と断面を説明できる。臨床における画像診断につなげる。 人体内の四つの腔所名と内部の臓器名を挙げることができる。 ホメオスタシスの意味を説明できる。 フィードバック機構の構成要素を述べることができる。 人体におけるフィードバック機構の役割を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本科目に取り組むことの意義を含め、本科目の授業内容と進め方と教科書の一部をコピーした自宅学習用資料を、本学事務室より、5月11日、各自へ発送します。自宅へ届いた日より、それらを活用して自宅での授業 (主体的学習と自主トレーニング) を開始してください。 具体的な内容と進め方は、上記資料に書いています。本科目の課題は、各自による自筆ノートの作成と、同ノートに書き留められた重要項目 (指定構文と自由構文) を、将来の医療現場まで生き残る「強い長期記憶」として定着させていきます。 本授業の学習・記憶トレーニング
2	細胞と組織 体を構成するしくみ①	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人体を構成する4種類の主な元素と数種類の微量元素を挙げることができる。元素の原子記号を表記できる。 核の構造と核膜、染色体、染色質 (クロマチン) の機能を説明できる。 細胞膜の構造と機能 (膜を介した物質の移動) を述べることができる。 細胞内小器官の名称と機能を説明できる。 	<p>初回授業に関する説明と同じです。資料を用いた自宅学習を進めてください。一回あたりの取り組み時間は、およそ3時間です。</p>	
3	細胞と組織 体を構成するしくみ②	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体細胞の分裂と生殖細胞の分裂 (減数分裂) について説明できる。 4種の主要な組織 (上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織) について、その特徴を述べることができる。 各組織が存在する人体の部位を特定できる。 	<p>初回授業に関する説明と同じです。資料を用いた自宅学習を進めてください。一回あたりの取り組み時間は、およそ3時間です。</p>	
4	皮膚と膜 体や臓器を守るしくみ	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漿膜のある部位を挙げ、その構造と機能を説明できる。 粘膜と皮膚が連続している部位を挙げることができる。 滑膜や滑液包のある部位を挙げ、その役割を説明できる。 表皮・真皮・皮下組織の構造を説明できる。 毛・爪・脂腺・汗腺が皮膚の機能にどのように関与しているかを説明できる。 体温の調節機構を述べることができる。 これまでの授業のまとめ。 	<ul style="list-style-type: none"> 以降は、ICTツールを活用した遠隔授業となります。それぞれの手に届いた教科書 (5月28日から順次発送予定) と、ICTツールから届く授業内容に沿い、これまでと同様、本科目の課題となる「各自の自筆ノートの作成」を継続します。 本授業では、前回までの記憶の確認 (赤の透明シートを用いた自主トレーニング) に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間 	
5	血液 物質を運搬するしくみ①	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 血漿と血清の違いを説明できる。 血球と血漿の成分を挙げることができる。 血球の名称と機能を説明できる。 造血に関わるサイトカインを挙げることができる。 	<p>前回までの記憶の確認 (赤の透明シートを用いた自主トレーニング) に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。</p>	
6	血液 物質を運搬するしくみ②	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 止血のメカニズムを説明できる。 ABO式、Rh式の血液型について説明できる。 これまでの授業のまとめ。 	<p>前回までの記憶の確認 (赤の透明シートを用いた自主トレーニング) に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主</p>	

				レーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
7	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ①	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓の位置と各部位の名称を挙げることができる。 ・血液が体内を循環する経路を心臓を中心に述べるができる。 ・肺循環と体循環の特徴を説明できる。 ・心臓を栄養する血管を挙げることができる。 ・心臓の刺激伝導系の名称を説明できる。 ・心周期と心音、心電図の関係を述べるができる。 ・心拍数と1回拍出量を調節する因子を挙げることができる。 ・動脈と静脈の血管の構造と機能を説明できる。 ・主要な動脈と静脈の名称を述べるができる。 	<p>前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。</p>	
8	循環器系 体のすみずみまで血液を送るしくみ②	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な動脈と静脈の名称を述べるができる。 ・脳、門脈、胎児の循環系について説明できる。 ・血圧と脈拍の定義を述べるができる。 ・血圧を調整する因子を挙げることができる。 ・体表面から脈拍に触れる部位と触れる血管名を挙げることができる。 ・リンパの静脈への流入経路が左右非対称である点を説明できる ・これまでの授業のまとめ。 	<p>前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。</p>	
9	呼吸器系 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ①	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鼻や口から入る空気が肺に至るまでに通過する呼吸器官を挙げることができる。 ・呼吸器系の加温・加湿・清浄化(感染防御)機構を述べるができる。 ・胸腔における胸膜と肺の位置関係が説明できる。 ・肺胞の構造を述べるができる。 ・吸息に関する筋と神経を説明できる。 	<p>前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。</p>	
10	呼吸器系 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ②	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スパイロメーターで測定する肺気量分画の意味を説明できる。 ・肺活量、%肺活量、1秒間努力呼気容量、1秒率の臨床応用について述べることができる。 ・外呼吸、内呼吸を説明できる。 	<p>前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。</p>	
11	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ①	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食欲の調節機構(抑制因子と増進因子)を説明できる。 ・唾液の成分と機能を説明できる。 ・歯の構造を述べ、乳歯と永久歯の名称を挙げることができる。 	<p>前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。</p>	
12	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ②	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嚥下の機構を述べるができる。 ・胃、小腸、大腸の構造名を挙げることができる。 <p>これまでの授業のまとめ。</p>	<p>前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。</p>	
13	消化器系 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ③	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化管や付属腺から分泌される消化酵素の名称と、各々が作用する物質を説明することができる。 	<p>前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。</p>	
14	泌尿器系 尿をつくるしくみ①	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネフロン構造を述べるができる。 ・糸球体の濾過と尿管の再吸収、分泌により尿が生成される過程を述べるができる。 ・尿に含まれる物質を挙げることができる。 ・無尿、乏尿、多尿を定義することができる。 	<p>前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。</p>	

			・これまでの授業のまとめ。	
	15	泌尿器系 尿をつくるしくみ②	以下を目標とします。 ・アルドステロンが腎臓に及ぼす影響について説明できる。 ・排尿の機構を述べることができる。 ・尿道の構造について男性と女性の差(長さ括約筋)を説明できる。	前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
実務経験				
関連科目	人体の構造と機能Ⅱ、Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学	林正健二 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イメージできる解剖生理学	ナーシングサブリ編集委員会 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目終了時に、各自が作った自筆ノート(=課題)を提出してください。 ・事前学習用に配布した資料、および、手元に届く参考書内、各項目での ◇要点整理を正答と共に書き写す「必要構文」、および、◇トレーニングを正答と共に書き写す「自由構文」の数を評価します。「自由構文」の書き写しは、◇トレーニングの箇所にある記述のみで留める必要はなく、余裕があれば、それ以外に広げることも自由です。その他、思いついたこと、記憶への工夫(独自の記憶術)、その他、思いつきや調べたこと、各自ノート内への、いかなるメモ書きも自由 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を聴くだけではすぐに忘れてしまいます。忘れないためには、同じところを何度も、最低10回は見返してみてください。 ・具体的には、ノートに自筆した、必要構文、または、自由構文を用いて、それぞれに含まれる赤文字を赤い透明シートで隠し、構文ごとに声を出して全文を読み上げて、赤字部分を正答できたことを、目を替えて、最低10回は確認します(=自主トレーニング)。 ・記憶する内容が増すとともに、生体の仕組みを知ることが楽しくなっていきます。もしも、楽しくならない時は、嘘でもよいので、「この科目が大好き」と何度 			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室23			
備考				

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳本 広二
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1002a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」に関する基礎力を身に付けます。医療/医学/看護/リハビリ/介護領域では、何をやるにしても、「人体の構造と機能」に関する理解と知識が欠かせません。どこかに旅行する際の、電車やバス・飛行機の運行状況、駅・バス停・飛行場の位置、または、そこまでの道路状況を学ぶことに似ています。目的地(将来の専門性)は変われども、これらの基礎知識無くしては、旅立つこと、目的地に着くことが難しくなります。本授業の目的は、今後の学習に役立ち、また、臨床の場に生かされる、人体の構造と機能を理解し、それらをからだの血となり肉となるように、末永く把握・保持することです。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床でよく遭遇し、かつ重要な症状・徴候について、その原因の理解・分類ができる。 それらの症状・徴候の病態生理を理解できる。 それらの症状・徴候の問診、検査のポイントが理解できる。 それらの症状・徴候の処置、治療の原則が理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 大学としての遠隔授業が始まるまでは、5月11日に本学事務室から発送する資料(初期の3回分)を用い、自宅での自習と自主トレーニング(資料内に具体的に説明します)に使用します。 本科目が提示する前期全般にわたる課題とは、自分だけの自筆・要点ノートの作成です。遠隔授業の開始以降も、本授業担当者からの情報提供に基づき、手作りノート作成の課題は続きます。提出は本科目の終了時です。 5月25日開始予定の遠隔授業の内容提示は、5月に行ったような資料の郵送ではなく、teams、もしくはMoodleを用いて行います。
科目学習の効果(資格)	患者さんや職場仲間に信頼される、基礎「脳力」、が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	序論、 体液の異常	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズムに共通する現象を説明できる。 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の分類ができる。 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の対応や対処の原則について説明できる。 体液の分布と組成を説明できる。 水バランスと血漿浸透圧の調節との関係を説明できる。 ナトリウム・カリウム代謝とその異常を分類し説明できる。 カルシウム・リンの代謝とその異常を説明できる。 酸塩基平衡の調 	<ul style="list-style-type: none"> 本科目に取り組むことの意義を含め、本科目の授業内容と進め方と教科書の一部をコピーした自宅学習用資料を、本学事務室より、5月11日、各自へ発送します。自宅へ届いた日より、それらを活用して自宅での授業(主体的学習と自主トレーニング)を開始してください。 具体的な内容と進め方は、上記資料に書いています。本科目の課題は、各自による自筆ノートの作成と、同ノートに書き留められた重要項目(指定構文と自由構文)を、将来の医療現場まで生き残る「強い長期記憶」として定着させていきます。 本授業の学習・記憶トレーニング
2	血行障害、 炎症と修復	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> 血行障害とは何かを説明できる。 血行障害の原因を分類できる。 血栓症と塞栓症の違いを説明できる。 梗塞とは何かを説明できる。 側副循環(副循環)とは何か、例を挙げて説明できる。 炎症とは何かを説明できる。 炎症の原因を分類できる。 炎症と修復に関わる細胞と体液性因子について説明できる。 炎症と修復の経過を病理学的について説明できる。 	初回授業に関する説明と同じです。資料を用いた自宅学習を進めてください。一回あたりの取り組み時間は、およそ3時間です。	
3	免疫および免疫疾患、 感染	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> 免疫の役割とは何かを説明できる。 免疫の働きと調節を説明できる。 免疫とその障害である免疫疾患を分類できる。 免疫疾患の成り立ちを説明できる。 現在行われている免疫疾患の治療の原則について説明できる。 感染の成立とその修復機転について説明できる。 感染の原因となる微生物について説明できる。 交叉感染を防ぐための基本(標準予防策を含む)が説明できる。 感染症の治療一般(抗菌薬を含む)について説明できる。 	初回授業に関する説明と同じです。資料を用いた自宅学習を進めてください。一回あたりの取り組み時間は、およそ3時間です。	
4	変性・壊死・萎縮・老化、腫瘍と過形成	以下を目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> 変性とは何かを説明できる。 壊死とは何かを説明できる。 凝固壊死と融解壊死の病態の違いを説明できる。 アポトーシスとは何かを説明できる。 萎縮とは何かを説明でき、具体例を挙げられる。 老化とは何かを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 以降は、ICTツールを活用した遠隔授業となります。 それぞれの手元に届いた教科書(5月28日から順次発送予定)と、ICTツールから届く授業内容に沿い、これまでと同様、本科目の課題となる「各自の自筆ノートの作成」を継続します。 本授業では、前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う主要臓器の変化について説明できる。 ・がん細胞と正常細胞の違いを説明できる。 ・良性腫瘍と悪性腫瘍、癌腫と肉腫とは何かを説明できる。 ・がんの自然史と進展形式について説明できる。 ・TNM分類とは何か説明できる。 ・がん治療の種 	「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5
5	先天異常、代謝異常	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先天異常とは何かを説明できる。 ・先天異常の原因を分類できる。 ・DNAと遺伝子と染色体の関係を説明できる。 ・染色体異常と遺伝性疾患を区別できる。 ・遺伝形式を説明できる。 ・遺伝医療の流れを説明できる。 ・先天異常の看護のポイントを説明できる。 ・健常者の血糖調節機序の説明ができる。 ・糖尿病における血糖上昇の理由を説明できる。 ・高血糖でアシドーシスになる理由を説明できる。 ・高血糖時のいろいろな症状の発生機序を説明できる。 ・低血糖の発生機序を説明できる。 	4回目授業で記載した内容と同じです。前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
6	<p>徴候と疾患の関係、</p> <p>序論—身体の不調はどう現れるか、</p> <p>咳嗽・喀痰・咯血、呼吸困難、胸痛、不整脈</p>	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の原因を理解し、その分類ができる。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の病態生理が理解できる。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の問診・検査のポイントがわかる。 ・よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の対応や対処の原則が理解できる。 ・咳嗽・喀痰の定義・概念について述べるができる。 ・咳嗽・喀痰の病因とメカニズムについて述べるができる。 ・咳嗽・喀痰を引き起こす代表的な疾患を述べるができる。 ・咳嗽・喀痰の分類を述べるができる。 	前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
7	チアノーゼ、ショック、腹痛、肥満、やせ	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チアノーゼとは何か説明できる。 ・チアノーゼの分類ができる。 ・チアノーゼを観察する部位がわかる。 ・ショックとは何かを説明できる。 ・ショックの原因を分類できる。 ・ショックの段階を説明できる。 ・ショック時の観察ポイントを説明できる。 ・ショックへの対応の流れと治療の原則が説明できる。 ・腹痛の分類と発生機序を説明できる。 ・体性痛と内臓痛とを鑑別できる。 ・急性腹症について説明できる。 ・腹膜刺激症状を説明できる。 ・腹痛をきたす病態で緊急に外科的手術 	前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
8	食欲不振、嚥下障害、嘔気・嘔吐、吐血・下血、便秘、下痢	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食欲不振とは何かを説明できる。 ・食欲を調節するしくみを説明できる。 ・食欲不振の原因を分類し、説明できる。 ・食欲不振時の観察ポイントを説明できる。 ・嚥下の各期の名称を挙げ、その説明ができる。 ・嚥下障害とは何かを説明できる。 ・嚥下障害に伴うリスクを説明できる。 ・嚥下の各期に起こりうる障害について観察項目とアセスメントを説明できる。 ・嚥下の各期の障害に対する基礎・摂食訓練を説明できる。 ・嘔気・嘔吐とは何かを説明できる。 ・嘔気・嘔吐の原因と機序を説 	前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
9	腹部膨満、腹水、黄疸、貧血、	以下を目標とします。	前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自

		出血傾向、リンパ節腫脹	<ul style="list-style-type: none"> ・腹部膨満の原因を五つ挙げることができる。 ・腹部膨満の原因となる疾患は何かを述べることができる。 ・腹部膨満を訴える患者の病歴聴取のポイントを説明できる。 ・身体診察から鼓腸、腹水、肥満を鑑別診断できる。 ・腹水貯留の原因となる疾患を説明できる。 ・腹水の性状による分類について説明できる。 ・フィジカルアセスメントでの腹水貯留所見について説明できる。 ・腹水貯留の病態生理が説明できる。 ・ビリルビン代謝について説明できる。 ・黄疸の原因と分類について説明できる。 	主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
10		皮膚?痒、レイノー症状、意識障害、頭痛、痙攣とてんかん	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の掻痒の原因を分類できる。 ・掻痒を伴う主な内科疾患を説明できる。 ・掻痒の原因を診断するための主な検査を列挙できる。 ・皮膚掻痒の治療の原則を説明できる。 ・レイノー症状とは何かを説明できる。 ・レイノー症状の原因を分類できる。 ・レイノー症状の治療の原則を説明できる。 ・意識障害とは何かを説明できる。 ・意識障害の原因を分類できる。 ・意識障害の頭蓋内病変と頭蓋外病変の違いを説明できる。 ・意識障害の評価法を説明でき、意識状態を判定できる。 ・意識障 	前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
11		運動麻痺、運動失調、歩行障害、嘔声、めまい	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動麻痺の種類(筋性麻痺、末梢神経性麻痺、下位運動・上位運動ニューロン性麻痺)を説明できる。 ・片麻痺、交叉性片麻痺、対麻痺の発生機序を説明できる。 ・痙性麻痺と弛緩性麻痺の違いを説明できる。 ・痙縮と固縮の違いを説明できる。 ・運動皮質、運動前野、補足運動野の機能を簡単に説明できる。 ・徒手筋力テスト(MMT)を簡単に説明できる。 ・失行と運動失調の区別を説明できる。 ・パーキンソン病の振戦と小脳性振戦の違いを説明できる。 ・指鼻指試験を実施できる。 ・測定障 	前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
12		視力障害、難聴、耳鳴、味覚障害、嗅覚障害、しびれ	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視力障害とは何かを説明できる。 ・視力障害の原因を分類できる。 ・視力障害の発症機序を説明できる。 ・視力障害時の観察ポイントを説明できる。 ・視力障害の治療の原則が説明できる。 ・難聴とは何かを説明できる。 ・難聴を障害部位別に分類できる。 ・程度により難聴を区分できる。 ・難聴を起こす主な原因疾患を説明できる。 ・主な聴力検査について説明できる。 ・耳鳴とは何かを説明できる。 ・耳鳴の分類ができる。 ・耳鳴を起こす主な疾患を述べることができる。 ・主 	前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
13		腰痛、関節症状、発熱・低体温、浮腫、脱水	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰痛とは何か説明できる。 ・腰痛の原因となる腰椎疾患、腰椎以外の疾患をそれぞれ説明できる。 ・腰痛の主な診断方法について説明ができる。 ・腰痛の主な治療方法の説明ができる。 ・関節痛とは何かを説明できる。 ・関節痛をきたす疾患を列挙できる。 ・関節痛の観察ポイントを説明できる。 ・関節痛の治療の原則が説明できる。 	前回までの記憶の確認(赤の透明シートを用いた自主トレーニング)に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。

			<ul style="list-style-type: none"> 発熱とは何かを説明できる。 発熱の原因を分類できる。 発熱の段階を説明できる。 発熱時の観察ポイントを説明できる。 発熱への対応の流れ 	
	14	排尿異常、尿量異常、尿所見異常、睡眠障害、倦怠感	<p>以下を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 頻尿の定義を説明できる。 排尿痛を三つに分類して説明できる。 排出困難（排尿困難）の症状を三つ以上説明できる。 尿失禁を原因により六つに分類できる。 無尿の定義を説明できる。 乏尿の定義と乏尿をきたす三つ機序を説明できる。 多尿を生じる疾患を説明できる。 尿が混濁する原因を二つ説明できる。 尿タンパクが検出される疾患を三つに大別して説明できる。 尿糖陽性が意味することを説明できる。 血尿の原因を三つに区別して説明できる。 睡眠の種類につ 	前回までの記憶の確認（赤の透明シートを用いた自主トレーニング）に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
	15	まとめ	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を醸成します。	前回までの記憶の確認（赤の透明シートを用いた自主トレーニング）に1時間、各自による資料と教科書の理解、および、「必要構文」と「自由構文」を書き留める自作・自筆ノートの作成に90分、および、それを用いた、強い長期記憶の定着へ向けた自主トレーニングに1時間、合計3.5時間、取り組んでください。
実務経験				
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち① 病態生理学	山内豊明 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・サブリエイジ イメージできる病態生理学	ナーシング・サブリエイジ編集委員会 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 本科目終了時に、各自が作った自筆ノート（＝課題）を提出してください。 事前学習用に配布した資料、および、手元に届く参考書内、各項目での ◊要点整理を正答と共に書き写す「必要構文」、および、◇トレーニングを正答と共に書き写す「自由構文」の数を評価します。「自由構文」の書き写しは、◇トレーニングの箇所にある記述のみで留める必要はなく、余裕があれば、それ以外に広げることも自由です。その他、思いついたこと、記憶への工夫（独自の記憶術）、その他、思いつきや調べたこと、各自ノート内への、いかなるメモ書きも自由 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 講義を聴くだけではすぐに忘れてしまいます。忘れないためには、同じところを何度も、最低10回は見返してみてください。 具体的には、ノートに自筆した、必要構文、または、自由構文を用いて、それぞれに含まれる赤文字を赤い透明シートで隠し、構文ごとに声を出して全文を読み上げて、赤字部分を正答できたことを、目を替えて、最低10回は確認します（＝自主トレーニング）。 記憶する内容が増すと同時に、生体の仕組みを知ることが楽しくなっていきます。もしも、楽しくならない時は、嘘でもよいので、「この科目が大好き」と何度 			
担当者の 研究室等 備考	7号館3階 研究室23			

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳本 広二
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1003a0		

授業概要・目的	「人体の構造と機能」に関する基礎力を身に付けます。病気の学習は、旅行先の風景を学ぶことに似ています。目的地（将来の専門性）は変われども、これらの基礎知識無くしては、患者さんに向き合う上で欠かせない「人体の構造と機能に関する世界観」を持ってません。本授業の目的は、臨床の場で活躍できる、体に関する必要最低限の知識人を育てることです。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護実践の土台となる人体の構造と機能について説明できる。 人体の恒常性とその維持について、構造と機能の面から説明できる。 人体の構造と機能について、臨床で活用可能な知識として説明できる。 各器官系の時間的経過における変化を説明できる。
授業方法と留意点	この科目は、Moodleによる遠隔授業によって進めます。各科目の必須課題は、授業で進んだ部分の参考書にある要点整理を答（各自が用意した透明フィルムで隠せるよう、赤やオレンジ、または、ピンク色のペン、または、鉛筆）と共に書き写すことです（各授業で触れる要点整理＝各授業の必要構文）。その際、答え部分の筆記は、巻末の答えのページを見ながら行ってください。教科書と参考書は、前期の「人体の構造と機能Ⅰ」で用いた同じものを用います。各自のノート作成は、人体の構造と機能Ⅰと分けるのではなく、前期で作成したものに追記して
科目学習の効果（資格）	自分自身の自信を築き、患者さんや職場仲間信頼される、基礎力を身に付けます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	最初の数回の授業では、すでに、前期の人体の構造と機能Ⅰで進んだところの「指定参考書」を用いた前期の復習をします。 内分泌系 内部の環境を整えるしくみ①	以下を目標とします。 ・ホルモンの定義と作用するしくみを説明できる。 ・どのようなフィードバック機構がホルモン分泌にみられるかを、例を挙げて説明できる。 ・下垂体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・松果体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・甲状腺から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。	予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。
2	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ②	以下を目標とします。 ・上皮小体から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・副腎皮質と副腎髄質から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・ステロイド生合成の概略を説明できる。 ・卵巣と精巣から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・消化管から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。 ・腎臓から分泌されるホルモンの名称とその作用を説明できる。	予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。
3	生殖系 子孫を残すしくみ①	以下を目標とします。 ・卵巣の機能を述べるができる。 ・卵管、子宮、膣と膀胱、直腸との位置関係を説明できる。 ・卵胞、黄体、卵子発生を説明できる。 ・排卵の時期を述べるができる。 ・月経周期に伴う子宮内膜の変化、下垂体前葉ホルモンおよび卵巣ホルモンの変化を述べるができる。 ・排卵の機序、受精と受精卵の着床を説明できる。 ・妊娠による母体の変化を述べるができる。 ・分娩の開始から終了までを3期に分けて説明できる。	予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。
4	生殖系 子孫を残すしくみ②	以下を目標とします。 ・精子の産生後、射精されるまでの経路を述べるができる。 ・精巣の特殊な細胞の名称を挙げ、それらの機能を述べるができる。 ・男性の付属生殖腺の名称、開口部、および分泌物の役割を説明できる。 ・陰嚢が精巣の温度調節において果たす役割とそのため必要な機能を述べるができる。 ・陰茎の構造を説明できる。 ・精子の形成過程を説明できる。 ・男性ホルモンの機能を述べるができる。	予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。
5	骨格系 体を支えるしくみ①	以下を目標とします。 ・骨格系の機能を三つ以上挙げることができる。 ・カルシウム代謝と骨の役割を述べる	予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。 復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。

			<ul style="list-style-type: none"> ことができる。 ・骨芽細胞と破骨細胞の働きを述べる ことができる。 ・頭蓋の骨の名称を挙げることができる。 ・泉門について説明できる。 	
6	骨格系 体を支えるしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・脊柱を構成する椎骨の名称を挙げることができる。 ・椎間板の働きを説明できる。 ・上肢と下肢の骨の名称を挙げることができる。 ・骨盤の形の性差を述べる ことができる。 ・3種類の関節の名称を挙げることができる。 ・屈曲、伸展、外転、内転、回内、回外 の言葉を説明できる。 	<p>予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。</p>	
7	筋系 体を動かすしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・3種類の筋組織の特徴、存在する臓器名を述べる ことができる。 ・骨格筋の収縮に関連して、活動電位、等張性収縮、等尺性収縮を説明 ことができる。 	<p>予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。</p>	
8	筋系 体を動かすしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・神経筋接合部とアセチルコリンの作用を説明 できる。 ・体表面に近い主要な筋の名称を、顔面、頸部、胸部、腹部、背部、上肢、下肢について 述べる ことができる。 	<p>予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。</p>	
9	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・中枢神経系と末梢神経系を説明 できる。 ・ニューロンの基本的な構造を述べる ことができる。 ・ニューロンの活動電位が生じ、他の神経細胞へ 伝導される過程を説明 できる。 ・神経伝達物質について述べる ことができる。 ・体性感覚受容器の種類を挙げ ことができる。 	<p>予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。</p>	
10	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とする。 ・大脳、間脳、脳幹、小脳を区別し、各々の機能を 述べる ことができる。 ・脊髄の機能と構造を述べる ことができる。 ・髄膜の構造を述べる ことができる。 ・脳脊髄液の産生とその機能を説明 できる。 ・脊髄伝導路について説明 できる。 	<p>予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。</p>	
11	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ③	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・12の脳神経の名称を挙げ、その働きを 述べる ことができる。 ・交感神経と副交感神経の構造と機能を 説明 できる。 ・レム睡眠、ノンレム睡眠について 述 べる ことができる。 ・サーカディアンリズムを説明 できる。 	<p>予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。</p>	
12	感覚系 外部から情報を取り入れるしくみ①	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・眼球の構造を述べる ことができる。 ・杆体と錐体の機能的な違いを説明 できる。 ・屈折、正視、近視、遠視、老視、盲点、眼 圧を説明 できる。 ・対光反射のしくみを 述 べる ことができる。 	<p>予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。</p>	
13	感覚系 外部から情報を取り入れるしくみ②	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・外耳、中耳、内耳の構造と機能を 述 べる ことができる。 ・静的および動的平衡覚を説明 できる。 ・嗅覚と味覚の受容器を説明 できる。 ・皮膚感覚の受容器を 挙 げる こと が で き る。 	<p>予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。</p>	
14	免疫系 異物を認識、記憶して排除するしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 以下を目標とします。 ・獲得免疫系と自然免疫系について、そ れ ぞ れ 説 明 で き る。 ・免疫反応を起こす細胞の特徴と機能 に つ い て 説 明 で き る。 ・抗体の構造と機能について説明 で き る。 ・感染症に対する免疫系の細胞の反 応 に つ い て 説 明 で き る。 	<p>予習：教科書から学習範囲を把握します（1時間）。</p> <p>復習：講義及び教科書を基に講義ノートを完成させて（1時間）、それを基に小テストや課題発表に備えます（1時間）。</p>	

			・アレルギーについて説明できる。特に、IgE が関与するアレルギー（アナフィラキシー）について詳細に説明できる。 ・代表的な自己免疫疾患を三つ挙げ、その発症機序を説明できる。	
	15	まとめ	内分泌、生殖器、骨格、筋、神経、感覚、免疫に関して、共に総括します。	教科書、講義ノートの中で理解が不十分なところをみつけて、定期テストに備えます。
実務経験				
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学	林床健二 編	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシング・サブリエイジーできる解剖生理学	ナーシング・サブリエイジー編集委員会	株式会社メディカ出版
	2			
	3			
授業形態	Moodle 遠隔授業			
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー	人体の構造と機能Ⅲ yan5			
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	自筆のノート作成という課題によって評価します。各授業が触れる領域の、すべての「必要構文（参考書の要点整理部分）」がノートに自筆で書き写されていることを本科目合格の必要条件とします。ただし、それ以外の自由構文も評価します。提出時期は、授業の後半または終盤に説明します。			
学生へのメッセージ	人体の構造と機能Ⅰで用いたものと同じ教科書と指定参考書を用います。課題となる各自の自作ノートも、前期のものを引き続き使用し、追記していただきます。記載した量によって、2冊目、3冊目となってもかまいません。 すでに前期で進んだところが授業計画にある場合は、進んだ中から選んだ復習の授業を行います。 各自が作るノートは、反復・自主トレーニングに役立ててください。			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室23			
備考	授業計画において、すでに前期の授業で触れたところがあります。それらのところは、参考書を中心とした復習（記憶確認とトレーニング）のための授業を行います。 用いる教科書と参考書は、人体の構造と機能Ⅰで使用したものとじます。			

科目名	代謝栄養学	科目名 (英文)	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	竹内 健治
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1005a0		

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質 (アミノ酸)、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され生体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。Moodle 及び Teams、Stream の使用を予定している。
科目学習の効果 (資格)	生物系科目全般の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	糖質の代謝	食べた糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	糖質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
3	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「脂質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
4	脂質の代謝	食べた脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	脂質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
5	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
6	アミノ酸とタンパク質の代謝 エネルギー代謝の統合と制御	食べたタンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。 代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	アミノ酸とタンパク質の代謝の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
7	体の中での酵素の役割 代謝異常と疾患	私たちの体温は37℃、pHは中性である。このような緩やかな状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。 遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する	酵素の役割の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
8	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」 遺伝情報	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。 遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」と遺伝情報の部分の教科書を授業前あらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
関連科目	生物・化学の基礎など生物系科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Microsoft Stream
Teams コード	v9yvb61
Moodle コース名 および登録キー	看護学部1年生代謝栄養学 Teams コードと同じ
連絡手段	学内メール、Teams「連絡用」「質問用」チャンネル
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。Moodle 及び Teams、Stream の使用を予定している。小テストと課題 (25%)、定期試験 (75%)

(基準)	で評価する。定期試験は対面を予定している。
学生へのメッセージ	代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義時間が少ないため、覚えるだけの部分は授業時間以外の学習で補ってもらおう。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねてください。
担当者の研究室等	1号館5階細胞生物学研究室
備考	小テストの解答は授業後オンライン上で発表する。

科目名	病理学総論	科目名 (英文)	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳本 広二
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1006a0		

授業概要・目的	看護の場において、病気が発現する原因と機構(病態)を理解しておくことはとても重要です。将来必要となる、基礎力、建物で言えば、未永く支える土台を作ります。
到達目標	本科目では、主に消化器および代謝内分泌疾患に関する理解を深め、これらの疾患を持つ患者さんへの医学診断と対処法、治療法を学び、将来の、的確で、質の高い看護の実践を支えます。
授業方法と留意点	本科目は、Moodle を用いた遠隔授業形式で行います。下欄にある授業計画に沿って授業を進めます。 本科目の課題は、授業毎に提示される「答え付の指定構文」を、自筆で各自のノートに書き写します。答部分は、各自で準備した色付きフィルムで隠せるように調整してください。指定構文のノートへの転写(記載)を授業前に行うことが予習となり、授業後の復習は、それをを用いた各自で行うトレーニング(日を替えて、7回以上)とします。 授業の進め方に関して、それぞれの内容が、前後、短縮、省略されることがあります。
科目学習の効果(資格)	医学領域の理解の大切さと、それらに関する知識が増えることの楽しさを学ぶことで、常に成長し続けるプロフェッショナル看護師への道を支援します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	病理学総論(消化器 1)	教科書：消化管疾患の、 ・消化管(解剖、生理、症候、検査)について、共に学びます。	・教科書とは、日本地図のようなもの。全体に目を通し、自分にとって興味ある、または、面白そうなところを見て読んで、そして見たままを一つの風景としても感じてみます(1時間)。 ・最初の講義で触れる解剖と生理のところにも少し目を通します。 ・授業で理解できた所を含めて全体を復習し、イメージ(文字と図や写真という風景)も含め、記憶に定着させることに楽しく挑戦します(1時間)。 ・最初の講義で触れる解剖と生理のところにも少し目を通します。 ・授業で理解できた所を含めて全体を復習し、イメージ(文字と図や写
2	病理学総論(消化器 2)	教科書：消化管疾患の、 ・消化管(食道、胃・十二指腸①)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
3	病理学総論(消化器 3)	教科書：消化管疾患の、 ・消化管(食道、胃・十二指腸②)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
4	病理学総論(消化器 4)	教科書：消化管疾患の、 ・消化管(食道、胃・十二指腸③)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
5	病理学総論(消化器 5)	教科書：消化管疾患の、 ・消化管(腸・腹膜①)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
6	病理学総論(消化器 6)	教科書：消化管疾患の、 ・消化管(腸・腹膜②)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
7	病理学総論(消化器 7)	教科書：消化管疾患の、 ・肝臓(解剖、生理、症候、検査)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
8	病理学総論(消化器 8)	教科書：消化管疾患の、 ・肝臓(ウイルス性肝炎、代謝性肝炎、自己免疫性肝炎、肝癌)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
9	病理学総論(消化器 9)	教科書：糖尿病・代謝・内分泌疾患の、 ・胆道・膵臓(解剖、生理、検査、胆道疾患、膵疾患)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
10	病理学総論(糖尿病を含む代謝・内分泌 1)	教科書：糖尿病・代謝・内分泌疾患の、 代謝(糖尿病異常①)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
11	病理学総論(糖尿病を含む代謝・内分泌 2)	教科書：糖尿病・代謝・内分泌疾患の、 代謝(糖尿病異常②)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
12	病理学総論(糖尿病を含む代謝・内分泌 3)	教科書：糖尿病・代謝・内分泌疾患の、 代謝(糖尿病異常③)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します(1時間)。
13	病理学総論(糖尿病を含む代謝・内分泌 4)	教科書：糖尿病・代謝・内分泌疾患の、 ・代謝(脂質代謝異常、過栄養と低栄養、	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします(1時間)。

			尿酸代謝異常、栄養の異常)について、共に学びます。	・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
	14	病理学総論(糖尿病を含む代謝・内分泌5)	教科書：糖尿病・代謝・内分泌疾患の、 ・内分泌(総論、視床下部一下垂体疾患)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・次回に予定される講義内容を前述のように予習します (1時間)。
	15	病理学総論(糖尿病を含む代謝・内分泌6)	教科書：糖尿病・代謝・内分泌疾患の、 ・内分泌(甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、神経内分泌疾患)について、共に学びます。	・授業中に理解できた所を含めて全体を復習し、記憶の定着にトライします (1時間)。 ・これまで学んだ所を復習し、記憶できた所、まだ、そうではない所を点検し、整理し、(2時間)定期テストに備えます。
実務経験				
関連科目	疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、疾病治療論Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.1 消化器		メディックメディア
	2	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌		メディックメディア
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle 遠隔授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	病理学総論 yan6			
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題として各自が作成する自筆ノートを、(ウェブ上での提出法も考慮し)提出してもらい、それを評価します。各回の授業で掲示される「すべての指定構文」がノートに記載されていることが、本科目合格の必要最低条件です。その他の「自由構文」の追加は任意(非必須)で、各回の授業を参考とした答付の独自構文(形式は、指定構文と同じ、一つの構文内の答えの数は自由)とします。それらも併せて評価します。自由構文は授業以外からの関連情報を基に作成してもかまいません。ノートの具体的な提出法は、授業の後半または、終了間際に授業内で説明し			
学生への メッセージ	人名や、地名に関する記憶があるように、人に説明もでき、対処もできる、いつでも引き出せる「病名」を増やしていきましょう。そのためには、学んだ後の自主トレーニングが役立ちます。基本的に、疾病・治療論、と同じ様式/形式で進めます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室23			
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ、および、疾病治療論Ⅲ(後期前半)の授業では、「病気がみえる」のシリーズを用います。			

科目名	感染と防御	科目名 (英文)	Microbiology and Immunology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 潔
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1007a0		

授業概要・目的	それぞれの感染症に特定のウイルスや微生物が関与することを理解するため、代表的な病原体の種類や特徴とそれらが引き起こす症状について学ぶ。また、病原体に対する生体防御機構と予防法や治療法の基礎知識を学ぶことにより、科学的な根拠に基づいて感染症の予防と治療に従事する専門職としての能力を身につける。さらに、分子生物学的・遺伝学的観点から感染と防御について概説することにより、最先端の感染症医療に対応できる能力を身につける。
到達目標	1. 代表的な病原微生物の生物学的特徴、感染経路、代表的な治療法および予防法などについて説明できる。 2. 微生物の検出、取扱い、滅菌と消毒について概説できる。 3. 免疫学の発展と免疫系について説明できる。 4. 感染症の患者や家族などに対して適切な態度で接することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容を中心に PowerPoint を用いて解説する。必要に応じて練習問題や課題を出すので、正誤にかかわらず自らの考えを記すこと。PowerPoint の内容をまとめたプリントを配布するので、講義前に教科書の該当領域と合わせて熟読し、概要を理解すること。また、講義中に重要と思われる内容をマークしたり、必要に応じて書き込みすること。講義後、再度、教科書とプリントの内容を確認し、重要な内容をノートにまとめること。疑問や質問などがあれば研究室に来て確認して欲しい。
科目学習の効果 (資格)	目に見えない病原体の存在とそれらの特性を理解することで、一般市民の健康と生命を守るために必要な衛生学的知識を修得できる。また、感染防御と感染症治療の基礎を理解することで、感染症患者の治療や院内感染防止に役立つ知識を身につけることができる。感染症が誰にでも起こりうる病気であることを理解することで、感染症の患者やその家族に対する偏見を無くし、献身的に医療に従事する態度を醸成する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション (講義の概要について) 感染症とは何か? 病原体とは何か? 免疫とは何か? 感染症の歴史	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。講義の方法、資料、注意事項、評価方法について説明する。 様々な病原体によって引き起こされる感染症と、免疫の概念について解説する。	事前学習: 教科書 p. 1~p. 10 を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。
2	感染・感染症の機構と種類	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。感染はどうやって起こるのか、感染症の種類について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 12~p. 43 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
3	病原体の概要と分類	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。病原体 (細菌・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫・プリオン) の特徴と分類、および疾患との関連について、教科書・プリント・PowerPoint を用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 130~139, p. 242?247, p. 310?313, p. 335?338 を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
4	免疫の概念	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。免疫反応に関与する細胞や分子の種類と、それらの働きについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 46~p. 70 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
5	免疫系のネットワーク	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。自然免疫と獲得免疫の特徴、および細胞性免疫反応と液性免疫反応の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 46~p. 70, p. 77~82 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
6	免疫による感染防御と免疫に基づく疾患	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。ワクチン、正常な免疫系が関与する疾患、免疫系の過剰反応や異常によって起こる疾患の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 71~76, p. 83~p. 91 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
7	微生物の特徴・微生物検査法・滅菌と消毒	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。病原微生物の存在や特性を知る方法と、それらを除去する方法について解説する。 病原体を除去したり殺滅する方法と、感染症の予防や治療について解説する。	事前学習: 教科書 p. 96~p. 107, p. 156~p. 162, p. 255~p. 257 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
8	感染症の予防	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。感染症予防の考え方、予防接種、感染予防対策について解説する。	事前学習: 教科書 p. 92~p. 127 の該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
9	化学療法	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。化学療法の概念、歴史と代表的な抗菌薬・抗ウイルス薬、および薬剤耐性について解説する。	事前学習: 教科書 p. 163~p. 175 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
10	代表的な細菌感染症-1	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。グラム陽性菌による感染症の例として、ブドウ球菌感染症、ボツリヌス症、結核などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 140~p. 155, p. 176~p. 240 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
11	代表的な細菌感染症-2	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。グラム陰性菌やその他の細菌による感染症の例として、ペスト、コレラ、大腸菌感染症などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 140~p. 155, p. 176~p. 240 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	
12	代表的なウイルス感染症-1	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。ウイルス感染症の例として、ヘルペスやインフルエンザを中心に解説する。	事前学習: 教科書 p. 242~p. 307 とプリントの該当部分を熟読する (1 時間)。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる (1 時間)。	

	13	代表的なウイルス感染症－2	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。ウイルス感染症の例として、B型肝炎、後天性免疫不全症候群(AIDS)を中心に解説する。	事前学習：教科書 p.242～p.307 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。
	14	真菌の特徴と代表的な真菌感染症	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。真菌の病原性と代表的な真菌感染症について解説する。	事前学習：教科書 p.310～p.333 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。
	15	原虫・蠕虫の特徴と代表的な寄生虫感染症	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。寄生虫感染症の例として、マラリアや住血吸虫症などについて解説する。	事前学習：教科書 p.336～p.369 とプリントの該当部分を熟読する(1時間)。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる(1時間)。
実務経験				
関連科目	生命科学概論、生物・化学の基礎、公衆衛生学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わかる、身につく病原体・感染・免疫	藤本秀士	南山堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座：微生物学：疾病のなりたちと回復の促進[4] (第13版)	南嶋洋一	医学書院
	2	ビジュアル微生物学	小田 紘	ヌーヴェルヒロカワ
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle			
Teamsコード	bfskju4			
Moodleコース名 および登録キー	2020年度 看護学部 1年生 感染と防御 登録キーは teams コードと同一です			
連絡手段	Teams内の質問チャネル、学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	観察記録(不定期に実施する小テストおよび提出物への取り組み：教員による観察、20%)、定期試験(80%)で評価する(100点満点中60点以上で合格)。なお、修学状況が不良の者については減点することがある。			
学生への メッセージ	ヒトは多種多様な生物との関わり合いの中で生きている。目に見えないほど小さな生物の中には、ヒトにとって有益なものもあれば、有害なものもある。正常な免疫系は我々の身体を種々の病原体から守る役割を果たしているが、免疫系の異常によって病気が引き起こされる場合もある。ヒトと微生物の関係と免疫の仕組みを理解し、科学的な見地に基づいて感染防御に必要なことは何かを考えられる医療従事者になることを望む。疑問に思ったことがあれば、レポート用紙等にも書きとめ、解決して行く姿勢が重要である。			
担当者の 研究室等	伊藤 潔 (1号館5階 生物系薬学分野(生化学))			
備考	感染症や免疫系、および微生物について学ぶためには、生物学の基礎的知識が不可欠であり、高校レベルの生物学の知識を有することが必要になります。高校で生物学を履修していない者は、本講義を履修する前に高校の生物学の教科書や教材を参考に自己学習することを勧めます。感染症と防御機構としての免疫は非常に奥が深い分野です。講義では、その一部を解説しますので、各自でさらに深く学習されることを期待します。			

科目名	薬理学総論	科目名 (英文)	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 太郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1008a0		

授業概要・目的	薬物療法における看護師の役割として、(1) 誤薬の防止、(2) 治療効果の確認、(3) 有害作用の予防と早期発見、(4) 服薬に対する患者指導、(5) 患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投与方法と投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的に理解し、臨床での実践へ向けた薬物療法の基盤を確かなものとする。
到達目標	(1) 薬物療法における看護師の役割について概説できる。 (2) 以下の薬理学の基礎知識について説明できる。 ・薬物が作用するしくみについて ・薬物を投与した際の体内挙動(吸収、分布、代謝、排泄)について ・薬物相互作用について例を挙げて説明できる。 ・薬物の危険性について ・薬に関連した法律について (3) 以下の薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 ・自律神経に作用する薬物 ・心臓・血管系に作用する薬物 ・血液・造血器に作用する薬物 ・呼吸器系に作用する薬物

授業方法と留意点	授業の方法は、①動画の視聴②課題の実施・提出③フィードバックを1回の講義としてTeams上で実施します。質問についてもTeams上にて受け付けます。教科書は、近日刊行予定の教科書を使用します。追って案内いたしますので、刊行された時点で購入をお願いします。刊行前に使用する部分についてはPDFにて配信しますが、刊行後は、著作権上、PDFの配信はできません。
----------	---

科目学習の効果(資格)	看護師国家試験
-------------	---------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	薬理学を学ぶにあたって薬理学の基礎(1)	薬理学とはなにか、薬による病気の治療、看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について学修する薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について学修する	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。
2	薬理学の基礎(2)	薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャンネル、酵素、トランスポーター)について学修する	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
3	薬理学の基礎(3)	薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について学修する薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について学修する	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
4	自律神経に作用する薬物	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
5	心臓・血管系に作用する薬物	抗高血圧薬・狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
6	血液・造血器に作用する薬物	止血薬、抗血栓薬、貧血治療薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
7	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
8	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、制吐薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
9	腎・泌尿器系に作用する薬物	利尿薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
10	感染症治療に用いられる薬物	抗菌薬、抗ウイルス薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
11	炎症や痛みに対する薬物	抗炎症薬、鎮痛薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
12	がん治療に用いられる薬物	抗がん薬について学修する	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
13	外科手術に用いられる薬物	全身麻酔薬、筋弛緩薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
14	中枢神経系に作用する薬物	抗不安薬、抗精神病薬、不眠症治療薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	
15	感覚器疾患治療に用いられる薬物	緑内障治療薬、めまい治療薬について学修する。	授業のまとめノートを作成すること。予習(30分)復習(1時間)を目安に学習してください。	

実務経験																	
関連科目	人体の構造と機能、薬物治療学																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>NICE 薬理学 (近日刊行予定)</td> <td>荻田喜代一ほか</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	NICE 薬理学 (近日刊行予定)	荻田喜代一ほか	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	NICE 薬理学 (近日刊行予定)	荻田喜代一ほか	南江堂														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																
Teams コード	dzi38t5																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	Teams、学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	定期試験(80%)および、小テストおよび課題(20%)で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。																
学生への メッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。																
担当者の 研究室等	1号館6階 薬理学研究室																
備考	講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。																

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	Social Welfare
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN1091a0		

授業概要・目的	<p>本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個々人の生き方など、多角的な視点から考えていきます。</p> <p>本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。</p> <p>SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17</p>
---------	---

到達目標	<p>①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること</p> <p>?日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること</p> <p>③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること</p>
------	--

授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
2	社会福祉の歴史	諸外国および日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学修：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
3	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学修：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
4	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学修：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
5	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからのことについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学修：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
6	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見をまとめること (2時間) 事後学修：配布資料を熟読し、振り返りを行うこと (2時間)
7	地域福祉②	地域が抱える課題とその解決法を模索する手法について、個人ワークを行います	事前学習：個人ワークに取り組むこと (3時間) 事後学修：ワークの成果物について振り返りを行うこと (3時間)
8	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度についてあらためて考えます	事後学修：講義の振り返りを行うこと (2時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder
Teams コード	malsjgb
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回のミニレポート 16%、個人ワーク 17%、グループワーク 17%、最終レポート 50%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	佐久間 夕美子, 神谷 美紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4○, DP6○, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2025a0		

授業概要・目的	看護の概念や看護理論、看護の歴史、看護の対象（人間、環境、健康、生活）、保健医療を提供するためのシステム、看護の機能と業務、看護活動等について理解し、看護学を学ぶうえでの基盤を形成する。 また、看護職者の倫理感や関連する法について理解し、看護学の学習の基盤となる知識や態度の修得を目指す。 科目責任者は、総合病院の手術室および救急・ICU 病棟、外来等、看護師として約 10 年間勤務した経験を活かし、より実践的な看護活動や対象理解のための基盤となる知識や看護者として不可欠な態度についての教育を行う。
到達目標	1. 看護の定義と主要な看護理論および看護モデルについて説明できる。 2. 社会の変化と看護概念の変遷について説明できる。 3. 看護の対象である人間と健康、環境、生活について述べ、それらの関連について説明できる。 4. 看護の機能・役割について説明できる。 5. 看護者の責務と倫理的態度について説明できる。 6. 専門職としての看護について自己の考えを述べることができる。
授業方法と留意点	授業形式は ICT ツールを活用した遠隔授業を中心に行う。適宜、事前課題も取り入れ学びを深める。教科書及び配布資料を中心として授業を進め、視覚教材やパワーポイント等を用いる。知識の習得のため、授業後に小テストを実施する。看護、また看護職者としての態度・倫理感を培い、看護について自分の言葉で表現できるように、講義後のレポートや課題を提示する。
科目学習の効果 (資格)	看護職者として根幹となる基礎的な知識と態度を学び、今後の学習の基盤を身につけます。また、全ての看護学実習科目及びその他専門科目を学ぶ上で、この科目での学びが大きな意味をもちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護とは、ナイチンゲールの看護哲学	<ul style="list-style-type: none"> 「看護」とは ナイチンゲールの看護哲学 社会の変化と看護概念の変遷 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
2	現代の看護の定義と看護モデル	<ul style="list-style-type: none"> 看護の定義 看護理論とは 理論の範囲 看護モデルの発達と系譜 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
3	主要な看護モデルと理論①	<ul style="list-style-type: none"> 理論家の背景① 看護モデルとは 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
4	主要な看護モデルと理論②	<ul style="list-style-type: none"> 理論家の背景② 看護モデルのメタパラダイム 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
5	主要な看護モデルと理論③ 看護の歴史①	<ul style="list-style-type: none"> ナイチンゲールの業績と近代看護への影響 近代看護の変遷 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
6	看護の歴史②	<ul style="list-style-type: none"> 欧米の歴史的な看護の変遷 日本の歴史的な看護の変遷 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
7	看護の対象 (人間と環境①)	<ul style="list-style-type: none"> 人間と環境の関連① 	事前課題:人と環境について自己の考えをまとめておく。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
8	看護の対象 (人間と環境②)	<ul style="list-style-type: none"> 人間と環境の関連② 	事前課題:人と環境について自己の考えをまとめておく。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
9	生活者としての人間①	<ul style="list-style-type: none"> 看護の対象としての「人間」 看護の対象としての「環境」 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
10	生活者としての人間②	<ul style="list-style-type: none"> 健康の概念と看護の目標 人々の健康の状態 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
11	看護の役割と機能・専門職の連携と協働①	<ul style="list-style-type: none"> 保健・医療・福祉における専門職チームとチーム医療の中での看護の役割 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
12	看護の役割と機能・専門職の連携と協働②	<ul style="list-style-type: none"> 保健医療システムと看護 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
13	看護の機能と業務、看護のマネジメントと病院看護管理	<ul style="list-style-type: none"> 看護の機能と業務 看護業務の能力的機能分化 看護のマネジメント、病院看護管理 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
14	医療安全	<ul style="list-style-type: none"> 医療事故の発生メカニズム 安全な医療への取り組みについて 	事前課題:教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)

	15	看護における国際化とこれからの展望、実践科学としての看護、まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職としての看護 ・実践科学としての看護 ・まとめ 	こと。(1時間) 事前課題:教科書の該当部分を読んでくること。(30分) 事後課題:配布資料および学習内容を整理しておくこと。(1時間)
実務経験				
関連科目	全ての看護学関連教科			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナースング・グラフィカ 基礎看護学(1):看護学概論	志自岐 康子 編集	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケアの本質、生きることの意味	ミルトン・メイヤロフ	ゆみる出版
	2	看護の基本となるもの	ヴァージニア・ヘンダーソン	日本看護協会出版会
	3	看護覚え書:看護であること・看護でないこと	F. ナイチンゲール	現代社
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	小テスト(40%)、事後課題(20%)、リフレクションシート(10%)、レポート評価(30%) 原則、全講義を出席していること。			
学生への メッセージ	看護を学ぶ初めての講義です。 看護職とはどのようなものかを知り、看護のとは何か、対象となる人や環境について考えることで、今後の学習の基盤となります。看護職者は、その関わり方がひとの人生・生命に影響を与えます。倫理感や社会人としての基礎的な能力、対人関係能力、専門家としての知識と技術が常に問われる専門職であるということを考え、自己の考えを深めてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階研究室1(佐久間)、研究室2(神谷)			
備考	医療安全 ナースンググラフィカ メディカ出版 ISBN-10: 4840453853 も参考になります。興味のある学生は参考資料として読んでみてください。			

科目名	看護対人関係論	科目名 (英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	佐久間 夕美子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△, DP6◎		
科目ナンバリング	NDN2026a0		

授業概要・目的	看護の場における対人関係に関する基本的な概念・技法の理解と修得を目指す。看護師は患者の心身の状態をアセスメントしながら、一人ひとりに合ったコミュニケーションをとる技術の修得が不可欠である。そのような患者-看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、「聴くこと」「話すこと」を中心に、具体的な看護場面や事例課題を通して対人関係の基礎的な知識を修得する。また、実習マナー、チーム医療での人間関係のあり方について、リフレクティブな学習方法を通して学ぶ。科目責任者は、総合病院および個人病院等、看護師として約10年間勤務した経験から、より実践的な看護場面におけるコミュニケーションや対人関係技術についての教育を行う。
到達目標	1. 患者・看護師間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2. コミュニケーションに必要な基本的技法について説明できる。 3. 自分自身のコミュニケーションについて振り返り、今後の課題を述べることができる。 4. 看護場面をイメージし、適切なコミュニケーションの技法や言葉、態度について、自身の考えを述べることができる。 5. カンファレンスにおける役割、ポイントを説明することができる。
授業方法と留意点	ICT ツールを活用した遠隔授業を中心に、看護師として必要不可欠なコミュニケーション技法について講義を行う。具体的な看護場面をイメージできるように、写真等の視覚教材、パワーポイント等を使用する。「知っている」と「できる」とは違う。「できる」ようになるよう、積極的に学習に取り組み、自身のコミュニケーションを振り返る態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。
科目学習の効果 (資格)	患者中心の看護実践にむけて、看護の対象者と適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる技術を身につけます。また、全ての看護学実習科目及びその他専門科目を学ぶ上で、この科目での学びが重要となります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うとともに、看護の場における対人関係について概要を説明する。また、対人関係を振り返り学習すること、意識的なコミュニケーションの重要性について説明する。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。
2	患者-看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」「話すこと」について演習し、考えを深める。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
3	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(1)	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手を受け取っていないと何も伝わらない。相手の気持ちを受けとめる会話による「受容」と「傾聴」について学ぶ。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
4	相手のメッセージ(気持ち)を受けとめる(2)	「受容」と「傾聴」について、日常生活の中での自身と他者との会話を回顧的に分析する。相手の気持ちを受けとめる会話について学ぶ。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
5	患者との会話を練習しよう(1)	模擬患者設定を使って、患者の気持ちを受けとめる話し方、聞き方について考える。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
6	患者との会話を練習しよう(2)	会話を通して、患者のことに耳を傾け、その気持ちを受けとめる関わりが、「共感」につながり、看護の重要なスキルであることを体験的に理解する。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
7	現場での学び、チーム医療の人間関係	現場で学ぶこと、実習に必要なマナーについて学ぶ。また、チーム医療で互いに尊重し合いながら率直にコミュニケーションする人間関係の理論を学ぶ。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	
8	まとめ	看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について自身の言葉でまとめる。	事前課題：指定した教科書(該当ページ)を事前に読んでおくこと(1時間)。授業の下調べおよび身近な人と意識的なコミュニケーションを行うこと(1時間) 事後課題：授業の資料について復習すること(1時間)。授業での学びを日常生活の中で実践し、練習すること(1時間)。	

	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
実務経験				
関連科目	看護学概論、全ての看護学の科目と関連します。特に、各看護学実習で現場で学ぶ際に基本となる科目です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	小テスト (40%) リフレクションシート(10%)、事後課題 (20%) 課題レポート (30%) により総合評価する。 原則全ての授業に出席していること。			
学生への メッセージ	看護は対象者を身体的・精神的・社会的な側面から理解し、よりよい人間関係を築くことから始まります。看護実践において、対人関係能力はその基本的能力のひとつであり、必要不可欠なものです。何気ないコミュニケーションから、相手の思いに気付く視点をもつことが看護の基本です。また、会話や状況など客観的な事実と、その時感じたこと・考えたことを分けて捉え、分析することも重要です。この授業を通して、今後の実習や学習の基本的な能力を身につけてゆきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1 (佐久間)			
備考				

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2027a0		

授業概要・目的	看護を実践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を実践するための基本的能力を培う。科目責任者は総合病院および個人病院等、看護師として約10年間勤務した経験から、日常生活の援助技術に関する実践的な教育を行う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した遠隔授業も取り入れ、講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、自宅または基礎看護学実習室にて技術演習を行う。 授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 技術演習では教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示しながら実施する。実習室での演習では、教員は少人数グループを担当し、個別に指導を行う。また、看護師及び
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目。 基礎看護技術 II の履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>
2	療養環境の調整 (1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>	
3	療養環境の調整 (2)	ベッドメイキングを実践する	<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>	
4	療養環境の調整 (3)	ベッドメイキングを実践する	<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>	
5	療養環境の調整 (4)	臥床患者のシーツ交換を実践する	<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること(1時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う(1時間)。</p>	
6	療養環境の調整 (5)	臥床患者のシーツ交換を実践する	<p>【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間)</p> <p>【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを</p>	

			作成すること（1時間）。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間）。
7	体位の整え(1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間）。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間）。
8	体位の整え(2)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間）。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間）。
9	体位の整え(3)	臥床患者の体位の整えを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間）。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間）。
10	移動・移送の援助(1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間）。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間）。
11	移動・移送の援助(2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間）。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間）。
12	移動・移送の援助(3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間）。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間）。
13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間）。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う（1時間）。
14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること（1時間）。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカ

				ッションを行う (1 時間)。 【事前課題】 教科書の該当部分を事前に読み、ナーシングスキル日本版を視聴した上で出席すること(1 時間)。事前に示す課題についてレポートを作成すること(1 時間) 【事後課題】 授業・演習終了時に示す課題について、レポートを作成すること (1 時間)。また、授業・演習内で示した技術課題について学生同士で実践及びディスカッションを行う (1 時間)。
実務経験				
関連科目	基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ 基礎看護学実習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle/対面授業			
Teams コード	yyh0t01			
Moodle コース名 および登録キー	2020kiso1			
連絡手段	学内メールを利用			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況や授業態度により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 30%、課題レポートの提出状況と内容 20%、授業態度 10% 筆記試験と実技試験の受験資格は、原則全ての授業及び演習に出席していることとする。 ※原則的に上記を予定しているが、感染状況等により評価方法を変更することがある。			
学生への メッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返し行い、知識と技術を確実に修得してゆきましょう。自己学習には教科書や授業資料の他、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル等を活用すると効果的です。また、この授業を通して、看護師としてふさわしい行動や振る舞いを身に付けてください。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 研究室 1 (佐久間)、研究室 2 (神谷)、共同研究室 1 (北村、舟木)、共同研究室 3 (今井)			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については事前に別途指示します。			

科目名	老年看護学概論	科目名 (英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	松田 千登勢
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP4○, DP6◎, DP8△		
科目ナンバリング	NDN2041a0		

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための看護を学ぶ。具体的には、統計データを通して高齢化の現状を学び、加齢による身体・心理・社会的変化と生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族をとりまく社会制度について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 超高齢社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者の身体・心理・社会的変化について理解できる。 高齢者をとりまく制度・施策について理解できる。 様々な場での高齢者看護の特徴を理解できる。 老年看護における倫理的課題について理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じて講義資料を提示します。 第2回、5回、6回は課題を出し、グループワークも行います。 普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験の科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	老年看護の概念	老年看護とは 老年看護学の理念と目標、概念、活用できる理論について学びます。	事前課題事後課題 テキストをp2-20、p70-82を事前に予習して、概要をとらえておいてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理し、まとめてください。(1時間)
2	高齢者を取り巻く社会の理解	統計データから高齢者を取り巻く社会状況に関して学習します。	高齢社会白書などの統計データを事前に準備・学習し、自分の担当分をまとめてください。(1時間) 事後課題 グループでまとめたものを事前の資料と合わせて整理をしてください。(30分)	
3	加齢現象の理解(1) 身体的変化	老年期にある人の身体的変化について学習します	事前課題 教科書p94-118を読み、加齢現象について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(1時間)	
4	加齢現象の理解(2) 心理・社会的変化	老年期にある人の認知機能、心理・社会的変化について学習します。	事前課題 教科書p89-91、297-299を読み、加齢現象について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントに加齢現象を整理してください。(1時間)	
5	高齢者とその家族の理解	高齢者と家族を取り巻く社会情勢、介護する家族の特徴とそれに応じたケアについて学習します。	事前課題 教科書p378-382を読み、高齢者の家族について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(30分)	
6	高齢者を取り巻く関連法:医療制度・介護保険制度他	高齢者の保健・医療・福祉対策について、関係する制度・施策について学習します。	事前課題 教科書p36-53を読み、医療制度、介護保険制度について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントをもとに整理してください。(1時間)	
7	高齢者への看護活動:病院・高齢者施設・地域	高齢者看護を実践する場として、病院・高齢者施設・地域における高齢者看護の特徴について学びます。	事前課題 教科書318-344を読み、様々な場で高齢者の看護について予習をしてください。(30分) 事後課題 配布するプリントにそれぞれの場の看護を整理してください。(1時間)	
8	高齢者へのエンドオブライフ・ケア 老年看護における倫理的課題	高齢者の死に関する状況の特徴とそのケアについて学習します。また、高齢者の意思決定、高齢者虐待など倫理的課題について学習します	事前課題 教科書p348-357、54-66を読み、倫理的課題等について予習をしてください。(30分) 事後課題 講義資料を合わせて、内容を整理してください。(30分)	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
実務経験				
関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、			

	看護関係法規			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座：老年看護学	北川公子	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学概論	正木治恵、真田弘美	南江堂
	2	最新老年看護学	水谷信子、水野敏子	日本看護協会出版会
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	e12nt2i			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題、レポートで評価します。			
学生への メッセージ	予習、復習はもちろんのことですが、老年看護学実習Ⅰの学びとつなげながら理解をしてください。 講義担当者の松田千登勢は病院の内科病棟で5年間勤務した実務経験を生かして講義を行う。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室6			
備考				

科目名	海外医療セミナー	科目名 (英文)	International Health Care Seminar
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	池田 友美
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NDN2067a0		

授業概要・目的	実際に海外の臨床現場を訪れ、そこで行われている看護の実践について学ぶ。現地では病院見学・講義等により、看護・保健・医療をめぐる事情について学習する。日本とは異なる社会環境の中で実践されている臨床現場・講義での学習を通して、日本の看護とそのあり方についてもう一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について考える機会とする。																																																																		
到達目標	1. 日本と海外の看護・保健・医療の違いについて正しく理解する。 2. 日本と海外の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる医療者としての態度を身に付けることができる。 2. 日本の看護とそのあり方についてもう一度振り返り、看護と社会の関わり、看護のあるべき姿とその将来について述べるができる。																																																																		
授業方法と留意点	事前研修、海外研修、報告会をおこなう。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	-																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>-</td> <td>渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	-	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	-	2	-	-	-	3	-	-	-	4	-	-	-	5	-	-	-	6	-	-	-	7	-	-	-	8	-	-	-	9	-	-	-	10	-	-	-	11	-	-	-	12	-	-	-	13	-	-	-	14	-	-	-	15	-	-	-
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	-	渡航前に現地の保健医療事情について学習する。現地で保健医療事情についての講義を受け、さらに理解を深める。病院や高齢者施設等を見学および現地の大学の看護学生と交流する。グループ学習と発表を通して学んだことの理解を深め、共有する。	-																																																																
2	-	-	-																																																																
3	-	-	-																																																																
4	-	-	-																																																																
5	-	-	-																																																																
6	-	-	-																																																																
7	-	-	-																																																																
8	-	-	-																																																																
9	-	-	-																																																																
10	-	-	-																																																																
11	-	-	-																																																																
12	-	-	-																																																																
13	-	-	-																																																																
14	-	-	-																																																																
15	-	-	-																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	国際看護学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	その他																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	事前学習、海外研修、報告会																																																																		
学生へのメッセージ	事前学習課題を行い、現地での体験を学びにつなげられるようにすること。 海外研修では自己の考えを表現し、研修内容を深まりのあるものにできるよう自ら働きかけること。 報告会ではディスカッションにより、他者との意見交換を行い、自己の学びを意味づけること。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階研究室16 (池田研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1301a1		

授業概要・目的	<p>「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって違い優劣はないとしたら、他人にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」</p> <p>このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある??人によってはよく考えている??ことなのではないかと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー等)に関してこれまでどのような理論や主張がなされてきたかを学び、自分自身の立場・主張について深めることが目的です。</p>
到達目標	<p>1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義務等)について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、晃洋書房)の議論を参考に、専門的な論点を理解する。</p> <p>2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。</p> <p>(※授業ではプリントを配布しますので、『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』の購入は必須ではありません)</p>

授業方法と留意点	<p>【授業形式】 毎回プリントを配布し、それに基づく講義を中心とする。しかし、特定のテーマについてピア・ディスカッション(机の隣の人との議論)をしてもらうことがある。また、授業内容に関する小問題を授業中に解いてもらうことがある。</p> <p>【講義時間内のスケジュール(予定)】 前回のコメントシートへの返答(10-20分) コメントシート配布(小問題を配布する場合もある)、今回の講義のポイント解説(10分-20分) 講義(50分程度) コメントシート提出(5分)</p>
----------	--

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	道徳とはどういうことか	<ul style="list-style-type: none"> 道徳は定義できるのか 道徳の最小概念 回復の見込みのない乳児をどのように扱うべきか 	事前：特になし 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
2	文化的相対主義	<ul style="list-style-type: none"> 異なる文化はいかにして道徳規範を持つのか 文化的相対主義を本気で受け止めるようになるか 文化的相対主義から何を学ぶことができるか 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
3	倫理における主観主義	<ul style="list-style-type: none"> 倫理学に証明はあるのか 同性愛の問題 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
4	道徳は宗教に基づくか	<ul style="list-style-type: none"> 道徳と宗教の関係 道徳は神の命令か キリスト教と中絶の問題 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
5	心理学的利己主義	<ul style="list-style-type: none"> 非利己性は可能か 「どんなことも結局自分のためではない」という主張は本当か 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
6	倫理的利己主義	<ul style="list-style-type: none"> 飢餓救済に寄付する義務はあるのか 「何が人のためになるかは難しい」「自分のためになることだけをやるべきである」という主張は本当か 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
7	功利主義者のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 安楽死の問題 動物の権利の問題 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
8	功利主義をめぐる議論	<ul style="list-style-type: none"> 幸福の問題 結果がすべてか 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
9	絶対的道徳規則はあるのか	<ul style="list-style-type: none"> 普遍的な道徳は可能か 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
10	カントと人格の尊重	<ul style="list-style-type: none"> 「人間の尊厳」という考え 刑罰の理論における応報と功利性 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
11	社会契約の思想	<ul style="list-style-type: none"> ホブズの主張 囚人のジレンマ 市民的不服従についての問題 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)	
12	フェミニズムと気づかひの倫理	<ul style="list-style-type: none"> 女と男は倫理についての考えが違うか 	事前：前回配布した参考文献を読んでき 事後：配布した穴埋めプリントの復習	

				(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	13	徳の倫理	<ul style="list-style-type: none"> 徳の倫理と正しい行動の倫理 様々な徳 	事前：前回配布した参考文献を読んてくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	14	満足のいく道徳説とはいかなるものか	<ul style="list-style-type: none"> 思い上がりのない道徳 道徳共同体 正義と公正 	事前：前回配布した参考文献を読んてくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 講義のまとめ 	事前：前回配布した参考文献を読んてくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで	ジェームズ・レイチェルズ	晃洋書房
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	期末試験：60% 授業中の課題：40%			
学生への メッセージ	答えがないと言われて久しい現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室			
備考	参考書等は授業時に適宜紹介します。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。 連絡先： 貫井隆 nukui.takashi.54n★kyoto-u.jp ★は@に変えてください 評価基準の40%である「授業中の課題」について： 「授業内容に関する小問題」を授業中に出题しますので、それによって評価します。 「授業内容に関する小問題」を実施する日時は授業中に連絡します			

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1302a1		

授業概要・目的
ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまいがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけではなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、多くの見方を総合して正しいと思われる行動をとらなければなりません。つまり私たちは、科学を単一の基準にして生活することはできないのです。そして、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において歴史上どのような問題と考え方が登場したのか、ということを見ていきます。

到達目標
1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ
2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ

授業方法と留意点
「教材・課題提出型授業」の形式で実施する。毎回授業終わりにコメントを提出してもらい(方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。

科目学習の効果(資格)
哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方や評価基準等の確認	予習: シラバスに目を通しておく 復習: 哲学について考える (1時間)
2	哲学の始まり	イオニアの自然哲学	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
3	古代ギリシアにおける知の体系 (1)	プラトンにおける知の分類	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
4	古代ギリシアにおける知の体系 (2)	アリストテレスの目的論的自然観	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
5	古代ギリシアにおける知の体系 (3)	アリストテレス以降の学問区分	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
6	数値化・機械化された自然 (1)	ペイコンの帰納法とガリレイの科学	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
7	数値化・機械化された自然 (2)	デカルトにおける精神と物体	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
8	数値化・機械化された自然 (3)	ロックの所有権	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
9	世界と精神 (1)	スピノザにおける神と人間	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
10	世界と精神 (2)	ライプニッツのモナド	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
11	世界と精神 (3)	カントにおける合目的性	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
12	歴史の展開と知 (1)	ルソーの自然状態	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
13	歴史の展開と知 (2)	ヘーゲルの弁証法	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
14	歴史の展開と知 (3)	フッサールの生活世界	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1時間) 復習: 講義ノートを見直す (1時間)
15	まとめ	講義全体を振り返る	予習・復習: 講義ノートを見直す (計2時間)

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学マップ	貫成人	筑摩書房
2	科学的精神の形成	ガストン・バシュラール	平凡社	
3				

授業形態

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	試験 80%、授業内課題（コメント）20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の 研究室等	
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応します。

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤塚 京子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1303a1		

授業概要・目的	医療・ケアの専門職としてその社会的な責務を果たすためには、ケアの実践において人々の人権を尊重することが求められる。また科学技術の急速な進歩に伴う、医療現場における多くの倫理的な課題についての理解が必要である。本科目では、現代の医療が直面する倫理的諸問題の歴史的・社会的背景を、具体的事例を交えながら考察し、生命倫理と患者主体の医療の中で看護職の果たす役割について学習する。
到達目標	現代の医療は、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植・脳死、ターミナルケア等多くの倫理的問題を抱えている。このような倫理的問題の本質とさまざまな側面を、具体的事例を通して学ぶことで、自ら問題を抽出し、より良いケアを考える力を身につけることができる。
授業方法と留意点	『事例でまなぶ ケアの倫理』(G supple 編集委員会編、メディカ出版)を教科書とし、資料を配布する。講義中心。詳細については、初回の授業で説明する。なお、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、遠隔授業で実施する。
科目学習の効果(資格)	看護職に就くものとして備えるべき高い倫理観の醸成に資し、看護の専門科目を学ぶ上での基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	医療倫理・生命倫理の基本原則(後半)、生殖補助医療技術と倫理(前半)	講義:医療・生命科学研究が守るべき原則や患者主体の医療に必要なことを説明する。生殖補助医療技術の倫理的問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
3	生殖補助医療技術と倫理(後半)	講義:生殖補助医療技術の倫理的問題について説明する。女性の身体の道具化、生殖のビジネス化、子どもの出自を知る権利等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)
4	出生前診断と選択的人工妊娠中絶	講義:出生前診断・着床前診断と、選択的人工妊娠中絶について説明する。優生思想、優生保護法の倫理的問題、胎児条項、リプロダクティブ・ライツ、胚と胎児の道徳的地位等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
5	重症新生児治療の差し控え・中止	講義:新生児医療が直面する問題について説明する。NICUにおける医療倫理、重症新生児の治療をめぐる諸ガイドライン等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
6	安楽死・尊厳死の倫理的問題	講義:安楽死と尊厳死の違いについて説明する。海外での安楽死・尊厳死をめぐる主要な出来事と関連法、日本における経緯と現状を学ぶ。患者と家族に対して医療者ができることを考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
7	脳死と臓器移植	講義:生体臓器移植・脳死臓器移植およびそれらが抱える問題について説明する。脳死は人の死か、脳死患者と移植待機患者そしてそれぞれの家族の苦悩について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
8	子どものインフォームド・コンセント	講義:子どもに医療におけるインフォームド・コンセント(アセント)と親権、児童虐待の問題について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
9	病気と差別:HIV感染症	講義:HIV感染症と、その感染者やAIDS発症者をめぐる問題について説明する。薬害HIV事件、強制HIV検査の是非、守秘義務と警告義務について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
10	難病を生きるということ、自己決定と遺伝カウンセリング	講義:難病と難病政策について説明する。難病を抱えながら生きる人々に対し医療者ができること、患者とその家族の苦悩や負担について考える。遺伝子診断と遺伝カウンセリングについて説明する。遺伝子診断をめぐる倫理的問題(知る権利と知らないでいる権利、血縁者への情報提供、DTC遺伝子検査、遺伝子差別等)について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
11	慢性疾患の患者に対する療養指導、認知症を抱えて(前半)	講義:慢性疾患を抱える患者との接し方について考える。認知症とそのケアの在り方について説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
12	認知症を抱えて(後半)、ターミナルケア(前半)	講義:認知症とそのケアの在り方について説明する。患者のQOL、身体拘束、高齢者虐待、認知症患者が関わる事件・事故(交通事故・行方不明など)等について考える。終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。
13	ターミナルケア(後半)、研究倫理(前半)	講義:終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明する。死の受容と延命治療、鎮静(セデーション)、家族・遺族の悲嘆のケアの在り方等について考える。看護研究の倫理について考	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと(30分)。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと(30分)。

			る。	
	14	研究倫理（後半）、医療が患者に害をもたらすとき	講義：看護研究の倫理について考える。医療事故とインシデントおよびそれらへの取り組みについて説明する。実際に起こった医療事故例を振り返り、失敗に学ぶ医療安全体制の構築や患者の救済について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
	15	講義の復習と映像資料鑑賞	これまでの講義の復習。生命倫理に関する映像資料を鑑賞し、生命倫理の問題を考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（30分）。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと（30分）。
実務経験				
関連科目	看護倫理をはじめとした看護専門科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	事例でまなぶ ケアの倫理	G suppl 編集委員会編	メディカ出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	授業での毎回のコメントシート（30%）、期末レポート（70%）により評価する。全体で60%以上獲得で合格。出席は評価に加味しないが、やむを得ない事情での欠席は考慮する。			
学生への メッセージ	医療・ケアの現場で起きている、あるいはこれから起きる可能性がある諸問題について学びます。 病気や障害を抱える人に接するうえで大事にしなければならない、専門職としての考え方・視点とともに、様々な立場の当事者の視点や社会の関わりについても理解していく一助となればと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室。 授業に関する質問等は、毎授業で配布するコメントシートやメールでも受け付けます。			
備考				

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1304a1		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学（人文地理学・自然地理学）とともに地理学の根幹を成す。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教員免許

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを復習しておくこと（事後学習 3 時間）
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを復習しておくこと（事後学習 1.5 時間）
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
15	試験（授業内で実施）	試験	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 3 時間）

実務経験	
関連科目	人文地理学、自然地理学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	2020 地誌学（金 2・渡邊） cdvSNnUbycqsQjZgeb
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 （基準）	試験 70%、授業内課題 30%
学生への メッセージ	試験および授業内課題は、いずれも Moodle で実施する。
担当者の 研究室等	高校で地理（A・B）を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回ノートを取りながら集中して受講してください。
備考	7 号館 2 階（非常勤講師室）。質問等は学内メールにて対応する。

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NHU1305a1		

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。
到達目標	＜地理学的なものの見方・考え方＞について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	紹介した参考文献を読む(事後学習) テーマに沿った地図(身近な地域の地図またはメンタルマップ)作成の課題に取り組む(事後学習)(2時間)
3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
15	まとめ	授業の総括と定期試験について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。

実務経験	
関連科目	「自然地理学」「地誌学」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店	
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
Teamsコード	mcy6ky6

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	dankebitte0605@gmail.com
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート70%、平常点30% (平常課題を何度か課す。)
学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中の私語、飲食、携帯操作は禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命ずることがある。 2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。 3. 中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。 4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆を数色準備しておくこと。
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	授業外の質問等については、出校日に対応する。

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01310a1		

授業概要・目的	東京オリンピックを控え、いまボランティア活動のあり方が問われています。商業的なイベントで多額の報酬を受け取っている人がいる一方で、専門的な知識や経験、資格や免許を有する人を無償のボランティアとして募集していることに批判が集まっているのです。そもそもボランティアは報酬を受け取ってはいけないものなのでしょうか。 ひとことでボランティア活動と言っても地域の清掃を行うといったような身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修し理解することを目標にしています。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる (2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる (3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回アクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)	
3	なぜボランティアが必要なのか？	ボランティアの必要性について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)	
4	支え合いによって成り立つ社会——市民社会論	支え合いによって成り立つ社会、市民社会について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)	
5	NPO、NGO	NPO、NGO とは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものなのか学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復	

			習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
6	社会制度とボランティア活動	社会制度がNPO、NGOの活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
7	グループワーク(1) — 国内外のNGO団体について調査	5人前後のグループに分かれ、国内外のNGO団体について調査します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
8	グループワーク(2) — 国内外のNGO団体について発表の準備	前回に引き続き、各グループで担当するテーマについて発表の準備をします。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
9	グループワーク(3) — 国内外のNGO団体について発表	グループで調査した内容にしたがって、国内外のNGO団体がどのような活動を行っているのか紹介します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
10	災害とボランティア	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスク

				<p>ラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	14	文化ボランティア、その他のボランティア	文化ボランティア、およびその他のボランティアについて学修します。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
	15	まとめ、全体のふり返り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	この授業は授業内課題（リアクションペーパー）15%、グループワーク 20%、期末試験 65%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp （[*]を半角の@に置き換え） この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南 慎二郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01311a1		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 経済学は特に近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問であり、私たちの社会の豊かさや直面する課題解決(貧困、社会保障、環境問題など)を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は密接に関わっています。本講義では経済学の歴史に即して基礎的な考えを学習した上で、現実の具体的な動向や問題のトピックを通じて理解を深めていきます。</p> <p>【講義の目標】 一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えられるようになることが目標です。</p>
---------	--

到達目標	一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えることができる。
------	---

授業方法と留意点	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。
----------	---------------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに:講義の全体や進行について 経済学の一般的な考え方、経済学史の流れ	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
2	経済循環をめぐる歴史①:主に古典派経済学とマルクス	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
3	経済循環をめぐる歴史②:シュンペーター	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
4	価値や価格はどのようにして決まるか:価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
5	ケインズ革命:ケインズの研究・思想とその影響について	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
6	現代経済学の概観:戦後の経済学の流れ、現代の経済学派の関係	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
7	制度学派:現実社会の制度(慣習や経験・心理に影響される人間行動を含む)を重視する経済学の系譜	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
8	行動経済学:認知心理学をベースとした新たな経済学の展開	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
9	戦後の日本経済史:私たちが生活している社会経済の背景として	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
10	労働について:雇用と賃金の決まり方、日本の労働市場、格差や雇用形態や労働災害の問題	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
11	公害・環境問題について①:利潤追求と節約、外部性と社会的費用、環境問題に対する経済学的アプローチ	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
12	公害・環境問題について②:日本の公害・環境問題の歴史と教訓、具体的な環境問題で考えてみる	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
13	地域と経済:経済学の視点による地域の捉え方や地域発展・地域経済振興のあり方について考えてみる	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
14	経済学と政府の役割:社会保障制度と福祉国家の盛衰、市場の失敗と政府の失敗	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
15	まとめとして:これまでの講義の振り返り、社会を見る手がかりとしての経済思想	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。	・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)
	2	日本経済論	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義期間中に実施する小レポート 40%。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	経済学というと競争社会での合理性や効率性を追求するといった冷たいイメージも伴いますが、現実の社会を取り扱うものですから、道徳倫理や公正を重視して、万人の幸福や厚生を求める思想も根幹に持ちます。看護・医療関係の進路であれば、人の生命や尊厳、幸福に関わる仕事ですので、経済学の知識やその思想を学んでおくことは有意義といえます。経済学や数学の予備知識を前提とはせずに授業進行を行います。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業時間内に口頭もしくは紙により質問を受け付けるようにし、次回講義時にフィードバックします。 授業時間外の質問についてはメール等で対応します(初回時にアナウンス)。			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01312a1		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、医療制度、社会保険の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、人間の私的な領域まで積極的に介入してくる福祉国家のなかで医療や人間の生命に関わろうとする看護学部の皆さんには、より深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、もっとも基本的な事柄である日本政治史、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
---------	---

到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。
------	--

授業方法と留意点	オンライン授業で行います。
----------	---------------

科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。
-------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習:政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
2	政治と権力～政治とは何か? 正当な権力とは何か?	身近な日常生活で現れる政治と、マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習:教科書の該当箇所(第五章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
3	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習:教科書の該当箇所(第六章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
4	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、戦後の日本政治の基礎になっているデモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習:教科書の該当箇所(第十八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
5	戦前の日本の政治体制～天皇制と日本が戦争へと向かった理由	戦後の日本政治とはまったく異なる戦前の政治体制について授業します。また軍部を戦前の政府が抑えられなかった理由を映像資料を見て考えます。	事前学習:教科書の該当箇所(第十八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第二十一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第二十一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第二十二章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第十一章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習:教科書の該当箇所(第七章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
11	国際政治の二つの観点～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。	
12	冷戦終結後の日本外交①～	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、マ	

		湾岸戦争とその結果	とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	スメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:テストに向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。
実務経験				
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学、社会学、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	レポートで評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01313a1		

授業概要・目的	本授業は、法が「日常生活」および「医療従事者」としてどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎回、予習・復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認すること。
科目学習の効果(資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます!

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	法ってなんだろう?	遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて実施する。講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法	評価の時期・方法・基準の項も参照のこと
	2	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	3	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下での平等	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	7	家族と法-結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、親権、監護権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	8	家族と法-親子関係	扶養、相続、遺言	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	9	日常生活のアクシデント-交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	10	日常生活のアクシデント-医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	11	日常生活のアクシデント-製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	12	罪と罰-犯罪(1)	脳死・臓器移植、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	13	罪と罰-犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	14	労働・社会保障と法	労働契約、解雇・失業、子育て、介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	15	総括	Moodle からテスト	

実務経験	
関連科目	日本国憲法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論-身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	2gj9h62
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	1. Moodle からテスト 50% 2. 課題を Moodle に提出する。50% COVID-19 の状況によりレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります。
学生へのメッセージ	毎週金曜授業開始時間までに Moodle に講義資料および課題をアップしますので、翌週火曜 23:59 までに Moodle に課題を提出してください。 法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。 本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp

備考	<ol style="list-style-type: none">1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×15回）2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回）3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読み、次週に持参する）
----	---

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Business administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01314a1		

授業概要・目的	経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	経営とは何か、何が課題なのかなど、現実即して経営への疑問を広く理解することが目標です。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。 学習課題への回答を求めるなど参加を重視します。 授業形態はTeamsを使用。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく	事後：講義内容を復習する
2	企業と社会	企業の社会的責任を中心に講義します	事前：教科書の1章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
3	企業の種類	私的企業、公的企業について講義します	事前：教科書の2章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業理念と企業文化	企業理念や企業文化の形成について講義します	事前：教科書の3章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業統治	経営者を規律づけるしくみ (ガバナンス) を学びます	事前：教科書の4章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業倫理	不祥事を未然に防ぐことについて考えます	事前：教科書の5章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
7	企業戦略、競争戦略	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の6章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
8	企業財務	資金の調達、運用について説明します	事前：教科書の7章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
9	合併・買収 (M&A)	合併・買収の意義や効果を考えます	事前：教科書の8章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
10	イノベーション	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の9章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
11	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：教科書の10章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
12	組織の構造	企業が活動できるしくみを学びます	事前：教科書の11章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ものづくり	多品種少量生産を中心にものづくりの発展について学びます	事前：教科書の12章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
14	仕事と生活の調和	ワークライフバランスの必要性、多様な働き方について考えます	事前：教科書の13章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)
15	国際経営	グローバルな経営組織や経営の現地化について講義します	事前：教科書の14章を読んでおく (1時間)	事後：講義内容を復習する (1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践に学ぶ経営学	風間信隆・松田健編著	文真堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	5k0mskk
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート50%、小テスト50%で評価します。
学生へのメッセージ	代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	寝屋川11号館8階 北 真収研究室 (相談時は事前に連絡してください)
備考	

科目名	女性学	科目名 (英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NS01315a1		

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、今日にいたるまで、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐる、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。
到達目標	女性学、ジェンダーに関する基本的なキーワードを理解する。その上で、日々のニュースや社会問題などを知り、考える作業を意識的にを行い、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語るができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思います。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習 (1時間)
2	メディアの中の男女のイメージ (1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴し次回に備える (1時間)。	
3	メディアの中の男女のイメージ (2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習 (1時間)・意識的にメディアを視聴する (1時間)	
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー (1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的な問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー (2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー (3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
7	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
8	個人の的外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
9	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
10	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
11	労働と社会 (1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習 (1時間)・事例を探すレポート (1時間) 次回テーマについての予習 (1時間)	
12	労働と社会 (2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性 (男性) か、について考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
14	性の多様性とジェンダー	性の多様性に関する論点、現状をジェンダーの視点で考える。	配布プリントの復習 (1時間)・次回テーマについての予習 (1時間)	
15	今日的課題と向き合う	女同士の関係、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習 (2時間)	

実務経験	
関連科目	社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	なし		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	fi0917n			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業内課題 (30%)、最終レポート (70%) により総合評価する。			
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起っているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金 志善
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NS01316a1		

授業概要・目的	本講義では、観光の概念について理解し、観光学の基礎的な専門知識を習得することを目的とします。観光は、今やグローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、訪日外国人が3000万人に達成したことや、東京オリンピックによる経済波及効果が地域活性化にも繋がるなど観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、多様な観光産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解することを期待します。
到達目標	①観光の歴史的發展を概観しながら、観光産業の機能と役割について理解できる。 ②観光を捉えるための基本的な考え方、社会情勢などの基礎的な知識を身につけることができる。 ③国内観光、海外旅行、外国人の訪日旅行等の現状を理解し、その要点を説明できるようになる。
授業方法と留意点	・講義中心 ・課題（調査、レポートなど） 毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
科目学習の効果(資格)	観光地で起きている問題を自らの課題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	観光の概念	授業の進め方の説明の後、観光の基礎的な概念について学習します。	これまで思い出に残る旅の経験を列挙する。事前学習1時間、事後学習1時間。
2	観光の歴史	人はなぜ旅行に行くのだろうかについて学び、旅のかたちの変遷を学習します。第1回レポートを課します。	産業革命以降、人々を運送する手段が発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があったかを調べておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。	
3	宿泊業 (1)	日本のホテルの発達史を学び、現在の宿泊業の機能と役割を理解します。	日本のホテルの今後の方向性について考えをまとめる。事前学習1時間、事後学習1時間。	
4	宿泊業 (2)	ホテルチェーンの現状と宿泊業務の仕事について学習します。	興味を持っている外資系ホテルチェーンに関して、ネットなどでその歴史と現状について調べてくる。事前学習1時間、事後学習1時間。	
5	旅行業	旅行業の仕組みと旅行業の商品について学習します。旅行商品の成り立ち、流通、販売の機能を学び、商品を販売する立場で企画してみます。第2回レポートを課します。	旅行業の役割や機能をまとめておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。	
6	地域における SDGs とは	SDGs とは何かについて学び、企業がSDGs に取り組むべき課題などについて学びます。	なぜ SDGs は注目されるのかについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。	
7	運輸業	航空会社・空港・鉄道について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、格安航空会社の台頭などから理解して行きます。第3回レポートを課します。	格安航空会社(LCC)について調べる。事前学習1時間、事後学習2時間。	
8	メディカルツーリズム	アジアにおけるメディカルツーリズムの現状と各国の事例について学習します。	日本においてメディカルツーリズムが難しい理由について調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。	
9	オーバーツーリズム	オーバーツーリズムとは何か、また、それが地域住民・観光客に及ぼす影響と今後求められる対応策について学習します。第4回レポートを課します。	観光公害の問題点について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。	
10	統合型リゾート (IR)	統合型リゾート (IR) とは何か。日本のIRの現状と世界のIRについて学習します。	統合型リゾート (IR) の課題、その対策などについて調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。	
11	観光マーケティング	マーケティングとは何か、観光にマーケティングがなぜ必要なのかについて学習します。第5回レポートを課します。	事前に配布する資料を事前に読んでおくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。	
12	観光業の環境分析	観光業の環境分析、SWOT分析について学習します。	SWOT分析について復習しておく。事前学習2時間、事後学習2時間。	
13	ダークツーリズム	ダークツーリズム概念の登場と拡散について事例を挙げて紹介します。	ダークツーリズムの役割について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。	
14	コンテンツツーリズム	コンテンツツーリズムによる地域振興について学習します。テストを実施します (1~13回)。	アニメツーリズムについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。	
15	これまでのまとめ	観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光のもたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったか復習します。	これまでに学んだ内容を復習しておく。事後学習2時間。	

実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代観光総論	前田勇	学文社
	2	入門観光学	竹内正人	ミネルヴァ書房
	3	新・観光学入門	中村忠司・王 静	晃洋書房
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	479o51n			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールを利用			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	テスト 50%、5回の課題レポート 50% 本授業では、専門に関わる確かな知識・技能を身につけるために、レポートにより課題を出す。レポートは、授業中に提示した課題について、5回提出する。			
学生への メッセージ	楽しく観光を学びましょう。			
担当者の 研究室等				
備考	非常勤講師室（相談可能時間：月曜日 12時30分～13時10分） stellakim0217@gmail.com			

科目名	生物・化学の基礎	科目名 (英文)	Biology and Chemistry
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	眞島 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA1318a1		

授業概要・目的	生物、化学は、看護師を目指す学生が専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。したがって、十分な生物、化学の基礎知識を有することが必須であるが、高校での履修科目のみでは不十分な点も多い。更には、高校時代に生物、化学を選択しなかった、あるいは生物、化学のみを選択した学生もいる。従って、本科目では、以後の専門科目の履修に必要な生物、化学に関する基礎力を修得する。
到達目標	医療・健康に関連する領域はもちろん、自然界で生じる現象に対して基礎的な範囲で科学的に説明し、将来仕事を共にする医師・薬剤師等の医療スタッフとの共通知識基盤として、基本的な科学に基づいた思考ができる。
授業方法と留意点	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果 (資格)	生物、化学は、職業人の教養として必要であり、また、専門家を目指す上での基礎となる。本講義は適宜、国家試験の基礎となる事項も含まれるので、自然科学と看護を結びつける習慣をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2回 見えない「場」がからだに及ぼす影響 (力の中で生きている)	われわれの身近に働いている見えない「場」、いわゆる何らかの力がわれわれの体にどのように影響しているのかを学習する。	教科書 P45-65、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
3	第3回 私たちの体の中で起っていること (細胞のお話し)	なぜ生きるためにエネルギーが必要なのかを細胞レベルで学習する。	教科書 P66-85、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
4	第4回 自然界の物質構成 (混合物、化合物とは)	われわれを含め、形あるものは全て化学構造で構成されている。その仕組みを学習する。	教科書 P11-14、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
5	第5回 外界からの力に耐えるために (生命体を維持するためのしくみ)	外界を取り巻く様々な力から身を守るために、われわれの体はどのような構造を維持しているのかについて学習する。	教科書 P28-45、P158-168、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
6	第6回 「物が溶ける」とは (溶解、水和、イオンのお話し)	砂糖や塩がなぜ水に溶けるのか。その仕組みを物理・化学的な側面から学習する。	教科書 P14-25、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
7	第7回 からだの中での情報伝達 (自己調節機能、電気生理、物質の輸送)	われわれの体の大部分が水でできていることが、様々な生理現象に重要であることを学習する。	教科書 P86-101、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
8	第8回 酸性、塩基性とはなにか (身近にある酸とアルカリの反応、化学平衡とは)	身近にある酸・アルカリの用途から、これらが生体にどういったたらきをしているのかを学習する。	教科書 P25-27、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
9	第9回 酸性、アルカリ性になるからだ (アシドーシス、アルカローシス、酸塩基平衡のお話し)	われわれの体内がほぼ中性に保たれているのはなぜか。また病気によってそのバランスが崩れるのはなぜかについて学習する。	教科書 P25-27、P169-175、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
10	第10回 化学反応を効率的に (触媒の話)	膨大なエネルギーを必要とする化学反応を助ける「触媒」のはたらきについて学習する。	教科書 P37-39、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
11	第11回 生体内でも触媒反応 (酵素のはなし)	われわれの体の中でもエネルギーを効率よく使うため、触媒反応が生じている。その内容 (酵素) のはたらきについて学習する。	教科書 P37-39、P72-75、P160-162、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
12	第12回 遺伝子の構造 (生体内物質の化学結合)	遺伝子が生体の設計図であることを、その働きと化学結合の観点から学習する。	教科書 P102-107、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
13	第13回 生命体の連続性 (細胞分裂と成長について)	われわれはどのようにして生まれ成長するのか。受精から細胞分裂における過程について学習する。	教科書の P118-135、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
14	第14回 環境と化学のかかわり (自然界での化合物の循環)	環境に存在する様々な化学物質はどのようにわれわれに影響しているのかについて学習する。	配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。
15	第15回 遺伝とは何か (遺伝のしくみと病気)、講義総まとめ	遺伝の仕組み、遺伝子の異常を原因とするがんなどの疾患との関連について学習する。	教科書 P108-117、配布資料の予習復習。講義では前回講義に関する小テストを適宜行う。講義の総まとめを行うので全ての講義資料を持参しておくこと。

実務経験				
関連科目	人体の構造と機能 (1年次前後期)、代謝栄養学 (1年次後期)、感染と防御 (1年次後期)、薬理学総論 (2年次前期)、薬物治療学 (2年次後期)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化	岡田隆夫	羊土社

		学・物理		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎生物学	南雲 保 ほか	羊土社
	2	やさしい物理化学—自然を楽しむための12講	小池 透	共立出版
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題レポート(30%)、小テスト(10%)、および授業修了後の定期試験(60%)で総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。			
学生への メッセージ	<p>看護師を目指す上で、生物、化学の基礎は必要である。特に高等学校時代にこれらの科目を履修していない、あるいは3年間履修していない学生は、この機会に、高等学校の教科書や参考書も含めて、しっかりと学習することをすすめる。また、履修した学生でも、受験科目として勉強していない場合、自分が思うよりも力がついていないことが多いので、予習、復習を欠かさずに行うことをすすめる。質問時間をできるだけ設けているので、わからない点をそのままにしないよう、継続的な予習、復習をすることを期待する。</p> <p>講義担当者の眞島崇は薬局薬剤師</p>			
担当者の 研究室等	1号館4階 眞島講師室（オフィスアワーを初回講義時に説明します）			
備考	<p>看護に関係する範囲を中心に、高等学校で学ぶ内容の復習から専門性の高い内容まで幅広い講義になります。また、大学の学習は講義だけではなく、学生各自の自学自習をもって完結するものです。特に高等学校で生物、化学を十分に学習していない学生は、予習（教科書を読むだけでも構いません）、復習をしっかりと行うこと。また講義終了後・オフィスアワー・講義開始前に質問を受けつけるので積極的に質問すること。態度点として評価する。</p> <p>事前学習：毎回の事前・事後学習課題にある教科書指定のページをよく読んできてください（30分×11回）</p>			

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NNA1319a1		

授業概要・目的	教養数学では、看護学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる（統計学などの）応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、看護学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

実務経験	
関連科目	統計の基礎

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎講義	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	課題演習で30% レポート70%の合計によって判断する。
-----------	------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	友枝：寝屋川学舎3号館3階(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp
----------	---

備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。
----	--

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヘドリック III ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	テキストの使用法の説明。 リスニングとスピーキングの活動方法の説明。	事前：なし 事後：PCの使用法を確認し、実際にリスニングを行うこと。
2	病室内の施設の名前 (テキスト Chapter 1)	テキストからのリスニング 病室内の施設の名前を覚え、使えるようにする。	事前：Unit 1 のリスニング予習 事後：病室内の施設の名前を復習	
3	バイタルサイン測定 (テキスト Chapter 2)	テキストからのリスニング バイタルサイン測定について、必要な応答ができるようにする。	事前：Unit 2 のリスニング予習 事後：どのような対応があるのかを復習	
4	痛みの程度を聞く (テキスト Chapter 3)	テキストからのリスニング 痛みの程度について必要な応答ができるようにする。	事前：Unit 3 のリスニング予習 事後：どのように痛みの程度を聞くのかを復習。	
5	症状の表現 (テキスト Chapter 4)	テキストからのリスニング 症状について、必要な事柄を英語で表現する。	事前：Unit 4 のリスニング予習 事後：症状の表現について復習	
6	体の動きの表現 (テキスト Chapter 5)	テキストからのリスニング 体の動きについて英語で表現する。	事前：Unit 5 のリスニング予習 事後：身体部位の知識を深める。	
7	検査についての表現 (テキスト Chapter 6)	テキストからのリスニング 検査の際に必要な手続きについて知る。さらにそれを英語で理解する。	事前：Unit 6 のリスニング予習 事後：検査についての一般的な事柄を知る。	
8	中間のまとめ (テキスト Chapter 7)	テキストからのリスニング 医療英語について知り、それを英語で表現する。	事前：Unit 7 のリスニング予習 事後：学んだ英語表現ができるようにする。	
9	日常の看護についての表現 (テキスト Chapter 8)	テキストからのリスニング 前回に続いて、日常の看護内容について知り、それを英語で表現をする。	事前：Unit 8 のリスニング予習 事後：学んだ英語表現ができるようにする。	
10	与薬についての表現 (テキスト Chapter 9)	テキストからのリスニング、 与薬に関する英語表現を知り、それを英語で表現をする。	事前：Unit 9 のリスニング予習 事後：与薬についての理解を深める。	
11	排泄についての表現 (テキスト Chapter 10)	テキストからのリスニング 排泄に関する表現を知り、それを英語で表現をする。	事前：Unit 10 のリスニング予習 事後：排泄についての理解を深める	
12	慢性疾患についての表現 (テキスト Chapter 11)	テキストからのリスニング よく使われる慢性疾患の名称を知る。	事前：Unit 11 のリスニング予習 事後：慢性疾患についての理解を深める。	
13	急性、緊急医療についての表現 (テキスト Chapter 12)	テキストからのリスニング 急性、緊急医療についての表現を知る。	事前：Unit 12 のリスニング予習 事後：急性、緊急医療について理解を深める。	
14	急性、緊急医療についての表現 (テキスト Chapter 12)	ディスカッション ミニプレゼンテーション	クラスプレゼンテーションのための実践	
15	授業内容から医療関係 Readingのまとめ	ポイントを押さえながら、理解していること の教科書確認	事前：授業で取り上げられた医療内容の復習 事後：期末テストの準備	

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking with Your Patients in English	Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 定期試験 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 40%
学生への メッセージ	語学学習には、映画や音楽、テレビドラマやスポーツ中継など、興味のあるものを原語で楽しむことが効果的です。
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ユアン マクドゥーガル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	入院患者を迎える	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 1 - p. 3
2	病院内施設、病院内備品	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 4 - p. 6 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
3	バイタルサイン確認	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 7 - p. 9 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
4	バイタル測定機器、看護物品、脈拍測定部位	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 10 - p. 12 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
5	痛みのアセスメント	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 13 - p. 15 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
6	痛みを表す表現、痛みに関する問診、体の部位	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 16 - p. 18 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
7	様々な症状	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 19 - p. 21 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
8	症状チェック表、検査項目	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 22 - p. 24 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
9	体位変換、移乗	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 25 - p. 27 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
10	体位、動きの表現、歩行補助機器	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 28 - p. 30 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
11	様々な診療科	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 31 - p. 33 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
12	診療科、専門医、検査のための表現、人体器官系	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 34 - p. 36 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
13	医学英語の構造	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 37 - p. 39 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
14	復習問題	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 1 - p. 39 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	
15	前期のまとめと復習	前期のまとめと復習	テキスト p.1 - p. 39 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues1	Richard R Day Joseph Shauls Junko Yamanaka	Pearson
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への メッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病院内施設、病院内備品	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 4 - p. 6 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
3	バイタルサイン確認	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 7 - p. 9 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
4	バイタル測定機器、看護物品、脈拍測定部位	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 10 - p. 12 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
5	痛みのアセスメント	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 13 - p. 15 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
6	痛みを表す表現、痛みに関する問診、体の部位	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 16 - p. 18 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
7	様々な症状	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 19 - p. 21 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
8	症状チェック表、検査項目	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 22 - p. 24 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
9	体位変換、移乗	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 25 - p. 27 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
10	体位、動きの表現、歩行補助機器	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 28 - p. 30 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
11	様々な診療科	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 31 - p. 33 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
12	診療科、専門医、検査のための表現、人体器官系	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 34 - p. 36 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
13	医学英語の構造	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 37 - p. 39 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
14	復習問題	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 1 - p. 39 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
15	前期のまとめと復習	前期のまとめと復習	テキスト p. 1 - p. 39 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking with Your Patients in English	Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai	SEIBIDO
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%			
学生への メッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘドリックⅢ ロイ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	①教科書: Unit 2 Entertainment ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 2を予習
3	①教科書: Unit 3 Business ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 3を予習
4	①教科書: Unit 4 Office ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 4を予習
5	①教科書: Unit 5 Telephone ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 5を予習
6	①教科書: Unit 6 Letter & E-mail ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 6を予習
7	①教科書: Unit 7 Health ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 7を予習
8	①教科書: Unit 8 Bank & Post Office ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 8を予習
9	①教科書: Unit 9 New Products ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 9を予習
10	①教科書: Unit 10 Travel 1 ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 10を予習
11	①教科書: Unit 11 Travel 2 ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 11を予習
12	①教科書: Unit 12 Job Applications ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 12を予習
13	①教科書: Unit 13 Shopping ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 13を予習
14	①教科書: Unit 14 Education ②Handouts	内容把握、語彙・発音、練習問題	クイズの準備・Chapter 14を予習
15	Final Review	既習範囲の総復習 定期試験(後期末)の準備	定期試験(後期末)の準備

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	吉塚 弘、Michael Schauerte	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英和辞典・和英辞典		
2				
3				

授業形態 Teams「オンライン型」

Teams コード	k4f3741												
Moodle コース名 および登録キー													
連絡手段	学内メール、個人メール												
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：												
評価方法 (基準)	<table> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TOEIC Bridge</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）</td> <td>40%</td> <td></td> </tr> </table>	全学共通英語課題	20%		TOEIC Bridge	10%		定期試験		30%	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	40%	
全学共通英語課題	20%												
TOEIC Bridge	10%												
定期試験		30%											
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む）	40%												
学生への メッセージ													
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室												
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。												

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ユアン マクドゥーガル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	日常生活援助	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 43 - 45
	2	身だしなみ用具、日常生活援助表現、専門家との連携	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 46 - p. 48 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	3	与薬	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 49 - p. 51 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	4	薬剤の種類、投薬指示関連表現、薬の効能	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 52 - p. 54 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	5	排泄	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 55 - p. 57 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	6	排泄に関わる表現、仕組み、語彙	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 58 - p. 60 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	7	慢性疾患	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 61 - p. 63 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	8	患者情報収集、慢性疾患について	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 64 - p. 66 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	9	急性期、手術室	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 67 - p. 69 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	10	救急室にて、周手術期看護、集中治療室用語	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 70 - p. 72 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	11	妊婦健診	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 73 - p. 75 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	12	妊娠初期、中期、陣痛と出産、産科用語	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 76 - p. 78 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	13	医学英文読解	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 79 - p. 81 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	14	復習問題	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 82 - p. 84 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
	15	前期のまとめと復習	前期のまとめと復習	テキスト p. 43 - p. 84 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Impact Issues 1	Richard R Day Joseph Shauls Junko Yamanaka	Pearson
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	hi8quz7			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Zoom (lesson time) email (outside of lesson)			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 60%			
学生への メッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	診療科目	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 31 - 33 (30分以上)
2	診療科と専門医	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 34 - p. 36 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
3	日常生活支援	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 43 - p. 45 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
4	身だしなみ用具、日常生活援助表現、専門家との連携	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 46 - p. 48 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
5	与薬	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 49 - p. 51 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
6	授業指示関連表薬剤の種類、現、薬の効能	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 52 - p. 54 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
7	排泄	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 55 - p. 57 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
8	排泄に関わる表現、仕組み、語彙	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 58 - p. 60 (30分以上) 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
9	慢性疾患	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 61 - p. 63 (30分以上) 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認
10	患者情報収集、慢性疾患について	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 64 - p. 66 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
11	急性期、手術室	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 67 - p. 69 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
12	救急室にて、周手術期看護、集中治療室用語	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 70 - p. 72 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
13	妊婦健診	アニメーションを視聴し、内容把握、英語による質疑応答、小テスト	テキスト p. 73 - p. 75 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
14	妊娠初期、中期、陣痛と出産、産科用語	テーマに関する文法、語彙の確認、小テスト	テキスト p. 76 - p. 78 指定されたアニメーション動画を視聴し、語句、熟語等の意味を確認(30分以上)
15	後期のまとめと復習	後期のまとめと復習	

実務経験	
------	--

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking with Your Patients in English	Mitsuko Hirano, Christine D. Kuramoto, Ryota Ochiai	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	英語 IINIC jay8porcupine
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 小テスト 30% 復習テスト 40%
学生への メッセージ	This class will be conducted as much as possible in English. Please come to class every week on time and prepared to participate and converse using English.
担当者の 研究室等	1 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	中国語	科目名 (英文)	Chinese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NCH1328e1		

授業概要・目的	ピンインと四声による発音の基本を学び、基礎的な語彙や文法・句型を学ぶ。また、基本句型を使った日常会話の練習を重ねることで、中国語学習における達成感を味わうことができる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な句型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業はオンライン形式で、発音要領と基礎文法の解説、会話文の朗読練習を通じて、読む・聴く・話す・書くという四つの基礎能力を身につけるようにする。 授業前： テキストを事前に予習して準備すること (1時間 X 15回) 授業後： 授業で学んだ範囲・内容を復習すること (1時間 X 15回)
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	発音 (3) 鼻母音・声調変化 発音 (4) 声調の組み合わせ・r化音 名前の言い方 月日の表現	<ul style="list-style-type: none"> 母音 (鼻母音) 声調変化 声調の組み合わせ r化音 名前の言い方 月日の表現 	p20～p30の録音を聞いて、発音とフレーズを練習をすること。
3	本編 第1課 中国のかたですか?	<ul style="list-style-type: none"> 動詞述語文 疑問文 指示代名詞 家族名称 会話 (中国のかたですか) 	p32～p35の録音を聞いて、第1課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (P94) を解答すること。
4	第2課 あなたの家はどこにありますか?	<ul style="list-style-type: none"> 形容詞述語文 所有の「有」 動詞構文の基本語順 「的」の使い方 副詞「也」など 会話 (あなたの家はどこにありますか) 	p36～p39の録音を聞いて、第2課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p95) を解答すること。
5	第3課 今日はどこに行きますか?	<ul style="list-style-type: none"> 動詞「有」と「在」 連動文 助動詞「想」と「要」の用法 時間詞の位置 会話 (今日どこに行きますか) 	p40～p43の録音を聞いて、第3課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p96) を解答すること。
6	第4課 娘は切符を買う必要がありますか?	<ul style="list-style-type: none"> 年齢の言い方 ～と「和」 時刻の言い方 連体修飾語 会話 (娘は切符を買う必要がありますか) 	p44～p47の録音を聞いて、第4課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p97) を解答すること。
7	第5課 お手伝いしましょうか?	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞「会」と「能」の用法 文末の「了」 数量詞 介詞「給」 会話 (お手伝いしましょうか) 	p50～p53の録音を聞いて、第5課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p98) を解答すること。
8	第6課 ちょっと見てもいいですか?	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞「可以」 完了の「了」 助詞「一下」 時間量の言い方 会話 (ちょっと見てもいいですか) 	p54～p57の録音を聞いて、第6課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p99) を解答すること。
9	第7課 旅行で来たのですか?	<ul style="list-style-type: none"> 介詞「在」 時量 「是～的」構文 ～するつもり「打算」 過去の経験を表す「過」 会話 (旅行で来たのですか) 	p58～p61の録音を聞いて、第7課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p100) を解答すること。
10	第8課 もちろん登ってみたいです。	<ul style="list-style-type: none"> 結果補語 疑問詞の不定用法 介詞「離」 方向補語 動詞の重ね型 会話 (もちろん登ってみたいです) 	p62～p65の録音を聞いて、第8課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p101) を解答すること。
11	第9課 道に迷いましたか?	<ul style="list-style-type: none"> 進行形 介詞「从」 副詞の「就」 反復疑問 会話 (道に迷いましたか) 	p68～p71の録音を聞いて、第9課の単語、例文、会話を覚え、練習問題 (p102) を解答すること。

	12	第10課 まず販売機で食券を買います。	<ul style="list-style-type: none"> ・「把」の構文 ・方位詞 ・存現文 ・二重目的語 ・会話（まず販売機で食券を買います） 	p72～p75の録音を聞いて、第10課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p103）を解答すること。
	13	第11課 ビールを注文しました。	<ul style="list-style-type: none"> ・持続の「着」 ・可能補語 ・使役文 ・比較文 ・会話（ビールを注文しました） 	p76～p79の録音を聞いて、第11課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p104）を解答すること。
	14	第12課 中国語がお上手ですね。	<ul style="list-style-type: none"> ・様態補語 ・助動詞「応該」と「得」 ・離合詞 ・選択疑問文 ・会話（中国語がお上手ですね） 	p80～p83の録音を聞いて、第12課の単語、例文、会話を覚え、練習問題（p105）を解答すること。
	15	第1～12課の総合復習	第1～12課の総合復習・文法まとめ、質問解答	第1～12課授業内容の復習をすること。
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語のおもてなし（入門編）	相原茂（監修）、本間由香利・蘇紅著	郁文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	オンライン授業への参加度：30% オンライン課題提出：70%			
学生への メッセージ	復習をしてこそはじめて力が付きます。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（1号館2階）			
備考	質問等は授業後、もしくは出講日の非常勤講師にて対応する。			

科目名	韓国語	科目名 (英文)	Korean
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NK01329e1		

授業概要・目的	本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。																																																																		
到達目標	まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。																																																																		
授業方法と留意点	PDF資料やパワーポイント資料、動画教材などをネット上に掲示します。オンライン教材資料を見て、課題をその日の時間割通りの授業終了時間までに提出してください。期限内の課題提出をもって出席と課題点とします。前期授業最終日には試験代わりに、時間割通りの時間に前期オンライン授業の総まとめとしての最も大きな課題を出します。オンライン授業をきちんと受け、理解していなければ、時間内にやって提出することはできないと思うので、家においても教室にいるような気持ちで理解していきましょう。毎回の課題提出（出席と課題点）、前期授業																																																																		
科目学習の効果（資格）	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>韓国語とは</td> <td>文字の仕組み</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母音 1</td> <td>基本母音</td> <td>教科書 第1課</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>母音 2</td> <td>合成母音</td> <td>教科書 第1課</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>子音 1</td> <td>基本子音</td> <td>教科書 第2課</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>子音 2</td> <td>子音（濃音・激音）</td> <td>教科書 第2課</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文字の確認</td> <td>文字の確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>バッチム</td> <td>終声について</td> <td>教科書 第3課</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発音の変化 1</td> <td>発音の変化</td> <td>教科書 第4課</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>発音の変化 2</td> <td>発音の変化</td> <td>教科書 第4課</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>発音の変化の確認</td> <td>発音の変化の確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>体言文 1</td> <td>体言文（平叙文）</td> <td>教科書 第5課</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>体言文 2</td> <td>体言文（疑問文）</td> <td>教科書 第5課</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>体言文 3</td> <td>体言文（否定文）</td> <td>教科書 第6課</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総確認</td> <td>総確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>韓国語の実際</td> <td>韓国のドラマを見る</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	韓国語とは	文字の仕組み		2	母音 1	基本母音	教科書 第1課	3	母音 2	合成母音	教科書 第1課	4	子音 1	基本子音	教科書 第2課	5	子音 2	子音（濃音・激音）	教科書 第2課	6	文字の確認	文字の確認		7	バッチム	終声について	教科書 第3課	8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 第4課	9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 第4課	10	発音の変化の確認	発音の変化の確認		11	体言文 1	体言文（平叙文）	教科書 第5課	12	体言文 2	体言文（疑問文）	教科書 第5課	13	体言文 3	体言文（否定文）	教科書 第6課	14	総確認	総確認		15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	韓国語とは	文字の仕組み																																																																	
2	母音 1	基本母音	教科書 第1課																																																																
3	母音 2	合成母音	教科書 第1課																																																																
4	子音 1	基本子音	教科書 第2課																																																																
5	子音 2	子音（濃音・激音）	教科書 第2課																																																																
6	文字の確認	文字の確認																																																																	
7	バッチム	終声について	教科書 第3課																																																																
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 第4課																																																																
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 第4課																																																																
10	発音の変化の確認	発音の変化の確認																																																																	
11	体言文 1	体言文（平叙文）	教科書 第5課																																																																
12	体言文 2	体言文（疑問文）	教科書 第5課																																																																
13	体言文 3	体言文（否定文）	教科書 第6課																																																																
14	総確認	総確認																																																																	
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る																																																																	
実務経験																																																																			
関連科目	韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おはよう韓国語 1</td> <td>崔柄珠</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	PDF資料やパワーポイント資料、動画教材などをネット上に掲示します。オンライン教材資料を見て、課題をその日の時間割通りの授業終了時間までに提出してください。期限内の課題提出をもって出席と課題点とします。前期授業最終日には試験代わりに、時間割通りの時間に前期オンライン授業の総まとめとしての最も大きな課題を出します。オンライン授業をきちんと受け、理解していなければ、時間内にやって提出することはできないと思うので、家においても教室にいるような気持ちで理解していきましょう。毎回の課題提出（出席と課題点）、前期授業																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	NJA1330a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞆の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書 p. 7～12 を復習する (一時間程度)
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書 p. 13～17 および配布プリントを復習する (一時間程度)
4	課題① ある事物について、論理的に説明する	課題の作成・提出	教科書 p. 1～18 を復習する (一時間程度)
5	「構成」 レポートなどの文章の構成を学ぶ	講義	教科書 p. 19～22 を復習する (一時間程度)
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書 p. 23～26 および配布プリントを復習する (一時間程度)
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践 (要約文の作成)	教科書 p. 1～26 および配布プリントを復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書 p. 27～31 および配布プリントを復習する (一時間程度)
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書 p. 32～37 および配布プリントを復習する (一時間程度)
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づいて意見を述べる	講義	教科書 p. 38～39 および配布プリントを復習する (一時間程度)
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書 p. 32～39 を復習する (一時間程度)
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む (一時間程度)
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書 p. 32～39 を復習する。返却された課題を見直す。(一時間程度)
14	レポート これまでの講義の内容を踏まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書 p. 1～39 を復習する (一時間程度)
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	教科書 p. 1～39 を復習する (一時間程度)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	1号館2階 (非常勤講師室)
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博、小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NMA1331a1		

授業概要・目的	大学生で要求される情報リテラシー能力 (文書作成、表計算、プレゼンテーション) の修得、社会人としての情報モラルの修得および自分と自分が所属する組織を守る情報セキュリティに関する理解を目的とする。
到達目標	現代社会における情報モラルと情報セキュリティの必要性を認識し、対応力を身につける。 Word で見栄えの良い文書を作成できる、データ活用のしやすい表計算シートを作成できる、ターゲットとなる聴衆を意識したスライドを作成できる、課題に対してオフィスアプリケーションを利用するシーンを想定できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。また、「情報のモラルとセキュリティ」についてテキストを用いた学習と確認テストにより知識を獲得する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	MOS (Microsoft Office Specialist) 資格 (民間資格) の基礎的技能や知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows 基本操作 【Word】 Word の初歩	個人情報の適切な取り扱い 用語解説 IME の使い方 文書を作成する 文書内を移動する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
3	【Word】 文書の作成と管理 文字、段落、セクションの書式設定	デジタル時代の著作権 (1) 文書の書式を設定する 文書のオプションとカスタマイズ 文字列や段落の挿入と書式設定 文字列や段落の並び替えとグループ化	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
4	【Word】 表やリストの作成	デジタル時代の著作権 (2) 表の作成と修正・装飾 リストを作成・変更する 表内でのタブ設定	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
5	【Word】 グラフィック要素の挿入と書式設定 ドロー描画	ネット社会に潜む危険と対策 (1) グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する SmartArt の挿入・書式設定 ドローツールによる描画	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
6	【Word】 文書作成の振り返り	文書作成テスト演習	事前: 文書作成機能の復習 (1 時間) 事後: 今までの機能のまとめ (1 時間)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	ネット社会に潜む危険と対策 (2) スライドの作成 グラフィック要素の挿入と書式設定 アニメーションの設定 スライドの切り替え	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
8	【PowerPoint】 プレゼンテーション演習	発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前: 発表練習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
9	【Excel】 ワークシートやブックの作成の管理	メールによるコミュニケーション ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
10	【Excel】 セルやセル範囲のデータ管理	Web によるコミュニケーション (1) セルの参照方式 セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
11	【Excel】 見せる表の作成	Web によるコミュニケーション (2) 条件付き書式の設定と修正 スパークラインの設定	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
12	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	Web によるコミュニケーション (3) グラフを作成する グラフのパーツ グラフを書式設定する	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)
13	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	モバイル機器の活用と管理 関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列	事前: 授業テーマの予習 (1 時間) 事後: 事後課題の完成・提出 (30 分)

			を変更する	
	14	【Word & Excel】 連携課題演習	情報モラルとセキュリティの振り返り 表やグラフなどのオブジェクトを取り 込んだ文書作成	事前：授業テーマの予習(1時間) 事後：事後課題の完成・提出(30分)
	15	【Word & Excel】 まとめと振り返り	情報モラルとセキュリティのまとめ 総合テスト演習	事前：今までの諸機能の復習(2時間)
実務経験				
関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30時間アカデミック Office2019	杉本くみ子、大澤栄子	実教出版
	2	〈改訂3版〉情報モラル & 情報セキュリティ	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	演習課題(80%)、テスト課題(20%)を総合して評価する。			
学生への メッセージ	とにかく使ってください。「考えるより慣れろ」です。 疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等				
備考	授業時間外に質問したい場合は、メールあるいは Microsoft Teams のこの授業のチームの「Q and A」チャンネルで質問してください。			

科目名	キャリアデザイン	科目名 (英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	西鶴 智香
ディプロマポリシー(DP)	DP6◎		
科目ナンバリング	NCA1334a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ●概要：「自分のキャリア」＝「仕事」だけを指すものではなく、「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのもののこと、という概念のもと、自分の生涯キャリアをどう考えていくのか、をまとめていく時間です。看護師を目指すあなたは、どんな看護師を目指していくのか、そのためには自分に何が足りないか、どのような勉強、経験を積みばいいのか、を中心に、皆で議論し、考えていきます。自分とじっくり向き合う講義です。 ●看護師という職業は、これから、職務・職域拡大についてどのように変革しようとしているかを知り、自分のキャリアデザインの参考にします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●到達目標：1年次の自分なりに、で構いません。自分は看護学部で何を学び、そして看護師になって何がやりたいのか、何を実現させたいのか。そのために、これから自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでもいいので、自分の言葉で伝えられるようになることを目標とします。 ●「大学生」である皆さんには、大人としての態度、発言を求めます。講義を通して、自立、自律した大人になることを目標にします。 ●いろいろな角度からテーマを出しますので、「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気にせず、
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●録画した講義動画を観て下さい。パワーポイントで作成したスライドを使用し、講義します。 ●毎回の講義終了後に、課題レポート提出があります。必ず期限までに提出下さい。課題レポートがない回は、講義内にて使用するワークシートが「課題」扱い、になりますので、それを提出下さい。講義動画の最後にも指示をしますので、確認下さい。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。 ●自分自身をしっかりと理解することで、周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・講義概要、講師自身のキャリア形成、社会の現状とキャリアデザインの重要性 ・「上手に議論する方法」について説明 ・講義 ・レポート記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどういうふう動いているのか、 ・多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であること <p>それぞれ事例研究 事前 60分・事後 30分</p>
	2	「看護師」という職業を考える！	<ul style="list-style-type: none"> 職業「看護師」について現状を分析し、課題と今後の職域拡大に向けての動きを知る。看護師職の働き方、給与等、調査結果から生涯キャリアを調べる。 ・講義 ・レポート記入 	<ul style="list-style-type: none"> 日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、求人状況等、「職業・看護師」について調べてみる <p>新聞、ネットメディア、専門誌等 事前 60分・事後 30分</p>
	3	日本の医療制度を知る 自分自身を知る①「職業人に求められる基礎力」	<ul style="list-style-type: none"> (前半)日本の医療制度を知る。国民皆保険制度についての理解。 ・講義 ・課題レポート記入 (後半)求められる「職業人が身に付けるべき基礎力」は、自分はどの程度出来ているかチェック。自己分析、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。 ・講義 ・ワークシート記入 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の医療制度・国民皆保険制度について調べてくる。課題は何か、自分なりの意見を持ってくること。 「行動変容」することは難しい。それは自分も患者でも同じです。まずは自分が看護師という専門職として働く前に、働く人の基礎力を身に付けることが求められます。どのようにしてその力をつけていくのか、考えてみましょう。 <p>ワーク事前 60分・事後 30分</p>
	4	自分自身を知る②「自己肯定」と「自己効力」	<ul style="list-style-type: none"> 「自分を認めていくことが多様性理解につながる」「自分に自信がある、ないは何に起因されているのか」。物の捉え方の練習、自身の成功体験の整理、自信のつけ方、について ・講義 ・ワークシート記入 ・レポート記入 	<ul style="list-style-type: none"> 多様性を理解できる包容力のある人になりましょう。そのために物の捉え方の練習をしていきます。患者理解でも求められる「自己効力感」、を知り、自己理解を深めましょう。 自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみます。 <p>ワーク事前 60分・事後 30分</p>
	5	リーダーシップを考える	<ul style="list-style-type: none"> 社会で求められるリーダーとは、どんな能力が必要なのか。講師が持ち込む資料を読み合わせをします ・講義 ・課題レポート記入 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。 <p>ワーク事前 60分・事後 30分</p>
	6	自分の生涯キャリアを考える	<ul style="list-style-type: none"> 看護師の生涯キャリアとは、自分のキャリアデザインをどう考えるか、ワークシートにまとめ作成してみます。結婚、出産、転勤、介護等、人生に起こりうるイベントで、自分のキャリアデザインを修正していくことも迫られる可能性があ 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師職の生涯キャリアを、先輩看護師の実態から調べてみる。ステップアップ、専門看護師等、どのような道をたどっているのか、調べる。 <p>事前 60分・事後 30分</p>

			ることを知しましょう。 ・講義 ・ワークシート記入																	
	7	「自分はこんな人、こんな看護師になります！」	・ワークシート記入	誰からの評価も気にせず、今の自分の意見、をまとめましょう。 ワーク事前 60分・事後 30分																
	8	まとめ～節目ごとに「自分のキャリアデザイン」を。	「自分のキャリアは自己責任」時代。今後、自分の人生の節目ごとに、自分で生涯キャリアを設計、修正することの意義を理解する。 ・講義 ・まとめ、質疑応答 ・レポート記入	自分の人生は自分で決める。常に、「なぜそうなのか？」を考えるクセをつけ、率直に自分の意見を言い、また他人を受容する力をつけましょう。 振り返りシート事前 60分・事後 30分																
	9																			
	10																			
	11																			
	12																			
	13																			
	14																			
	15																			
実務経験																				
関連科目	特記なし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	なし			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	なし																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬学生のためのキャリアデザインブック</td> <td>西鶴智香</td> <td>薬事日報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴智香	薬事日報社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	薬学生のためのキャリアデザインブック	西鶴智香	薬事日報社																	
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後のレポートもしくは講義中に使用するワークシートを提出すること、を必須要件とする。 ・提出物は、70%以上の記載を義務とする。 <p>※評価ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。(論理的思考)(記述スキル)(ボリューム) ・またその内容では、自分の意見を持ち、あらゆる角度からその意見を評価して記入できているかについて、評価します。(課題発見力)(創造性)(俯瞰力) 																			
学生への メッセージ	自分の人生プランを一から描けるのは、若い時にだけできること。 この講義を通して、自分自身のこと、自分の人生をどうしたいか、どんな人間になりたいか、看護師になって実現したいこと、等を考え整理していくことで、「自分のキャリアビジョン」というものをぼんやりでも見つけていってほしいと思っています。 自立したカッコイイ大人！を目指しましょう！																			
担当者の 研究室等	非常勤講師																			
備考	講義、その他についての問い合わせは、メール対応も出来ますので気軽に相談して下さい。 メールアドレス chika@career-position.com																			

科目名	キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 亀田 直子, 田中 結華
ディプロマポリシー(DP)	DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP8○		
科目ナンバリング	NCA1335a1		

授業概要・目的	高校生から大学生への円滑な移行に向けて、摂南大学看護学部生として、学習意欲の向上、専門職としての意識の醸成、人格的な成長を培うことを目的とする。
到達目標	1) 大学で看護学を学ぶための基礎的な学習技術を習得する。 2) 自身で学び考えるための基礎的能力を習得する。 3) 看護学生としての自己管理能力を身につける。 4) キャリア体験と動機づけによって看護の目標志向を育む。
授業方法と留意点	【授業方法】 ・ICTを活用した遠隔授業を実施します。 ・ICTを活用してグループワークを実施します。 【留意点】 ・第1回目に全体のオリエンテーションを行います。 ・本授業を通して、自身のキャリアを考える機会にすること。 ・課題の提出をもってこの科目の評価とするので、期限内に提出すること。 ・グループワークでは自ら意見を発言する機会を増やし、積極的な意見交換を行うこと。
科目学習の効果 (資格)	専門職への意識を高め、目標に向かって主体的に、学習をすすめていくことができる。 看護師としての成長のみならず、人間的に成長することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	充実した学生生活に向けて	摂南大学について理解を深め、看護学部生としての自覚を高める。	事前学習課題：FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020 を読んでおく 事後学習課題：さらに知りたいことを深める
2	大学での学びについて	摂南大学生として卒業時に目指す姿、履修内容、方法および学習を深める方法について学ぶ ・大学の規範、医療系学生としての倫理観について学ぶ	事前学習課題：FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020 を読んでおく 事後学習課題：今日学んだことを、確認する	
3	看護学部チームビルディング	自己紹介および他者理解を深め、摂南大看護学部生としての仲間意識を高める。 ICTを活用したグループワークを体験する。	事前学習課題：自己をアピールできる内容を考える 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考えてみよう	
4	新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて I	事前課題「新型コロナウイルス感染状況と自身の生活」についてをもち、看護師としての自己を考える ・ICTを活用し、グループ発表を通して情報共有を行う。	事前学習課題：自分自身について考えてみよう 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考えてみよう	
5	新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて II	新型コロナウイルス感染について医療者としての感染予防方法について	事前学習課題：自分自身について考えてみよう 事後学習課題：今日学んだことを、今後どのように役立てるかを考えてみよう	
6	担任とのゼミ	担任との交流を通じて、大学生活での不安を軽減し、4年間の見通しをもつ	事前学習課題：大学での学び方や生活でわからないこと、困ったことなどをまとめておく 事後学習課題：さらに知りたいことを深める	
7	担任とのゼミ	担任との交流を通じて、大学生活での不安を軽減し、4年間の見通しをもつ	事前学習課題：大学での学び方や生活でわからないこと、困ったことなどをまとめておく 事後学習課題：さらに知りたいことを深める	
8	・教育アセスメント	仕事に対する適性や職務遂行能力、自己の興味関心を見極めるために、言語能力検査と非言語能力検査を web 上で行う。	事前学習課題：国語問題や計算問題など、問題を解く感覚を取り戻しておく 事後学習課題：問題の振り返る	
9	「緩和医療について」	事例から緩和医療の実際について学ぶ	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる	
10	「緩和医療について」チームアプローチを考える	緩和医療の事例および事前学習内容をグループで共有し合い、緩和医療におけるチームアプローチについて検討する	事前学習課題：緩和医療について、緩和医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：緩和医療について学んだこと、考えたことをまとめる	
11	「在宅医療について」	事例から在宅医療の実際について学ぶ	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる	
12	「在宅医療について」、チームアプローチを考える	事前学習内容をグループで共有し合い、薬学部生とともに在宅医療におけるチームアプローチについてグループで検討する	事前学習課題：在宅医療について、在宅医療における看護師の役割について、それぞれが調べてくる。 事後学習課題：在宅医療について学んだこと、考えたことをまとめる	
13	チーム医療、チームアプローチについて	チームとは何か 医療におけるチームアプローチについてグループで討議する	事前事後学習課題：グループで検討した内容を発表するための準備をし、最終プロダクトを仕上げる	
14	私のキャリア I	看護専門看護師および認定看護師について	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる 事後学習課題：さらに知りたいことを深めることをまとめる	
15	私のキャリア II	助産師および保健師、大学院進学について	事前学習課題：看護の実際や、興味関心のある分野について、質問したいことをまとめる	

				事後学習課題：さらに知りたいことを深める
実務経験				
関連科目	キャリアデザイン			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	グループワーク等の参加態度 20%、提出物 80%			
学生への メッセージ	自分の将来の目標を明確にし、それに向かって着実に前進できるよう、具体的な計画を立てましょう。			
担当者の 研究室等	鎌田 研究室17			
備考				

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧 千波, 江川 達郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	NPH1341a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 授業担当者は医療機関等における運動指導経験から、様々な年代の人々や有患者における運動が心身の健康にどのように貢献するか、対話を通して理解を深めてきた。このことを本授業に活用し、健康に関する課題解決的な学びや、様々な背景を持つ人々の多様なニーズに応える能力を醸成する授業を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	本科目は、「対面授業」と「遠隔授業」を併用し授業を行う グループワークおよび実技形式で行う 運動のできる服装で受講すること
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	Teams を使い、履修上の注意を行う	運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
2	各コース別実技	コース分け、種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識の収集 事後: 内容の振り返り
3	コース別実技	種目におけるルール・マナーの説明 種目の導入につながる運動	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
4	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
5	コース別実技	体力の向上に必要な基礎運動 基礎技術を応用した運動	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
6	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
7	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
8	AED 講習	AED の使用方法、演習	AED の使用方法について調べ、一連の流れを復習
9	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
10	【講義】運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義 (講義室) 運動・スポーツが心身へ及ぼす影響について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。	事前: 一般人における運動の必要性について調べる。 事後: 授業で学んだ内容を、どのように臨床へ応用できるか考え、レポートする。
11	コース別実技	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
12	コース別実技	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
13	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
14	コース別実技	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
15	総括	Teams にて後期授業の振り返りを行う	内容の振り返り、本授業の総まとめ

実務経験	
------	--

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV
------	----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
------	-----------------

Teams コード	ufz5joi
-----------	---------

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	チャット (チャットが使用不可の場合は学内メール)
------	---------------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお、平常点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性、チームワーク・リーダーシップ、自己管理能力を示す。
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室(072-839-9187)へ問い合わせてください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢, 長沢 美和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1⑩		
科目ナンバリング	NKY1349a1		

授業概要・目的	<p>本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>SDGs 1～17</p>
到達目標	<p>① 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。</p> <p>② ABD による読書法を身につけている。</p> <p>③ チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。</p> <p>④ SDGs (Sustainable Development Goals) と UNAI (The United Nations Academic Impact) について基本的な知識を身につけている。</p> <p>⑤ 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。</p> <p>⑥ コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解すること</p>
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。教養入門書を用いて ABD 読書法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、諸君が積極的に参加することが大切である。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス チームビルディング	大学教養入門の概要を説明する チームビルディングの研修プログラム	
2	読解力テスト ミニ ABD	読解力テスト(事前: 20分) 教科書の紹介、本日の概要、チーム作り、授業の約束事、ABD による学習の進め方の説明する。		
3	ABD 法による大人の教養: 「第二章 宇宙」	「第二章 宇宙」を ABD 法により学修する。	事前: 大人の教養の「第二章 宇宙を読むこと。	
4	ABD 法による大人の教養: 「第二章 宇宙」	「第二章 宇宙」を ABD 法により学修する。	事前: 「大人の教養 第二章 宇宙」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。	
5	ABD 法による大人の教養: 「第二章 宇宙」	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後: ABD 読書方法の確認と理解をすること。 事後: 「大人の教養: 第二章 宇宙」のび事後学習シートに記入して、提出する。	
6	ABD 法による大人の教養: 「第四章 人間と病気」	「第四章 人間と病気」を ABD 法により学修する。	事前: 「大人の教養 第四章 人間と病気」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。	
7	ABD 法による大人の教養: 「第四章 人間と病気」	「第四章 人間と病気」を ABD 法により学修する。	事前: 「大人の教養 第四章 人間と病気」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。	
8	ABD 法による大人の教養: 「第四章 人間と病気」	振り返りシートの作成と提出	事後: 「大人の教養: 第四章 人間と病気」のび事後学習シートに記入して、提出する。	
9	自分を知る教養: 「アドラー心理学入門」 第二章 アドラー心理学の育児と教育	「第二章 アドラー心理学の育児と教育」を ABD 法により学修する。	事前: アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。	
10	自分を知る教養: 「アドラー心理学入門」 第二章 アドラー心理学の育児と教育	「第二章 アドラー心理学の育児と教育」を ABD 法により学修する。	事前: アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。	
11	自分を知る教養: 「アドラー心理学入門」 第二章 アドラー心理学の育児と教育	振り返りシートの作成と提出	事後: アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」の事後学習シートに記入して、提出する。	
12	自分を知る教養: 「アドラー心理学入門」 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	「第三章 横の関係と健康なパーソナリティ」を ABD 法により学修する。	事前: アドラー心理学入門「第三章 横の関係と健康なパーソナリティ」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。	
13	自分を知る教養: 「アドラー心理学入門」 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	「第三章 横の関係と健康なパーソナリティ」を ABD 法により学修する。	事前: アドラー心理学入門「第三章 横の関係と健康なパーソナリティ」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。	
14	自分を知る教養: 「アドラー心理学入門」 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	振り返りシートの作成と提出	事後: アドラー心理学入門「第三章 横の関係と健康なパーソナリティ」の事後学習シートに記入して、提出する。	
15	SDGs の紹介 アカデミックミックインパクト	SDGs の概要、SDGs ゲーム、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。	振り返りレポート②の作成と提出する。	

実務経験

関連科目	摂南大学で開講されている科目すべて。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上 彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	リーディングスキルテスト (個人10%)、事前学習シート (個人10%)、事後学習シート (個人10%)、ふりかえりシート (個人20%)、理解度確認テスト (個人10%)、大学教養入門まとめレポート (個人40%)			
学生への メッセージ	この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身につく、さらに友人を作ることが出来るでしょう。			
担当者の 研究室等	松田：7号館3階 6研究室 長沢：7号館3階 共同研究室2			
備考				

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神谷 美紀子, 今井 秀人, 北村 敦子, 佐久間 夕美子, 舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2○, DP3○, DP6○, DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	NDN2028a0		

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学びます。患者の立場に立ち、基本となる援助を安全安楽に提供できるよう、根拠を踏まえた技術を修得します。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護などについての知識と技術を修得します。 科目責任者は、看護師・助産師として約20年の臨床経験があり、専従の医療安全管理者として4年間医療安全業務に携わっていました。 SDGs-3, 5, 17
到達目標	診療に伴う看護技術について、その意義を理解し、手技1つ1つの根拠及び注意点を述べることができる。 検査・治療を受ける患者、家族の立場に立った関わりや倫理的側面について考えることができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習します。 理解を深めるため、各単元ごとに事前課題、講義による実技のビデオ視聴、授業後のリフレクションシート、ミニテスト、事後課題を実施します。必ず事前・事後学習を行い学びを深めてください。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等を使用します。ナーシングスキルを講義の前後に視聴し、技術の知識と実践のイメージを高めてください。 演習では、教員がデモンストレーションを実施し、学生はビデオ視聴をして自宅にてトレーニング可能な技術は実践します。学生は看護師、患者の双方の立場から看護技術について考察し、患者の安全、安楽、倫理的配慮について学びを深めます。
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護技術とはどのようなものかを理解します。関連法規を把握し理解を深めます。	【事前課題】 診療時の看護師の役割、看護倫理綱領を各自で復習し授業に出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)
	2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の薬物療法の項を読み出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)
	3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読み出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行います。(30分)
	4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書のスタンダードプリコーションの手技について視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
	5	無菌操作 (1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
	6	無菌操作 (1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の注射器・注射針の接続、薬液の吸い上げの項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
	7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
	8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の皮下注射の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】(1時間) 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
	9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の筋肉注射の項を視聴/

			読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
11	基礎看護技術の展開	学習した看護技術を、事例の状況に合わせて展開する。	【事前課題】 既習の看護技術の意義と適応について再学習してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って事例への看護技術の展開について考え、根拠や留意点を調べます。(1時間)
12	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の検査時の看護師の役割の項を読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って留意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の採血の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の採血の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の輸液療法の項を読み、出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って留意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
16	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の輸液療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
18	基礎看護技術の展開	学習した看護技術を、事例の状況に合わせて展開する。	【事前課題】 既習の看護技術の意義と適応について再学習してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って事例への看護技術の展開について考え、根拠や留意点を調べます。(1時間)
19	創傷の看護	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。	【事前課題】 教科書の創傷管理の項を読み出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って手技及び根拠について復習を行います。(1時間)
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の導尿時の看護の項を読み出席してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って留意点及び根拠について復習を行います。(1時間)
21	無菌操作 (2)	滅菌物の取り扱い等を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の滅菌物の取扱いの項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
22	創傷管理	ガーゼ交換などの創傷処置と包帯法・三角巾法を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の創傷処置の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)
23	導尿	膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の導尿の項を視聴/読み、出席してください。(1時間)

				【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)																
	24	導尿	膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。 滅菌手袋の装着を行う。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の導尿の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)																
	25	栄養障害の看護(栄養)	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。 経管栄養法について理解する。	【事前課題】 教科書の経管栄養の項を読み出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)																
	26	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の酸素療法の内容を読んだ上で出席すること。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)																
	27	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】 ナーシングスキルや教科書の酸素療法の項を視聴/読み、出席してください。(1時間) 【事後課題】 教員のデモや演習から学んだことをもとに、技術実施における留意点と根拠を調べ復習をします。(1時間)																
	28	体温維持の看護および温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や電法など体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の電法の項を読み出席してください。(30分) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って注意点及び根拠について復習を行います。(1時間)																
	29	基礎看護技術の展開	学習した看護技術を、事例の状況に合わせて展開する。	【事前課題】 既習の看護技術の意義と適応について再学習してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って事例への看護技術の展開について考え、根拠や注意点を調べます。(1時間)																
	30	基礎看護技術の展開	学習した看護技術を、事例の状況に合わせて展開する。	【事前課題】 既習の看護技術の意義と適応について再学習してください。(1時間) 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って事例への看護技術の展開について考え、根拠や注意点を調べます。(1時間)																
関連科目	基礎看護技術Ⅰ等。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ</td> <td>深井喜代子(編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ</td> <td>深井喜代子(編)</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技Ⅱ	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社																	
2	新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技Ⅰ	深井喜代子(編)	メヂカルフレンド社																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人体の構造と機能</td> <td>エレインN. マリーブ他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護が見える</td> <td>医療情報科学研究所 編集</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人体の構造と機能	エレインN. マリーブ他	医学書院	2	看護が見える	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	人体の構造と機能	エレインN. マリーブ他	医学書院																	
2	看護が見える	医療情報科学研究所 編集	メディックメディア																	
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																			
評価方法 (基準)	1) 事前課題 15% 2) リフレクションシート 5% 3) ミニテスト 20% 4) 事後課題 40% 5) 最終レポート 20% 原則、全ての授業の出席と前後の課題やテスト等の提出をしていることが評価の要件となります。																			
学生への メッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全に技術を実施していくためにも気を引き締めて学びましょう。 事前事後学習を行い、技術を学びましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室2(神谷)、研究室1(佐久間)、共同研究室1(北村、舟木)、共同研究室3(今井)																			
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。																			

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 古矢 篤史, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科:A◎, A科:A◎, M科:A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	<p>「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。</p> <p>この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。</p> <p>また由良町役場の行政担当者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	<p>グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。</p> <p>第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。体験学習に参加できない学生は履修しないようにしてください。</p> <p>グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【第1回】 4月11日(土) 1限 テーマ: オリエンテーション 内容・方法等: 到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。地域のことを学ぶ意義を解説します。(鶴坂) 事前学習: シラバスをみて、内容を確認する。地域のことを学ぶことについて自分なりに考える (1時間)。 事後学習: 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える (1時間)。</p> <p>【第2回】 4月11日(土) 2、3限 テーマ: チームビルディング 内容・方法等: グループワークを進めていくためのチームビルディングを行います。(水野・鶴坂) 事前学習: グループワークを行う上で大切なことは何かを考える (1時間)。 事後学習: チームビルディングを行った感想と今後の豊富についてまとめる (1時間)。</p> <p>【第3回】 4月25日(土) 1限 テーマ: 今、地域で何が起きているか 内容・方法等: 人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。(鶴坂) 事前学習: キーワード「消滅可能性都市」について調べる (1時間)。 事後学習: 由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p>【第4回】 4月25日(土) 2限 テーマ: 由良町関係者の講演 内容・方法等: 和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光、防災、文化、地域医療等の現状や課題をお聞きします。(鶴坂・上野山) 事前学習: 和歌山県由良町の概要を調べる (1時間)。 事後学習: 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートを作成する (2時間)。</p> <p>【第5回】 4月25日(土) 3限 テーマ: グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等: 1、2限の講義内容をふまえ、由良町の課題と人口減少の原因を議論しまとめ、発表する。(鶴坂・上野山) 事前学習: プレゼンテーションルーブリックを確認する (1時間)。 事後学習: グループでのレポート作成 (2時間)。</p> <p>【第6回】 5月2日(土) 1限 テーマ: 地域経済・経営-地域の観光・ブランディング- 内容・方法等: 観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。(久保・鶴坂) 事前学習: 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる (1時間)。 事後学習: 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p>【第7回】 5月2日(土) 2限 テーマ: 地域環境・防災-空き家の現状と課題- 内容・方法等: 大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。(稲地) 事前学習: 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと (1時間)。 事後学習: 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p>【第8回】 5月2日(土) 3限 テーマ: グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等: 1限の課題、2限の課題と2つに区分し、グループでまとめ、発表する。(鶴坂・久保・稲地) 事前学習: 前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションルーブリックを確認する (1時間)。 事後学習: グループでのレポート作成 (2時間)。</p> <p>【第9回】 5月16日(土) 1限 テーマ: 地域市民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。(田中・上野山) 事前学習: 事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと (1時間)。 事後学習: 授業で発表された内容について整理し、由良町の地域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる (2時間)。</p>

	<p>【第10回】 5月16日(土) 2限 テーマ：地域政策・文化ー地域の小規模ミュージアムー 内容・方法等：地域(とくに過疎化地域)における「小規模ミュージアム(記念館、文学館、博物館、美術館など)」の意義や現状を踏まえ、内容や効果を考えます。(古矢) 事前学習：「小規模ミュージアム」とは何かを調べる(1時間)。 事後学習：地域における「小規模ミュージアム」の内容や効果をグループでレポートをまとめる(2時間)。</p> <p>【第11回】 5月16日(土) 3限 テーマ：グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等：1限の課題、2限の課題と2つに区分し、グループでまとめ、発表する。(古矢・田中・上野山) 事前学習：前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションルーブリックを確認する(1時間)。 事後学習：グループでのレポート作成(2時間)。</p> <p>【第12回】 5月30日(土) 1限 テーマ：プレゼンテーション講座 内容・方法等：プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。(石井、鶴坂) 事前学習：パワーポイントの練習(1時間)。 事後学習：最終報告会での大まかな流れを作る(2時間)。</p> <p>【第13回】 5月30日(土) 2, 3時間 テーマ：グループワーク 内容・方法等：由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、上野山) 事前学習：グループでどの領域の問題を取り扱うかを定める(1時間)。 事後学習：由良町でのフィールドワークの準備を行う(2時間)。</p> <p>【第14回】 6月6日(土) 終日 テーマ：体験学習(和歌山県由良町) 内容・方法等：由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、久保、古矢、上野山) 事前学習：現地で調べることに付いて予備調査しておく(1時間)。 事後学習：現地で得られた情報をまとめておく(2時間)。</p> <p>【第15回】 6月27日(土) 1, 2限 テーマ：グループワーク 内容・方法等：発表用スライドの作成。(鶴坂、上野山) 事前学習：現地で得た情報の整理(1時間)。 事後学習：スライドの完成(4時間)。</p> <p>【第16回】 7月18日(土) 1, 2限 テーマ：成果発表会 内容・方法等：作成したスライドを使い、成果発表を行う。(鶴坂、久保、稲地、古矢、上野山) 事前学習：発表の練習(4時間)。 事後学習：他のグループの取組内容の整理をする(1時間)発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。</p> <p>【第17回】 7月18日(土) 3限 テーマ：ふりかえり・わかちあい 内容・方法等：「地域と私」での学びの成果等をふりかえり、発表する 事前学習：これまでのプリントや副専攻ガイドブック等の整理(1時間) 事後学習：個人レポートの作成(4時間)</p>																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																
担当者の	鶴坂研究室 11号館7階																

研究室等	
備考	詳しい日程はガイダンスのときに発表します。基本的に土曜日開講です。

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: IL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1		

授業概要・目的	この授業は、ソーシャルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。 これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。 その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。 具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。																
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内で役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																
授業方法と留意点	この授業は少なくとも前期中はネットで授業を行います。 授業で課題を出しますので、それぞれ履修者が調べ学習を行いレポートにまとめ指示された提出場所、提出期間に提出をお願いします。 提出されたレポートについて、プロジェクト(グループ)単位で議論をすることがあります。 学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行うかどうかは新型コロナウイルスの状況に応じて判断をします。 状況が改善しない場合は、ネットでの授業や発表を後期も継続します。 また、対面で行わないような活動、たとえば連携先様の活動をSNSで発信するなどの広報活動等を行う可能性もあります。 状況に応じた活動内容となるため例年とは異なる授業内容となりますのでご注意ください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は本来フィールドワークを学生がチーム単位で主体的に行うことを前提にしていたのですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため不可能ですので、学生個人のワークが中心となります。 プロジェクトは今のところ3つありますので、自分が希望するプロジェクトに関する学びを深め課題解決のための提案を自分自身が深掘していく形となります。 新型コロナウイルス状況に応じて、プロジェクトの活動時期や内容は異なりますのでご了承ください。 第1回 5月29日(金) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明をネットで行います。 例年とは異なる進め方となりますので、履修者は必ず出席してください。 第2回 6月5日(金) 第3回 6月19日(金) 第4回 7月3日(金) 第5回 7月17日(金) いずれもネットでの授業です。 上記以外でプロジェクトごとにネット上でミーティング等を行うことがあります。 後期については前期最後の授業でお知らせします。 授業担当者は経営学部 鶴坂、法学部 小野、教育イノベーションセンター 水野・上野山です。																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	課題提出物 40%、活動の取組 30%、最終レポート 30%																
学生へのメッセージ	PBLより、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう!																
担当者の研究室等																	
備考	【事前学習】 活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。																

	<p>【事後学習】 活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をお願いします。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学生時間が必要となります。</p>
--	--

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名(英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマナーの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立つという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>-----</p> <p>事前教育①~⑨回分:</p> <p>①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて</p> <p>②守秘義務: 活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ</p> <p>③安全管理スキル: 活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ</p> <p>④救命救護スキル: 命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ</p> <p>⑤安全対策スキル: 安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ</p> <p>⑥コミュニケーションスキルA: 対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ</p> <p>⑦コミュニケーションスキルB: 報告、連絡、相談(ホウ・レン・ソウ)の重要性を学ぶ</p> <p>⑧コミュニケーションスキルC: アイスブレイキング手法を学ぶ</p> <p>⑨コミュニケーションスキルD: 指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動(90分×20回分):</p> <p>受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育(90分):</p> <p>青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>-----</p> <p>履修上の注意:</p> <p>学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題:</p> <p>学外での活動に際し、各種活動(各受入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																
Teamsコード	lusjvks																
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調査、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階 (浅野研究室)																
備考	第1回目の事前授業は4月15日6時限目、1124教室で行う。																

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名(英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	V科:IIⓄ,R科:AⓄ,A科:AⓄ,M科:A1Ⓞ,E科:B△,C科:IIⓄ,L科:DP2Ⓞ,D科:DP1Ⓞ,S科:DP1Ⓞ,P科:DP8△,J科:DP1Ⓞ,W科:DP1Ⓞ, N科:DP1ⓄN:DP1Ⓞ		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会~事前授業~現地派遣~事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2~3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会:4月中旬(9月下旬~10月上旬) ・事前授業10回:6月中下旬~7月下旬(11月~2月) ・現地派遣:2週間程度 8月中旬~9月上旬(2月中下旬~3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む):9月~10月中旬(3月~4月下旬) <p>本科目を受講する学生は、まず国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなければならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2~3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、国際交流センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間にかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ(入門)、グローバル・シチズンシップ(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teamsコード	yjvwu6a																
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	原則 Teams、履修前なら国際交流センターへメール問い合わせ																

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館4階国際交流センターまで 授業内容に関する質問、相談は鳥居(研究室は7号館3階)まで。
備考	

科目名	地域実習	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。</p>																		
到達目標	<p>①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>主として現地でのフィールドワークです。1か月に2回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 チーム10名程度のチームを作り、地域での活動に取り組みます。</p> <p>1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. 進捗管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。</p> <p>上記の1～6の活動を通じ、PDCAサイクルを回しながら、年度当初に設定した目標を達成できるよう協働していきます。</p> <p>第1回授業は 4月14日(火)6時間目です。 このときに、詳しい取組内容、どの取組内容に参加するかなどを決定します。 チームは「地域と私」のグループ(1グループ5人程度)を基本にして組んでいきます。</p> <p>【前期】 第2回目は4月28日(火)いずれも6時間目 第3回目は5月12日(火) 第4回目は5月26日(火) 第5回目は6月9日(火) 第6回目は6月23日(火) 第7回目は7月7日(火) 第8回目は7月21日(火)を予定しています。</p> <p>【後期】については前期授業中に連絡します。</p>																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:</p>																		
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																		
学生へのメッセージ	まずは一歩踏み出して、地域での活動に取り組んでみよう!																		
担当者の研究室等備考	鶴坂研究室 11号館7回																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教.木村 朋紀.船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として2019年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。</p> <p>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として2019年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。</p> <p>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⊙,R科:A⊙,A科:A⊙,M科:A1⊙,E科:B⊙,C科:II⊙,L科:DP2⊙,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⊙,S科:DP1⊙,P科:DP8Δ,J科:DP1⊙,DP6⊙,DP7⊙,W科:DP1⊙,DP7⊙,N科:DP1⊙N:DP1⊙		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> <p>SDGs-6,13,14,15</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 																		
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																		
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)																		

学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> <p>SDGs-6, 13, 14, 15</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 天然アユ復活プロジェクトの学習 いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。</p> <p>メールアドレス：</p>																
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																

学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⊙,R科:A⊙,A科:A⊙,M科:A1⊙,E科:B⊙,C科:II⊙,L科:DP2⊙,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⊙,S科:DP1⊙,P科:DP8Δ,J科:DP1⊙,DP6⊙,DP7⊙,W科:DP1⊙,DP7⊙,N科:DP1⊙N:DP1⊙		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⊙,R科:A⊙,A科:A⊙,M科:A1⊙,E科:B⊙,C科:II⊙,L科:DP2⊙,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⊙,S科:DP1⊙,P科:DP8Δ,J科:DP1⊙,DP6⊙,DP7⊙,W科:DP1⊙,DP7⊙,N科:DP1⊙N:DP1⊙		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>SDGs-3, 4, 11</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる ・学生が RPA の利用価値を説明できる ・実践的な IT 活用について提案ができる 																		
授業方法と留意点	<p>データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</p> <p>ヒアリング調査</p> <p>自治体での業務プロセス分析</p> <p>開発合宿</p> <p>自治体でのプレゼンテーション</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会 (土曜日開催) ・ヒアリング調査 ・自治体での業務プロセス分析 ・開発合宿 ・RPA の実践 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査 (4 時間×2 回) ・IT 関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1 時間×8 回) ・データベース設計の見直し (3 時間) ・作成したアプリの動作テスト (2 時間) <p>学習課題を遂行する上で必要と思つた書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	<p>地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>SDGs-3, 4, 11</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる ・学生が RPA の利用価値を説明できる ・実践的な IT 活用について提案ができる 																		
授業方法と留意点	<p>データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</p> <p>ヒアリング調査</p> <p>自治体での業務プロセス分析</p> <p>開発合宿</p> <p>自治体でのプレゼンテーション</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会 (土曜日開催) ・ヒアリング調査 ・自治体での業務プロセス分析 ・開発合宿 ・RPA の実践 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査 (4 時間×2 回) ・IT 関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1 時間×8 回) ・データベース設計の見直し (3 時間) ・作成したアプリの動作テスト (2 時間) <p>学習課題を遂行する上で必要と思つた書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :																		
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	守口市の総合戦略の一環として取り組みます。 ①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。 ②守口市のシビックプライドを醸成する。 ③守口市の商店街等の活性化を図る。 ①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①守口市の実態を理解する。 ②企画立案の手法を習得する。 ③企画したものをカタチにする。 ④自ら考え行動できる力をつける。 ⑤チームで活動できる力をつける。																
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 守口市の現状を学ぶ 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 企画書の作り方 5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整 6. イベント企画と準備 7. イベント実施 8. ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。																
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の研究室等備考	11号館7階 鶴坂研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	守口市の総合戦略の一環として取り組みます。 ①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。 ②守口市のシビックプライドを醸成する。 ③守口市の商店街等の活性化を図る。 ①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①守口市の実態を理解する。 ②企画立案の手法を習得する。 ③企画したものをカタチにする。 ④自ら考え行動できる力をつける。 ⑤チームで活動できる力をつける。																
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 守口市の現状を学ぶ 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 企画書の作り方 5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整 6. イベント企画と準備 7. イベント実施 8. ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。																
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の研究室等備考	11号館7階 鶴坂研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の	11号館7階、牧野准教授室																		

研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の	11号館7階、牧野准教授室																		

研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。			
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 			
関連科目	チームビルディング			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teamsコード				
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。			
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室			
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。			
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 マーケティング手法の学習(座学による) 連携先との面談 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 まとめと最終報告会 			
関連科目	チームビルディング			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teamsコード				
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。			
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室			
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 Dig! SDGs プロジェクト</p> <p>【概要】 1. 市民が日常生活でできる「SDGs への取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGs に寄与する活動(企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む)」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また1で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちに SDGs 教育を実施する</p> <p>【目的】 1. 2020年11月末までに地域及び学内において SDGs を広報するためのアクションを5つを行う 2. SDGs を学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する</p>																		
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクトの到達目標】 上記に加え、以下の6点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGs とは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外部協力団体様と折衝することで社会人として必要なマナーを身につける 4. イベントなど取り組むべき課題に対処することで、工程管理の基本を身につける 5. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる 6. イベントを実施及び最終報告会に挑むことでPPTスキル、プレゼンテーションスキルの向上を目指す</p>																		
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【内容】 1. 「SDGs を大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これから SDGs に取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われている SDGs に寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関において SDGs を教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。</p> <p>【方法】 ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施</p> <p>【年間計画(予定)】 4月 SDGs に関する文献レビュー・勉強会の実施 5月 SDGs に関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8月 小学校向けのイベント実施 10月 中間報告会 11月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12月 振り返り・最終報告</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に																		

(基準)	に判断し評価する。
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、SDGsの普及に貢献しましょう。
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 Dig! SDGs プロジェクト</p> <p>【概要】 1. 市民が日常生活でできる「SDGs への取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGs に寄与する活動(企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む)」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また1で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちにSDGs教育を実施する</p> <p>【目的】 1. 2020年11月末までに地域及び学内においてSDGsを広報するためのアクションを5つを行う 2. SDGsを学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する</p>																		
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 参加メンバー・学外の連携先との連携を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクトの到達目標】 上記に加え、以下の6点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGsとは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外部協力団体様と折衝することで社会人として必要なマナーを身につける 4. イベントなど取り組むべき課題に対処することで、工程管理の基本を身につける 5. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる 6. イベントを実施及び最終報告会に挑むことでPPTスキル、プレゼンテーションスキルの向上を目指す</p>																		
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【内容】 1. 「SDGsを大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これからSDGsに取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われているSDGsに寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関においてSDGsを教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。</p> <p>【方法】 ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施</p> <p>【年間計画(予定)】 4月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 5月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8月 小学校向けのイベント実施 10月 中間報告会 11月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12月 振り返り・最終報告</p>																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に																		

(基準)	に判断し評価する。
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、SDGsの普及に貢献しましょう。
担当者の研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間は必要です。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

<p>授業概要・目的</p>	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動するNPO団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合っテコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。 ①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 ②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っているNPO団体等との協働による課題対応力を修得する。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 ・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。
<p>到達目標</p>	<p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 (2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 (3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 (4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。 (5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。 (6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 (7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 (8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。 (9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダ間の調整スキルを修得すること。 (10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。
<p>授業方法と留意点</p>	<p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに2020年度からは吹田市拠点のNPO団体とも協働する。これらの活動みおける様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防犯策や地域貢献活動等を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習(参画による)によって到達目標へ指導する。 ・特に2020年度は、地域事業者主体のプログラム実施だけでなく学生が積極的に企画・運営することを推進する。 ・ICTツールを活用した事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 <p>II 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。
<p>授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題</p>	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTツールによる事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ICTツールによる事前・事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) (2) 参画する課外活動例 <ul style="list-style-type: none"> ・5月頃: ICTツールによる勉強会や吹田市で活動するNPO団体等との年度事業企画調整を行う。 ・6月: ICTツールによる今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店街は場提供。)今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) ・7月頃: その他、NPO事業に参画 ・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) ・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。 ・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) ・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加 ・12月~3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。

	このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。			
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁 哲之介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅 史	光文社新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立 基浩	ミネルヴァ書房
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川 すいめい	青土社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールによる提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等のNPOとのICTツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいは打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数 を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価 する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席(参画)が基本である。 			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。 			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動するNPO団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合っテコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。 ①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 ②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っているNPO団体等との協働による課題対応力を修得する。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 ・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。
到達目標	<p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 (2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 (3) 異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 (4) 成功事例を発展させることで他の事例へのPDCAスキルを醸成できること。 (5) 行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。 (6) 地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 (7) 企画・運営・振り返り資料作成によるPPTのスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 (8) 企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画によるPDCA活用スキルを修得すること。 (9) 地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダ間の調整スキルを修得すること。 (10) 世代間コミュニケーションスキルを修得すること。
授業方法と留意点	<p>ICTツールを活用して下記内容を実施する。</p> <p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに2020年度からは吹田市拠点のNPO団体とも協働する。これらの活動における様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策や地域貢献活動等を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習(参画による)によって到達目標へ指導する。 ・特に2020年度は、地域事業者主体のプログラム実施だけでなく学生が積極的に企画・運営することを推進する。 ・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 <p>II 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTツールによる事前・事後学習及び講義の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ICTツールによる事前・事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) (2) 参画する課外活動例 <ul style="list-style-type: none"> ・5月頃: ICTツールによる勉強会や吹田市内で活動するNPO団体等との年度事業企画調整を行う。 ・6月: ICTツールによる今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。) 今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) ・7月頃: その他、NPO事業に参画 ・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) ・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。 ・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) ・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加 ・12月~3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。

	このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。			
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁 哲之介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立 基浩	ミネルヴァ書房
	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川 すいめい	青土社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールでの提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等のNPO との ICT ツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいは ICT ツールによる打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールでの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。 			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。 			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） 																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） 																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之、カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シヤカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カカ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。
到達目標	<p>1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)きを取(ト)り組(ク)む力(チカラ)」、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイケツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。</p> <p>2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in your mother tange)。</p> <p>3) 社会における異文化摩擦(イブンカマサツ)による問題(課題)を知る。</p> <p>4) 3)の身近(ミヂカ)なところで起きている課題を、自分事(ジブンゴト)としてとらえる観点(カンテン)から考える視点(シテン)を養(ヤシナ)い、自分は何ができるのかを考え、行動(コウドウ)に移(ウツ)す。</p> <p>5) 1)～4)の目標のほかに、本プロジェクトの活動を通して解決したい個人的(コジンテキ)またはグループでの課題や到達目標(トウタツモクヒョウ)を設定(セッテイ)し、達成(タッセイ)する。 例1)「このプロジェクトの活動を通して、わたしは～する／～できるようになる」 例2)「私の専門性(センモンセイ)／強味(ツヨミ)を生(イ)かして、地域の課題に対(タイ)して向(ム)き合う力を養(ヤシナ)う」 例3)「これまでの経験(ケイケン)や学(マナ)んだことを、実社会(ジッシャカイ)において通用(ツウヨウ)するの試(タメ)してみる」 例4)「したいことを我慢(がまん)して(TVや音楽、ゲームなどの誘惑(ユウワク)に負けないで、今するべきことに向き合う力を身(ミ)につける」</p>
授業方法と留意点	<p>1) 週1～2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピージュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。</p> <p>2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り入(イ)れたいと考(カンガ)えています。</p> <p>3) 評価(ヒョウカ)についても、担当教員(タントウキョウイン)とともに参加学生全員が話し合いながら納得(ナツク)する形(カタチ)で設定(セッテイ)していく予定(ヨテイ)です。シラバス上の評価方法の基準(キジュン)は確定(カクテイ)ではありません。</p> <p>4) お昼の集(アツ)まりには、毎回出席することが望(ノゾ)ましいですが、就職(シュウシヨク)活動や課外活動(クラブやサークルの活動)、専攻科目(センコウカモク)の宿題や課題などが重(カサ)なって出席が困難(コンナン)な時は、事前(ジゼン)に知らせてください。</p> <p>5) プロジェクト開始とともにポートフォリオを作成し、活動することに、日誌(記録)をつけて各自(カクジ)で振(フ)り返(カエ)ります。また、イベント実施後や発表等の後には、全体(ゼンタイ)で振(フ)り返(カエ)りの会議(カイギ)もします。</p> <p>6) ポートフォリオは中間発表、最終報告会、最終レポートなどまとめる際に活用できますので、普段(フダン)から(活動のあとは)、こまめに記録(キロク)する習慣(シュウカン)をつけましょう。気づいたことや自分たちの成長過程(セイチョウカテイ)、本プロジェクトで得(エ)られた成果(セイカ)などに生(イ)かせますので、写真や広告パンフレット、(eポートフォリオの場合は動画(ドウガ)や音声記録(オンセイキロク))などもファイリングしておくといいですよ。</p>
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 ・よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシヤカイ)とは何かを考える ・地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイソクシン);異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) ・摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 ・講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちに何ができるのかを考え、活動に取り入れる。 ・留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をすべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 ・自由企画(ジユウキカク):自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につながるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。 <p>【方法】</p> <p>初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(ス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナツク)する形で今後どのように活動するか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。</p>

	<p>【事前学習】 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。</p> <p>【事後学習】 ポートフォリオの作成、活動報告書の作成（摂大HPにアップされます）など</p>																
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	プロジェクト活動における貢献度：30%（自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%）、 レポート：20%（ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析）、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度：30%																
学生への メッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近（ミチカ）にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験（ミケイケン）のことにも、失敗（シッパイ）を恐（オソ）れずチャレンジしてください。自（ミズカ）ら様々な役割（ヤクワリ）を担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシン）に取り組んでほしいと思います。 自分																
担当者の 研究室等	梅野、カーティス=チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）																
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之、カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シヤカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カカ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。
到達目標	<p>1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)きを取(ト)り組(ク)む力(チカラ)」、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイケツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。</p> <p>2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in your mother tange)。</p> <p>3) 社会における異文化摩擦(イブンカマサツ)による問題(課題)を知る。</p> <p>4) 3)の身近(ミヂカ)なところで起きている課題を、自分事(ジブンゴト)としてとらえる観点(カンテン)から考える視点(シテン)を養(ヤシナ)い、自分は何ができるのかを考え、行動(コウドウ)に移(ウツ)す。</p> <p>5) 1)～4)の目標のほかに、本プロジェクトの活動を通して解決したい個人的(コジンテキ)またはグループでの課題や到達目標(トウタツモクヒョウ)を設定(セッテイ)し、達成(タッセイ)する。 例1)「このプロジェクトの活動を通して、わたしは～する／～できるようになる」 例2)「私の専門性(センモンセイ)／強味(ツヨミ)を生(イ)かして、地域の課題に対(タイ)して向(ム)き合う力を養(ヤシナ)う」 例3)「これまでの経験(ケイケン)や学(マナ)んだことを、実社会(ジッシャカイ)において通用(ツウヨウ)するの試(タメ)してみる」 例4)「したいことを我慢(がまん)して(TVや音楽、ゲームなどの誘惑(ユウワク)に負けないで、今するべきことに向き合う力を身(ミ)につける。」</p>
授業方法と留意点	<p>1) 週1～2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピージュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。</p> <p>2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り入(イ)れたいと考(カンガ)えています。</p> <p>3) 評価(ヒョウカ)についても、担当教員(タントウキョウイン)とともに参加学生全員が話し合いながら納得(ナツク)する形(カタチ)で設定(セッテイ)していく予定(ヨテイ)です。シラバス上の評価方法の基準(キジュン)は確定(カクテイ)ではありません。</p> <p>4) お昼の集(アツ)まりには、毎回出席することが望(ノゾ)ましいですが、就職(シュウショク)活動や課外活動(クラブやサークルの活動)、専攻科目(センコウカモク)の宿題や課題などが重(カサ)なって出席が困難(コンナン)な時は、事前(ジゼン)に知らせてください。</p> <p>5) プロジェクト開始とともにポートフォリオを作成し、活動することに、日誌(記録)をつけて各自(カクジ)で振(フ)り返(カエ)ります。また、イベント実施後や発表等の後には、全体(ゼンタイ)で振(フ)り返(カエ)りの会議(カイギ)もします。</p> <p>6) ポートフォリオは中間発表、最終報告会、最終レポートなどまとめる際に活用できますので、普段(フダン)から(活動のあとは)、こまめに記録(キロク)する習慣(シュウカン)をつけましょう。気づいたことや自分たちの成長過程(セイチョウカテイ)、本プロジェクトで得(エ)られた成果(セイカ)などに生(イ)かせますので、写真や広告パンフレット、(eポートフォリオの場合は動画(ドウガ)や音声記録(オンセイキロク))などもファイリングしておくといいですよ。</p>
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 ・よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシヤカイ)とは何かを考える ・地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイクシン);異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) ・摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 ・講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちに何ができるのかを考え、活動に取り入れる。 ・留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をすべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 ・自由企画(ジユウキカク):自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につながるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。 <p>【方法】</p> <p>初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(ス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナツク)する形で今後どのように活動するか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。</p>

	<p>【事前学習】 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。 【事後学習】 ポートフォリオの作成、活動報告書の作成（摂大HPにアップされます）など</p>		
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	プロジェクト活動における貢献度：30%（自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%）、 レポート：20%（ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析）、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度：30%		
学生への メッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近（ミヅカ）にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験（ミケイケン）のことにも、失敗（シッパイ）を恐（オソ）れずチャレンジしてください。自（ミヅカ）ら様々な役割（ヤクワリ）を担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシン）に取り組んでほしいと思います。 自分		
担当者の 研究室等	梅野、カーティス=チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）		
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。		

科目名	老年看護学実習Ⅲ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 千登勢・小川 宣子・田中 真佐恵・村瀬 由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3046a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 疾患や障がいを持ち、治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の課題に対して、身体的・心理的・社会的側面からのアセスメントを行い、し看護する方法を学ぶ。また、ケアにおいては老年看護に必要な基礎知識・技術を活用し、看護師として必要な倫理的態度を養う。</p> <p>【目的】 入院治療を必要とする高齢者を総合的に理解し、その人らしい生活が退院後もできるよう対象者のニーズに合わせた看護を実践する能力を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う変化や、高齢者に生じやすい健康問題から高齢者を総合的に理解できる。 2. 疾病や障がいをもつ高齢者の身体的・心理的・社会的機能をアセスメントし、健康上の課題を明確にすることができる。 3. 健康問題を持つ高齢者の特性・個性を考慮した看護計画が立案できる。 4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正することができる。 5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。 6. 適切な態度で実習に臨むことができる。 7. 実習を通して、高齢者観や看護の役割について、自分の考えを深めることができる。 																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、高齢者によくみられる疾患及びそのケアについて事前に学修する。 <p>【実習計画】 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1週目)</p> <p>月曜日 実習施設・実習 火曜日 実習施設・実習 水曜日 実習施設・実習 木曜日 学内：個人面談 金曜日 実習施設・実習</p> <p>(2週目)</p> <p>月曜日 実習施設・実習 火曜日 実習施設・実習 水曜日 学内：実習のまとめ 木曜日 学内：実習のまとめ 金曜日 学内：個人面談・記録整理・記録提出</p> <p>状況に応じ、学内での対面、オンライン授業を活用する</p> <p>【事後の計画】 受け持ち高齢者の疾患及び必要なケアに関する学習を追加すること</p>																
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	対面授業																
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール、実習用携帯電話																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。 実習担当者の松田千登勢は、病院の内科系病棟で5年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の小川宣子は病院の内科系病棟で15年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での15年間の実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の田中真佐恵は、病院の外科系病棟で10年間勤務した実務経験を活かして実習指導を行う。																
担当者の研究室等備考	7号館3階																

科目名	看護研究Ⅱ	科目名(英文)	Nursing Research II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	NDN4070a0		

授業概要・目的	「研究入門」「看護研究Ⅰ」の学びをもとに、人や看護に対して関心や疑問をもち、それらを探究できるような研究的・倫理的態度と方法論を習得する。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、担当教員のもとで、研究計画書の作成、研究への取り組み、論文作成、発表を行う。本研究にかかわる看護教員および医師教員は全員が3年以上の臨床経験を有しており、臨床実践やその基礎となる課題をテーマに研究指導を行う。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人や看護に関する疑問を研究テーマにすることができる。 2. 研究計画書を作成できる。 3. 研究対象者に対し倫理的配慮ができる。 4. テーマに沿った研究への取り組みができる。 5. 研究成果を論文にすることができる。 6. 研究成果を発表できる。 																		
授業方法と留意点	担当教員のもとで研究をすすめること。具体的な方法やスケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項(ポータル、掲示)を見落とさないように留意すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の指示を受け研究をすすめる。 ・研究における倫理的配慮について、担当教員から指導を受ける。 ・研究計画書を作成する。 ・研究計画書に沿って研究を実施する。 ・人を対象とする研究の場合は必ず研究倫理審査を受ける。 ・倫理審査を受けるため、指導教員から指導を受けて申請書類作成する。 ・論文作成時の不正について担当教員より説明を受ける。 ・研究結果に基づいて忠実に論文を作成し、発表する。 <p style="text-align: center;">*事前事後課題としては、テーマに沿って文献検討、結果の分析、論文作成を事前事後で行い、その内容に対して指導を受ける。</p>																		
関連科目	看護研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	成果物およびプレゼンテーションなどルーブリック指標を用いて評価を行う																		
学生へのメッセージ	自ら積極的・計画的に研究をすすめて下さい。																		
担当者の研究室等	各担当教員研究室																		
備考	看護研究Ⅰの後半とⅡは、原則として同じ領域の教員が担当する。																		

科目名	統合看護学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 青野 美里, 足立 安正, 飯田 恵子, 池田 友美, 泉川 孝子, 井田 歩美, 稲垣 範子, 稲垣 美紀, 今井 秀人, 小川 宣子, 神谷 美紀子, 亀田 直子, 北村 敦子, 佐久間 夕美子, 志戸岡 恵子, 竹下 裕子, 但馬 まり子, 田中 真佐恵, 田中 結華, 富永 真己, 中山 祐一, 長沢 美和子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子, 舟木 友美, 松田 千登勢, 松本 葉子, 眞野 祥子, 村瀬 由貴, 森谷 利香, 安田 香, 山本 智津子, 山本 十三代, 吉永 愛香
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN4072a0		

授業概要・目的	<p>【授業の概要】</p> <p>自らが関心のある看護専門領域(対象領域;基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、小児看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域)を選択し、学内実習を行う。</p> <p>【実習目的】</p> <p>自らが関心のある看護領域において自己の課題解決を目指し、これまでに学習した看護を統合して、対象者の健康課題を明らかにするとともに、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働・連携し、必要な看護を考え提供するための能力を養う。また、その看護実践の基盤となる看護観と倫理観を育み、自己の課題の達成状況を評価し、さらなる看護実践能力と問題解決能力を高めるため、専門職業人として自己研鑽し続ける能力を身につける。</p> <p>実習を担当する全教員が看護職として3年以上の臨床および実践経験を有している。それらの経験を活かし、具体的で実践的な実習指導を行う。</p>																
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践上の自己の課題を明確にし、その解決をめざして主体的に実習に取り組むことができる。 2. 既習の知識・技術・態度を統合して看護の対象者を全人的に捉え、健康課題を明らかにし、看護実践できる。 3. 看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他の医療専門職者との協働・連携の必要性を説明できる。 4. 実習を通して、自らの看護に対する考えを深め、看護観を説明できる。 5. 倫理的視点で看護実践を捉え、人間の尊厳と権利を尊重した行動ができ、自らの倫理観を説明できる。 6. 生涯にわたり看護専門職者として成長し続けるために、自己の課題の達成状況および看護実践過程や方法を振り返ることを通して、主体的に自己研鑽に取り組む必要性を説明できる。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】</p> <p>対面および非対面の混合授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習1日目は、学内において領域別にオリエンテーション(内容・方法)を受ける。 2. 実習2日目より、領域別臨地実習をおこなう。事例に基づきアセスメント、計画立案や実施、評価を行い看護を振り返る。 4. チーム医療、看護倫理の視点から自らの看護を振り返り、グループで討議する。 3. 実習最終日は、学内において領域別に目標の達成の成果、学びを深める。 <p>【留意事項】</p> <p>統合実習要綱を熟知し、授業に臨む。</p> <p>対面授業を実施する時には、本学で定めた感染予防対策を厳守すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当教員の指示をうけること。																
関連科目	専門基礎科目・専門科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各領域で指定する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	各領域で指定する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	各領域で指定する																
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle																
Teamsコード	9mmj81m																
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	授業内容・態度・記録をルーブリック指標等を用いて評価する。																
学生へのメッセージ	これまでの学習内容を統合したまとめの実習です。自らの課題を克服できるよう目標を定め実習に臨んで下さい。																
担当者の研究室等	全ての担当教員																
備考																	

科目名	助産学実習	科目名(英文)	Clinical Practice in Midwifery and Maternity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	11	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	泉川 孝子, 飯田 恵子, 井田 歩美, 但馬 まり子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN4081a0		

授業概要・目的	<p>(概要) 妊婦、産婦、褥婦及び新生児とその家族への助産過程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。また、実践を通して個別的な援助方法について学び、医療・保健チームの中での助産師の役割や機能を考察する。そして、受け持ち事例を通して、地域におけるケア継続の必要性について理解を深め、地域における助産師の役割を考え、助産師としての職業的アイデンティティの形成を図れる素地を養う。</p> <p>(目的) 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、助産診断・技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業的アイデンティティの形成を図る。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦と新生児及びその家族に対して、助産過程を展開し、母子とその家族のニーズに応じた援助ができる。 2. 対象者の意思決定や価値観を尊重し、尊厳と人権を擁護する意識を持ち、行動できる。 3. 助産活動を通じて、助産師としての役割と責任について理解できる。 4. 助産実践の向上のため、常に主体的に学習する態度を養う。 																		
授業方法と留意点	病院および助産所にて助産に関わる実習を行う																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	助産学実習要綱参照																		
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ 周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習、助産管理論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	分娩介助技術、受け持ち事例の展開等の実習内容、実習態度、実習記録、出席状況を基にした実習目標の達成度を総合的に評価する。 詳細は、助産学実習要綱参照のこと。																		
学生へのメッセージ	教材は、関連科目の教科書、参考書を用いて学習する。実習時は必要時紹介します。 少人数制で長期の実習となります。健康管理を十分行ってください。 チームワークをもちながらも、個々に主体的・積極的な態度で臨んでください。 実習指導担当の各教員は、総合病院で助産師として6～10年間勤務した経験から、助産診断及び助産技術に関する実践的な教育を行う。																		
担当者の研究室等	7号館3階 泉川(研究室15)、井田(研究室12)、西頭(研究室14)、但馬(研究室20)、名草(研究室13)、飯田、永田(共同研究室5)																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> ・病院：市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、八尾市立病院、関西医科大学総合医療センター 大阪府済生会野江病院、大阪市立総合医療センター、大和高田市立病院、JCHO 大和郡山病院 ・助産所：はるか助産院、ゆう助産院、橋本助産院 2. 分娩介助実習では、分娩介助例数が10例に達するまで継続的に実習を行う。 																		

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	佐久間 夕美子、今井 秀人、神谷 美紀子、北村 敦子、舟木 友美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎、DP4◎、DP5◎、DP6◎、DP7◎、DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2033a0		

授業概要・目的	<p>[実習目的] 看護の対象となる人を総合的に理解し、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護過程を段階的に展開できる基礎的能力を培う。また、看護職者に必要な態度を養う。</p> <p>[概要] 病院で療養生活を送る対象者を受け持ち、既習の知識・看護技術を統合して、対象者が必要としている看護を実践する。 具体的には、対象者と人間関係を形成し、情報収集を行い、全体像を把握する。情報収集の枠組みでは、ヘンダーソンの14の項目で情報収集を行い、情報の分析から看護問題を抽出する。対象者の日常生活の援助に焦点をあて、必要な援助を明確にしたうえで、看護計画を立案してケアを実施する。実施したケアについて考察を行う。また、日々立案した日常生活上のケアの計画について実践・振り返り・修正を行う。これらの実践過程を通して、看護職者として不可欠な自己の看護観、倫理感について考えを深め、ふさわしい態度を身に付ける。</p>																
到達目標	<p>1) 対象者と対人関係を築きながら発達段階、健康状態、日常生活に焦点を当てて情報を収集することができる。</p> <p>(1) 対象者とコミュニケーションを図り、対人関係を築くことができる。</p> <p>(2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活等を把握するために必要な情報を、記録やフィジカルイグザミネーション、問診やインタビュー、看護の場面への参加を通して収集することができる。</p> <p>2) 対象者について、気づいたことに着目して情報を集め、日常生活上のケアの計画を立案することができる。</p> <p>3) 立案した日々のケアの計画を、教員、指導者の指導のもと、実施することができる。</p> <p>4) 実施した日々のケアの計画について考察を行うことができる。</p> <p>5) 収集した情報をヘンダーソンの14のノードの枠組みで整理・統合・分析し、対象者の状態を把握することができる。</p> <p>6) 実習を通して得た学びを振り返り、看護に対する自らの考えを明らかにすることができる。</p> <p>7) 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。</p> <p>(1) 対象者の尊厳と権利を尊重し、プライバシーの保護を行うことができる。</p> <p>(2) 自ら学ぶ態度で情報を求め、注意事項を守り、積極的に実習することができる。</p> <p>(3) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行うことができる。</p> <p>(4) グループのリーダーまたはメンバーとしての役割を果たし、協力しあうことができる。</p> <p>(5) 看護師・担当教員からの助言を適切に受け止め、実習に生かすことができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>1. 実習グループは、1グループ5～6名編成とし、担当教員および臨地実習指導者の指導を受ける。</p> <p>2. 実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。</p> <p>3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。</p> <p>4. 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行う。</p> <p>5. 実習にあたり、実習病院・病棟から、病棟の機能や看護職の役割について、オリエンテーションを受ける。</p> <p>6. 原則として、入院中の患者を1名受持ち、対象者の全体像を把握し日々の中で必要な看護を立案し実践・評価する。</p> <p>7. 病棟実習では毎日、学生主体のカンファレンスを行う。</p> <p>8. カンファレンスでは、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。</p> <p>9. 実習記録は、毎日必ず記録し、担当教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。</p> <p>10. 各自の実習における学びを各グループで検討してまとめ、互いに発表を行って共有する。</p> <p>11. 状況に応じて、ICTツールを活用した遠隔実習や学内実習も適宜取り入れる。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <p>1. オリエンテーション 実習前にオリエンテーションを受け、実習に必要な知識・技術の復習を行う。</p> <p>2. 病院実習 1月～3月に、以下の内容で2週間の実習を行う。</p> <p>1) 対象者の紹介をうけ、人間関係を形成する。</p> <p>2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活を把握するために必要な情報を、インタビューや記録、フィジカルイグザミネーション、および看護の場面への参加を通して収集する。</p> <p>3) 収集した情報をヘンダーソンの14の項目に沿って整理・分析し、対象者の看護問題を抽出する。</p> <p>4) 抽出した看護問題から患者に必要な日常生活援助を導き出す。</p> <p>5) 得られた問題に対する日々の看護目標および実習目標を適切に設定する。</p> <p>6) 日々の看護目標を達成するためのケアの計画を立案する。</p> <p>7) 対象者が必要としている看護技術について気づき、対象者に応じた方法を検討する。</p> <p>8) 立案した看護計画および日々のケアの計画を、教員・臨地実習指導者の指導の下で実施する。</p> <p>9) 看護計画および実施したケアについて、指導教員の指導のもと、評価・修正する。</p> <p>10) 最終的に実習全体を通じた学びを振り返り、看護に対する自らの考えを述べる。</p> <p>11) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習して実習の準備をする。</p> <p>12) 実習を行う上で必要な情報を積極的に求め、グループメンバーと共有し連携する。</p> <p>13) 臨地実習指導者・指導教員からの助言を適切にうけとめ、積極的に実習に生かす。</p> <p>14) 実施内容については臨地実習指導者・指導教員の指導を得てから行う。</p> <p>15) 観察・実施内容については、臨地実習指導者・指導教員に適切に報告を行う。</p> <p>16) 対象者の権利を尊重し、プライバシーの保護を行う。</p> <p>17) 看護職に必要な態度について看護職者の倫理綱領などに照らし合わせて自己の考えをまとめる。</p> <p>※原則上記を予定しているが、感染状況により実習内容および授業方法を変更することもある。</p>																
関連科目	看護学概論、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ、薬物治療学など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	必要に応じて適宜紹介する。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する。										
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	必要に応じて適宜紹介する。																

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle/対面授業			
Teams コード	6w15qy2			
Moodle コース名 および登録キー	2020 年度 2 年生 基礎看護学実習 II practice2			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録、実習態度)を総合して評価する。 記録は最終的に提出された記録内容の評価だけではなく、日々の記録の記載状況等も評価の対象とする。 原則、実習期間は全日休まず実習に参加していることとする。 ※原則上記を予定しているが、感染状況により評価方法が変更となることもある。			
学生への メッセージ	初めて患者さんを受け持つ病院実習です。看護師として疾患をもつ対象者への関わりを通して、病態をふくめた個性やその思い、必要な支援は何かについて考え、看護を実践できるようになりましょう。この実習で学んだこと、感じたことは、専門職者として大切な基盤の部分になると思います。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 研究室 1 (佐久間)、研究室 2 (神谷)、共同研究室 1 (北村、舟木)、共同研究室 3 (今井)			
備考	[実習場所] 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属病院、関西電力病院			

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	稲垣 美紀, 稲垣 範子, 竹下 裕子, 長沢 美和子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3039a0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的】 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助の人間関係を築き、対象を全人的に捉え、身体的・心理的危機を乗り越えて自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。</p>																		
到達目標	<p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別の特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 周手術期における基本的な看護援助を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として1グループ5～6人編成とする。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。 5. 実習中は、急性期の受持ち対象者に応じた看護過程の展開を行う。 6. 毎日学生主体のカンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。 7. 実習記録は、必ず記録し、指導教員及び臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 8. 各自の実習における学びを振り返り、学びと課題を記録する。 <p>【実習施設】 星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属枚方病院、市立ひらかた病院</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 周術期患者と家族を対象とし、系統的アプローチに基づき看護実践及び評価を実施します。</p> <p>【方法】 各実習施設において、小グループに分かれて実習します。原則として、実習期間中、1～2名程度の患者を受け持ち、受け持ち患者を通して実習します。場合によっては、受け持ち患者以外の処置やケアの見学や実践の機会も設定し、効果的に学習できるようにします。</p> <p>【事前学習課題】 実習前に事前オリエンテーションを行います。オリエンテーションで事前課題を指示しますので、各自ファイルやノートを作成して、準備をしてください。事前課題が不明な場合には、各担当教員に質問に来てください。</p> <p>【事後学習課題】 実習担当教員から課題を指示しますので、期限を守って提出をしてください。</p>																		
関連科目	成人看護学概論、成人病態看護論、成人看護学援助論Ⅰ・Ⅲ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて適宜紹介する																		
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー	2020 3年生 成人看護学実習Ⅰ (急性) acutel																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	実習期間出席した上で、実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、実習態度を総合して評価する。																		
学生へのメッセージ	対象の経過は急性に短期間に変化するので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。																		
担当者の研究室等	竹下 (研究室30)																		
備考																			

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	森谷 利香, 青野 美里, 志戸岡 恵子, 松本 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3040a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 臨地実習としての看護実践を通して以下について学習し、慢性疾患を持つ対象への看護に関する基礎的能力を身に着ける。</p> <p>【目的】 慢性疾患の発病初期、急性増悪期、終末期といった様々な経過にある、主に成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象が治療に伴う療養生活に主体的に取り組むことができるよう援助する看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p>																
到達目標	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性疾患を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。 2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。 3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。 4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。 5) 対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。 6) 自らの看護実践について、対象と家族のQOLの維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。 2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。 3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。 4) 臨地に出向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。 5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。 6) 実習中に指定された記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。 7) 実習を通して、自己の課題を明確にする。 8) 実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。 2. 実習期間・病棟実習時間 期間...3週間 病棟実習時間...原則として9時～16時(うち1時間を休憩とする) 3. 実習施設 独立行政法人 地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター 関西電力病院 住友病院 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習内容】 看護過程に沿って以下のような看護を実践、もしくはシミュレーションする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・バイタルサインの測定、フィジカルイグザミネーション ・日常生活上の援助 ・治療や処置に関する援助 ・患者教育 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	対面授業																
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー	2020年度 成人看護学実習Ⅱ seijin22020																
連絡手段	学内のメールで対応します。																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	本実習では、5年以上の病院での実践経験を持つ教員を含み、実習目標を達成できるように教授します。この実習は慢性的な健康問題をもつ対象への看護の実際を学ぶ機会となります。まずは関連する科目の学習が重要です。それらを基盤として、実習で応用することで理解を深めるとともに技術を習得しましょう。																
担当者の研究室等	研究室29 森谷																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 千登勢・小川 宣子・田中 真佐恵・村瀬 由貴
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2045a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者とその家族の理解を深めるとともに、個別性に応じた日常生活の実際を知る。また、保健・医療・福祉チームの中での連携および看護の役割について学ぶ。</p> <p>【目的】 施設で生活する高齢者・家族の身体・心理・社会的特徴を理解し、高齢者の生活を支える方法について考える力を養う。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体・心理および社会的変化や生活背景・価値観を踏まえ、高齢者の生活状況を理解できる。 2. 高齢者の個別性に応じた日常生活援助が実施できる。 3. 介護保険施設の特徴をふまえ、看護師の役割について理解できる。 5. 看護学生として、適切な態度で実習を行い、今後の自己の課題を明確にすることができる。 																		
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を掲示します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、実習施設、高齢者の特徴を事前に学修する。</p> <p>【実習計画】 実習場での実習、学内での対面授業、オンライン授業により進めていきます。</p> <p>高齢者の生活支援の実際について学びます。 認知症高齢者の理解を深めます。</p> <p>上記の内容をグループワークを通して理解を深めます。 最終：グループワーク・発表、個人面談・記録整理・記録提出をします。</p> <p>【事後の計画】 高齢者の疾患及び実施されているケアについて学修を追加すること</p>																		
関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価表を用いて評価します。																		
学生へのメッセージ	すでに学んだ老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰで学んだ内容の確認をしてください。 実習担当者の松田千登勢は、病院の内科系病棟で5年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の小川宣子は病院の内科系病棟で15年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での15年間の実務経験を生かして実習指導を行う。 実習担当者の田中真佐恵は、病院の外科系病棟で10年間勤務した実務経験を活かして実習指導を行う。																		
担当者の研究室等備考	7号館3階																		

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	池田 友美, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子, 中山 祐一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3050a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。 本科目を担当する鎌田、池田、亀田、中山は全員が臨床での看護職および小児病棟での実践経験をもっている。それらの経験を踏まえ、講義で学習した知識を子どもと家族の看護実践に活かすことが出来るよう、具体的に現実的な内容を教授する。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。 2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。 3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。 4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。 5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。 																		
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1グループ5～6人編成とし、小児病棟において2週間の実習を行う。 2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。 3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。 4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。 5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。 6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。 <p>【留意点】 小児看護学実習要綱の注意事項を参照のこと。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。 <p>【実習計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳児と幼児の行動を観察し、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 2) 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1週目：受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 2週目：子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。 <p>【事後の計画】 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、子ども観および今後の学生自身の課題を明確する。</p>																		
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール、携帯電話（実習用）																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する																		
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要なとしている看護を実践して下さい。																		
担当者の研究室等	鎌田研究室17、池田研究室16、亀田共同研究室5、中山共同研究室3																		
備考	実習施設：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、																		

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	泉川 孝子, 飯田 恵子, 井田 歩美, 但馬 まり子, 永田 阿子, 名草 みどり, 西頭 知子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2055a0		

授業概要・目的	<p>概要</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実践を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実践および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、妊娠における適応過程を明らかにできる。 2. 周産期の母子とその家族に対して、健康維持・増進に向けて看護過程を展開できる。 3. 母子保健医療の特性を理解し、母子とその家族に果たす看護の役割と連携について考えられる。 4. 母性看護における自己の看護観を育むことができる。 5. 看護学生として倫理的配慮のある言動がとれる。 																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。 2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもとに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。 3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でテーマ、ケースカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。 4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。 5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。 6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。 7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する。 8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。 9. 最終週の水曜日前後には臨床側（病棟師長、指導者）に参加してもらい反省会を行う。 10. 最終週の金曜日は学内で、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、学びを共有する。 <p>留意点</p> <p>妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強い。また、新生児は抵抗力がないため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内 <ul style="list-style-type: none"> 初日に実習のオリエンテーション、最終週木曜日は学内でテーマカンファレンスの資料を作成。金曜日、施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを実施する。 2. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 1組の褥婦とその新生児を2人の学生で情報を共有しながら受け持ち看護過程の展開をする。 2) 分娩があれば、産婦を受け持ち、産婦および新生児のケアを指導者と共に実施または見学する。 3) 新生児室実習は治療や要観察、新生児だけの入院の新生児で、スタッフの指導のもとにケアを行う。 3. 外来実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医師の妊婦健診を受ける妊婦の妊娠経過を把握し、健康診査に同行し、見学又は一部を実施する。 2) 助産師外来の妊婦健康診査に同行し、指導のもとに健康診査や保健指導を見学する。 3) 不妊外来、思春期外来、更年期外来などの特殊外来、学級活動の見学を行う。 4. カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> 1) 一日の実習の振り返り、疑問点や困っていることの見学交換を行い、教員や指導者から助言を受ける。 2) 受け持ち事例に関連したテーマで全員が発表し、学びを共有する。 3) 学内で施設合同のテーマ、ケースカンファレンスを行い、実習目標に沿って、その評価や今後の課題をのべ、学びを共有する。 5. 事前事後学習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習で計画した実習内容に必要な知識や技術は事前に学習し、技術は習得しておく。また、実習での学びは自分で学習ノートを作り、復習しておく。 2) 実習で必要となる情報は、学生間で共有し、連携も取っておく。 6. 実習態度およびルール <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師・教員の助言は真摯な態度で受け止め、積極的に実習や学習に生かす。 2) 実習内容は事前にスタッフや教員に報告して助言や許可を得てから実施する。勝手に行動することは、禁止する。 3) 実習で知れた情報や実施内容は、適宜、看護師や教員に必ず報告する。 4) 対象に畏敬の念を持ち、対象の権利を尊重し、プライバシーの保護に努める。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td>森 恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森 恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	系統看護学講座 母性看護学概論	森 恵美他	医学書院														
2	系統看護学講座 母性看護学各論	森 恵美他	医学書院														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病気が見える vol10 産科</td> <td>井上裕美他</td> <td>メディックメディア</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>ルービン, R</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ナーシンググラフィカ母性看護学②</td> <td>横尾京子他</td> <td>メディカ出版</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	病気が見える vol10 産科	井上裕美他	メディックメディア	2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院	3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	病気が見える vol10 産科	井上裕美他	メディックメディア														
2	ルヴァ・ルービン母性論	ルービン, R	医学書院														
3	ナーシンググラフィカ母性看護学②	横尾京子他	メディカ出版														
授業形態	対面授業																
Teams コード																	
Moodle コース名																	

および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を母性看護学実習要綱の評価基準に沿って評価を行う。
学生への メッセージ	妊産褥婦、新生児および家族を通して、ウェルネスの思考に基づいた看護ケアの実践から学びましょう。また、新しい生命の誕生に立ち会い、そのパワーに触れてみてください。母親や父親（パートナー）、新生児からも学べることが多い実習になるでしょう。実習指導担当の各教員は、総合病院で助産師（看護師）として6～10年間勤務した経験から、周産期の看護に関する実践的な教育を行う。
担当者の 研究室等	泉川（研究室15）、井田（研究室12）、西頭（研究室14）、名草（研究室13）、但馬（研究室20）、飯田、永田（共同研究室5）
備考	実習場所 市立ひらかた病院、関西医科大学附属病院、関西医科大学総合医療センター、JCHO大阪病院、八尾市立病院、済生会野江病院、はるか助産院等

科目名	精神看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子, 吉永 愛香
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3058a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学習をもとに、精神疾患を持つ人とかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【目的】 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。 受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。 精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。 																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> 原則として少人数（2～5人）グループを編成し、担当教員の指導を受ける。 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 実習施設のオリエンテーションを受け、施設の機能や看護職をはじめとして専門職の役割を理解する。 カンファレンスを行い、互いの学びを共有し、次の機会に活かす。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【実習期間】 2020年10月～2021年6月の2週間</p> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 精神に障害を持つ人と、患者-看護師関係の成立を目的としたコミュニケーションを図る。 看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、自己のコミュニケーションパターンと患者の気持ちの理解の振り返りを行う。 地域における精神科医療の現状を学ぶ。 精神障害者の権利擁護について考察する。 <p>【事前学習課題】 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習しておくこと。特に統合失調症（参考図書②第6章Ⅱ-A、P.290～306）、うつ病（参考図書②第6章Ⅱ-B・C、P.306～319）、躁うつ病（参考図書②第6章Ⅱ-B・C、P.306～319）、精神保健福祉法（参考図書①第7章、234～280）、援助的人間関係（参考図書②第4章、P.193～226）に関しては必ず復習しておくこと。</p>																
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健</td> <td>岩崎弥生</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護</td> <td>渡邊博幸</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>改定第2版 はじめての精神医学</td> <td>渡辺雅幸</td> <td>中山書店</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社	2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護	渡邊博幸	メヂカルフレンド社	3	改定第2版 はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健	岩崎弥生	メヂカルフレンド社														
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護	渡邊博幸	メヂカルフレンド社														
3	改定第2版 はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店														
授業形態	対面授業																
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー	精神看護学実習 seisinrinti																
連絡手段	teams の質問チャンネル																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	実習内容（実習目的・目標の達成状況、記録）、レポートを総合して評価する。																
学生へのメッセージ	授業で学んだ知識と技術を臨床で生かしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19（眞野）、研究室18（山本智）、共同研究室2（吉永）																
備考	<p>【実習場所】 ハートランドしぎさん、大阪精神医療センター、就労継続支援施設</p>																

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 結華, 足立 安正, 富永 真己, 安田 香, 山本 十三代
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN3062a0		

授業概要・目的	<p><授業概要> 健康障害を持ちながら在宅で療養する人々と家族を理解する。在宅看護の特性と在宅ならではの援助技術、在宅ケアシステムにおける社会資源の活用・関係職種間の連携や協働の実際を体験し、これらを通し在宅看護実践に求められる能力を養う。</p> <p><実習目的> 地域の中で療養する人々やその家族の生活実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																		
到達目標	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護の役割と方法を述べるができる。 2. 訪問看護ステーションの機能と活動の概要について述べるができる。 3. 在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、健康課題を解決するための援助方法を述べるができる。 4. 地域の社会資源とその活用方法、および関連する職種との連携の実際を述べるができる。 5. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 																		
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <p>訪問看護ステーションでの実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学臨地実習要綱をよく読み理解した上で、在宅実習要綱で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2. 実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3. 実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4. 実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実際を見学/体験をする。 5. 実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを受ける。 要綱・記録用紙、配付した必要書類を持参すること。 1) 全体オリエンテーション (7月、9月の2回) 実習の目的・目標、実習方法、実習記録の作成方法、事前・事後学習課題、実習に必要な書類作成 2) グループ別直前オリエンテーション 原則として実習前週の金曜日17時から、老年・精神・在宅看護実習室で1時間程度実施する。 2. 実習要綱に沿って実習を行う。 1). 訪問看護ステーションで2週間(学内演習2日間、臨地実習8日間)の実習。 2). 実習1日目は、直接実習施設に行くので事前に交通アクセスの把握が必要。 3). 初日より、訪問看護師に同行し在宅療養者のご自宅へ行き看護の実際を学ぶ。 4). 訪問は1日2ケースの訪問を原則とする。うち、1ケースは受持療養者とし、2週にわたり継続訪問する。 5). 2日目からの同行は基礎看護技術を用いて療養者にかかわれるように取り組む。 6). 受持療養者に対しては、ケース把握(全体像)、問題点の明確化、看護計画の立案という流れを用いて在宅療養者や家族に対する必要な援助を考える。 7). 地域の社会資源、諸機関、多職種協働について学ぶ。 8). 原則として1週目の金曜日、2週目の木曜日は、指導者・教員を交えたカンファレンスを実施する。 9). 原則として2週目の学内日は、学内合同カンファレンスで、各自の実習内容をプレゼンテーションする。情報の共有と意見交換を行い在宅看護の理解を深める。 																		
関連科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論Ⅰ、在宅看護学援助論Ⅱを基盤にする。なお、在宅看護学はあらゆる発達段階、健康段階にある人が対象者となり得るため、基礎看護学をはじめ、他の専門科目すべてが関連する。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2.3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2.3年次に用いた教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2.3年次に用いた教科書																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介する																		
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー	2020年度3年生 在宅看護学実習 1234																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	実習目標の達成度を、実習要綱に示すルーブリック評価基準を用いて評価する。																		
学生への メッセージ	2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。 在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。																		
担当者の 研究室等	田中 結華 7号館 3階 第9研究室 富永 真己 7号館 3階 第7研究室 山本十三代 7号館 3階 第5研究室 足立 安正 7号館 3階 第22研究室 安田 香 7号館 3階 共同研究室1																		
備考	体調管理に留意すること。																		

科目名	基礎看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	佐久間 夕美子, 今井 秀人, 神谷 美紀子, 北村 敦子, 舟木 友美
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2032a0		

授業概要・目的	看護学概論等の既習内容を踏まえ、保健医療の現場における看護の対象である人とその生活・健康状態、それらを取り巻く環境のあり方、看護職者やチーム専門職者の役割を体験的に学び、看護の役割や機能について理解を深め、今後の看護を学ぶ動機とする。 [実習目的] 看護の対象となる人とその人を取り巻く環境を理解する。 また、実習による体験を通して、看護の目的と役割、看護の機能する場および看護活動に関する知識を深める。																
到達目標	1) 看護の対象となる人の療養生活を支える環境のあり方を理解する。 2) 看護の対象となる人とその健康状態、生活や思いを理解し、看護職者およびその他の専門職者による援助の実際を知る。 3) 看護の目的、看護が果たす役割や機能する場、看護のあり方について自己の考えをまとめ、今後の看護を学習する上での課題を見出すことができる。 4) 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。																
授業方法と留意点	ICT ツールを活用した遠隔での実習も取り入れ、病院実習および学内実習を行う。 原則として学生配置は 1 グループ 4~6 人編成とし、各グループは教員の指導を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 実習時期 9月上旬 2. 事前学内オリエンテーション ○実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、留意事項等の説明を受ける。 ○実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 3. 病院実習 ○臨床講義：看護部長より病院の概要および看護職者の役割についての講義を受ける。 ○病院見学：病院環境の見学を行い、各部署の機能について説明を受ける。 ○臨床の看護師より患者の療養環境、看護の在り方等についてお話を伺う。 4. 学内実習他 ○疾患をもつ患者の「語り」を通して、患者の思いについて考え、討議する。 ○実習を通して学んだことを討議し、発表する。 ※原則上記を予定しているが、感染状況により実習内容を変更することもある。																
関連科目	看護学概論、看護対人関係論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/Moodle/対面授業																
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー	2020 年度 1 年生 基礎看護学実習 I practicel																
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録を総合して評価する。																
学生へのメッセージ	看護学生として初めての実習です。看護学生としての心構えや態度をしっかり学び、体調を整えて実習に臨みましょう。																
担当者の研究室等	7 号館 3 階 研究室 1 (佐久間)、研究室 1 (神谷)、共同研究室 1 (北村、舟木)、共同研究室 3 (今井)																
備考	実習病院：星ヶ丘医療センター																

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松田 千登勢・小川 宣子・田中 真佐恵・村瀬 由貴
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP4◎, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	NDN2044a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 介護保険サービスを利用しながら、地域で暮らすさまざまな健康レベルにある高齢者との関わりを通して、理解を深める。</p> <p>【目的】 地域で暮らす高齢者とのかかわりを通して、高齢者の身体的・心理的・社会的変化や特徴を理解する。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的特徴を理解できる。 2. 地域で暮らす高齢者の「思い」を理解できる。 3. 高齢者の地域での生活状況を理解できる。 4. 老年看護のあり方について自己の考えをまとめることができる。 5. 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。 																		
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションで詳細を指示します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>【事前の計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、高齢者の特徴を事前に学修する。 <p>【実習計画】 学内での対面授業、オンライン授業により進めていきます。</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生きた時代背景を踏まえた看護を学ぶ ・高齢者のインタビューを通して高齢者の特徴を理解し、その看護を考察する。 <p>上記の内容をグループワークを通して理解を深める 最終：グループワーク発表、個人面談、記録整理、記録提出をします。</p> <p>【事後の計画】 学習の振り返りを通じて、自己の看護観、高齢者観および今後の学生自身の課題を明確にする。</p>																		
関連科目	老年看護学概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度から評価します。																		
学生へのメッセージ	<p>すでに学んだ専門基礎科目、専門科目で学んだ内容の確認をしてください。</p> <p>実習担当者の松田千登勢は病院の内科系病棟で5年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。</p> <p>実習担当者の小川宣子は病院の内科系病棟で15年間勤務した実務経験を生かして実習指導を行う。</p> <p>実習担当者の村瀬由貴は、病院での外科系病棟での15年間の実務経験を生かして実習指導を行う。</p> <p>実習担当者の田中真佐恵は、病院の外科系病棟で10年間勤務した実務経験を活かして実習指導を行う。</p>																		
担当者の研究室等 備考	7号館3階																		